

八日市地方遺跡Ⅱ

—小松駅東土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—

第1部 遺構編

第2部 石器編

2013.3

石川県小松市教育委員会

序 文

本書は、平成5年～平成12年の8カ年にかけて実施された小松駅東土地区画整理事業に伴う発掘調査報告Ⅱである。事業終了が平成14年度であったことから、発掘調査完了後2カ年のうちに膨大な未整理分の資料を残しながら、遺跡の概要と重要遺物が膨大に発見された埋積浅谷を中心とした報告を報告Ⅰとして刊行した。

しかし、八日市地方遺跡の内容は、北陸地域における大規模環濠集落として、弥生時代集落を考へる際に重要な遺跡であることから、市の単独事業として、10カ年を要し刊行にこぎつけたのが、本書に該当する。

報告書作成にあたって、属性ごとに担当を振り分けながら、それぞれに複数の担当者を介して実施してきた訳であるが、最終的に最後まで携わったのは、宮田と下濱であり、十分な成果を伝えられないまま、刊行に及んだ箇所があること、限られた時間、予算のなかでの報告であることを了承されたい。

報告書の構成

報告Ⅰに対して報告Ⅱとし、構成は次のとおりである。

第1部 遺構編 第2部 石器編 第3部 製玉編 第4部 木器編 第5部 土器編 第6部 補遺編 第7部 総括編

それぞれ、紙面が限られている中、宮田との相談の下、できる限り未報告資料を出さない形にしたいとの思いで、属性表、図面等の補遺箇所はDTP編集を行った報告書作成であることから、添付DVDROMのみの掲載分があることを了承されたい。

また、各部構成内の遺構名表記、遺物名表記を総合的に行うにあたって、旧表記名と新規表記名を提示した形の報告とし、なるべく誤解のないわかりやすい報告になればと考えている。

例 言

1. 本書は、小松駅東土地区画整理事業に係る八日市地方遺跡の発掘調査のうち、報告Ⅰを補完する調査報告Ⅱであり、そのうちの第1分冊 第1部 遺構編と第2部 石器編である。
2. 出土品整理及び報告書の作成は下記の分担により実施し、宮田・下濱が総括した。
《石器の分類・実測・トレース作業》中谷巧一、宮田
《遺構のトレース》杉 直子、北山可奈子、北村史織、宮田、下濱
《石器の写真》宮田
なお、一部緊急雇用創出対策事業の一環として(株)太陽測地社、(株)バスコにより石器の実測・トレース作業を実施している。
3. 本書の編集は下濱が行い、執筆分担は第1部 下濱、第2部 宮田 が行った。
4. 本書に示す方位は座標北である。平成9年度以降着手の調査区は、日本測地系(VⅡ系)X=44.51km、Y=63.22kmを原点(0-0)とするグリッドを設定し、図上の表示もこれによっているが、それ以外の調査区は任意グリッドであり、土地の区画に従い図上の座標軸は座標北より東に振れている。水平基準は標高(T.P)に準拠している。
5. 本書に示す土色はマンセル表色系に準拠している。
6. 本書に利用する時期は報告Ⅰの時期設定に準じており、八日市地方1-3期(弥生時代前期-中期初頭)、八日市地方4,5期(中期前葉)、八日市地方6-8期(中期中葉)、八日市地方9,10期(中期後葉)合わせて、集落Ⅰ期=八日市地方4-6期、集落Ⅱ期=6-8期、集落Ⅲ期=9,10期に相当する。
6. 発掘調査で出土した遺物をはじめ、遺構・遺物の実測図・写真等の資料は、小松市教育委員会が保管している。
7. その他、本書の作成にいたるまで、以下の機関・団体・個人より協力・助言・指導をいただいた。記して感謝の意を表したい。(50音順、敬省略)

赤澤徳明、浅野良治、石川考古学研究会、石川日出志、石黒立人、伊丹 徹、伊藤 洋、伊藤雅文、宇野隆夫、浦 蓉子、大屋道則、金岡 恕、亀井 聡、河合章行、川添和暁、木下尚子、楠 正勝、後藤長平、小林正史、小松 謙、坂井秀弥、佐古和枝、笹澤正史、設楽博己、篠宮 正、杉山拓己、関 雅之、高野陽子、高橋浩二、田嶋明人、長井謙治、永井幸幸、中村晋也、能城修一、橋本澄夫、馬場伸一郎、林 大智、原田昌幸、肥後弘幸、久田正弘、深澤芳樹、藤田三郎、本田秀生、前田清彦、光谷拓実、宮本一夫、三好孝一、村上恭通、村上由美子、森岡秀人、安 英樹、安中哲徳、湯沢修平、吉田 広、米田克彦、若林邦彦、渡邊明和



II次・III次（西から）



15地区（その2）北から



13地区(その2) 西から



8地区 南から6. 11地区望む



17 地区 (その3) 東から



12 地区 西から



11 地区 (その 3) 平地式確認状況 西から



11 地区 (その 3) 西から



環濠 01 17 地区 b アゼ 南から



環濠 02 13 地区 a アゼ 南から



環濠 01 28 地区 B アゼ 西から



環濠 02 17 地区 b アゼ 南から



環濠 01 28 地区 c アゼ 東から



環濠 03A,03B 12 地区 B アゼ 南から



環濠 02,03 28 地区 c アゼ 西から



環濠 03 17 地区 f アゼ 南西から



11 地区 SE01 北から



13 地区 SE01 南から



17 地区 SE01 北東から



26 地区 SE01 南から



1 次 井戸と周溝 東から



11 地区 SB03 北から



12 地区 SB01 東から



12 地区 SX01 主柱 北から



17 地区 SB01 北から



26 地区 SB01 南東から



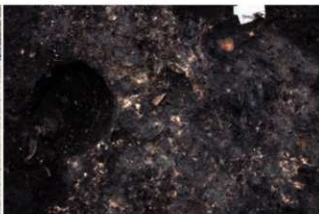
6地区 SK118 遺物検出状況 西から



6地区 SX08 南溝内 東から



6地区 SX09 北溝内 南から



11地区 SX02 周溝内 碧玉チップ集中



11地区 環濠 06 中層遺物出土状況 南から



12地区 環濠 03B内出土状況 北から



17地区 環濠 03 中層遺物出土状況



20地区 SX16 北から

第1部 遺構編

第1章 層序及び概要

第1節 調査既往の概要	2
第2節 層序	4
第3節 遺構の概要	4
1. 環濠	
2. 建物	
3. 方形周溝墓	
4. 土坑	

第2章 弥生時代の遺構

第1節 1次・28・30地区・31地区	9
第2節 26地区	23
第3節 II・Ⅲ次・2・4区	30
第4節 6・8地区	44
第5節 18・20地区	66
第6節 17地区	93
第7節 15・16地区	117
第8節 12・13地区	130
第9節 11地区	148

凡例

1. 遺構番号は、調査区をまたがる遺構及び整理段階で認識された遺構は調査時とは別に新規名称を併記記載する。
2. 帰属時期は、基本として『報告1第3章』遺跡全体の概要に準拠した区分である。
3. 遺構の分類呼称と記号は次のとおりである。

SA・・欄列、SB・・掘立柱建物、SD・・溝、SE・・井戸、SK・・土坑、SP・・ピット、SX・・方形周溝墓、平地式建物

第 I 章 層序及び概要

第 1 節 調査の概要

1. 調査既往の概要

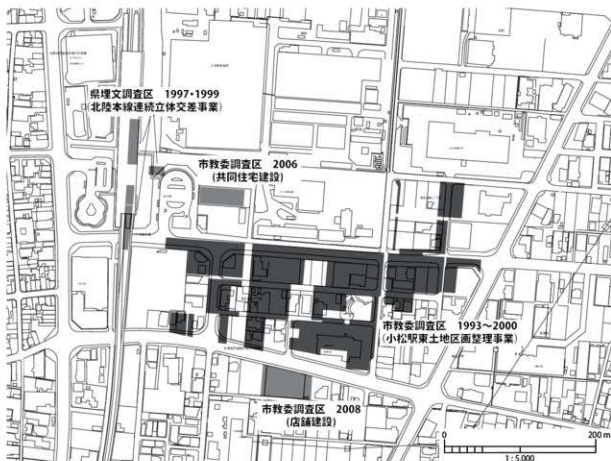
八日市地方遺跡の発掘調査箇所は、本論で扱う小松駅東土地区画整理事業の他、石川県埋蔵文化財センターによる北陸連続立体交差事業及び民間開発による 2006 年、2008 年の調査と複数箇所にあたる。県の調査箇所では、埋積浅谷の右岸に集落域が確実に展開することが判明し、さらに 2006 年実施箇所から環濠内に囲まれる生活域を拡充する形となった。

一方、平成 9 年に実施した試掘結果をもとに、2008 年に実施した調査箇所では、弥生土器の出土はあるものの明瞭な遺構には恵まれず、墓域の南端を示す結果となった。

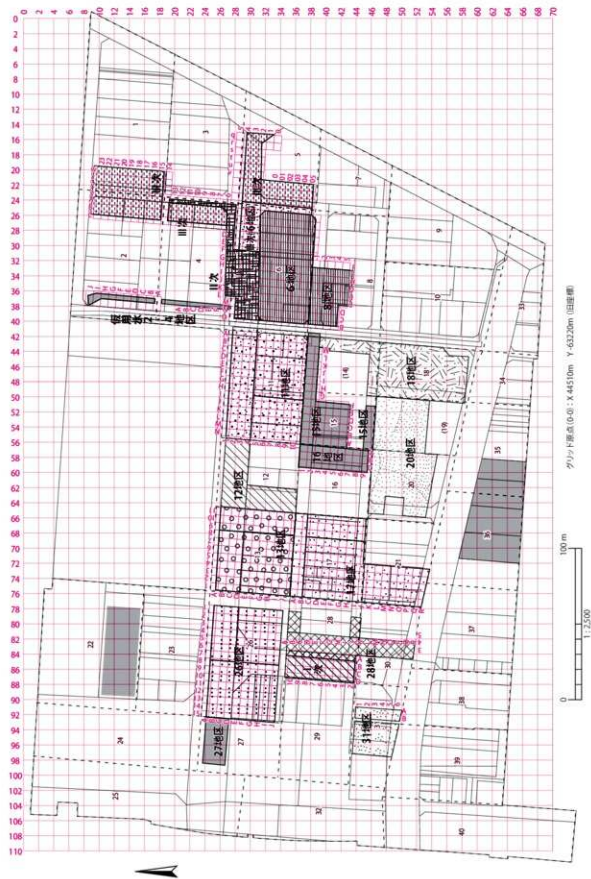
2. 調査区の位置

平成 5 年度から平成 6 年度にかけての調査は、Ⅰ次、Ⅱ次、Ⅲ次とした名称のもと実施しているが、調査区が複数箇所にあたることから第 2 図のとおり調査区割りを設定し、平成 9 年度からは、統一的なグリッドを採用した調査方法へと移行している。その結果、旧 GR をもつ調査区や、調査区名称が複数生じた。

なお、以下の章での報告は、調査担当が複数携わりながら経年で実施したものであることから、より事実的な報告を行うため、調査区ごとに扱うことにした。



第 1 図 調査地位置図



第2図 グリッド配点図 (1/2500)

第2節 層序

1. 層序

客土以下埋立前の耕作土には、弥生時代中期及び室町時代から近現代の遺物が混入し、調査区各所には17世紀後半から19世紀に渡る水田畦畔をみることができるところから、近世以降の水田面利用の際に若干の攪拌を受け、埋積浅谷から離れ次第に標高が高くなる箇所ほど、明治42年の耕地整理の影響で削平を受けたものと思われる。

検出された遺構は河川肩部を除くと弥生時代中期併行が主体であり、6、8地区の元太郎丸神社が存在した周辺には中世の遺構が散見する。

弥生時代遺構確認面は、主に褐色～淡黄色細粒～粗粒砂であり、この層に縄文後期土器が含有する箇所がみられるものの、遺構確認までには至っていない。

この層が残存する範囲は後世の削平が少なく、それ以下の黄灰白粘土層、灰白色微粒砂が露出する箇所では大きく削平を受けたものと思われ、80基以上に及ぶ方形周溝墓の検出があるものの主体部が確認できたものは3基のみである。

遺構の埋土は、黒色～黒褐色埴土～砂壤土を主体とし、浸水に伴うベース面の崩壊砂、腐食土に分けられる。

環濠の堆積状況をみていると数回にわたる浸水があったものと思われる。第35図の4地区土層断面図からわかのように、幾度となく遺構が掘り込まれるにも係らず、基本として1面での調査をしていることから、遺構は錯綜し各時期の様相を知ることが困難な状況である。

しかし、11、12地区にみられる褐色細粒砂・viii15層（調査時には包含層として扱っている）は洪水の影響と思われる層であり、厚い箇所では20cmほど堆積している。その層に含有する土器は、6～8期であるため、8期もしくはそれ以降に生じたものと考えられる。その砂上面に造られる遺構は9期以降、凹線文併行期以降であり、居住域・生産域である箇所の上に新たに、墓もしくは平地式建物が造られたものと思われ、こういった例から2面確認された箇所も少なからず存在する。

第3節 遺構の概要

1. 環濠

確認された環濠は埋積浅谷左岸部では12本あり、各調査区ごとに溝名称が付くため、西側から環濠01とし12まで新名称で説明するものとする。

環濠01は皿状もしくは逆台形を呈している。上層堆積層は砂層であり、一見確認面の砂層との分別しづらさほどであり、その様相は13地区から28地区東側までは続くようである。土器の混入が少ないものの、おおよそ4期～5期の土器が下層でみられることから、もっとも古い機能を果たした環濠と思われる。次に環濠02、04、11は5～6期の土器が中・下層でみられる。02は逆三角形状で、04、11は逆台形または皿状を呈する。03A・03Bは6～7期の土器が下層でみられ、03Aは03Bに切られており、03Aは04と併走する可能性が高い。また、02と03との切り合いは17地区で明瞭であり、03は17地区北側でほぼ1本になっていることがわかる。03に関しては浅谷付近は埋まりやすいため再掘削したものと思われる。環濠10は確認しづらかったのか、各所で深い溝があった様子が伺われるため調査時に完掘できなかった環濠と思われる、11に比し10は若干の時期差をもつ可能性がある。06は16地区付近までは、7期の土器が下層からみられ、おおよそ03と併走した

ものと考えられる。07 は下層から 8 期の土器がみられることから西部域を囲む最終段階の溝と思われる。

なお、環濠 05、08、09 は弥生時代の遺構に切ることではなく、後世に至るまで埋まりきっていない溝である。

総じて環濠は浅谷に注ぎ込む形で掘削され、浸水により幾度と再掘削を行ったものと思われる。浅谷左岸域でみられる西部域、東部域を分ける環濠は、集落Ⅱ期から存在し、集落Ⅲ期では、環濠 04、05 がその機能を果たすものと思われる。

2. 建物

建物の種類としては、掘立柱建物、平地式建物があり、ピットの数は無数にあるため、膨大な建物もしくは建替えがあったものと思われる。

平地式建物跡として確認できたものは、集落Ⅱ期相当では 11、15、6、2 地区のみであり、集落Ⅲ期併行最終段階は、遺構確認の際に黒色泥層の残存状態で確認されるものであり、11、12、13 地区でみることができる。当初、10 期併行の方形周溝墓堆積土と同様な様子を示すことから、墓との区別が困難であったが、遺構図を精査していくことで中央部に炭集中範囲が確認できるものや、複数の柱根残存から区別して報告するものとした。規模は、周溝を含めて 10m 前後である。

掘立柱建物は、木柱根が残存していたり、遺構の重複が少ない箇所を確認できている。

もっとも大きな柱穴を有する掘立柱建物は、集落西部域、特に環濠 01 に囲まれる箇所である 1 次、26 地区で発見されており、周囲に井戸があることから井戸と建物の関係が気になるところである。また、11 地区区内で木柱根が残存することから発見された 1 間×4 間の建物は掘立柱建物になるのか、もしくはちょうど周溝が巡ることから平地式か、今後の検討を要する。

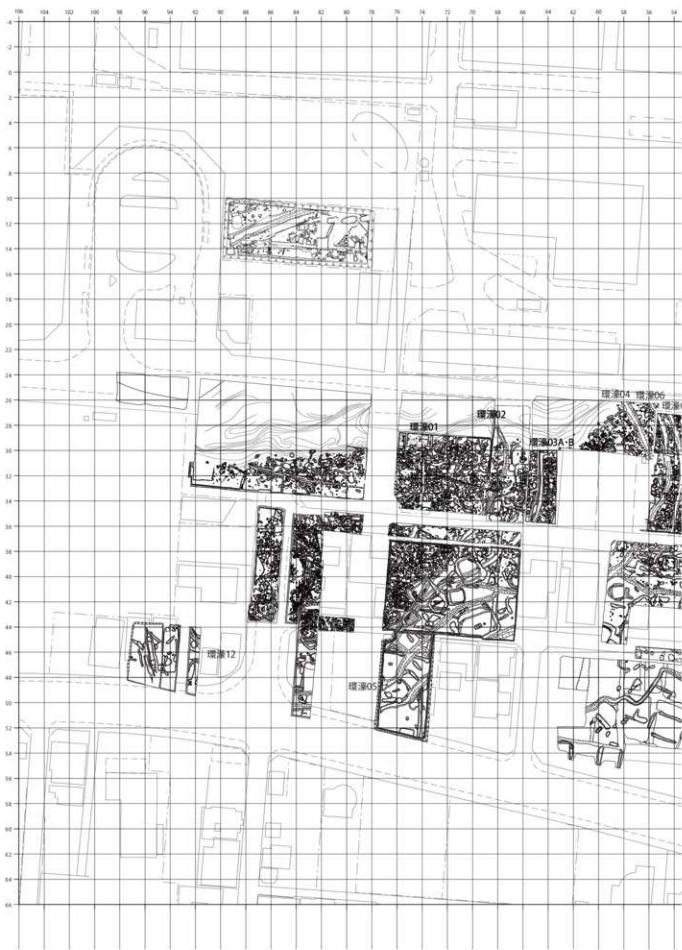
3. 方形周溝墓

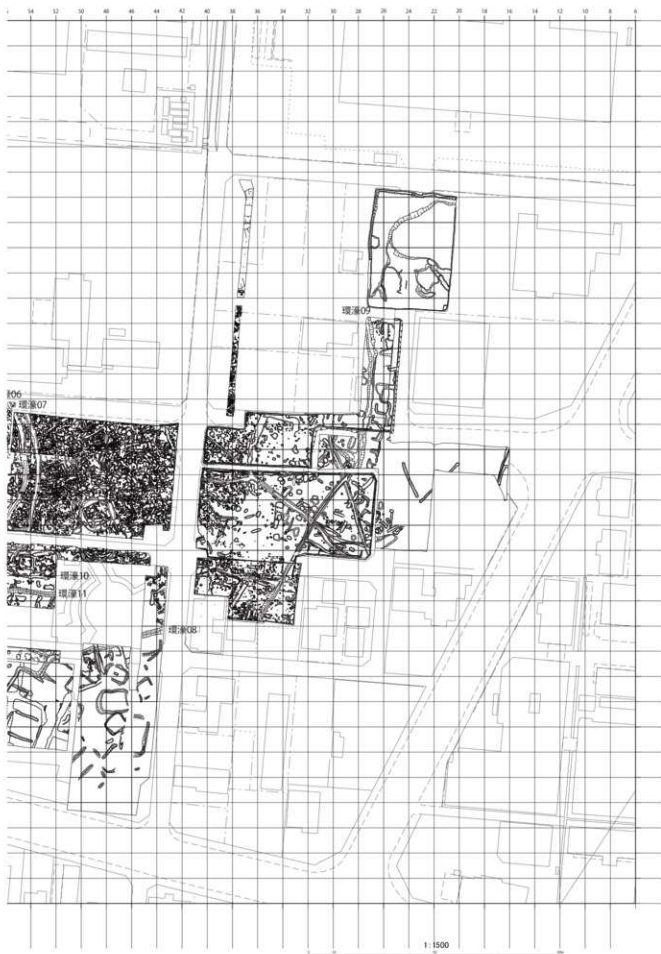
上記したように、埋積浅谷左岸域だけで、80 数基の方形周溝墓が確認されている。現在のところ、もっとも古いものは八日市地方 6～7 期併行、集落Ⅱ期に相当し、集落最終段階 10 期併行まで継続する。第 3 図の遺跡全体図を概観すると、環濠は生活域・生産域と墓域を区分けしてみえるが、溝が区画機能を果たしているのは八日市地方 7 期相当のみで、8 期以降は生活域と隣接している様子が伺われる。規模は周溝も含めて 18m 超えるものから 7m 前後のものがある。陸橋部は 4 隅切れのものから全周するものまでみられる。当初、墓は生活域と画する環濠に付随して造られ、生活域が縮小するとともに、環濠間の高まりを利用して造墓するものもみられる。また、環濠 08、09 及び環濠 05、環濠 06 は 17 地区以降の箇所では増築時に機能している可能性が高い。

発見された主体部はすべて単数埋葬であり、木棺が遺存していた例 (20 地区 SX02) や土層観察から木棺利用していたことが分かっている (17 地区 SX01、18 地区 SX01)。また、方形周溝墓周辺では、素掘りの土坑も複数みられることから、方形周溝墓に付随する土坑墓もあったと思われる。

4. 土坑

土坑は複数の機能をもつと思われ、埋積浅谷肩部周辺では樹皮を巻いた例や、板を杭止めて維持する機能を持つものがみられる。それらの利用法としては、貯木、穀物貯蔵などがあげられる。また、連結した不定形土坑で平地式建物周溝になるものや土器、石器埋納土坑などの機能をもったものもあげることができる。形状は、隅円長方形から方形、円形とあり、規模も 2m を超える大型のものから 1m 以下のものまで様々であり、中には大型柱穴になる可能性が高いものも含まれる。本論では、井戸のみを報告対象とし、遺物検証なしでは性質を語るのが困難な遺構である土坑に関しては、土器編もしくは補遺編で報告するものとする。





第3圖 遺跡全体圖 (1/1,500)



第4図 環泳変遷図(1/2,000)

第二章 弥生時代の遺構

第1節 I次・28・30地区・31地区

1. 調査区の概要

I次は平成5年度に発掘調査を実施した箇所である。調査区は任意のグリッドを設定し、9Grに関しては杭を調査区に取めるためか4m設定となっている。調査方法は、全点ドットによる遺物の取り上げ、航空測量図化を実施している。28地区は28地区から30地区にまたがる箇所、3回に分けて実施している。平成10年度に南北に広い箇所935㎡を調査実施している。その後、平成11年度に道路箇所の調査として、28③A、28③B計224㎡を調査実施している。31地区は平成8年度370㎡、平成10年度216㎡を調査実施している。いずれも手実測による平面図化作成を行っている。

2. 遺構の概要

1) I次・28地区

調査区は一部近世以降の畦畔がみられるものの、概ね良好である。

検出した遺構は、環濠01、環濠02-03、環濠05、環濠12及び28地区から方形周溝墓3基、I次から井戸1基、方形周溝状遺構1、31地区から方形周溝墓3基である。環濠01は良好な残りの箇所では、上面に灰黄褐色粗粒砂がみられることから、当調査区では、ほぼ砂で埋まっていたものと思われ、SX02周溝が切っている様子が伺われる(第8図参照)。

また、環濠02-03は出土する土器から、八日市地方遺跡6-7期に位置づけられることから、17地区同様、環濠03が機能していたものと思われる。環濠05は9、10層まで黒色埴土がみられることから、後世に至るまで埋まりきっていなかったものと考えられる。

SD02Bは調査担当者は環濠の切れ目である可能性を考えており、環濠12の始まりとして報告する。出土土器から環濠03とほぼ同時期と考えられる。環濠05は、11層を下底面に持つ時期と、21、22層を下底面にもつ時期と最低でも二時期は確認することができ、おそらく、環濠06との重なりを示しているものと思われる。

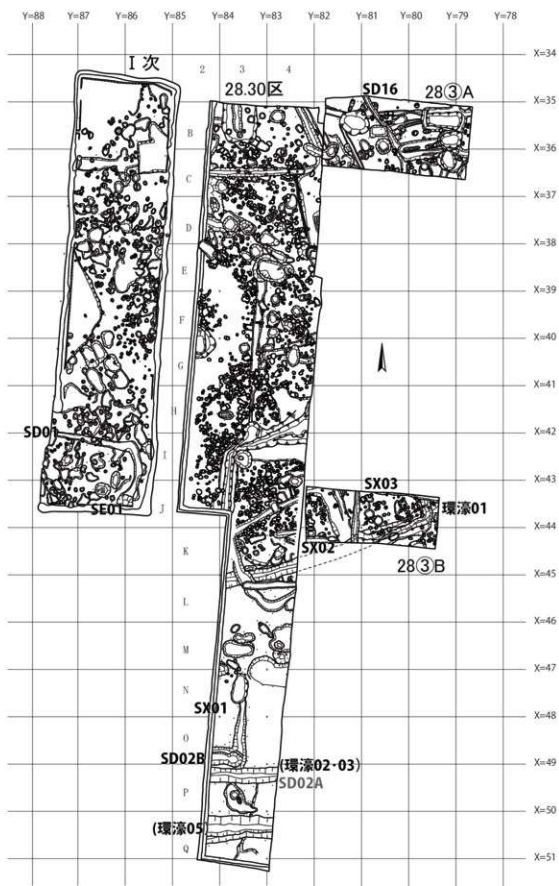
方形周溝墓は出土土器からすべて集落Ⅲ期に位置づけられ、SX03からは多くの供献土器が出土している。SX02と03との切り合いはCアゼ(第11図)からわかるように、SX02が03を切っているが、土器をみるとほとんど時期差はなく、共有した造墓の2個1対の関係をもつものである可能性が高い。

ビット及び土坑は環濠01北に集中することから、生活域は環濠01内に囲まれた範囲であると考えられる。土坑から出土する土器は、主に集落Ⅱ期の遺構であり、X=39付近より北からは、集落Ⅲ期の土器もみられる。I次調査区からはケヤキ製樹皮を利用した曲物状井戸枠が発見されており、出土遺物が細片の弥生土器しかないことから、時期比定が困難なものである。調査担当者は、弥生時代の遺構と考えて記録を残している。この井戸を囲むSD01からは数点の集落Ⅲ期の土器が発見されていることから、墓の可能性というよりは井戸に伴う遺構として捉えたほうが良いかもしれない。

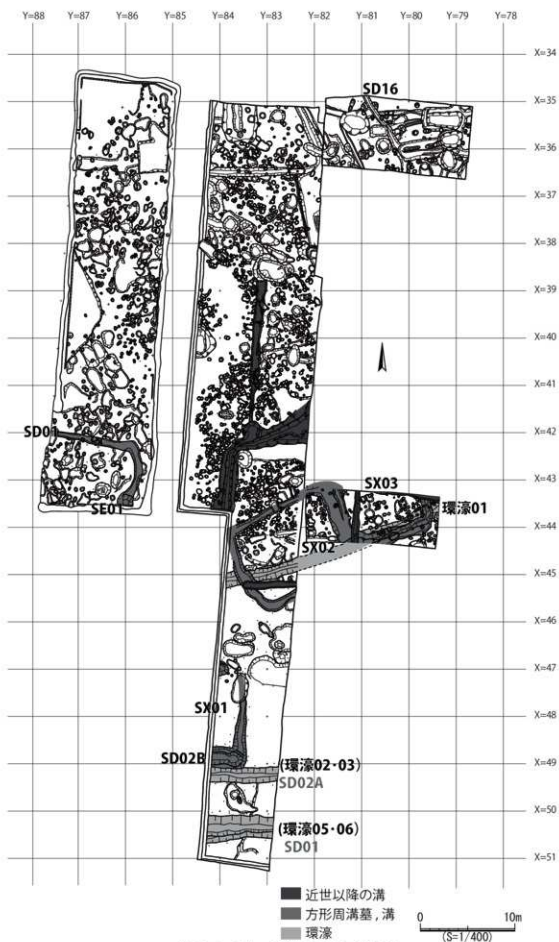
また、X=37付近では径30cmを超える柱根が3つ発見されており、大型建物があったと思われる。

2) 31地区

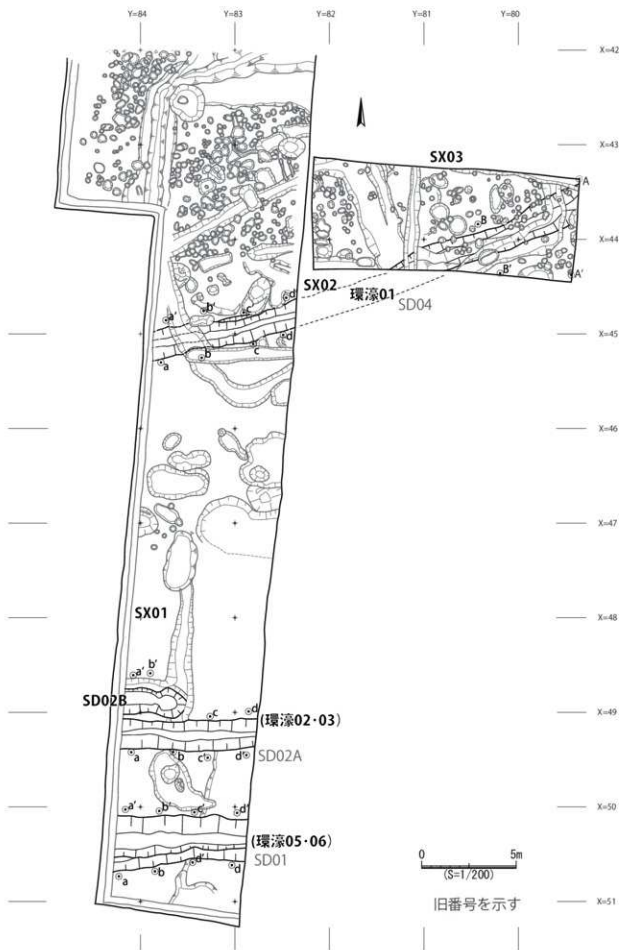
当調査区で弥生時代の遺構として考えられるものは少なく、墓域のみが検出された調査区である。SX02は環濠12が埋まった後に造墓されたもので、bセクションのところから、供献土器と考えられるほぼ完形の壺形土器が出土している。



第5図 I次・28地区全体図(1/400)

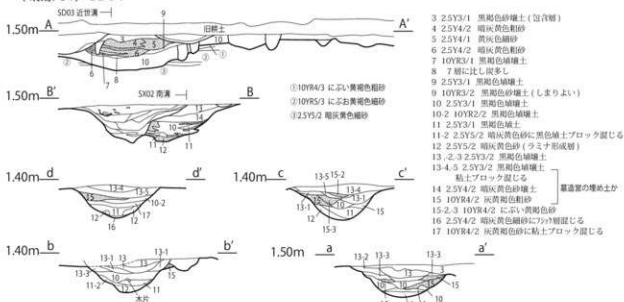


第6図 I次・28地区変遷図(1/400)

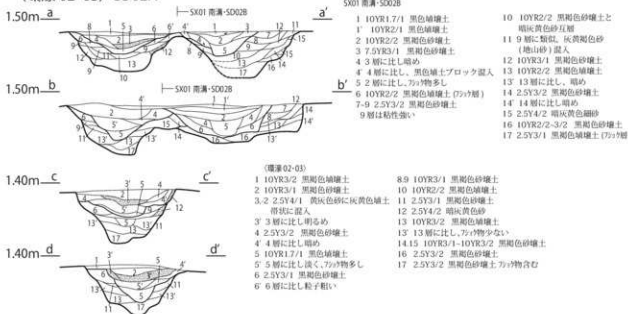


第7図 I次・28地区環濠平面図(1/200)

〈環濠 01〉 SD04



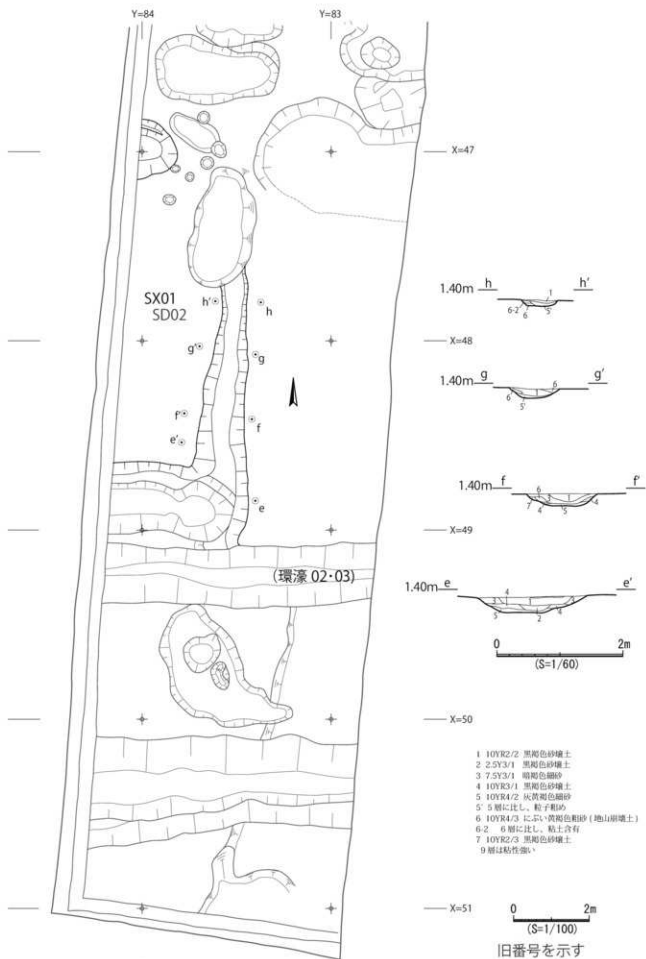
〈環濠 02-03〉 SD02A



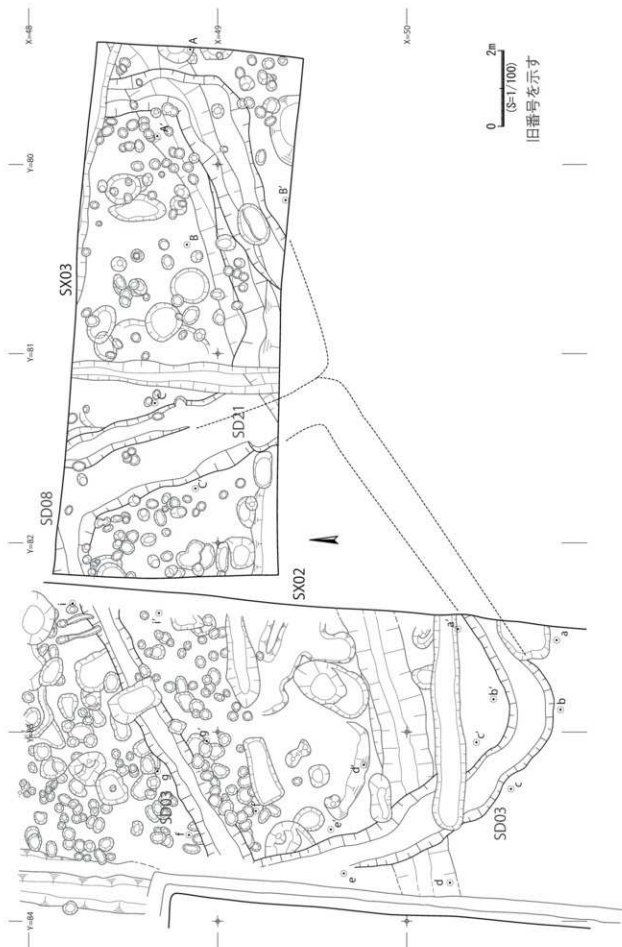
〈環濠 05〉 SD01



第8図 | 次・28地区環濠断面図(1/60)

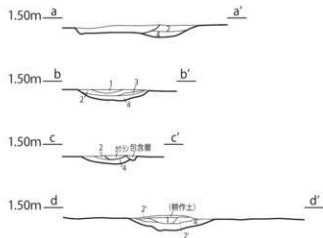


第9図 Ⅰ次・28地区SX01平面図(1/100)、断面図(1/60)

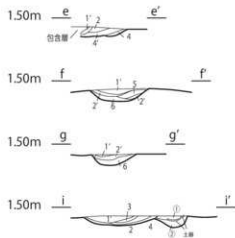


第10図 I次・28地区SX02,03平面図(1/100)

〈SX02〉SD03

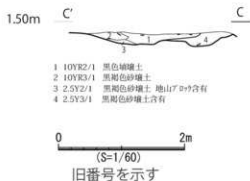


- 1 10YR1.7/1 黒色埴土
- 1' 10YR2/2 黒褐色埴土にカーボン多含有
- 2 10YR3/3 暗褐色埴土
- 2' 10YR2/2 黒褐色埴土
- 3 2.5Y4/3 暗灰黄色粗砂
- 4 10YR4/2 灰黄色砂に黒褐色埴土含有
- 4' 10YR3/1 黒褐色埴土に黒色埴土ブロック混入
- 5 10YR2/2 黒褐色埴土
- 6 10YR2/1 黒色埴土と 10YR2/3 黒褐色粗砂の混層



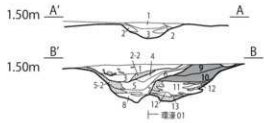
- ① 10YR2/2 黒褐色埴土にキズ、粘土ブロック含有
- ② 10YR3/3 暗褐色砂 下底面に粗砂有り

〈SX02 東溝〉SD21



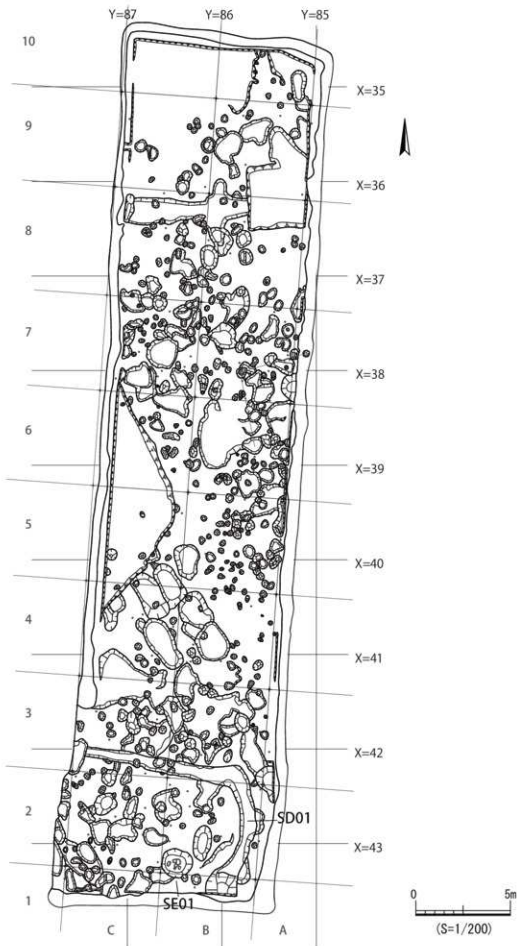
- 1 10YR2/1 黒色埴土
- 2 10YR3/1 黒褐色埴土
- 3 2.5Y2/1 黒褐色埴土 地山ブロック含有
- 4 2.5Y3/1 黒褐色埴土含有

〈SX03 南溝〉SD21

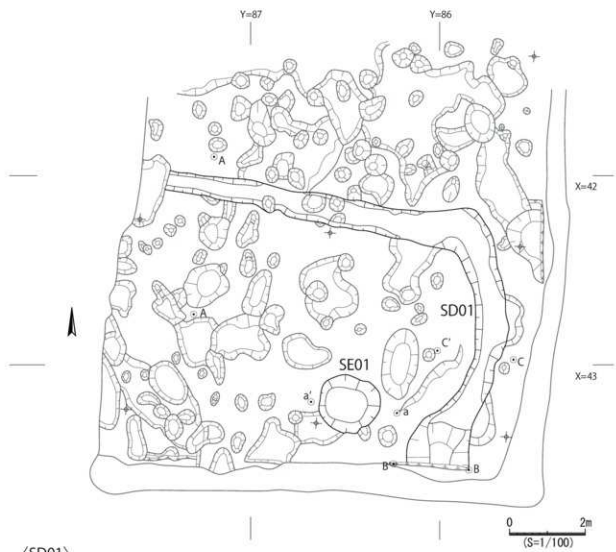


- 1 2.5Y3/1 黒褐色埴土 (粗砂)
- 2 2.5Y3/2 黒褐色埴土
- 2' 2.5Y5/3 黄褐色砂 (粗砂)
- 3 2.5Y3/1 黒褐色埴土 粘土ブロック含有
- 4 2.5Y4/2 暗灰黄色埴土
- 5 2.5Y2/1 黒色埴土 (0.1層)
- 5-2 2.5Y3/1 黒褐色埴土 粘土ブロック含有
- 6 10YR3/1 身層埴土
- 7 10YR3/2 黒褐色埴土 11 糖餅埴土
- 8 2.5Y2/1 黒色埴土 (最下底面より土)
- 9 2.5Y3/2 黒褐色埴土 □ 墓室壁の埋め土砂
- 10 2.5Y4/2 暗灰黄色埴土
- 11 2.5Y3/2 黒褐色埴土
- 12 2.5Y3/1 黒褐色黒褐色埴土
- 13 2.5Y5/2 暗灰黄色砂 (ツミナ形成層)

第 11 図 1次・28地区 SX02,03 断面図 (1/60)



第12图 1次全体图(1/200)

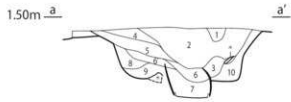
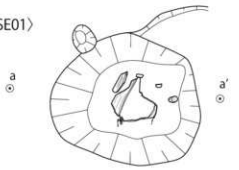


<SD01>



- 1 濃黒褐色砂礫土
- 2 灰褐色砂礫土
- 3 黒灰褐色砂礫土

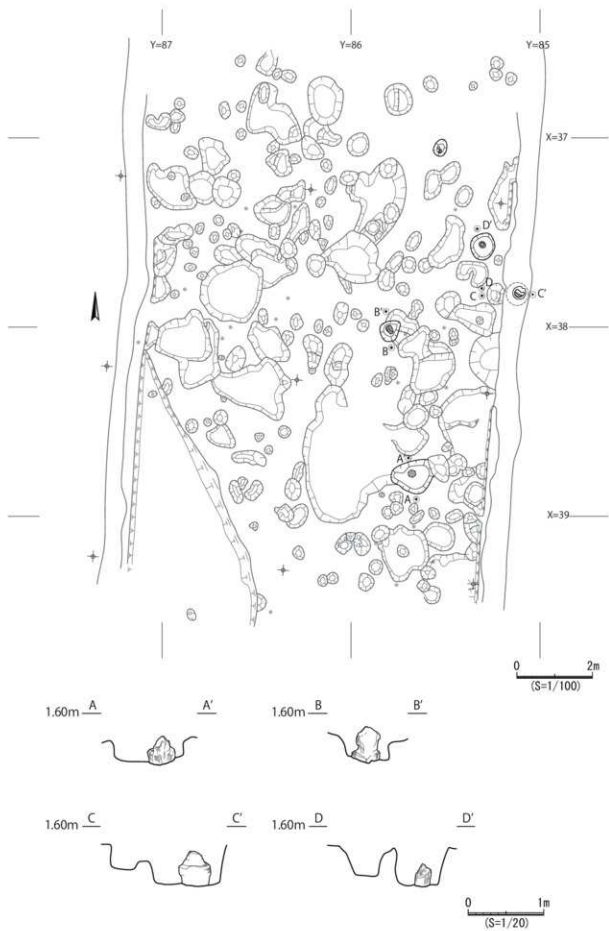
<SE01>



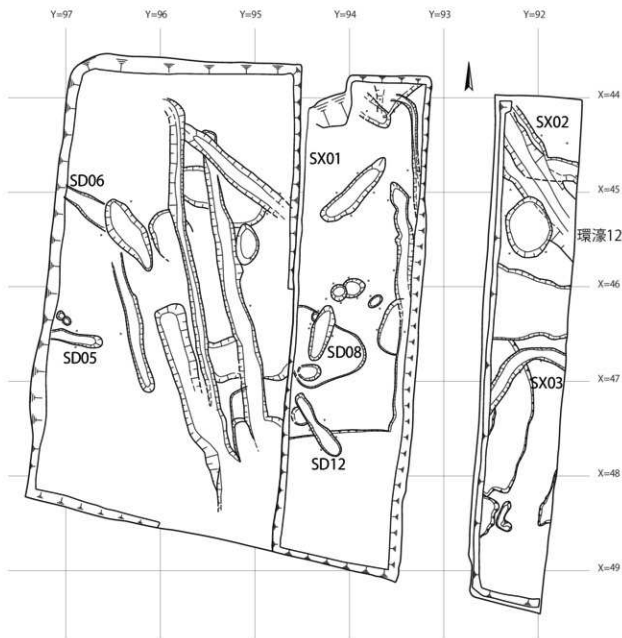
- 1 黒褐色砂礫土
- 2 濃黒褐色砂礫土(土器含有)
- 3 黒灰褐色砂礫土に黒褐色雑土を付着する
- 4 黒褐色砂礫土
- 5 黒褐色砂礫土に灰褐色砂礫土を付着する
- 6 濃灰褐色砂礫土
- 6' 濃黒褐色砂礫土
- 7 濃黒灰褐色砂礫土
- 8 濃黒灰褐色砂礫土
- 9 濃黒褐色砂礫土
- 10 灰褐色砂礫土に黒褐色' a'及び灰白色雑土' a''を附着する



第 13 図 | 次 SD01 平面図 (1/100)、断面図 (1/60)、SE01 平面・断面図 (1/50)



第 14 图 I 次建物平面図 (1/100), 断面図 (1/20)



〈SX01 南東溝〉

1.40m_a



1.40m_b



- 1 2.5Y2/2 黒褐色細礫土
- 2 2.5Y2/2 黒褐色細礫土
- 3 2.5Y3/1 黒褐色砂礫土

〈SX01 北東溝〉

1.50m_c



- 2.5Y2/3 黒褐色砂礫土
- 3 2.5Y3/1 黒褐色砂礫土

〈SX01 南西溝〉

1.40m_d



- 1 10Y4/3 灰褐色細礫土

〈SK08〉

1.50m_A



- 1 2.5Y2/2 黒褐色砂礫土
- 2 2.5Y3/2 黒褐色砂礫土
- 3 2.5Y3/1 黒褐色砂礫土

〈SD12〉

1.50m_J



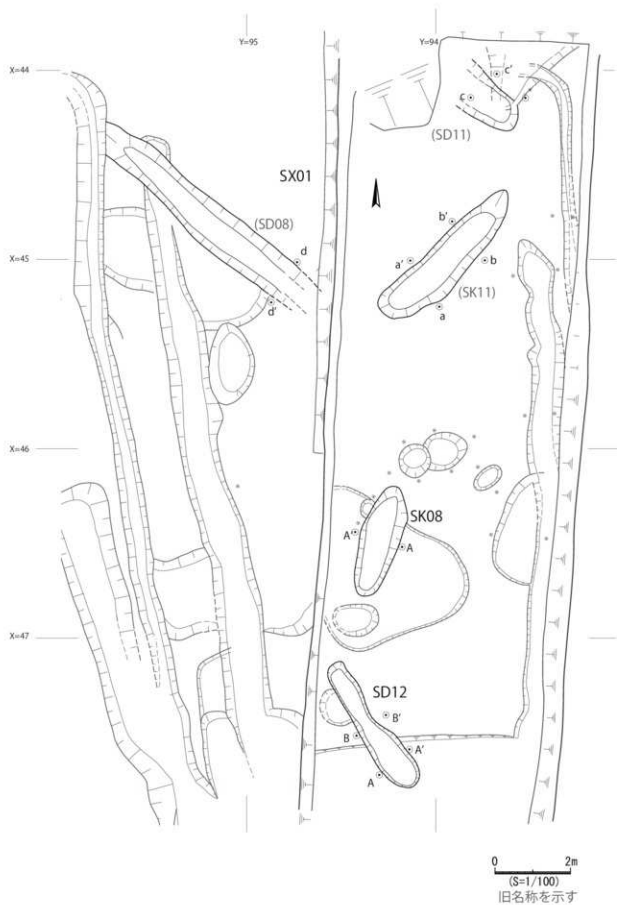
1.50m_K



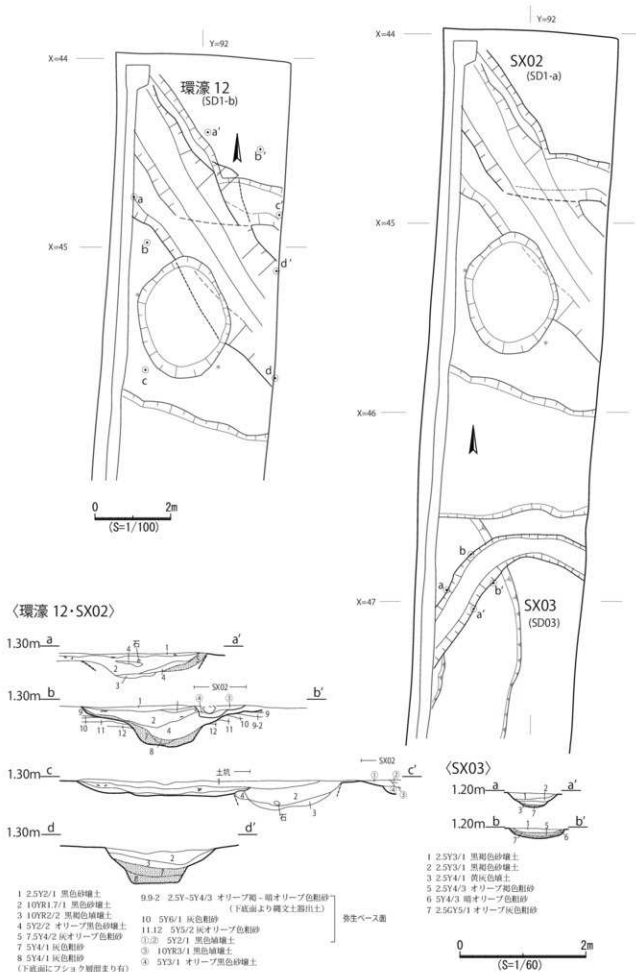
1 2.5Y3/2 黒褐色砂礫土

0 2m (S=1/60)

第 15 図 31 地区全体図 (1/200)、SX01 他 断面図 (1/60)



第16图 31地区SX01 他平面图(1/100)



第 17 図 31 地区 環濠 03, SX02 平面図 (1/100)、断面図 (1/60)

第2節 26地区

1. 調査区の概要

26地区は平成7年度埋積浅谷箇所を600m調査しており、人物陽刻意匠板や完形の甕など重要文化財指定品が発見された箇所である。その後、平成8年から10年の2カ年にかけて、平成7年度の任意グリッドを引き継ぎ、2,880mの調査を実施している。遺構が確認された約1,000mのみ航空図化測量を実施している。その他の埋積浅谷部分は手実測による遺物の取り上げ及び平面図作成を実施している。当調査区は、広域な埋積浅谷調査により、左岸部から右岸部の立ち上がりを確認できた調査区であり、土器量はパンケース約800箱出土、膨大且つ良質な木製品が発見されている。また、弥生時代前期中段階併行期の土器の発見から、後期前葉の水辺祭祀に伴う良好な土器群を発見したことから、当遺跡の時間軸形成の基準になった調査区である。調査区の3分の2は河道であり、生活域・生産域は少ない。環濠O1に囲まれる集落形成時期から終焉までの土器が見られるわりには、11地区や13地区等に比べると土坑の切り合いも少なく大型建物も発見されている。埋積浅谷肩部には、報告1(2003)で報告した貯蔵穴や貝層、貯木場などさまざまな生産活動がみられた調査区でもある。

2. 遺構の概要

調査区は近世以降の用水がみられるものの、概ね良好である。

検出した遺構は、掘立柱建物2棟、井戸1基、竅穴状遺構3基、肩部に沿った柵列が主な遺構であり、集落Ⅲ期併行の貯木土坑が複数みられる。

SB01は遺構の重複が少ない箇所から発見された良好な掘立柱建物である。調査時からSD11・12が伴う1間×2間以上の建物もしくは、類似したP87が直交した箇所にあることから、棟持ち柱に該当しないか検討の余地がある。いずれも柱根は残存せず、掘り込みから確認された柱部分の痕跡のみである。SD11とSE01の関係は、井戸が溝を切っているようにも見えたが決め手に欠ける。

SE01はタブノキ製の一本割貫の井戸枠が利用されており、中からはサクラ皮製の曲物状のもの(報告1第365図31)が発見されている。また井戸枠内は当遺跡で唯一の浄水機能を示すと思われる5cm前後の川原石が敷かれていた。SB01及びSE01,SD11,12いずれも集落Ⅲ期に位置づけられる。

SB02は近世の溝両肩から発見された1間×2間の掘立柱建物である。柱間寸法は2mと同様であるものの柱穴はSB01と比べ柱、掘り方いずれも小さい。

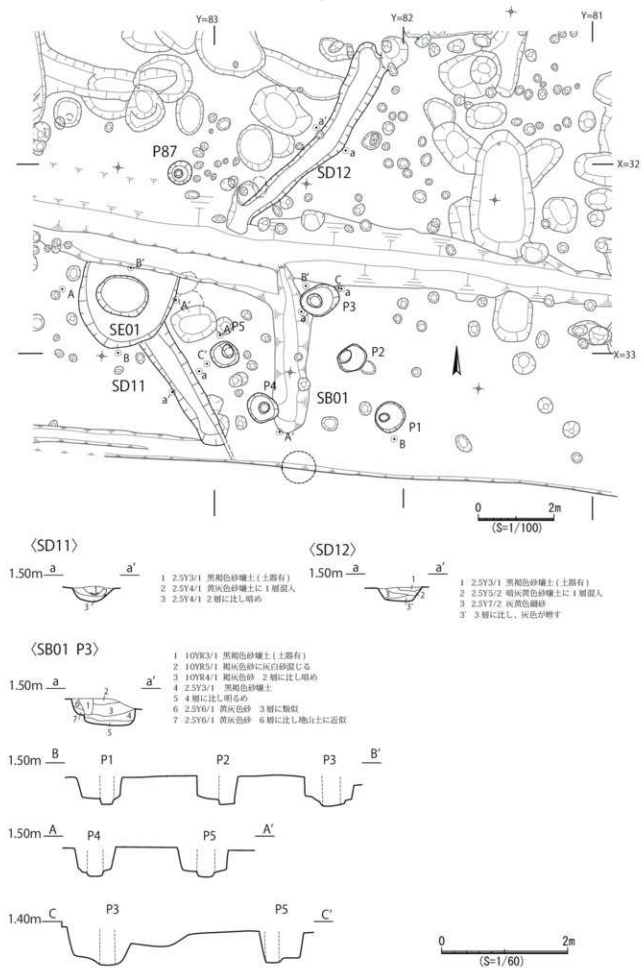
X=30,Y=87付近では柱根が確認され、1間×1間以上の建物と思われる。柱間寸法も上記SB01.02と比較しても申し分ない。

SI01は約2×3mの方形竅穴状遺構であり、床面は平坦である。八日市地方10期の土器とともに分銅形土製品(報告1第98図11)が発見されている。SD13を切る形で確認することができた。SK81、SK102も不定形ではあるが床面は平坦であり、当遺跡内ではこういった小竅穴状遺構が各調査区でも散見する。いずれも集落Ⅲ期に該当する。

なお、SD13はL字状の溝であり、溝内からは多量の碧玉チップが見つかった。当初平地式建物周溝にならないかと現地において検討したが周溝内に柱は検出されなかった。製玉に関連した施設である可能性は高い。

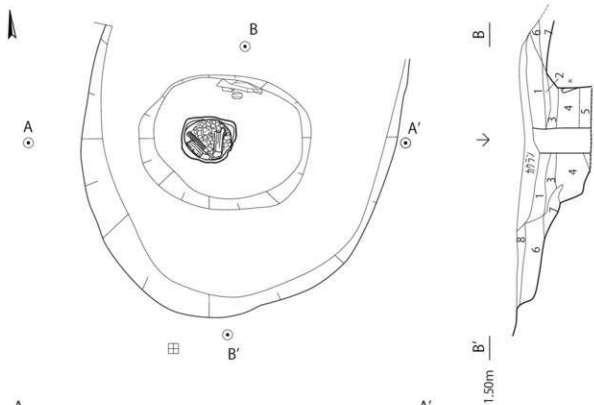
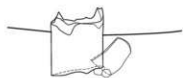


第 18 图 26 地区全体图 (1/300)

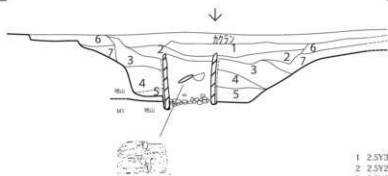


第19図 26地区 SB01,SE01 平面図(1/100),SB01 断面図(1/60)

1.50m



1.50m

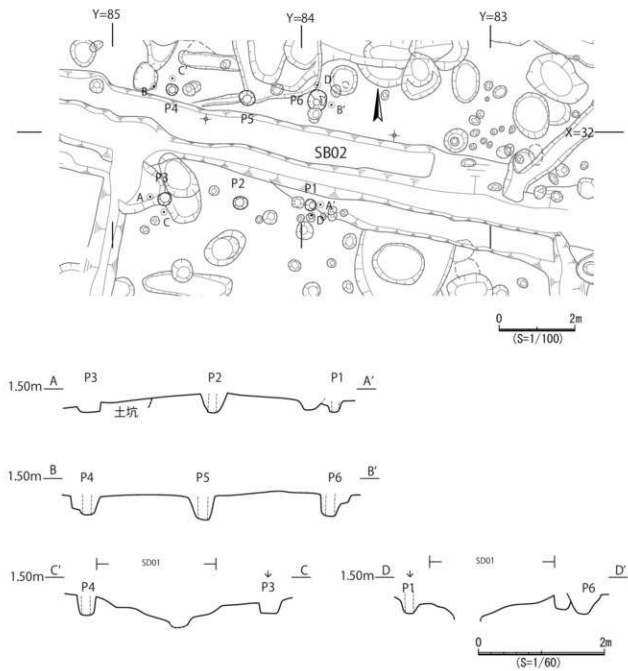


- 1 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土
- 2 2.5Y2/1 黒色粘壤土
- 3 2.5Y5/2 灰黄色細砂に明黄褐色砂混じる
- 4 2.5Y5/1 黄灰色細砂に黒色粘壤土が輪状に混じる
- 5 4層に比し黒色粘壤土多く混じる
- 6 5Y6/2 灰利-子色砂に淡黄色砂混じる
- 7 6層に比し、灰白砂(地山砂)多く混じる
- 8 2.5Y5/1 黄灰色細砂に黒褐色粘壤土混じる

掘り方

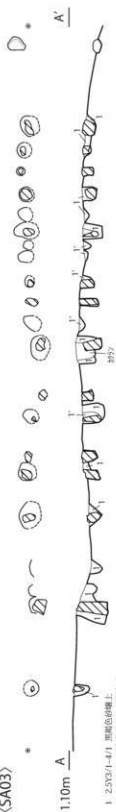
0 1m
(S=1/30)

第20図 26地区 SE01 平面図及び断面図(1/30)



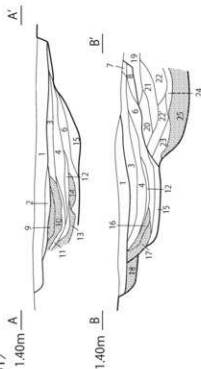
第 21 图 26 地区 SB02 平面图 (1/100), 断面图 (1/60)

(SA03)



- 1 2.5Y3/1-4/1 黒褐色砂壤土
 1' 2.5Y8/2 灰白色砂に1層混じる

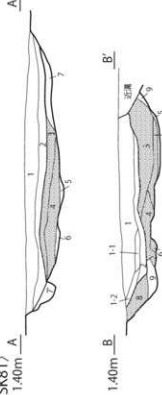
(SI01)



- 12 2.5Y3/1 黒褐色壤土 (7分層)
 13 2.5Y4/1 灰白色砂壤土(灰白壤)上混じる
 14 2.5Y4/1 黄白色砂壤土 13層に比し暗い
 15 5Y5/1 赤7色砂壤土(赤褐色砂)に黄白色砂混じる
 16 2.5Y4/1 黄白色砂
 17 2.5Y4/1 黄白色砂
 18 2.5Y4/1 黄白色砂に灰白色砂混じる
 19 2.5Y2/1 黒褐色砂壤土
 20 2.5Y2/1 黒褐色砂壤土
 21 20層に比し暗い
 22 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土
 23 2.5Y2/1 黒褐色砂壤土
 24 5Y2/1 黄白色壤土
 25 N3/1 暗灰色砂
 26 2.5Y3/1 黒褐色壤土 (7分層)
 27 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土
 28 27層に比し暗い
 29 5Y5/1 赤7色砂に黒褐色砂混じる
 30 2.5Y5/1 黄白色砂
 31 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土
 32 2.5Y6/2 灰白色砂
 33 2.5Y4/1 黄白色砂 (土層含有)
 34 2.5Y4/1 33層より暗い

黒土片多量出土

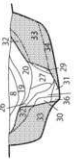
(SK81)



- 1 2.5Y4/1 黄白色砂壤土 (母土砂分)
 1a 1層に比し3x7多し
 1b 1層に比し1層のみ
 2 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土 (土層含有)
 3 2.5Y6/4 に近い黄白色砂に赤褐色砂混じり
 4 2.5Y5/2-2.5Y4/1 暗灰色黄白色に黄白色砂が混じる
 5 黄白色砂
 6 2.5Y4/1 黄白色砂
 7 2.5Y6/1 黄白色砂に5層混じる
 8 2.5Y5/1 黄白色壤 - 砂分 (厚度極小)
 9 2.5Y6/1-5/1 灰白色砂

黒り方壤土

1.50m C



- 501 壤土 [1 2.5Y4/1 黄白色砂壤土 (母土砂分)
 2 2.5Y2/1 黒褐色砂壤土 (土層含有)
 3 2.5Y2/1 黒褐色砂に黄白色砂が混じる
 4 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土
 5 2.5Y5/2-4/1 暗灰色 - 黄白色砂 3層に比し暗い
 6 2.5Y2/1 黒褐色砂壤土 (7分層)
 7 2.5Y5/2 暗灰色黄白色 (母土砂)
 8 2.5Y5/3 黄白色壤 - 砂分 (厚度極小)
 9 2.5Y5/2 暗灰色砂
 10 2.5Y5/2 暗灰色砂に中暗い
 11 2.5Y2/1 黒褐色壤土]

1m
(S=1/40)

第 23 図 26 地区 SI01 他断面図 (1/40)

第3節 Ⅱ次・Ⅲ次・2・4地区

1. 調査区の概要

Ⅱ次は平成5年度1,300㎡、Ⅲ次は平成5、6年にかけて計3,901㎡調査しており、当遺跡で初めて方形周溝墓が確認された箇所該当する。いずれも任意のグリッドを設定し、航空図化測量を実施している。本節はこのうちの埋積浅谷部分を除く遺構部分を報告する。

2・4区は用水新設工事に伴い、仮用水箇所の確保のため平成10年度250㎡の調査を実施している。新規設定された国土座標を利用したグリッド設定している。平面図は手実測による図化作成を行っている。

2. 遺構の概要

1) Ⅱ次・Ⅲ次

調査区は近世以降の用水及び攪乱がみられるものの、概ね良好である。Ⅲ次調査区東側には弥生時代の遺構は展開しておらず、環濠09から離れた箇所には墓域は拡がりを見せないものと思われる。

第25図は、担当者の知見により弥生時代と認識したものと及び出土土器から判断しマーキングした図である。弥生時代に相当する遺構は、環濠09付近に方形周溝墓が展開し、SD02より西側から土坑やピットといった生活域が拡がっている様子が伺われる。

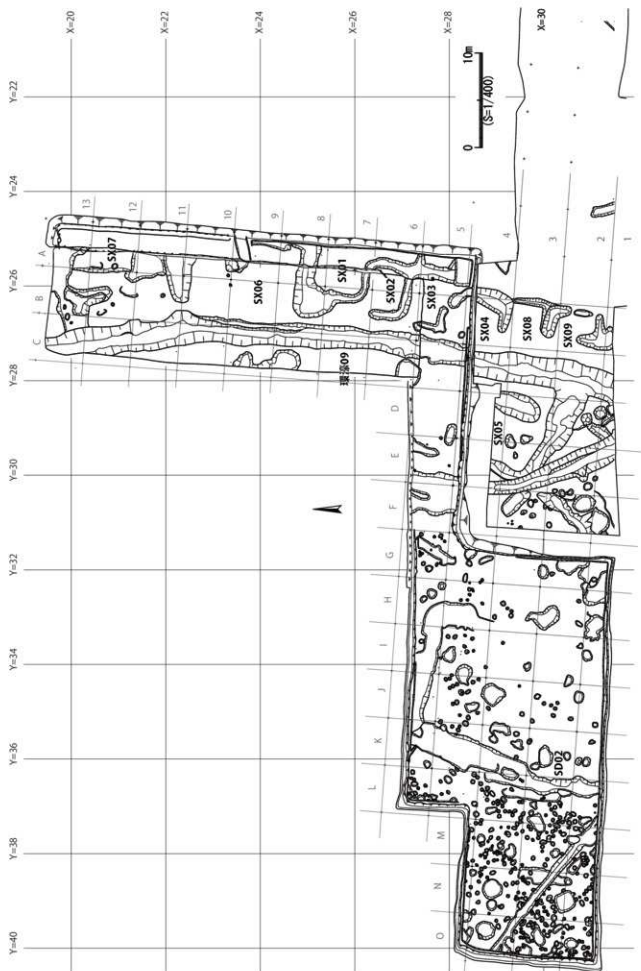
検出した遺構は、環濠09、方形周溝墓10基、複数の土坑、掘立柱建物等がみられる。

環濠09と方形周溝墓の関係は、環濠最下底である6層まで、ほぼ黒色から黒褐色の泥炭層を主体とした層であり、後世に至るまで中層上位は埋まりきってなかったものと思われる。環濠機能時に遺構が行われている可能性が高く、環濠を利用した形で展開しているものと思われる。方形周溝墓の形状は隅円方形を呈し、6m前後の小型のものが多く、いずれの墓からも主体部は発見されていない。

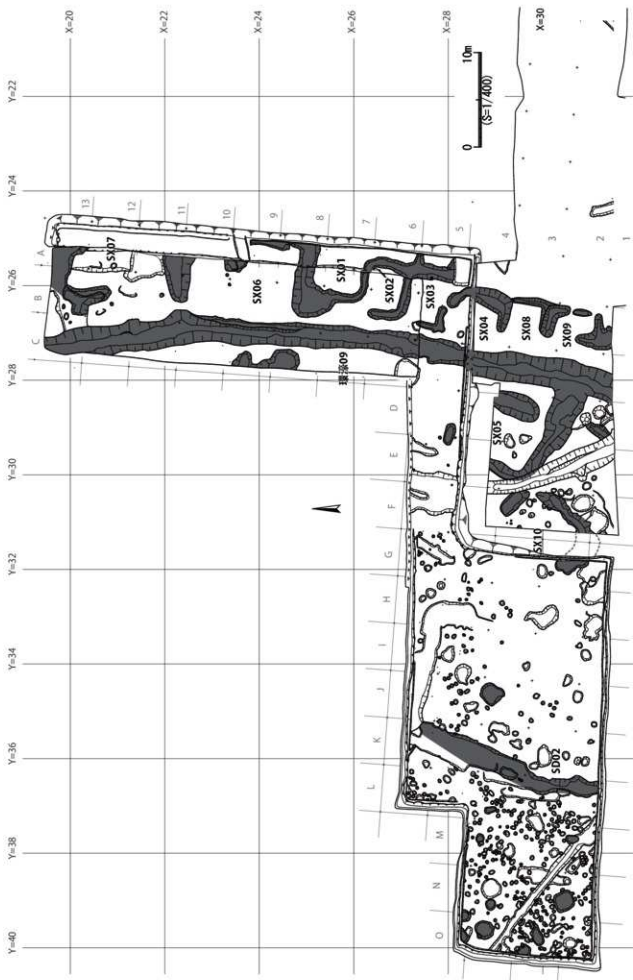
方形周溝墓の時期は集落Ⅱ期に該当する。なお、SD02以西の土坑やピットは遺構の重複も少なく、集落Ⅱ期相当の土器しか発見されていないことから、当調査区は集落Ⅱ期の拡大型のみ展開した箇所と思われる。SX08北東溝からは完形の小型壺形土器が出土しており、供献土器と考えられる。

2) 2・4調査区

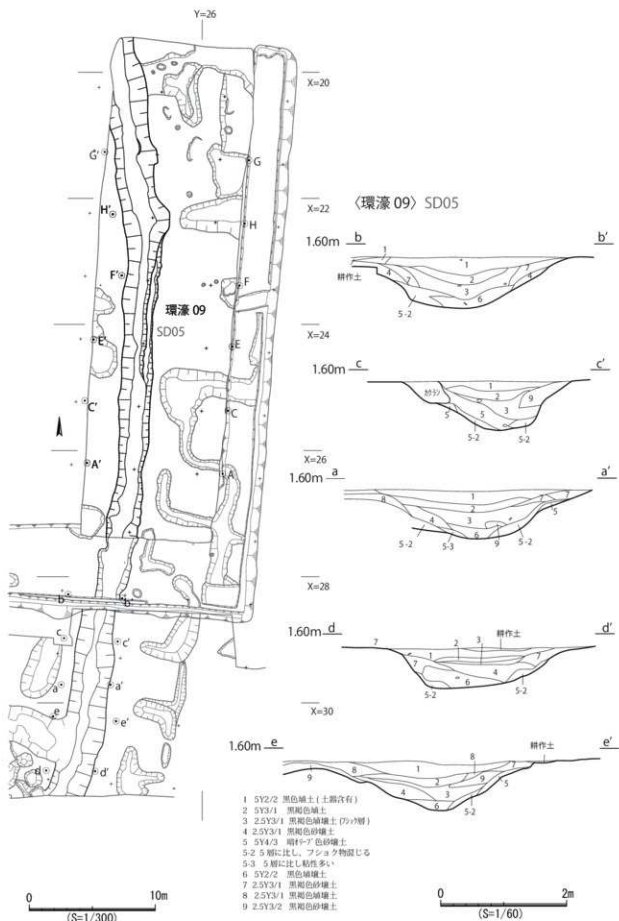
狭小な範囲で南北に長く調査した箇所であるが、調査成果からⅢ次同様に集落東部域の様子をうかがい知ることができる。調査区からは複数の土坑及びピットとSD01、02の溝及び埋積浅谷肩部が確認されている。調査区西側の土層断面図には、当遺跡の遺構埋積状況を端的に示す断面図が作成されており、その断面図からは平地式建物の周溝の可能性として考えられるSD03と、それを切るSD02の状況が見て取れる。SD02とSD01間には調査担当者が盛土の可能性として捉えた層があり、両溝を方形周溝墓周溝の可能性を上げている。SD01、SD02ともに完形近い土器が発見されており、両者とも集落Ⅲ期、八日市地方遺跡9期に相当する。また前述したSD03以下囲まれた土坑群からは集落Ⅱ期、6期から8期に至るまでの土器が出土していることから、層序と土器との関係は合致しており、生活域として展開した後、遺棄されたものと考えられる。



第 24 图 Ⅱ次・Ⅲ次 全体图(1/400)

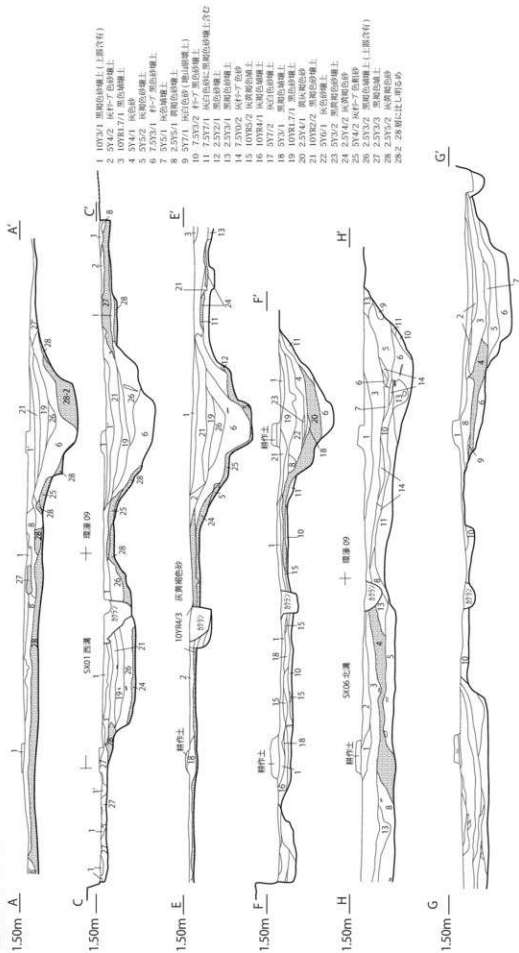


第 25 図 Ⅱ次・Ⅲ次弥生時代遺構抽出図(1/400)

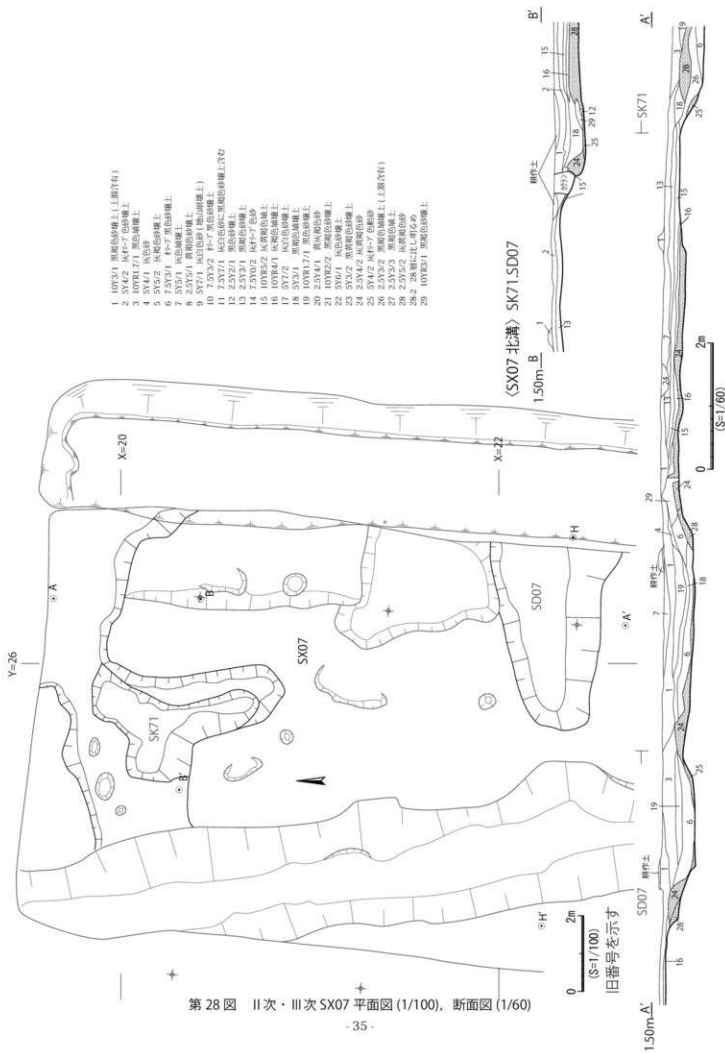


第 26 図 II 次・III 次環濠 09 平面図 (1/300), 断面図 (1/60)

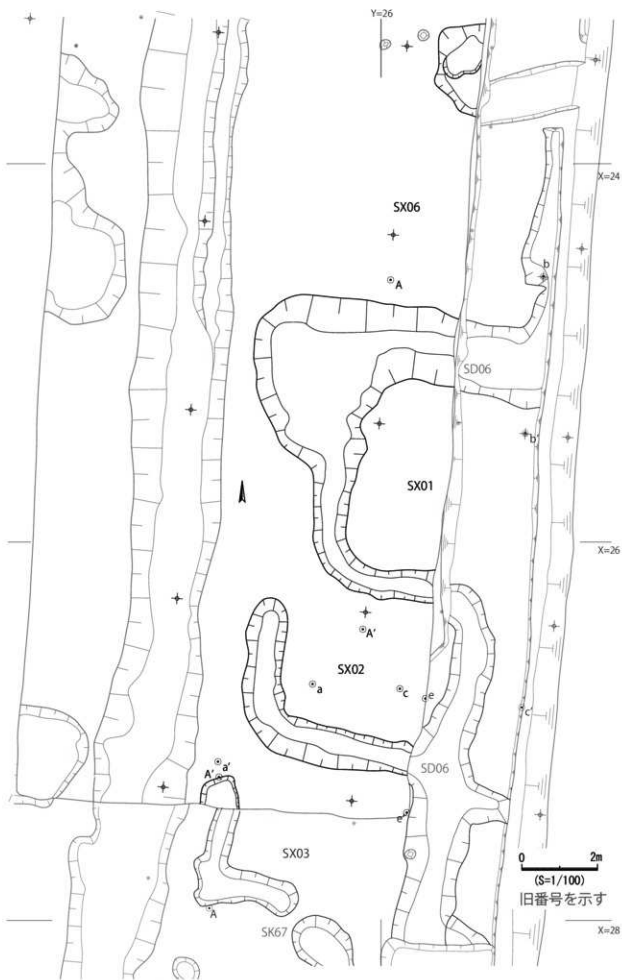
(環濠 09) SD 05



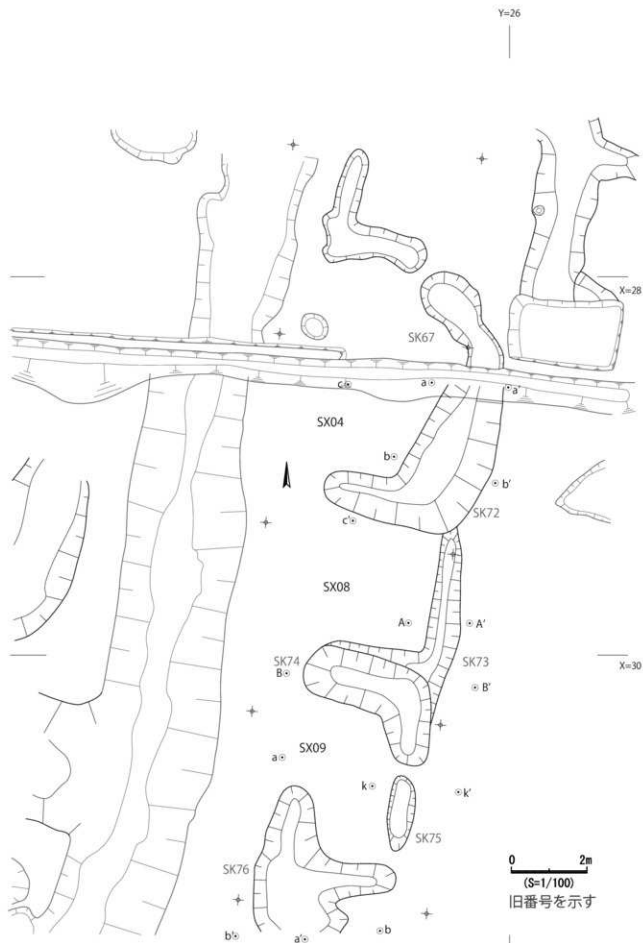
第 27 図 Ⅱ次・Ⅲ次環濠 09 断面図 (1/60)



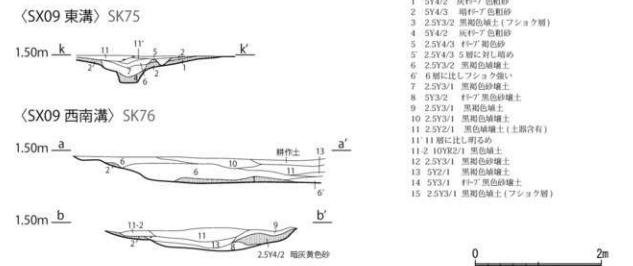
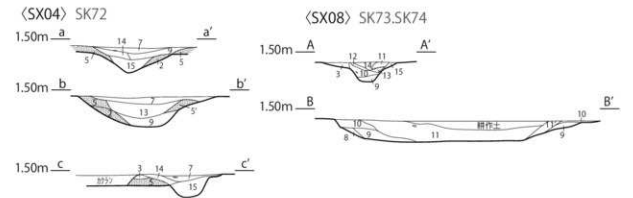
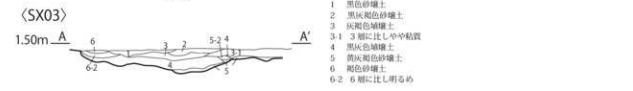
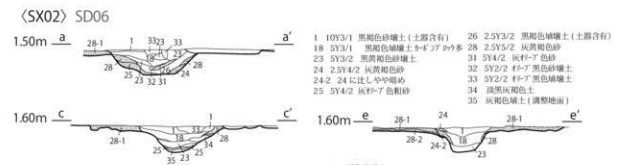
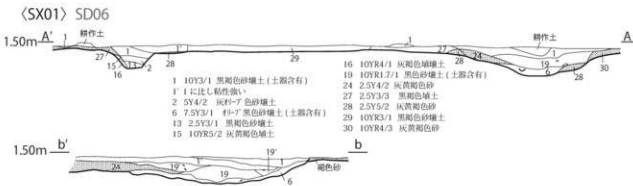
第28図 II次・III次SX07平面図(1/100), 断面図(1/60)



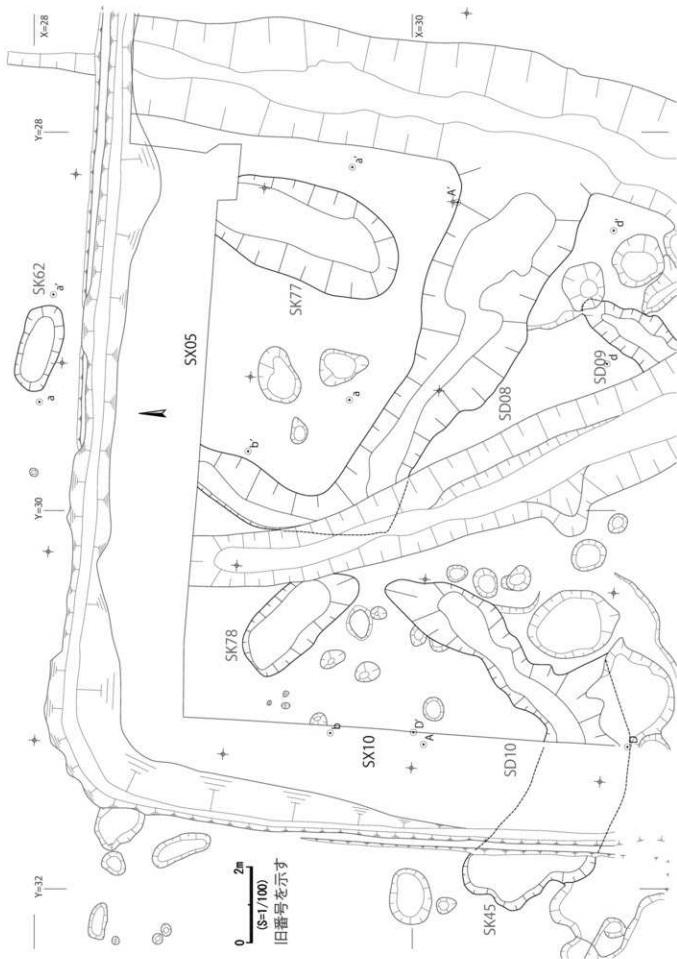
第29図 Ⅱ次・Ⅲ次 SX01,02,03,06 平面図 (1/100)



第30图 Ⅱ次・Ⅲ次SX04,08,09平面图(1/100)

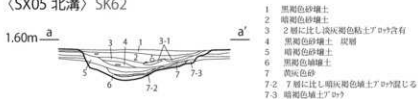


第 31 図 Ⅱ次・Ⅲ次 SX01~04, SX08, 09 断面図 (1/60)



第32図 Ⅱ次・Ⅲ次 SX05,09平面図(1/100)

〈SX05 北溝〉 SK62



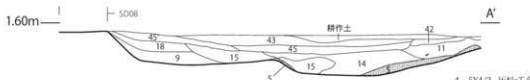
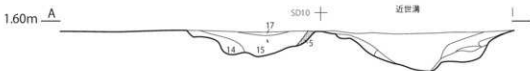
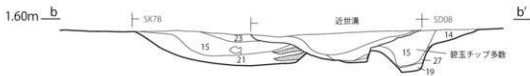
- 1 黒褐色砂壤土
- 2 暗褐色砂壤土
- 3 2層に比し淡灰褐色粘土アロウ含有
- 4 黒褐色砂壤土 炭層
- 5 暗褐色砂壤土
- 6 黒褐色粘壤土
- 7 黄灰色砂
- 7-2 7層に比し暗灰褐色粘土アロウ混じる
- 7-3 暗褐色粘土アロウ

〈SX05 東溝〉 SK77

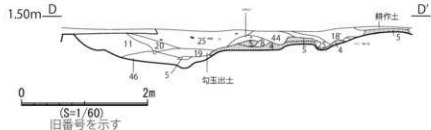


- 1 2.5Y3/1 黒褐色粘壤土 (7.0層)
- 2 5Y2/1 黒色粘壤土
- 3 2.5Y3/2 黒褐色砂壤土
- 4 5Y3/2 粘ア 黒色粘土 (土層含有)
- 5 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土
- 5' 2.5Y3/2 黒褐色砂壤土
- 6 2.5Y3/1 黒褐色粘壤土

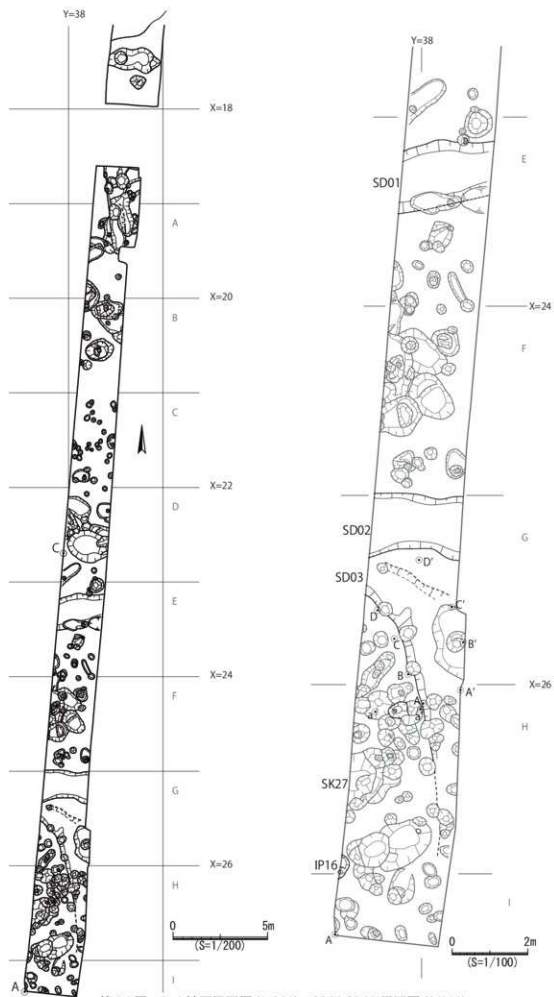
〈SX05 西溝・SX10 北東溝〉 SD08.SK78



〈SX10 南西溝〉 SD10

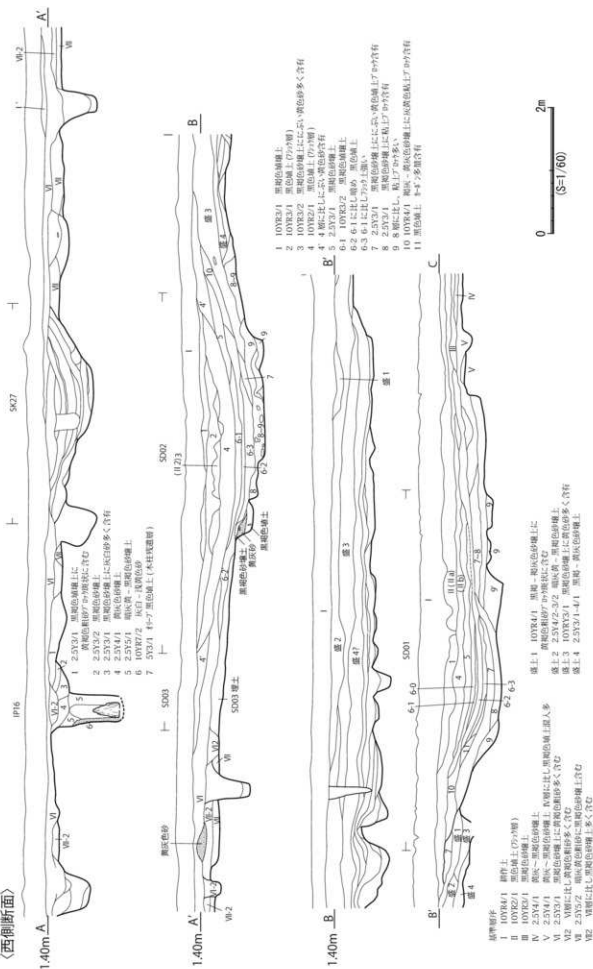


- 4 5Y4/2 灰粘ア 色粗砂
- 5 5Y4/3 暗粘ア 色粗砂
- 9 2.5Y2/1 黒褐色砂壤土
- 11 2.5Y3/2 黒褐色粘壤土 (土層含有)
- 14 2.5Y3/1 黒褐色粘壤土 (7.0層)
- 15 14層に比し粘性少なめ
- 17 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土
- 18 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土
- 18' 18層に比し砂多し
- 19 5Y2/2 粘ア 黒色粘壤土
- 20 2.5Y4/1 暗褐色砂壤土
- 21 10YR1/7 黒色粘土に灰粘ア 色粗砂含有
- 23 10YR2/1 黒色粘壤土
- 25 10YR1/7 黒色粘壤土
- 27 5Y3/1 粘ア 黒色粘土 (土層含有)
- 42 2.5Y3/1 黒褐色粘壤土
- 43 2.5Y2/1 黒色粘土 (土層含有)
- 44 2.5Y3/1 黒褐色粘壤土
- 45 5Y2/1 粘ア 黒色粘壤土 (7.0層)
- 45' 45に比し砂多め
- 46 2.5Y2/1 黒色粘壤土



第 34 图 2·4 地区平面图 (1/200), SD01,SD02 平面图 (1/100)

〈西側断面〉



第 35 図 4 地区 西側断面図 (1/60)

<HP4.5>

1.50m a'

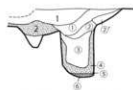


a

- 1 2.5Y4/1-3/1 黄灰 - 黒褐色砂壤土に多い黄色粗砂多含有
- 2 2.5Y3/1 灰-ア 黒色砂壤土、ホ-ド>多含有
- 3 2.5Y-5Y3/1 黒褐-ア-ア 黒色砂壤土(木質層)
- 4 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土、2層に比し粗砂少ない
- 5 黒色土と灰黄色砂、灰色土との互層
- 6 2.5Y4/1 黄灰色砂壤土、暗灰黄砂ア+ホを破状に含む
- 7 10YR3/1-2/1 黒色砂壤土
- 8 5Y5/1-4/1 灰色砂
- 9 5Y4/2-3/2 灰ホ-ア-ア 黒色粗砂
- 10 5-7.5Y4/1 灰色粗砂

<SD03>

1.50m A'

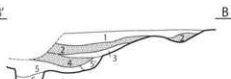


A

- 1 黒色砂壤土に多い黄色粗砂多含有
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色砂 ラミナ形成層
- 3 2.5Y5/3 黄褐色砂に黒色砂壤土がすじ状に含有
- 4 2.5Y4/1 黄灰色砂
- 5 2.5Y3/1 濃黒褐色砂壤土 地山ア+ホ存在
- 6 2.5Y4/1 黄灰色砂壤土

- ① 5Y3/1 灰-ア 黒色砂壤土に多い黄色粗砂少量含有
- ② 5Y4/2 灰ホ-ア 黒色砂壤土
- ③ 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土(木質層)
- ④ 5Y5/1 灰色砂
- ⑤ 2.5Y4/1 黄灰 - 黒灰色粘土(木質層)
- ⑥ 2.5Y4/1 黄灰色砂

1.40m B'



B

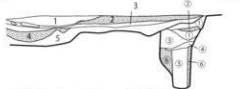
1.30m D'



D

- ① 5Y5/1 灰黄 - 黄灰色砂壤土
- ② 5Y4/2-5/1 灰黄色砂と黄灰色粘土の互層
- ③ ①層に類似
- ④ 5Y5/1 灰黄色砂に灰黄色粘土ア+ホ混じる
- ⑤ 2.5Y2/1 黒色粘土

1.40m C'



C

- ① 5Y5/1 灰色砂壤土にホ-ア 黒色粘土、に多い黄色砂含有
- ② 2.5Y5/2 暗灰黄色砂
- ③ 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土(木質層)
- ④ 5Y5/2 に多い黄 - 灰ホ-ア 色砂にア+ホ混じり
- ⑤ 5Y5/1 灰色砂にホ-ア 黒色粘土ア+ホ存在
- ⑥ 5Y6/2 灰ホ-ア 色砂

0 2m
(S=1/40)



<SD03 土層断面>

第36図 4地区HP4.5,SD03断面図(1/40)

第4節 6・8地区

1. 調査区の概要

6・8地区はいずれも平成8年度に調査実施しており、6地区2,627㎡、8地区は880㎡調査している。調査担当者は日本農業史研究所より派遣委託職員を要請し実施している。いずれも任意のグリッドを設定し、航空図化測量を実施している。

2. 遺構の概要

1) 6地区

調査区は近世以降の用水及び攪乱がみられ大きく削平を受けた調査箇所である。

第38図は、担当者の知見により弥生時代と認識したものと及び出土土器から判断しマーキングした図である。弥生時代に相当する遺構は、Ⅱ次Ⅲ次同様で環濠09付近に方形周溝墓が展開し、Y=38より西側から土坑やピットといった生活域が広がっている様子が伺われる。

検出した遺構は、環濠09、方形周溝墓9基、複数の土坑、平地式建物等がみられる。

環濠09はⅡ次、Ⅲ次調査区である北側と比べ、南下するに従い下底面に砂層が確認される。この状況は8地区も同様で、第39図Cアゼ以南には下底面に砂堆積がみられる。方形周溝墓の關係は、後世に至るまで中層上位は埋まりきっておらず、環濠機能時に増墓が行われている可能性が高く、環濠を利用して展開するものと思われる。方形周溝墓の形状は隅円方形状を呈し、10mを超える大型のもので3隅もしくは4隅に陸橋部をもつものがみられる。いずれの墓からも主体部は発見されておらず、方形周溝墓の時期はSX01からSX08は集落Ⅱ期、SX09は集落Ⅲ期に該当する。

なお、SX08は四隅に溝を持たず、対に2条あるだけであるが、裏形土器に小型裏形土器が入子状でみつまっていることや(第36図)、無頸壺形土器の完形が出土している。以上のことから、供献土器と捉えてSX08とした。また、SX08周囲には円筒形を示す土坑SK62がみられ、土壙墓の可能性が高い。

SX09は生活域との重なりを見せる方形周溝墓である。周溝内からは箱(フォーラム成果報告2遺物図版第27図91)が完形で発見されている。また、良好な土器の出土をみせたSK43は尾張の貝田町式壺形土器(フォーラム成果報告2遺物図版第1図1)が完形に近い形で発見されている。

SI01.02は現地調査の際は判断できなかったが、遺構整理をする際、管玉製玉関連遺物が多く集中する箇所であり、住居としての可能性が検討された。太字で記載した遺構からは、碧玉製工程品、もしくは擦切り具、石針といった工具がみられる遺構である。SI01内P1からはまとめて管玉工程品が発見されている(第49図参照)。本報告では、SK84を中央土坑とした多角柱の建物、SK109を中央土坑とした多角柱の建物と想定し、周囲にめぐる溝を周溝または連結土坑であると捉えられ平地建物として報告するものである。この周囲から発見される土器は集落Ⅱ期を中心としⅢ期にまたがるため、今後とも遺物との検証が必要とされる箇所である。

なお、SI01と重なるSK108は貯木土坑であり、集落Ⅱ期、八日市地方遺跡6期に該当し、SI01との関係が気になる土坑でもある。

2) 8地区

6地区よりさらに中世の攪乱を受けており、弥生時代の遺構は深いもののみ検出された状況である。

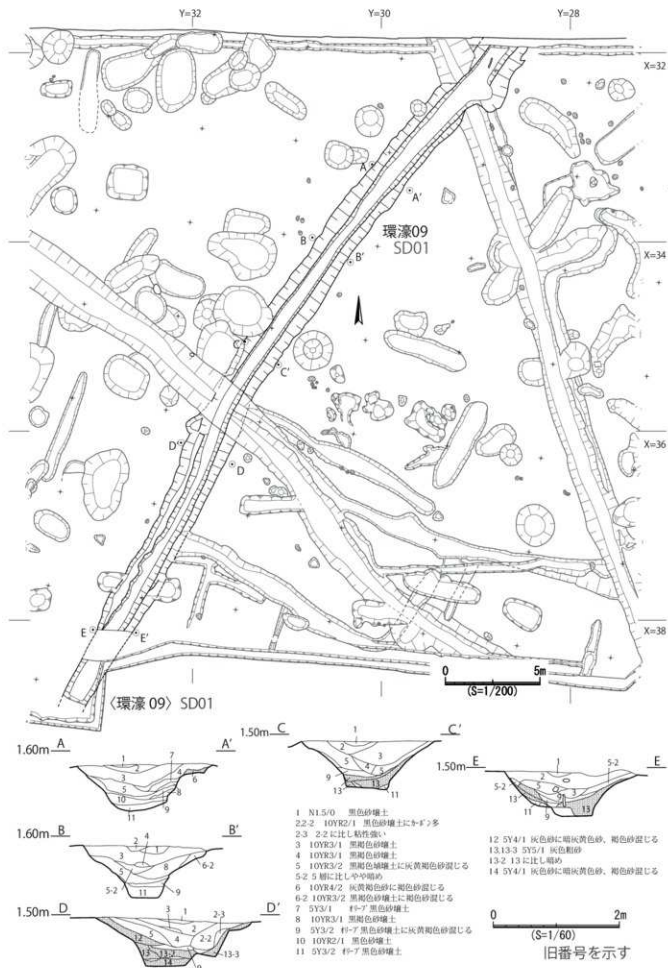
検出した遺構は、環濠09、方形周溝墓1基、溝1条、数基の土坑と柱群である。SX01は集落Ⅲ期併行であり、YD11は方形周溝墓の可能性があげられ、集落Ⅱ期に該当する。また、SB01、02は、残された記録の中では、いずれも弥生時代の遺構であるが、環濠との前後差は判断できない。



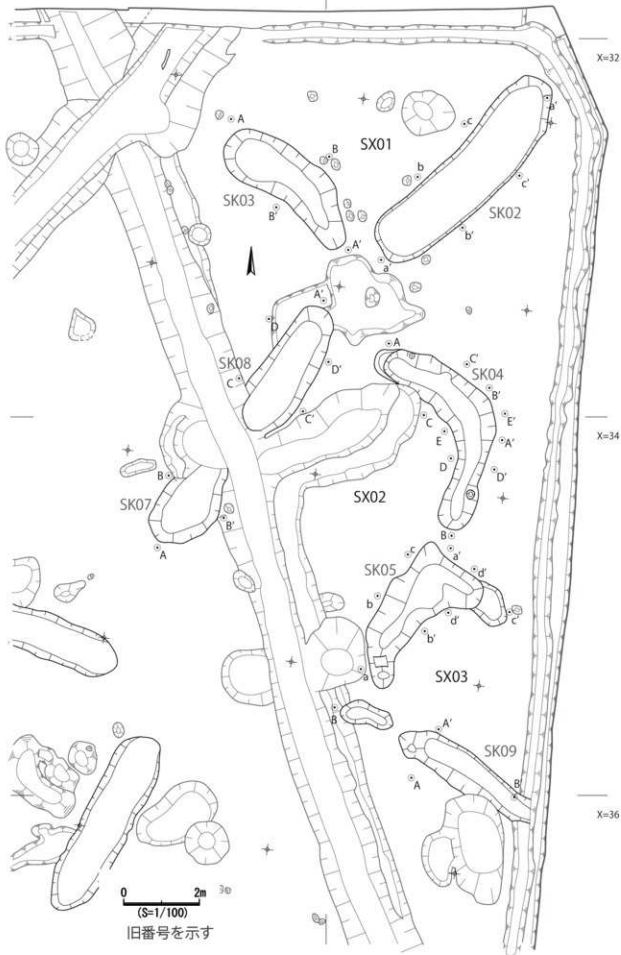
第 37 图 6 地区全体图(1/300)



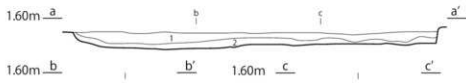
第38图 6地区弥生时代遺構抽出図(1/300)



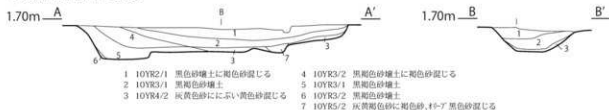
第39図 6地区環濠09平面図(1/200),断面図(1/60)



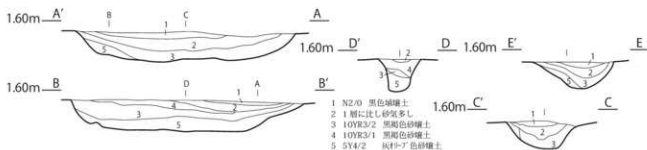
第40図 6地区 SX01,02,03 平面図 (1/100)



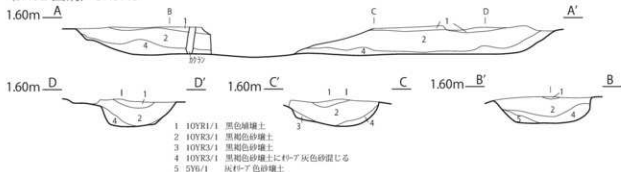
〈SX01 南西溝〉SK03



〈SX02 北東溝〉SK04



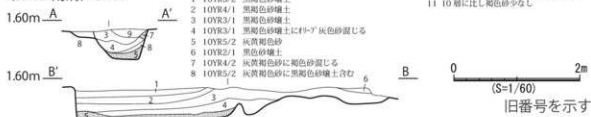
〈SX02 西溝〉SK07.8



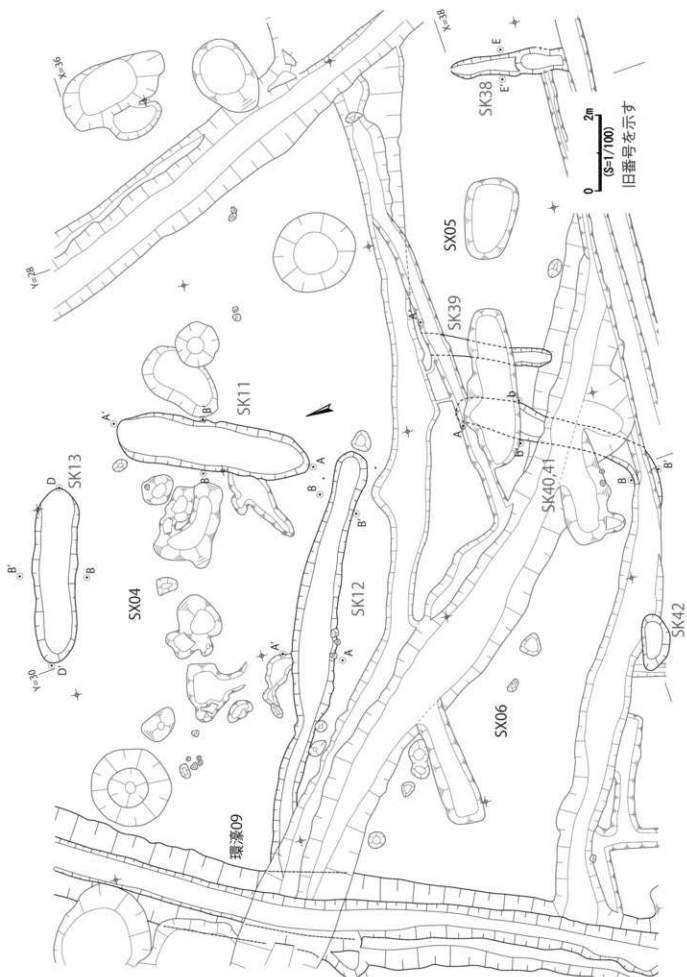
〈SX03 北西溝〉SK05



〈SX03 南溝〉SK09

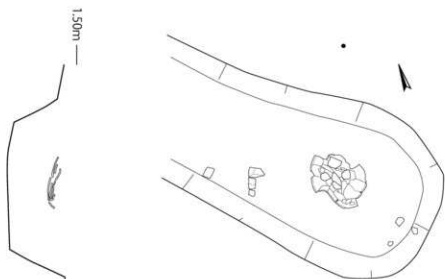


第41図 6地区 SX01,02,03 断面図(1/60)



第42図 6地区SX04,05,06平面図(1/100)

〈SX04 南溝〉SK12
土器検出状況



〈SX04 北溝〉SK13



- 1 10YR3/1 黒褐色埴壇土
- 2 2.5Y1.7/1 黒色埴壇土
- 3 10YR3/2 黒褐色砂壇土に灰黄-'色砂混じる
- 4 10YR4/2 暗灰黄色砂壇土 3層と類似



0 40cm
(S=1/20)

〈SX04 東溝〉SK11



- 1 10YR3/1 黒褐色埴壇土
- 2 10YR5/2 灰黄色砂壇土に褐色砂混じる
- 3 10YR3/2 黒褐色砂壇土



〈SX04 南溝〉SK12



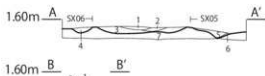
- 1 10YR3/1 黒褐色埴壇土に褐色砂混じる
- 2 10YR3/2 黒褐色砂
- 3 10YR2/1 黒色砂壇土
- 4 10YR4/2 灰黄色色砂

〈SX05 東溝〉SK38



- 1 10YR2/1 黒色砂壇土
- 2 10YR3/2 黒褐色砂壇土
- 3 10YR4/2 灰黄色色砂に褐色砂混じる
- 4 2.5Y4/1 灰黄色色砂壇土

〈SX06 東溝〉SK40.41



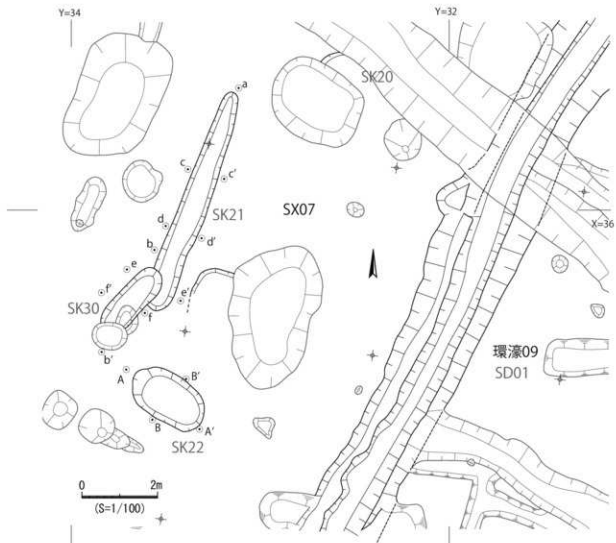
- 1 10YR3/2 黒褐色砂壇土
- 2 N2/0 黒色砂壇土
- 3 10YR2/1 黒褐色砂壇土
- 4 N2/0 黒色砂壇土に黒褐色砂壇土混じる
- 5 10YR3/2 黒褐色砂壇土
- 6 2.5Y3/1 黒褐色埴壇土
- 7 10YR5/2 灰黄色色砂

0 2m
(S=1/60)

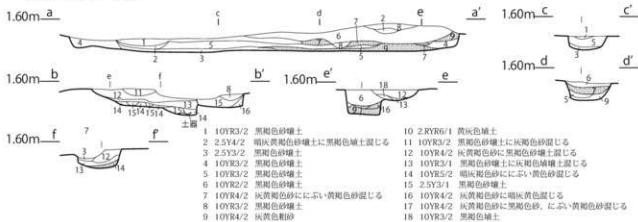
- 1 10YR2/1 黒褐色砂壇土
- 2 10YR3/2 黒褐色砂壇土に灰黄色色砂まじる
- 3 10YR3/1 黒褐色埴壇土に灰黄色色砂まじる

旧番号を示す

第 43 図 6 地区 SX04 土器検出状況図 (1/20) SX04,05,06 断面図 (1/60)



〈SX07 西溝〉SK21

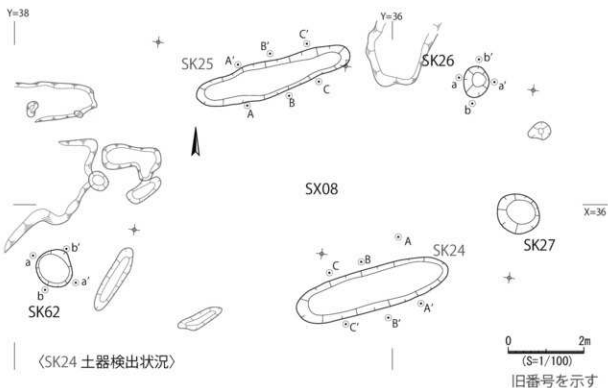


SK22

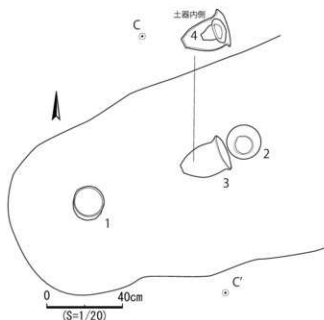


第44図 6地区SX07平面図(1/100), 断面図(1/60)

旧番号を示す



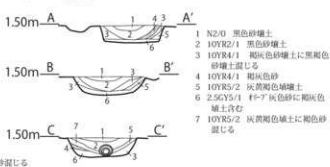
〈SK24 土器検出状況〉



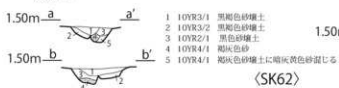
〈SX08 北溝〉 SK25



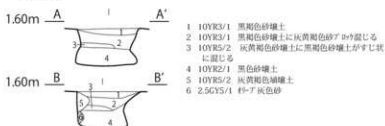
〈SX08 南溝〉 SK24



〈SK26〉

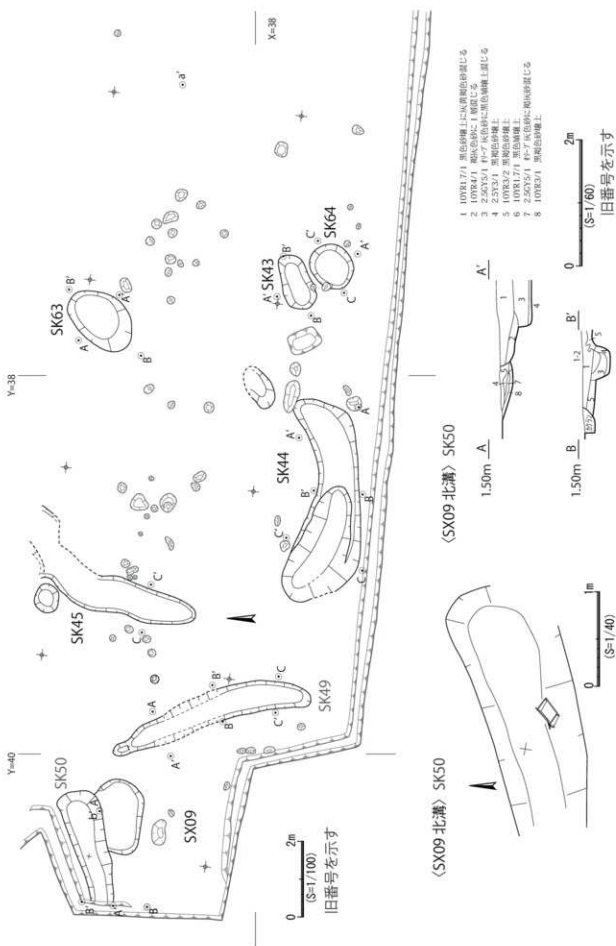


〈SK62〉



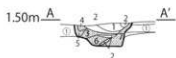
0 2m
(S=1/60)
旧番号を示す

第 45 図 6 地区 SX08 平面図 (1/100), 断面図 (1/60), SX08 土器検出状況図 (1/20)

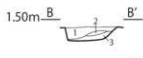


第46図 6地区SX09他平面図(1/100),断面図(1/60),SX09箱検出状況図(1/40)

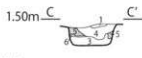
〈SX09 東溝〉SK49



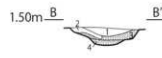
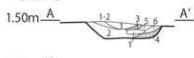
- 1 10YR3/2 黒褐色砂礫土
- 2 10YR2/1 黒色砂礫土
- 3 2.5G5/1 砂-7 灰色砂に褐色砂、にぶい黄褐色砂混じる
- 4 10YR4/2 灰黄褐色砂
- 5 10YR4/1 褐色砂礫土
- 6 10YR4/1 褐色砂礫土に砂-7 灰色砂を含む
- 7 2.5G5/1 砂-7 砂に褐色砂礫土混じる
- ① 地山 灰黄褐色粗砂 ①の上層は黄灰色土



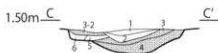
- 1 10YR1.7/1 黒色埴壇土
- 2 2.5V4/1 黄灰色埴壇土
- 3 10YR3/2 黒褐色砂礫土
- 4 10YR4/1 褐色砂礫土に灰砂-7 色砂混じる
- 5 10YR5/1 褐色砂 - 灰黄褐色砂
- 6 10YR1.7/1 黒色埴壇土



〈SK44〉



- 1 10YR1.7/1 黒色埴壇土に灰黄褐色砂混じる
- 1-2 10YR3/2 黒褐色砂礫土
- 2 10YR4/1 褐色砂礫土
- 3 2.5Y/1 黄灰色粗砂
- 3-2 10YR4/2 灰黄褐色粗砂
- 4 3期に比し暗め
- 5 10YR3/2 黒褐色砂礫土
- 6 10YR4/1 褐色砂礫土



〈SK45〉



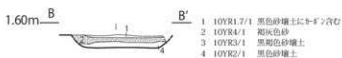
- 1 10YR2/1 黒色砂礫土
- 2 10YR3/1 黒褐色砂礫土
- 3 2.5G5/1 砂-7 灰色砂 - 灰黄褐色砂
- 4 10YR4/1 褐色砂礫土
- 5 2.5G5/1 砂-7 灰色砂 - 褐色砂
- 6 10YR1.7/1 黒色埴壇土

〈SK63〉



- 1 10YR1.5/1 黒色砂礫土
- 2 10YR3/1 黒褐色砂礫土
- 3 10YR3/1 黒褐色埴壇土に褐色砂混じる
- 4 10YR6/2 灰黄褐色埴壇土に黒褐色埴壇土混じる
- 5 10YR4/1 褐色砂礫土
- 6 10YR5/1 褐色砂礫土
- 7 2.5G5/1 砂-7 灰色砂
- 8 7.5YR3/2 黒褐色砂礫土
- 9 7.5YR3/2 黒褐色埴壇土

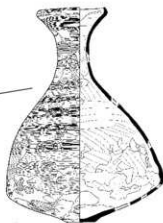
〈SK43.64〉



- 1 10YR1.7/1 黒色砂礫土に砂-7 含む
- 2 10YR4/1 褐色砂
- 3 10YR3/1 黒褐色砂礫土
- 4 10YR2/1 黒色砂礫土



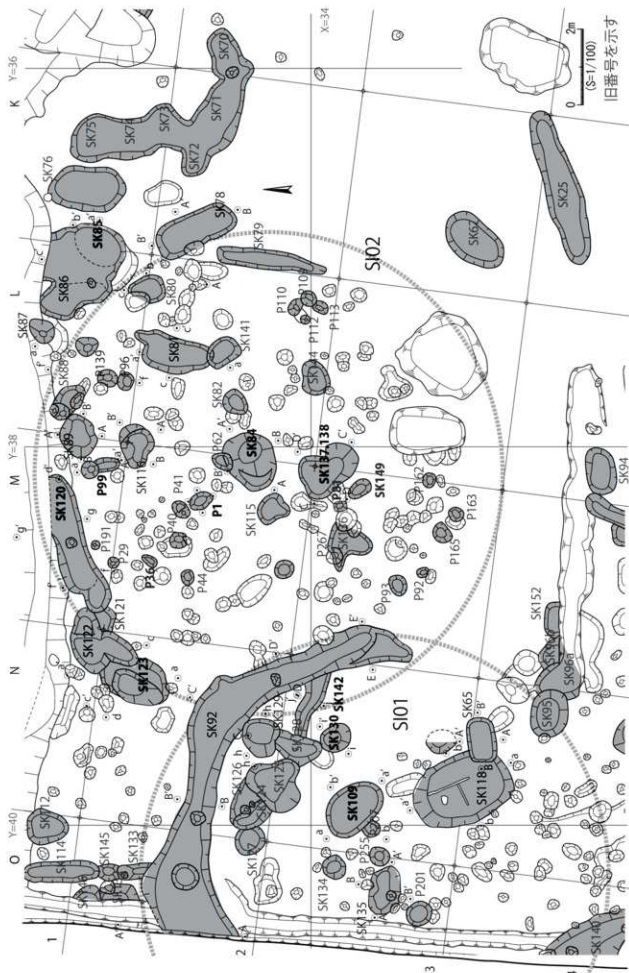
SK43 遺物検出状況



0 2m
(S=1/60)

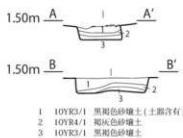
旧番号を示す

第 47 図 6 地区 SX09 他 断面図 (1/60)



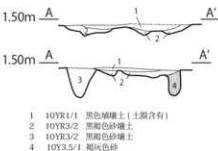
第 48 図 6 地区 S101,02 平面図 (1/100)

SI01内〈SK65〉



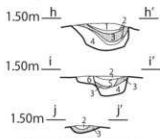
- 1 10YR3/1 黒褐色砂礫土(土層含有)
- 2 10YR4/1 赭灰色砂礫土
- 3 10YR3/1 黒褐色砂礫土

SI01内〈SK135〉



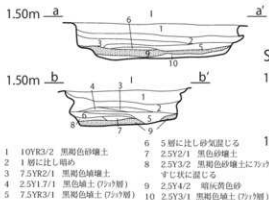
- 1 10YR1/1 黒色礫土(土層含有)
- 2 10YR3/2 黒褐色砂礫土
- 3 10YR3/2 黒褐色砂礫土
- 4 10Y3.5/1 赭灰色砂

SI01内〈SK129.SK130.SK142〉



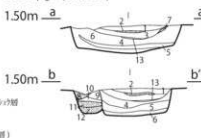
- 1 10YR3/1 黒褐色砂礫土(土層含有)
- 2 10YR3/1 黒褐色礫土
- 3 10YR4/2 灰褐色色砂
- 4 10YR5/2 灰黄色礫土
- 5 10YR3/2 黒褐色砂礫土に灰黄褐色礫土を含む
- 6 10YR3/2 黒褐色砂礫土

SI01内〈SK118〉



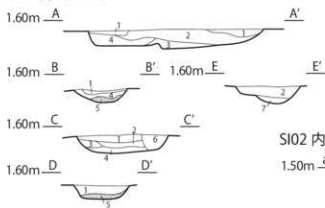
- 1 10YR3/2 黒褐色砂礫土
- 2 1層に比し暗め
- 3 7.5YR2/1 黒褐色礫土
- 4 2.5Y1.7/1 黒色礫土(7.5Y層)
- 5 7.5YR3/1 黒褐色礫土(7.5Y層)
- 6 5層に比し砂気混じる
- 7 2.5Y2/1 黒色砂礫土
- 8 2.5Y3/2 黒褐色砂礫土に方角層
- 9 2.5Y4/2 暗灰黄色砂
- 10 2.5Y3/1 黒褐色礫土(7.5Y層)

SI01内〈SK109〉



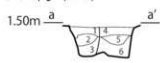
- 1 10YR2/1 黒色砂礫土
- 2 10YR4/2 灰褐色色砂
- 3 10YR3/1 黒褐色砂礫土
- 4 2.5Y3/1 黒褐色砂礫土に相灰色砂が7.7層に混じる
- 5 枠-7 黒色礫土に炭化物層含有
- 6 10YR3/1 黒褐色砂礫土
- 7 2.5Y4/2 灰褐色色砂
- 8 10YR4/2 暗灰黄色砂
- 9 10YR5/2 暗灰黄色礫土
- 10 10YR5/2 黒褐色礫土に暗灰黄色混じる
- 11 10YR4/1 暗灰色砂
- 12 5Y4/1 灰色砂
- 13 炭化物層

SI01内〈SK92〉



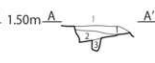
- 1 N2/0 黒色砂礫土
- 2 N1.5/0 黒色礫土
- 3 10YR3/2 黒褐色砂礫土
- 4 10YR4/1 暗灰色砂礫土に黒褐色礫土を含む
- 5 10YR5/2 暗褐色色砂
- 6 N1.5/0 黒色礫土
- 7 10YR4/1 暗灰色砂礫土

SI02内〈P99〉



- 1 10YR3/2 黒褐色砂礫土
- 2 10YR3/1 黒褐色砂礫土
- 3 10YR4/2 灰黄色砂に暗灰色礫土を含む
- 4 10YR4/1 暗褐色色砂礫土
- 5 10YR5/2 暗褐色色砂礫土
- 6 10YR4/1 暗褐色色砂礫土

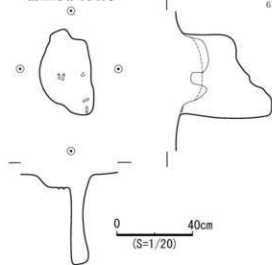
SI02内〈SK89〉



- 1 10YR5/2 灰黄色礫土
- 2 10YR3/1 黒褐色礫土
- 3 5Y3/1 枠-7 黒色礫土(7.5Y層)

SI02内〈P1〉

管玉検出状況



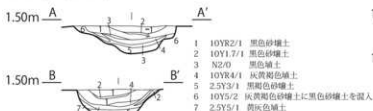
SI02内〈SK137.138〉



- 1 10YR2/1 黒褐色礫土
- 2 10YR3/1 黒褐色礫土に灰黄色礫土混じる
- 3 5Y3/1 枠-7 黒色礫土(7.5Y層)
- 4 10YR2/2 黒褐色砂礫土
- 5 10YR3/1 黒褐色砂礫土
- 6 10YR3/1 黒褐色砂礫土
- 7 10YR4/1 暗灰色砂

第49図 6地区SI01,02断面図(1/60),SI01内P1検出状況(1/20)

SI02内 (SK84)



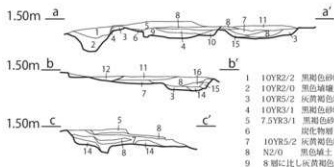
- 1 10YR2/1 黒色砂礫土
- 2 10Y1.7/1 黒色砂礫土
- 3 N2/0 黒色礫土
- 4 10YR4/1 灰黄褐色礫土
- 5 2.5Y3/1 黒褐色砂礫土
- 6 10Y5/2 灰黄褐色砂礫土に黒色砂礫土を混入
- 7 2.5Y5/1 黄灰色礫土

SI02内 (SK78)



- 1 10YR3/1 黒褐色砂礫土
- 2 10Y2/1 黒色砂礫土
- 3 10YR4/1 暗灰色砂礫土に黒褐色礫土を混入
- 4 10YR3/1 黒褐色砂礫土
- 5 10YR3/1 黒褐色砂礫土に暗黄褐色礫土を混入

SI02内 (SK85 他)

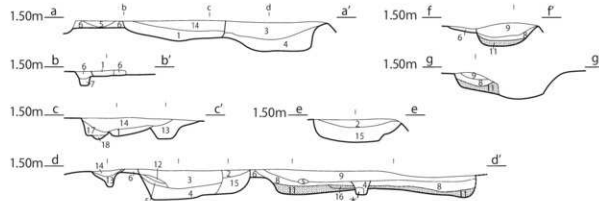


- 1 10YR2/2 黒褐色砂礫土に灰黄褐色礫土を混入
- 2 10YR2/0 黒色礫土
- 3 10YR2/0 灰黄褐色礫土
- 4 10YR3/1 黒褐色砂礫土
- 5 7.5YR3/1 黒褐色砂礫土
- 6 炭化物層
- 7 10YR5/2 灰黄褐色礫土に暗灰色礫土を含む
- 8 N2/0 黒色礫土
- 9 8層に比し灰黄褐色礫土がレンズ状に入る



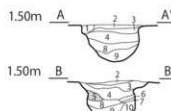
- 10 10YR5/2 灰黄褐色礫土
- 11 10YR2/2 黒褐色砂礫土
- 12 11層に比し砂気多し
- 13 10YR3/1 黒褐色砂礫土
- 15 10YR3/1 黒褐色砂礫土
- 16 10YR5/2 灰黄褐色礫土に黒褐色礫土
- 17 10YR4/1 暗灰色礫土
- 18 10YR3/1 黒褐色礫土
- 19 10YR5/1 灰黄褐色礫土に暗灰色礫土を含む

SI02内 (SK120 他)



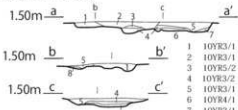
- 1 10YR3/1 黒褐色砂礫土に灰黄褐色礫土を含む
- 2 10YR4/1 暗灰色砂礫土
- 3 10YR2/2 黒褐色砂礫土
- 4 10YR3/2 黒褐色礫土 (7.5Y3/1層)
- 5 10YR3/2 灰黄褐色礫土 (7.5Y3/1層)
- 6 10YR3/2 黒褐色砂礫土
- 7 10YR3/1 黒褐色砂礫土
- 8 10YR2/1 黒褐色砂礫土に灰黄褐色礫土を含む
- 9 8層に比し灰黄褐色礫土が少なめ
- 10 2.5CY5/1 砂-ア 灰色砂
- 11 2.5Y4/1 灰褐色砂礫土
- 12 10YR2/1 黒褐色礫土
- 13 10YR3/1 黒褐色砂礫土
- 14 10YR3/1 黒褐色砂礫土
- 15 10YR3/1 黒褐色礫土
- 16 10YR4/2 灰黄褐色砂礫土
- 17 10YR4/1 暗灰色礫土に黒色礫土を含む
- 18 10YR3/1 黒褐色礫土に灰黄褐色砂礫土を含む

SI02内 (SK116)

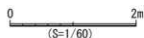


- 1 10YR3/1 黒褐色砂礫土
- 2 10YR2/3 黒褐色砂礫土
- 3 2層に比し暗灰黄褐色砂7.5Y3/1を含む
- 4 10YR2/2 黒褐色礫土 7.5Y3/1層を含む
- 5 10YR4/2 灰黄褐色砂
- 6 10YR2/2 黒褐色礫土
- 7 6層に比し狭い
- 8 10YR2/1 黒褐色礫土
- 9 10YR3/1 黒褐色砂礫土
- 10 9層に比し暗灰黄褐色砂混入

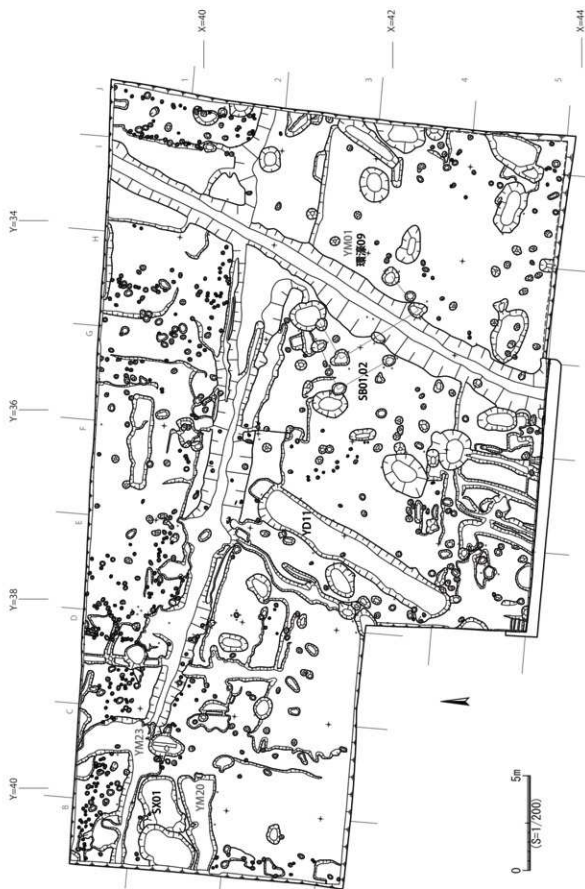
SI02内 (SK81)



- 1 10YR3/1 黒褐色砂礫土
- 2 10YR3/1 黒褐色砂礫土
- 3 10YR5/2 灰黄褐色礫土
- 4 10YR3/2 黒褐色砂礫土
- 5 10YR3/1 黒褐色砂礫土に灰黄褐色礫土を含む
- 6 10YR4/1 暗灰色礫土
- 7 10YR3/1 黒褐色礫土
- 8 10YR5/2 灰黄褐色礫土に暗灰色礫土を含む



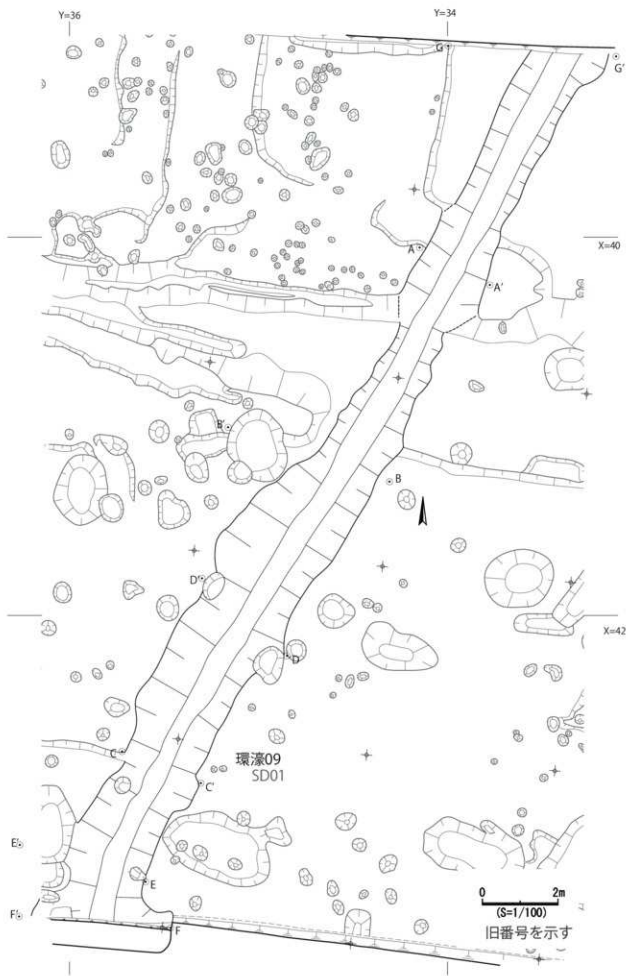
第50図 6地区 SI02 断面図 (1/60)



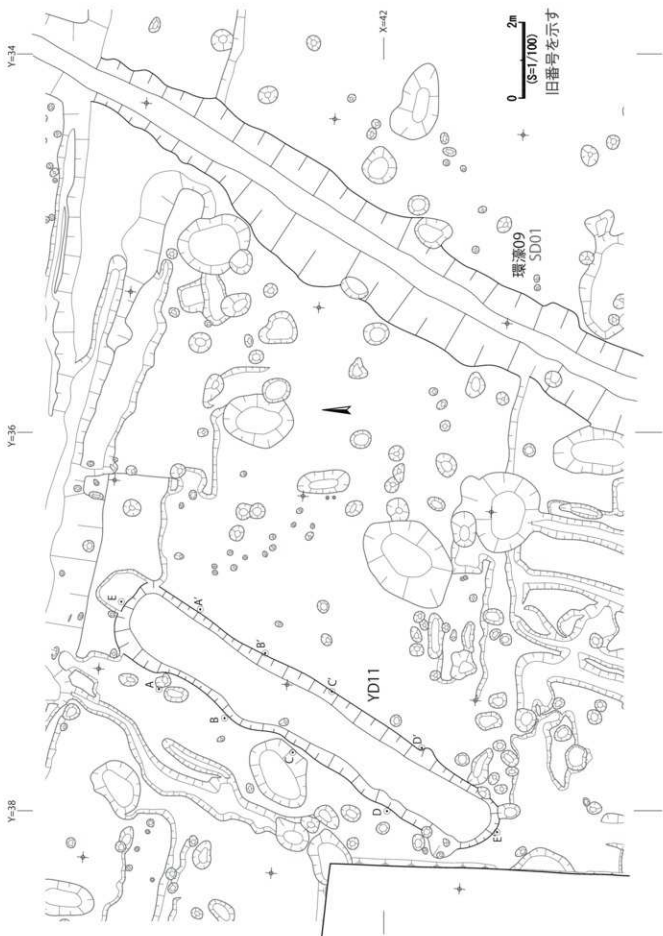
第 51 图 8 地区 全体图 (1/200)



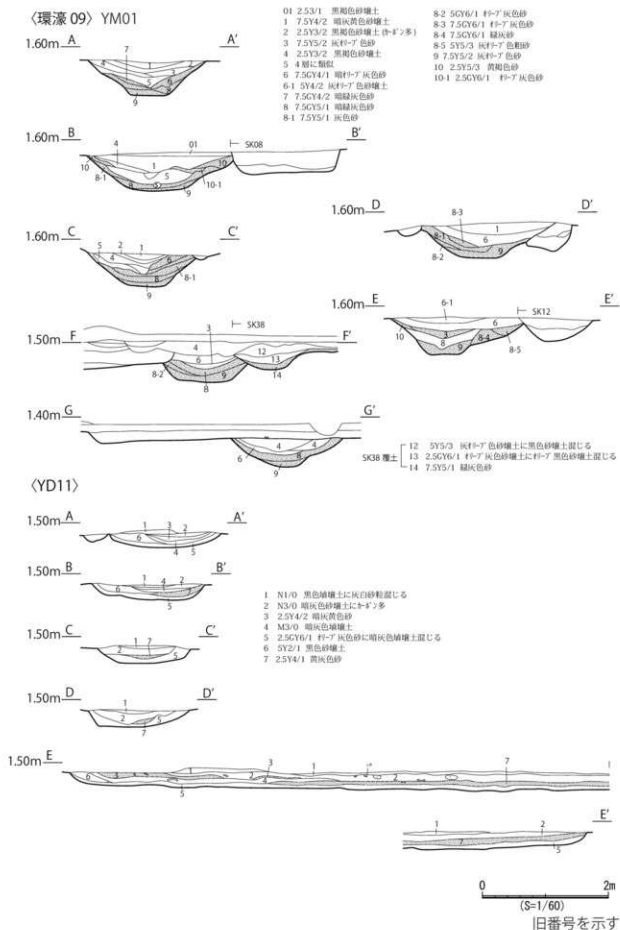
第 52 图 8 地区 弥生时代遺構抽出図 (1/200)



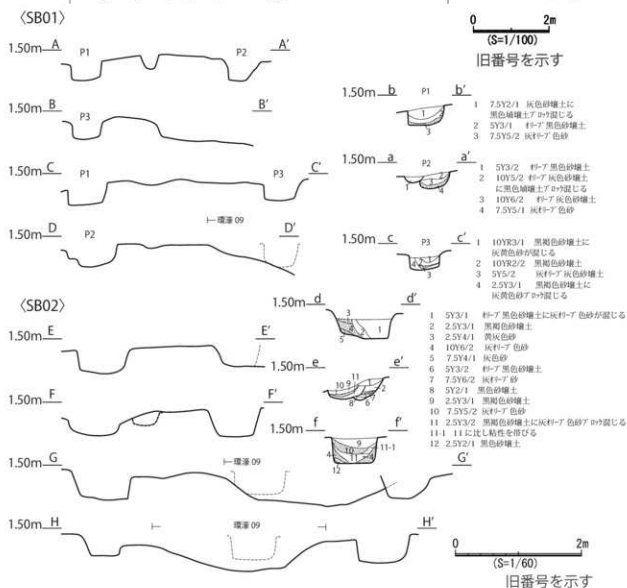
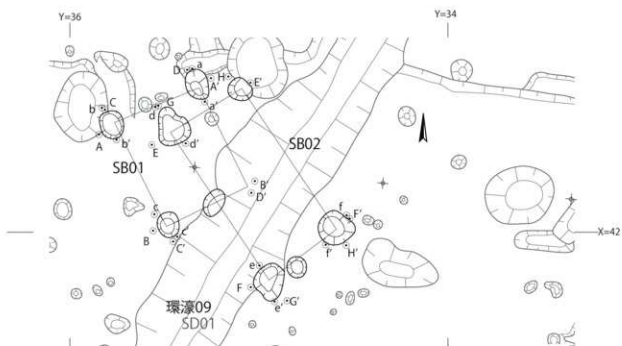
第53図 8地区環濠09平面図(1/100)



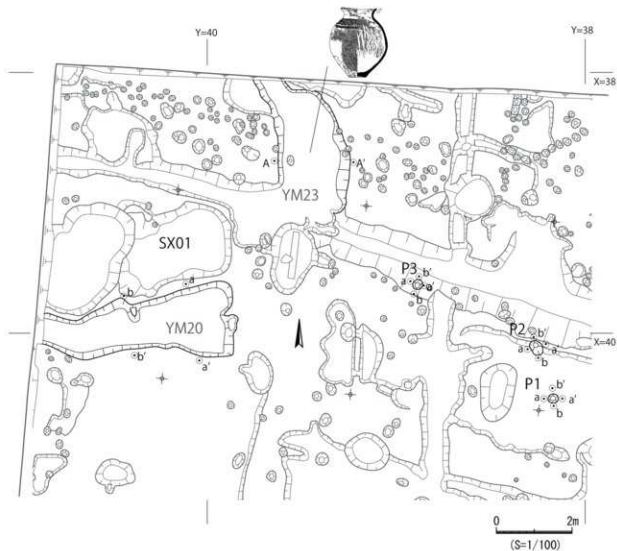
第54図 8地区 YD11他平面図(1/100)



第55図 8地区環濠09,YD11断面図(1/60)



第 56 図 8 地区 SB01,02 平面図 (1/100), 断面図 (1/60)

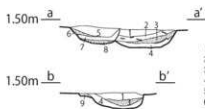


〈SX01〉YM23

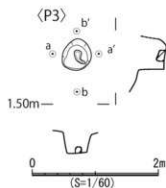
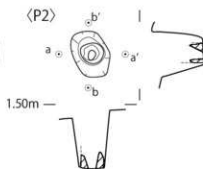
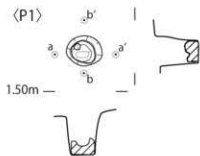


- 1 N2/1 黒色砂壤土
- 2 2.5Y/2 暗灰黄色砂
- 3 5Y3/1 砂-子 黒色砂壤土
- 4 7.5Y2/1 黒色砂壤土に粗砂混じる
- 5 7.5Y4/1 灰黄色砂
- 6 2.5Y5/3 黄褐色砂
- 7 2.5Y5/1 黄褐色砂
- 8 5Y3/1 砂-子 黒色壤土に灰色砂混じる
- 9 5Y4/1 灰黄色砂

〈SX01〉YM20



- 1 N1/0 黒色砂壤土
- 2 5Y3/1 砂-子 黒色砂壤土
- 3 7.5Y6/1 灰白色砂に黄褐色粗砂混じる
- 4 10BG6/1 青灰色砂に砂-子 黒色壤土混じる
- 5 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土に粗砂混じる
- 6 2.5Y4/1 黄褐色砂
- 7 2.5Y4/1 黒褐色砂壤土に灰白色粗砂混じる
- 8 10YR4/1 灰白色粗砂
- 9 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土に灰白色粗砂混じる



旧番号を示す

第 57 図 8 地区 SX01 他平面図 (1/100), 断面図 (1/60)

第5節 18・20地区

1. 調査区の概要

18地区は平成9年度に2,080㎡を調査実施しており、20地区は平成12年度、調査最終年に2,350㎡を対象に調査実施している。いずれも国土座標を利用した統一グリッドを設定し、手実測による平面図化作成を行っている。

なお、本節では平成8年度に15地区として160㎡を対象とし調査実施した箇所があり、15地区報告箇所より20地区北側に隣接することから、合わせて報告する。

2. 遺構の概要

1) 18地区

調査区は細く伸びる調査箇所に合わせ攪乱を受けており、SX07は途切れた状態での発見となっている。環濠08以南は墓域のみの空間であり、相対的に土器の出土も少ない。

検出した主な遺構は、環濠08、方形周溝墓12基、複数の土坑、掘立柱建物3棟がみられる。

環濠08は、環濠09に類似した堆積層であり、中層から出土する土器も八日市地方8期と同様である。後世に至るまで中層上位は埋まりきっておらず、環濠機能時に造墓が行われている可能性が高く、環濠を利用して展開するものと思われる。方形周溝墓の形状は隅円方形または長方形を呈し、16mを超える大型のSX07は2隅もしくは3隅の陸橋部をもつと考えられる。唯一、SX01からは主体部痕跡が発見されている(第60図)。木棺痕跡から小口・側板とも掘り込み組合せ木棺である。北側隅には、石が1点見つかっており、木棺の調整のためであろうか。

方形周溝墓の時期はSX07は6～7期ともっとも古く、SX01、02、06、09は7期に該当する。これらを切る形で造墓するSX03、08は8期に相当する。SX11、12は供献土器は出土していないが、おそらく6期から7期の範疇に収まるものと思われる。総じてSX01～SX12は集落Ⅱ期に該当する。また、SD09、13、14、18は周溝ないし土坑墓と考えられ、SD09からは、8期相当の土器が出土している。

なお、調査区北側は生活域と重なりを示すところからSD03、05等溝が発見されており、方形周溝墓の可能性が考えられる。SD03は集落Ⅲ期の土器が出土している。

掘立柱建物は、1間×1間として現地調査で確認されており、木柱根は残存しない。柱穴から良好な土器の出土がみられないため、詳細な時期比定はできないが、周囲の土坑からは7期～8期の土器が出土していることから、概ね集落Ⅱ期に該当するものと思われる。

2) 20地区

調査区は全体的に耕地整理後の攪乱を受けており、決して良好な状況ではない。出土土器はパンケースで4箱と面積の割りにもっとも少ない調査区でもある。

検出した遺構は、環濠08、方形周溝墓17基、土坑墓7基である。四隅に陸橋部を有するSX14は当調査区で八日市地方6～7期ともっとも古い時期に位置づけられ、同様な時期の供献土器が出土するSX16も同じ形状を有する可能性が高い。SX14は当初、上層である1層相当の黒色埴土のみが埋土であると判断していたが、遺構確認面に断ち割りをいれたところ、類似した崩壊砂が埋まっていることが分かったものである(第71図参照)。最下底面及び上層を除き砂堆積であることがわかり、当調査区のなかでも掘り込みの深い方形周溝墓であることがわかる。

方形周溝墓の時期は、SX14-16は6-7期に該当し、SX07は7期、SX01、04、05、13、17は集落Ⅲ期に該当する。SX06-08、12は集落Ⅲ期の墓に切られるため、概ね集落Ⅱ期と思われる。

SX09、10、11は良好な土器資料に恵まれておらず時期は不明瞭であるが、おそらく集落Ⅱ期の範囲に取まるものと思われる。SX02からは、擾乱を受けながらも唯一木棺が残っていた主体部であり、小口を発見することができた。木棺痕跡から小口・側板とも掘り込まれる組合せ木棺である。また、光谷拓実氏の御好意で2003年度に年輪年代測定を行っている。別冊で報告するものとした。

SX05は15地区と20地区に跨り確認された方形周溝墓である。SX05、08付近は遺構確認面も高く良好に遺構が残存している箇所にあたる。15地区調査区南側で発見されたSK02は、20地区と合成することでちょうどSX05墳丘中央にあたることがわかる(第75図参照)。土層は土坑下底面が平坦且つ掘り方と思われる8層がみられることから、主体部の可能性が高いものとして考えたい。

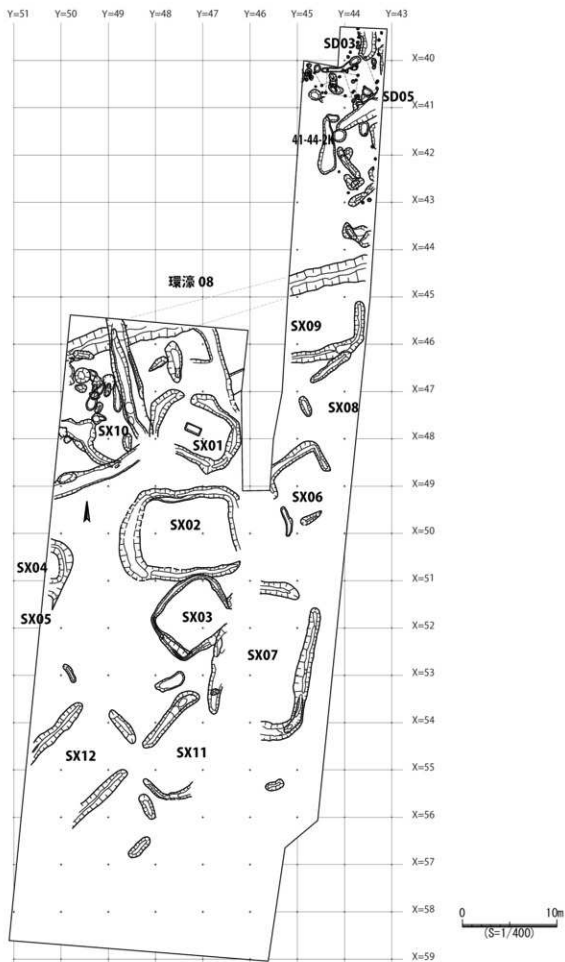
環濠08は、15地区調査区が18地区で確認された環濠08との関係を示す重要な箇所となるが、調査記録の中では狭小な調査範囲であることから不明瞭である。ただ、SX05北溝は南溝より浅く、Cアゼの切り合いからも(第74.75図参照)おそらく本流の流れとしては、20地区を北東から南西へと流れる溝と同一の可能性が高いものとして、本節では報告するものとする。

20地区で確認された環濠08は、集落Ⅱ期相当の墓の溝を連結するよう掘削した溝で、集落Ⅲ期の墓は環濠08を利用した形で造墓を行ったものと考えている。換言すると、集落Ⅱ期(6～7期相当)造墓→環濠08掘削→その形状を利用した集落Ⅲ期相当の増墓となる。図版は、墓ごとの報告に合わせて行っているが、墓に伴わない箇所(第77図dアゼ)は浅く、集落Ⅱ期の墓の掘削を再利用している様子が伺われる。

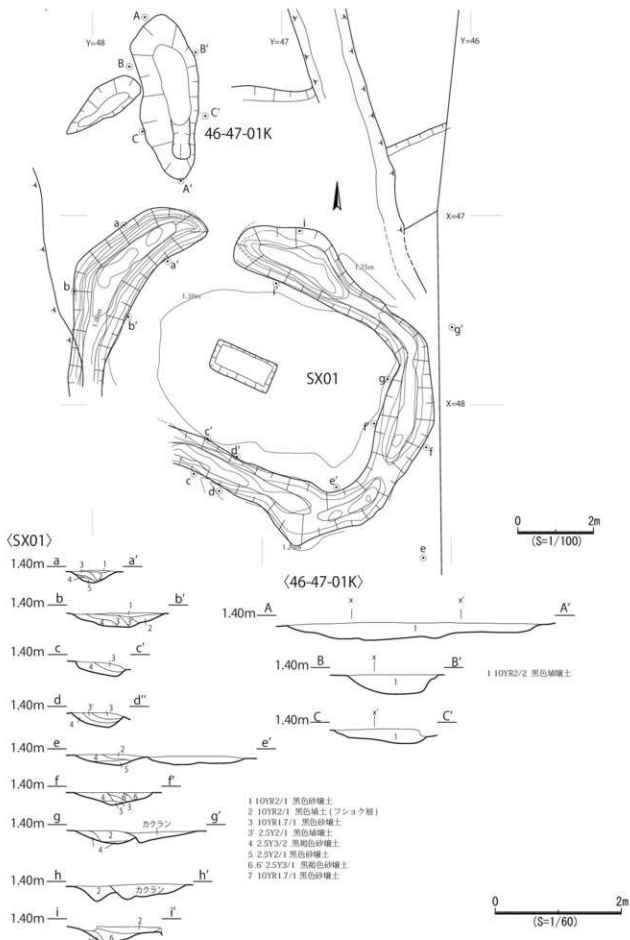
土坑墓と考えられるものは、SK01～07で、SK01、02はSX04付近(第76図参照)、SK03～07はSX01に付随する形でみつがっている。いずれも、土器等遺物の出土ないため、明確な時期比定はできないが、おそらくSX04、SX01と同様の集落Ⅲ期に該当するものと思われる。



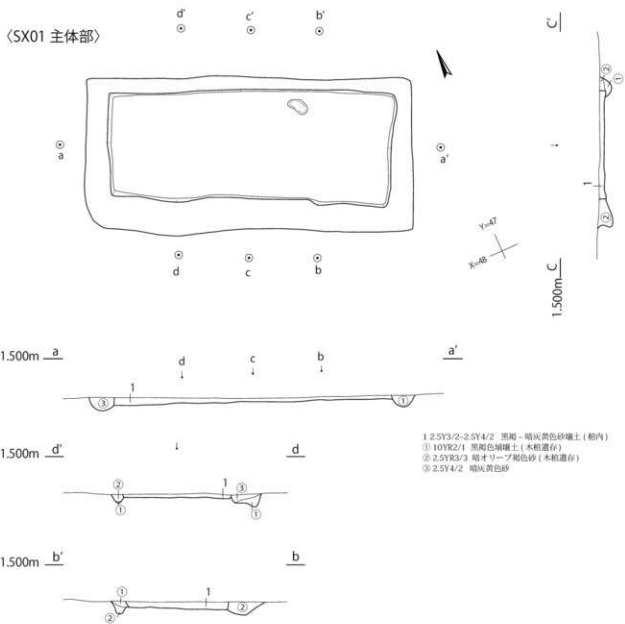
18地区調査区全景(北から)



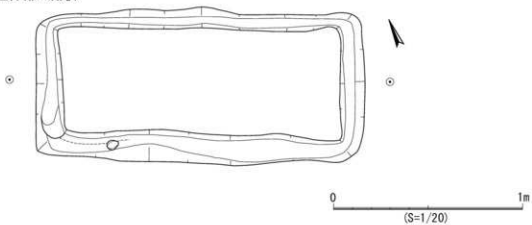
第 58 图 18 地区全体图 (1/400)



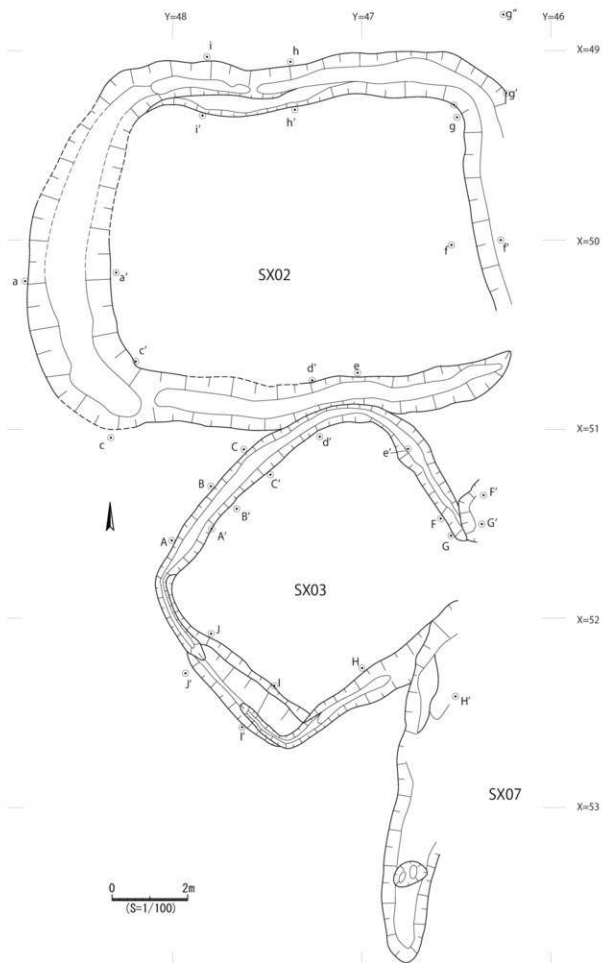
第 59 図 18 地区 SX01 平面図 (1/100), 断面図 (1/60)



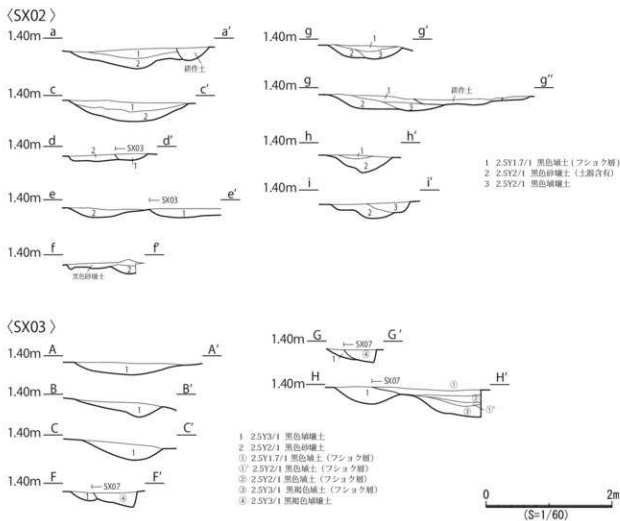
(SX01 主体部 掘方)



第 60 図 18 地区 SX01 主体部平面図及び断面図 (1/20)



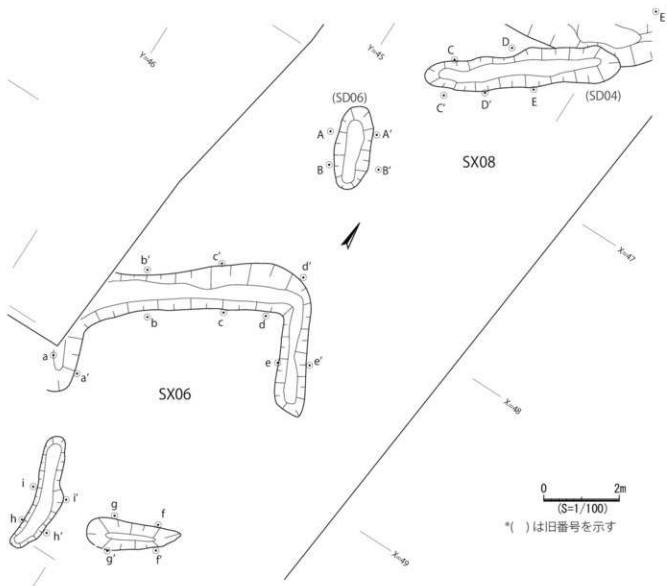
第 61 图 18 地区 SX02,03 平面图 (1/100)



第 62 図 18 地区 SX02,03 断面図 (1/60)



SX03・SX07 西溝を北東から望む



〈SX06〉

1.50m a a'

1.50m b b'

1.50m c c'

1.50m d d'

1.50m e e'

1.50m f f'

1.50m g g'

1.50m h h'

1.50m i i'

- 1 10YR1.7/1 黒色砂礫土 (土器含有)
2 2.5Y3/2 黒褐色砂礫土
3 2.5Y2/1 黒色砂礫土

0 2m
(S=1/60)

〈SX08 西溝〉

1.30m A A'

1.30m B B'

- 1 10YR2/1 黒色砂礫土 (土器含有)
2 2.5Y3/2 黒褐色砂礫土
3 2.5Y2/1 黒色砂礫土

〈SX08 北溝〉

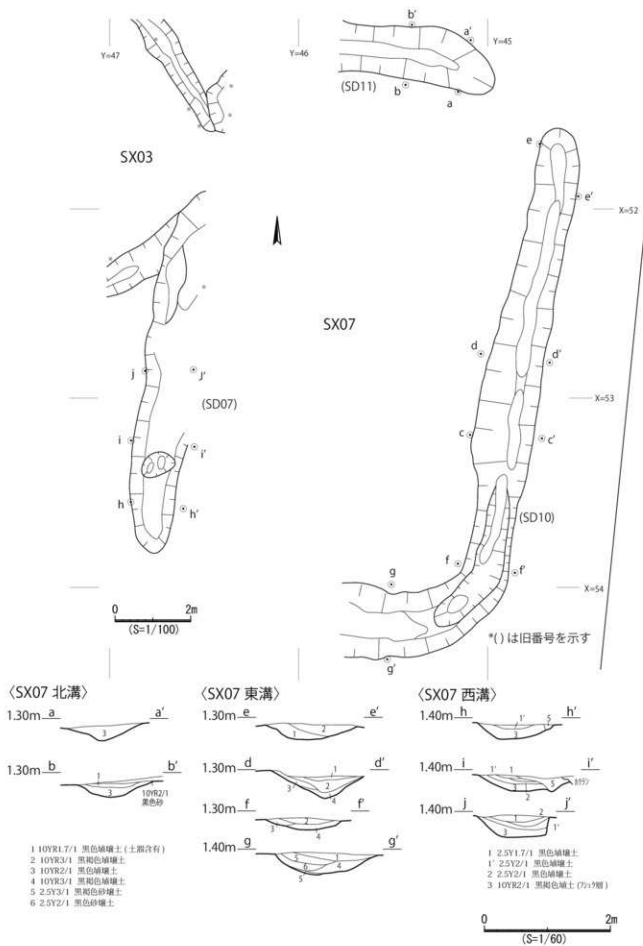
1.50m E' E'

1.50m D D'

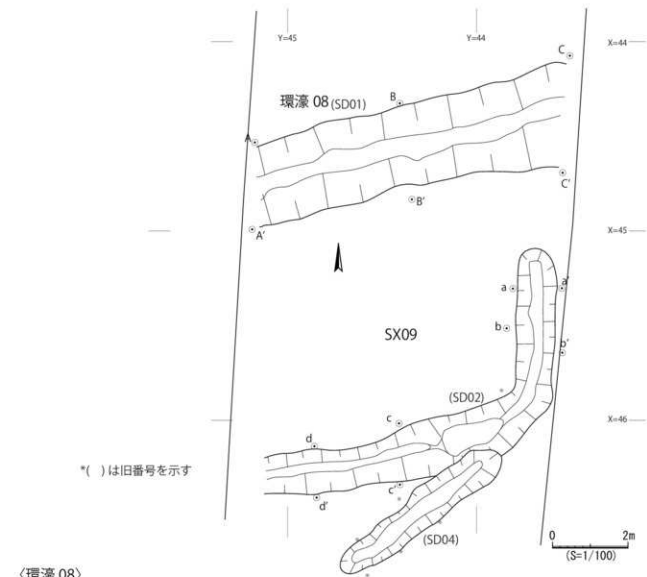
1.50m C C'

- 1 10YR1/1 黒色砂礫土
2 10YR2/1 黒色砂礫土
3 10YR1.7/1 黒色砂礫土
3' 2.5YR3/2 黒褐色砂礫土
6 10YR3/1 黒褐色砂礫土 (土器含有)
7 2.5Y3/1 黒褐色砂礫土
8 2.5Y4/2 暗灰黄色砂
9 2.5YR2/1 黒色砂礫土

第 63 図 18 地区 SX06,08 平面図 (1/100), 断面図 (1/60)

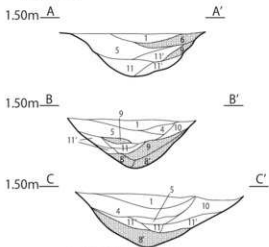


第 64 図 18 地区 SX07 平面図 (1/100), 断面図 (1/60)



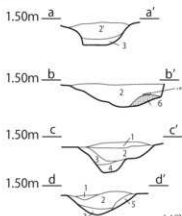
* () は旧番号を示す

〈環濠 08〉

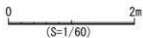


- 1 2.5Y2/1 黒色埴土
- 1' 2.5Y2/1 黒褐色埴土
- 2 2.5Y2.5/1 黒褐色埴土 (フシヨク層)
- 3 2.5Y3/2 黒褐色砂埴土
- 3' 2.5Y3/2 黒褐色砂埴土
- 4 2.5Y3/2 黒褐色砂埴土
- 5 2.5Y3/1 黒褐色砂埴土
- 6 2.5Y3/2-4/1 黒褐色・暗灰黄色砂 (粗砂)
- 8' 2.5Y3/1-4/1 黒褐色・暗灰黄色砂 (粗砂)
- 9 2.5Y4/2 暗灰黄色砂
- 10 2.5Y3/1 黒褐色砂埴土
- 11 2.5Y2/1 黒褐色埴土 (フシヨク層)
- 11' 2.5Y3/1 黒褐色埴土

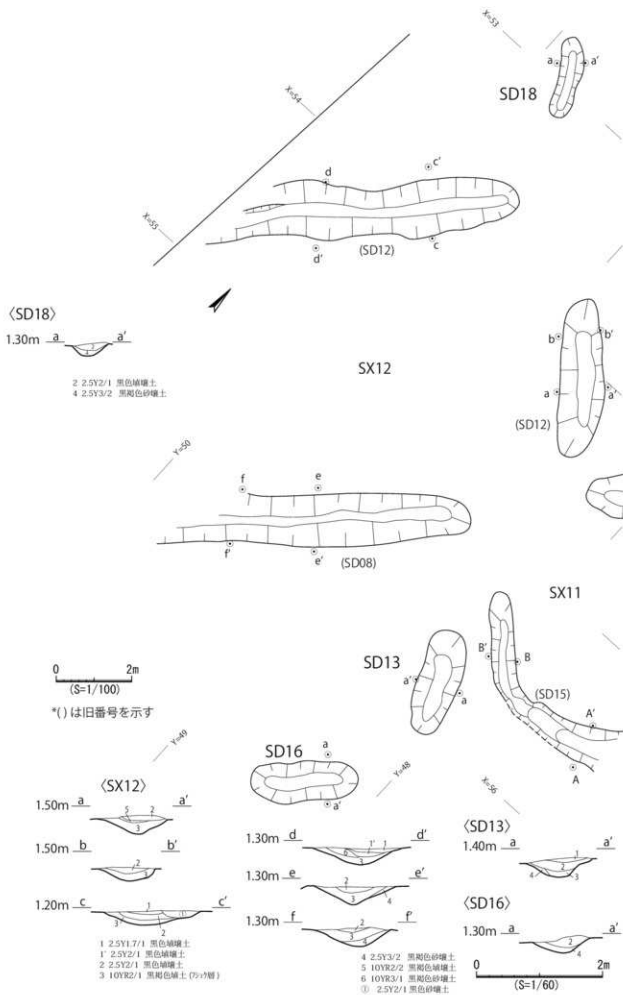
〈SX09〉



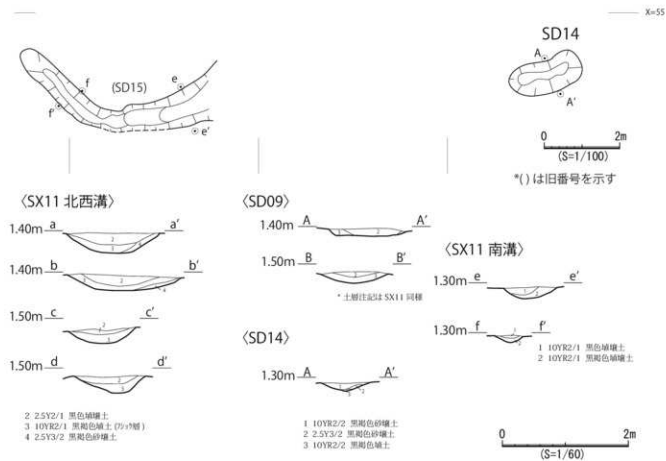
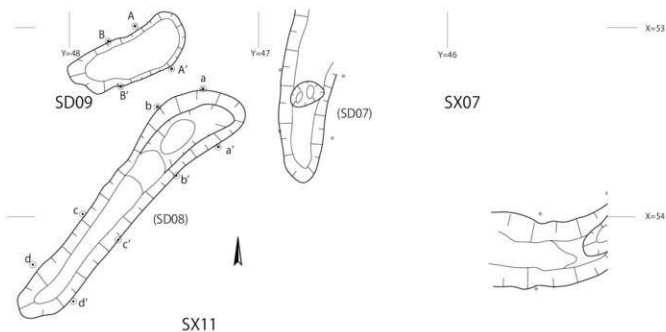
- 1 10YR1/1 黒色砂埴土
- 2 10YR2/1 黒色埴土
- 2' 10YR2/1 黒色埴土 (カーボン含有多)
- 3 10YR1.7/1 黒色埴土
- 4 2.5Y2/1 黒色埴土
- 5 10YR1/1 黒色埴土
- 6 2.5/4/2 暗灰黄色砂



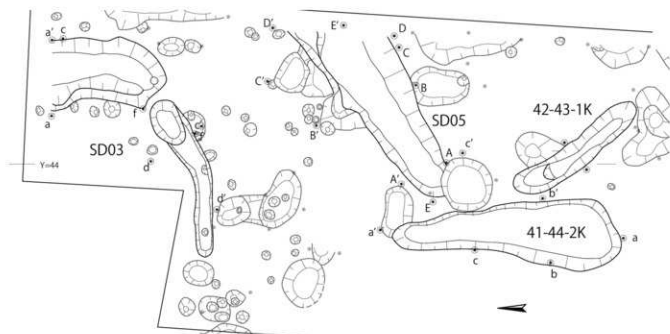
第 65 図 18 地区 環濠 09, SX09 平面図 (1/100), 断面図 (1/60)



第 66 図 18 地区 SX11,12 他平面図 (1/100), 断面図 (1/60)

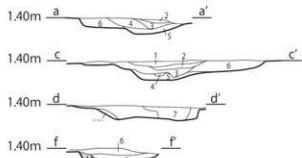


第 67 図 18 地区 SX07,11 他平面図 (1/100), 断面図 (1/60)



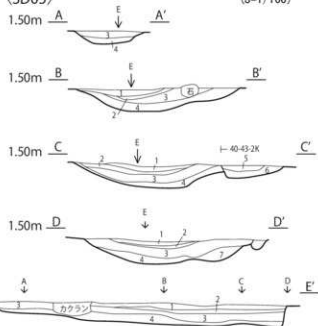
—Y=44

<SD03>



- 1 10YR1/1 黒色埴土 (フシク層)
- 2 10YR1.7/1 黒色埴土
- 3 10YR1/1 黒色砂埴土
- 4 10YR2/1 黒色砂埴土 (土器含有)
- 5 10YR3/1 黒褐色砂埴土 (土器含有)
- 6 10YR3/2 黒褐色砂埴土
- 7 10YR2/1 黒色砂埴土
- 9 10YR1.7/1 黒色埴土
- 10 2.5Y3/2-4/2 暗灰黄色砂
- 11 2.5Y3/1 黒褐色埴土 (土器含有)
- 12 2.5Y2/1 黒色砂埴土 (土器/碧玉含有)

<SD05>

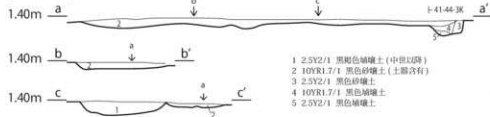


<42-43-1K>



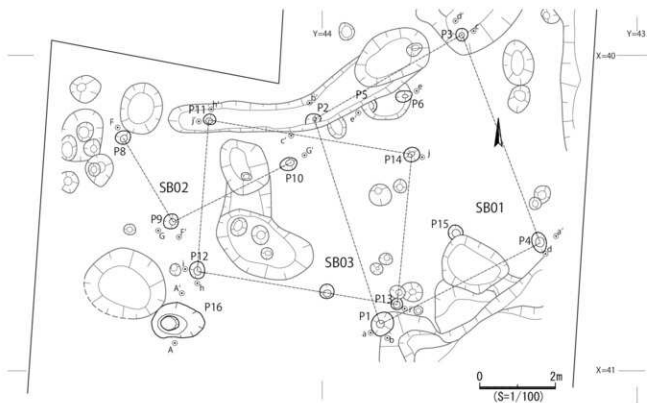
- 1 10YR1/1 黒色埴土 (フシク層)
- 2 10YR2/1 黒色埴土
- 3 2.5Y1.7/1 黒色砂埴土
- 4 2.5Y2/1 黒色埴土
- 7 2.5Y3/2 黒褐色砂埴土
- 5 10YR3/2 黒褐色砂埴土
- 6 10YR2/1 黒色砂埴土

<41-44-2K>

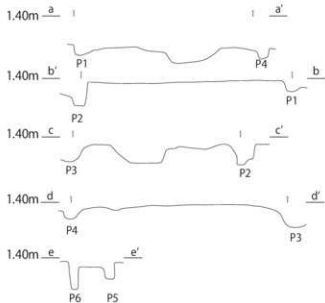


- 1 2.5Y2/1 黒褐色埴土 (中世以降)
- 2 10YR1.7/1 黒色砂埴土 (土器含有)
- 3 2.5Y2/1 黒色砂埴土
- 4 10YR1.7/1 黒色埴土
- 5 2.5Y2/1 黒色埴土

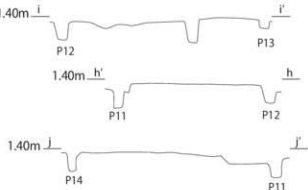
第 68 図 18 地区 SD03,05 他平面図 (1/100), 断面図 (1/60)



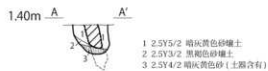
〈SB01〉



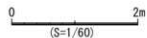
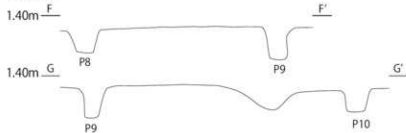
〈SB03〉



〈P16〉

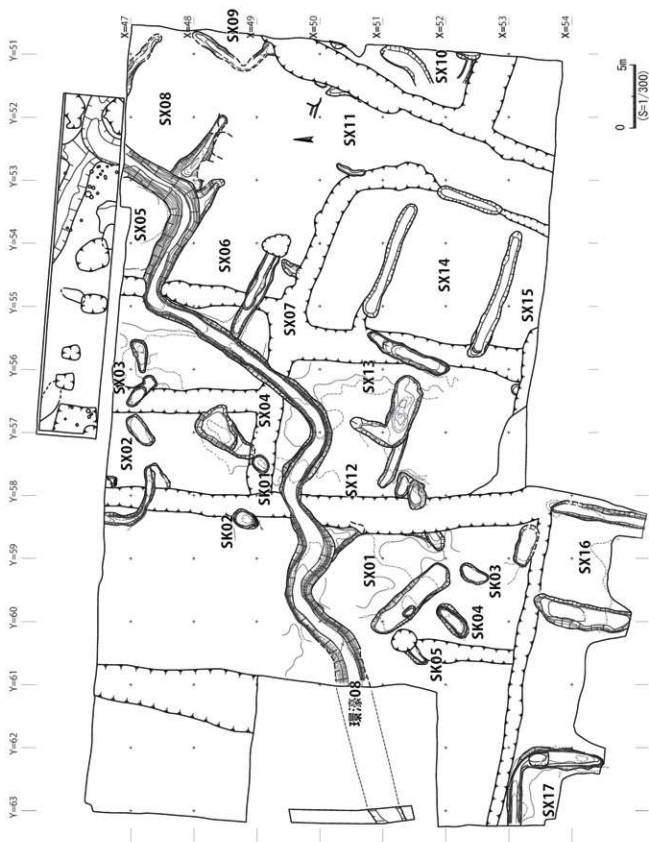


〈SB02〉

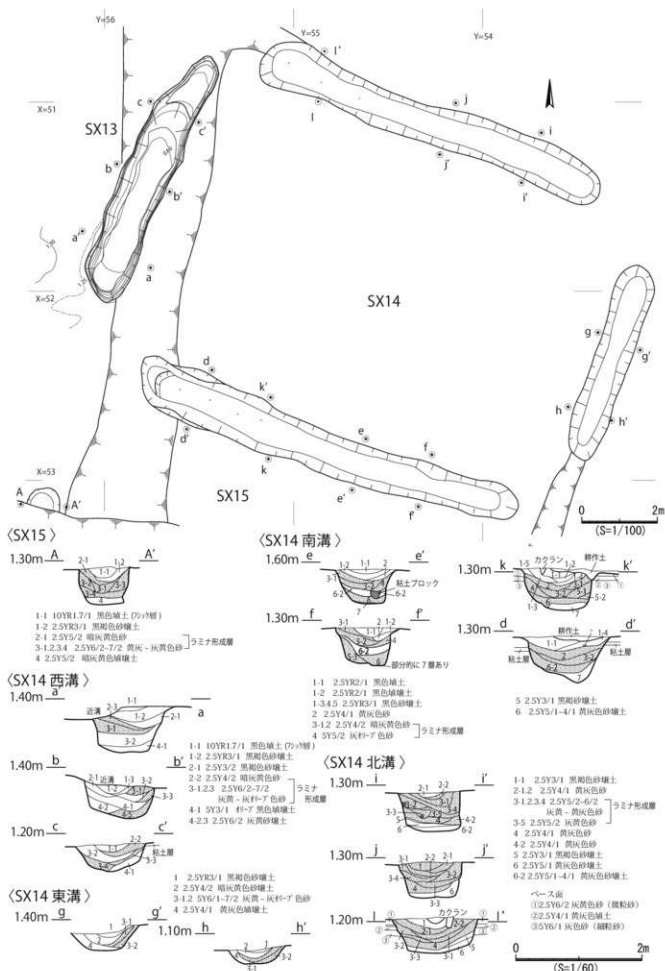


- | | |
|--------------------|---------------------|
| *P1=40-43-6P(旧番号) | *P10=40-44-13P(旧番号) |
| *P2=40-44-8P(旧番号) | *P11=40-44-15P(旧番号) |
| *P3=39-43-4P(旧番号) | *P12=40-44-15P(旧番号) |
| *P4=40-43-5P(旧番号) | *P13=40-43-9P(旧番号) |
| *P5=40-44-5P(旧番号) | *P14=40-43-10P(旧番号) |
| *P6=40-44-6P(旧番号) | *P16=40-44-16P(旧番号) |
| *P8=40-44-9P(旧番号) | |
| *P9=40-44-10P(旧番号) | |

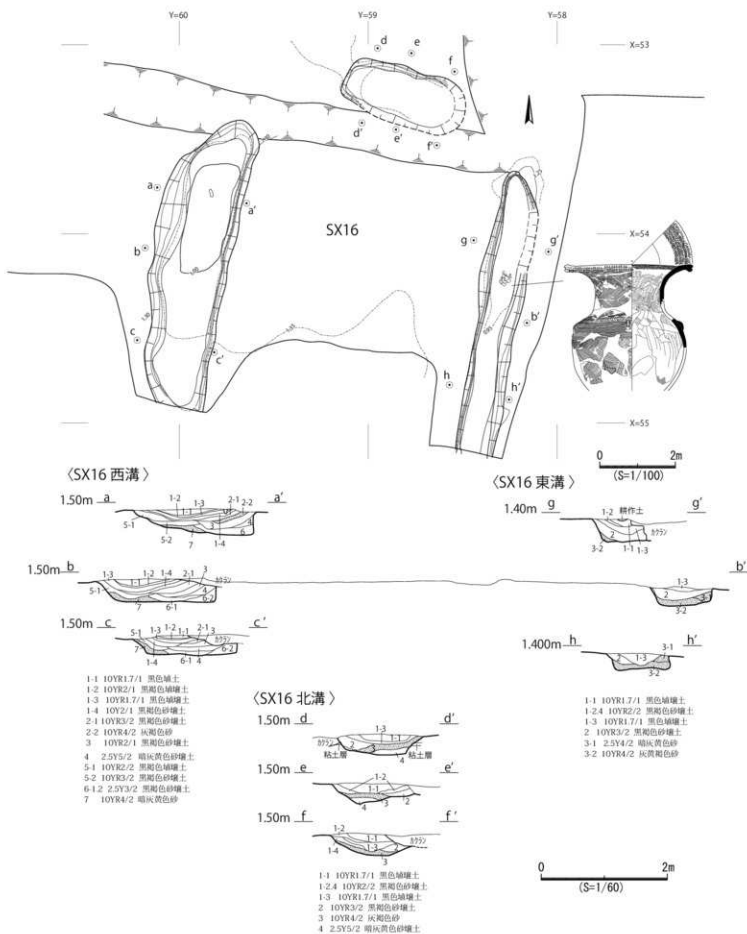
第 69 図 18 地区 SB01,02,03 平面図 (1/100), エレベーション図 (1/60)



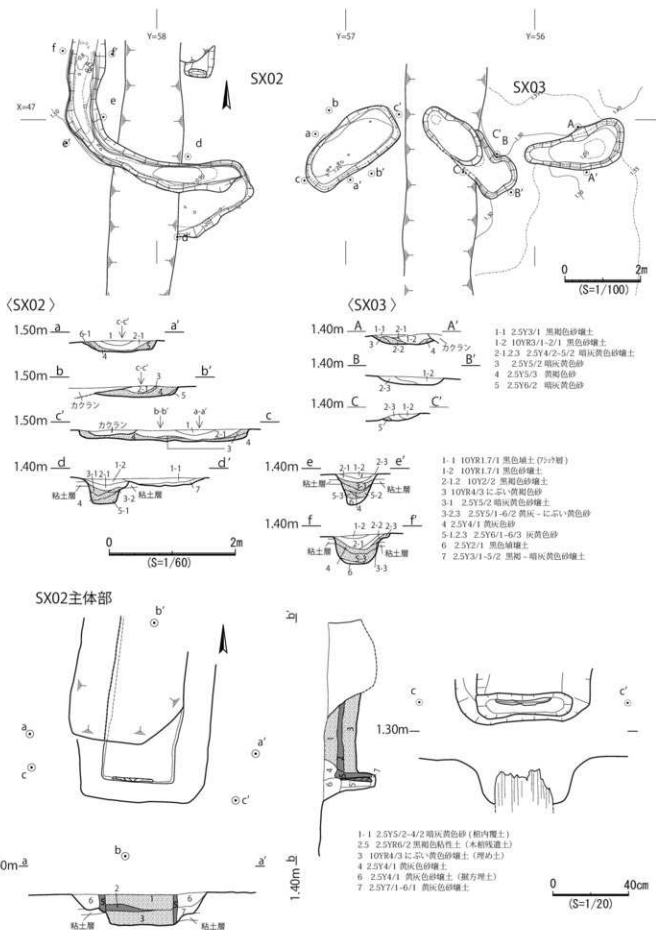
第 70 图 20 地区 SD03,05 他全体图 (1/300)



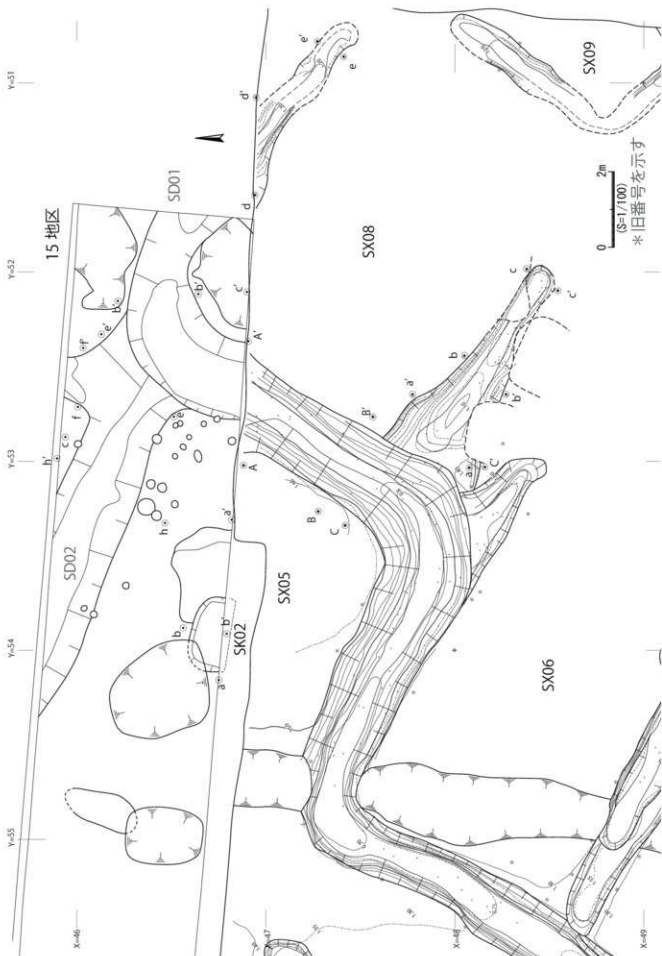
第 71 図 20 地区 SX14 平面図 (1/100), 断面図 (1/60)



第 72 图 20 地区 SX16 平面图 (1/100), 断面图 (1/60)

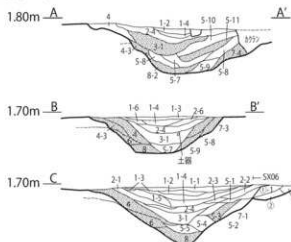


第 73 図 20 地区 SX02,03 平面図 (1/100), 断面図 (1/60), SX02 主体部平面図及び断面図 (1/20)



第74图 20地区SX06,08平面图(1/100)

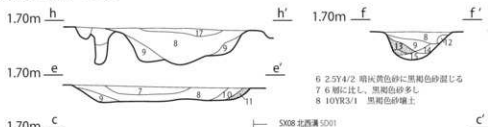
〈環濠 08〉



- 1-1.5 2.5Y2/1 黒色埴壤土
- 1-2.4 10YR1.7/1 黒褐色砂壤土
- 1-3 10YR3/2 黒褐色埴壤土
- 1-6 10YR3/1 黒褐色砂壤土
- 2-1.2.4 10YR2/2 黒褐色砂壤土
- 2-3 10YR3/2 黒褐色砂壤土
- 3-1 2.5Y3/2 黒褐色砂壤土
- 4-3 10YR4/2 にぶい黄褐色砂
- 5-1 10YR3/2 黒褐色砂壤土
- 5-2.4 10YR4/2 灰黄褐色砂壤土
- 5-3 2.5Y7/2 灰黄色砂
- 5-5 2.5Y4/2 暗灰黄色埴壤土
- 5-7.9 2.5Y4/2 暗灰黄色砂壤土
- 5-8 10YR4/2 灰黄褐色砂
- 6 2.5Y6/4 にぶい黄色砂
- 7-1 2.5Y5/3 オリーブ褐色砂壤土
- 7-3 2.5Y6/4 にぶい黄色砂
- 8 2.5Y7/2 灰黄色砂壤土
- 9 2.5Y6/2 灰黄色砂壤土
- 10 2.5Y6/2 灰黄色砂

- ①-1 10YR3/3 暗灰黄色砂壤土
- ①-2 10YR5/3 にぶい黄褐色砂壤土
- ② 10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土

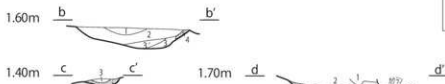
〈SX05 北溝〉 SD02



- 6 2.5Y4/2 暗灰黄色砂に黒褐色砂混じる
- 7 6層に比し、黒褐色砂多し
- 8 10YR3/1 黒褐色砂壤土

- 9 10YR4/2 暗灰黄色粗砂
- 10 10YR3/2 黒褐色砂壤土
- 11 10YR4/3 にぶい黄褐色砂に10層混入
- 12 10YR3/2 黒褐色砂壤土
- 13 2.5Y5/2 灰黄色砂
- 14 2.5Y2/1 黒色埴壤土
- 15 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土

〈SX08 北西溝〉



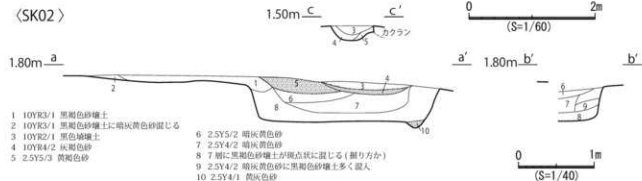
- SX08
- 1 10YR1.7/1 黒色埴壤土
 - 2 10YR3/3 暗褐色砂壤土
 - 2' 10YR4/1 暗灰褐色砂壤土 2層に比し明るめ
 - 3 10YR3/1 黒褐色砂壤土
 - 3' 10YR3/1 黒褐色砂壤土 3層に比し砂多し
 - 4 10YR4/2 灰黄褐色砂
 - 5 2.5Y4/2 暗灰黄色砂壤土
 - 5' 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土
 - 6 2.5Y4/2-5/3 黄褐色砂

- 1 2.5Y5/3 オリーブ褐色砂壤土
- 2.1.2.3 10YR3/2 黒褐色埴壤土
- 3 2.5Y2/1 黒色埴壤土
- 4 10YR3/2 黒褐色砂壤土
- 5 10YR3/2 黒褐色砂壤土
- 6 2.5Y5/3 黄褐色砂壤土
- 7 2.5Y7/2 灰黄色砂
- 8 2.5Y3/2 黒褐色砂壤土

〈SX08 南西溝〉

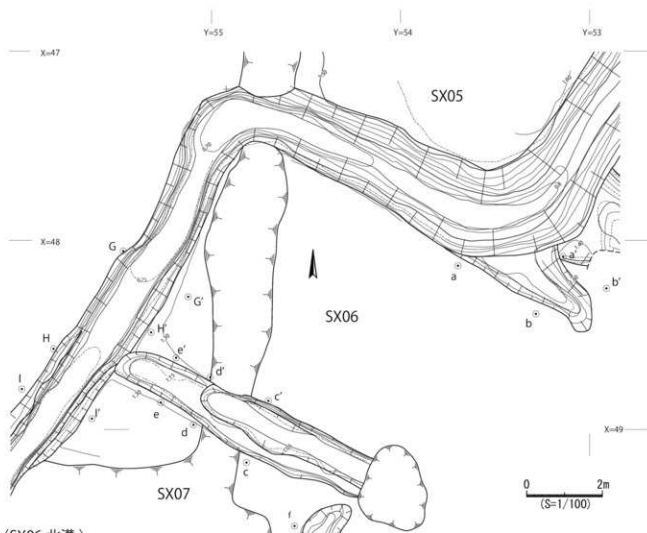


〈SK02〉

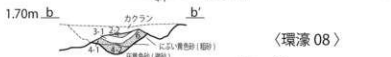


- 1 10YR3/1 黒褐色砂壤土
- 2 10YR3/1 黒褐色砂壤土に暗灰黄色砂混じる
- 3 10YR2/1 黒色埴壤土
- 4 10YR4/2 灰黄色砂
- 5 2.5Y5/3 黄褐色砂
- 6 2.5Y5/2 暗灰黄色砂
- 7 2.5Y4/2 暗灰黄色砂
- 8 7層に黒褐色砂壤土が照点を混じる(掘り方か)
- 9 2.5Y4/2 暗灰黄色砂に黒褐色砂壤土多く混入
- 10 2.5Y4/1 黄褐色砂

第75図 20地区 SX06,08 断面図(1/60),SK02 断面図(1/40)

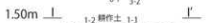


〈SX06 北溝〉



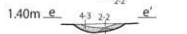
- 1-1 10YR4/1 暗灰色砂礫土
- 1-3 2.5Y5/1-4/1 黄灰色砂礫土
- 2-1 10YR4/1 暗灰色砂
- 2-2 2.5Y5/1 黄灰色砂礫土
- 3-1 10YR2/2 黒灰色砂礫土
- 4-1 2.5Y6/2 灰黄色砂
- 4-2 2.5Y4/2 暗灰色黄色砂
- 5 2.5Y6/2 にんい黄色砂

〈環濠 08〉



- 1-1 10YR1.7/1 黒色粘土 (70%程度)
- 1-2 10YR2/1 黒褐色粘礫土
- 2-1,2 10YR3/1 黒褐色砂礫土
- 3-1,2 2.5Y4/2 暗灰黄色砂礫土
- 3-3,4 2.5Y5/2 暗灰黄色砂
- 4 2.5Y4/1 黄灰色粘礫土
- 5-1,2 2.5Y6/2 灰黄色砂
- 5-3 2.5Y4/2 暗灰黄色砂
- 6 2.5Y6/1 灰黄色砂礫土
- 7,1,2 2.5Y6/2 灰黄色砂礫土
- 8-1 2.5Y7/2 灰黄色砂
- 9 2.5Y6/2 灰黄色砂礫土
- 10 2.5Y6/2 灰黄色砂

〈SX06 南溝〉



- 1-1,2,3 2.5YR3/1-3/2 黒褐色砂礫土
- 1-4 2.5Y4/2 暗灰黄色砂礫土
- 2-1,2 2.5Y3/1 黒褐色砂
- 2-2 2.5Y5/1 黄灰色砂礫土
- 3 2.5Y4/2 暗灰黄色砂礫土

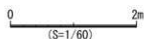
- 4-1,2 2.5Y5/2-6/2 暗灰黄色砂
- 4-3 2.5Y3/2 黒褐色砂
- 4-4 2.5Y4/2 暗灰黄色砂
- 5 2.5Y4/2 暗灰黄色砂
- 6 2.5Y6/3 黄褐色砂

土器含有

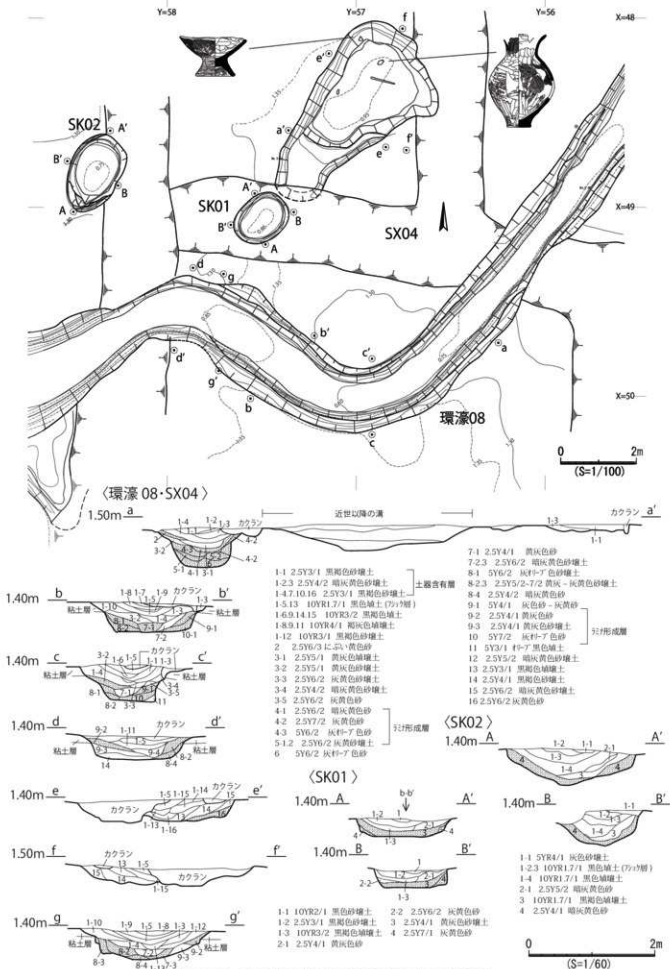
〈SX07〉



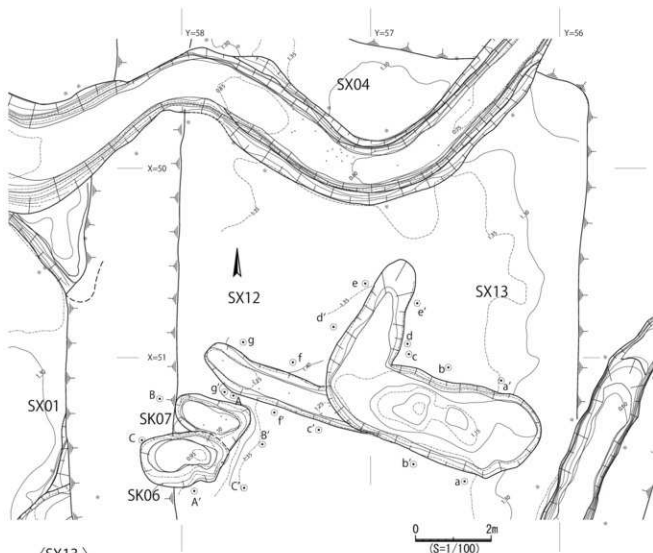
- 1-4,2-2 SX06 南溝同一
- 5-1,2 2.5Y4/2-5/3 暗灰黄 - 黄褐色砂
- 6 2.5Y5/2 暗灰黄色砂



第 76 図 20 地区 SX06,07 平面図 (1/100), 断面図 (1/60)



第77図 20地区 SX04 平面図 (1/100), 断面図 (1/60)



〈SX13〉

1.50m a カクラン a'

1.50m b 土牆 b'

1.50m c カクラン c'

1.50m d d'

1.50m e e'

〈SK06.07〉

1.50m A SK07 SK06 A'

1.50m B B'

1.50m C C'

- 1 10YR1.7/1 黒色粘土 (7.5%層)
- 2 10YR3/2 黒褐色砂
- 3 10YR1.7/1 黒色粘土
- 4 10YR4/2 灰黄色砂
- 5 2.5Y5/2 暗灰黄色砂
- 4-2 2.5Y4/2 暗灰黄色砂
- 6 10Y3/3 暗褐色砂

- 1 10YR2/1 黒色粘土
- 2 10YR3/1 黒褐色粘土
- 3 10YR4/2 灰黄色砂
- 4.1-2.3 10YR3/2 黒褐色粘土
- 5.1 10YR4/2 灰黄色砂
- 5.2 10YR4/3 にいゝ黄色砂
- 6 10Y1.7/1 黒色粘土
- 7 10Y1.7/1 黒色粘土
- 8 10YR4/2 灰黄色砂
- 9 10YR4/3 にいゝ黄色砂

〈SX12〉

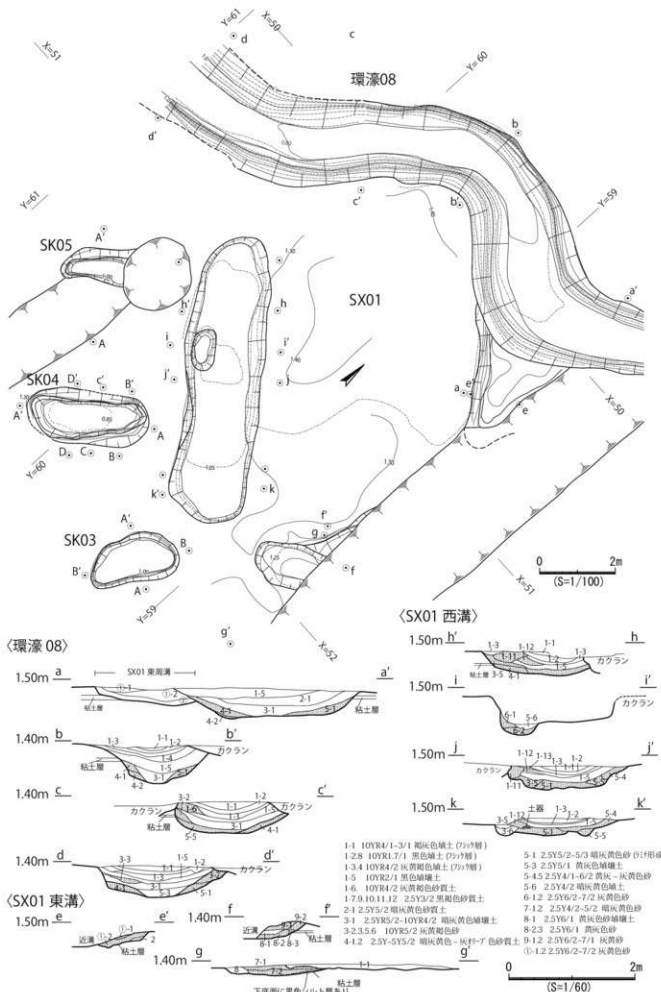
1.50m f f'

1.50m g g'

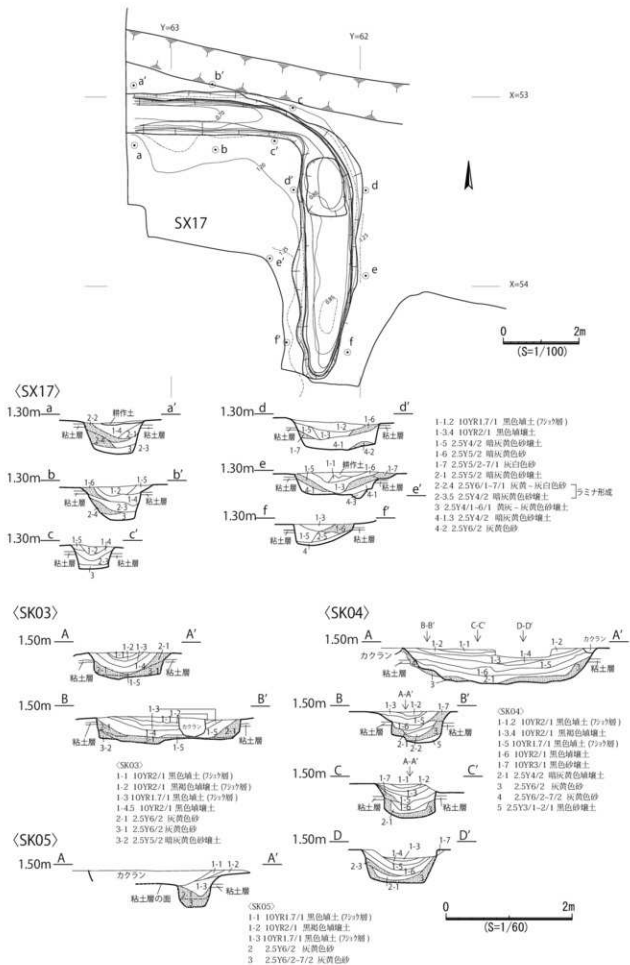
- 1 10YR1.7/1 黒色粘土 (7.5%層)
- 2 10YR3/2 黒褐色砂
- 3 10YR1.7/1 黒色粘土
- 4 10YR4/2 灰黄色砂
- 5 2.5Y5/2 暗灰黄色砂
- 4-2 2.5Y4/2 暗灰黄色砂
- 6 10Y3/3 暗褐色砂

0 2m
(S=1/60)

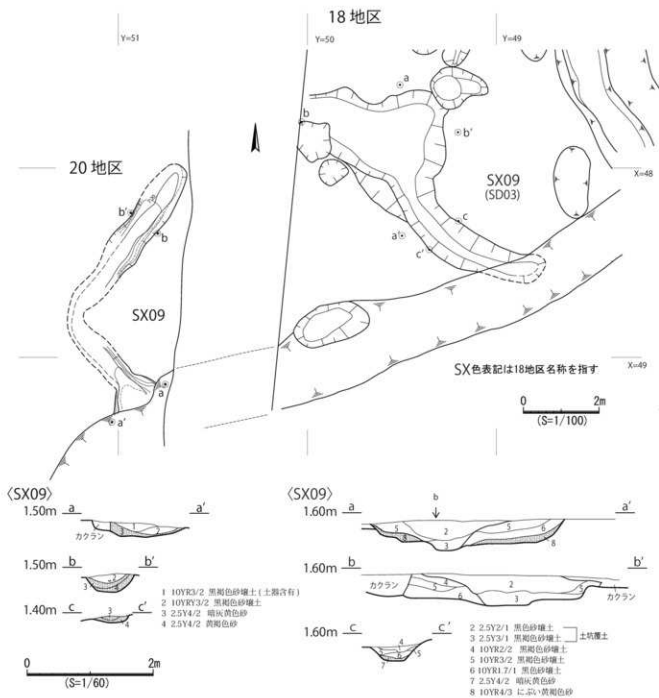
第78図 20地区SX12,13他 平面図(1/100),断面図(1/60)



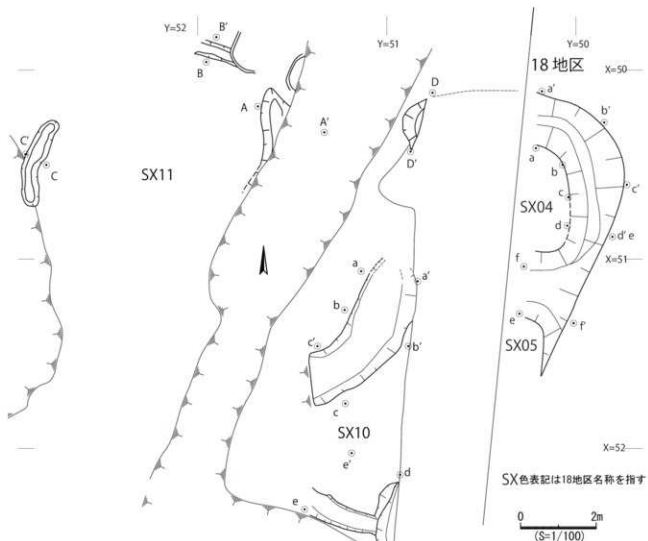
第 79 図 20 地区 SX01 他平面図 (1/100), 断面図 (1/60)



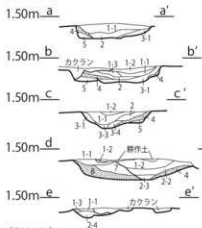
第 80 図 20 地区 SX07 平面図 (1/100), 断面図 (1/60)



第 81 図 18地区 SX09,20地区 SX09 平面図(1/100),断面図(1/60)

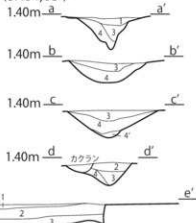


<SX10>



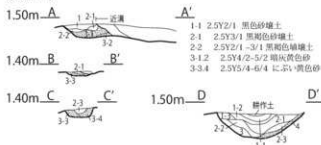
- 1-1 2.5Y2/1 黒色砂礫土
 1-2 2.5Y1.7/1 黒色礫土
 2 2.5Y3/1 黒褐色砂礫土
 2-2.3 2.5Y2/1-3/1 黒褐色砂礫土 土礫含有
 3-1,3.4 2.5Y3/1-4/1 黒褐色砂礫土
 4 2.5Y4/2-5/2 暗灰黄色砂
 5 2.5Y4/1-3/1 黄灰 - 黒褐色砂礫土
 7 2.5Y4/1-3/1 黒褐色砂礫土
 8 2.5Y4/1 黄灰色砂

<SX04,05>



- 1-1 10YR1.7/1 黒色砂礫土
 2 10Y1.7/1 黒色礫土
 3 10Y2/1 黒色砂礫土
 4 2.5Y 3/1 黒褐色砂礫土 土礫含有
 4' 2.5Y 3/1 黒褐色砂礫土

<SX11>



- 1-1 2.5Y2/1 黒色砂礫土
 2-1 2.5Y3/1 黒褐色砂礫土
 2-2 2.5Y2/1-3/1 黒褐色砂礫土
 3-1,2 2.5Y4/2-5/2 暗灰黄色砂
 3-3,4 2.5Y5/4-6/4 灰 - 黄色砂

- 1-1 10YR1.7/1 黒色礫土
 1-2 10YR1.7/1 黒色礫土
 1-3 10YR2/2 黒褐色砂礫土
 2-1 10YR2/1 黒色礫土
 2-2 10YR2/1-3/1 黒褐色砂礫土
 3 2.5Y3-2 黒褐色砂礫土
 4 2.5Y4/1 黄灰色砂

0 2m
(S=1/60)

第 82 図 20 地区 SX04,05,10,11 平面図 (1/100), 断面図 (1/60)

第6節 17地区

1. 調査区の概要

17地区は平成7年度に440㎡、平成8年度550㎡、平成9年度17、21地区2,530㎡を調査実施している。いずれも任意のグリッドを設定し、航空測量図化を行っている。

2. 遺構の概要

調査区は近世以降の畦畔が南北に走るが、概ね良好な状態で見つかった。検出した主な遺構は、環濠01～06の6条、方形周溝墓17基、複数の土坑、掘立柱建物1棟、方形周溝墓もしくは平地式建物周溝と思われる遺構2、樹皮製曲げ物を利用した井戸等である。

方形周溝墓はSX02～07、17、18からは供献土器が出土しており、集落Ⅲ期に相当する。SX01、09、11～14は、明瞭な供献土器はないが概ね集落Ⅱ期相当と思われる。SX10及びSX16は、他の墓の周溝と比し不定形な溝であり、平地式建物になる可能性がある。SX10周溝内土坑C8-01-Kは、炭だまり土坑である。両者とも概ね集落Ⅲ期である。

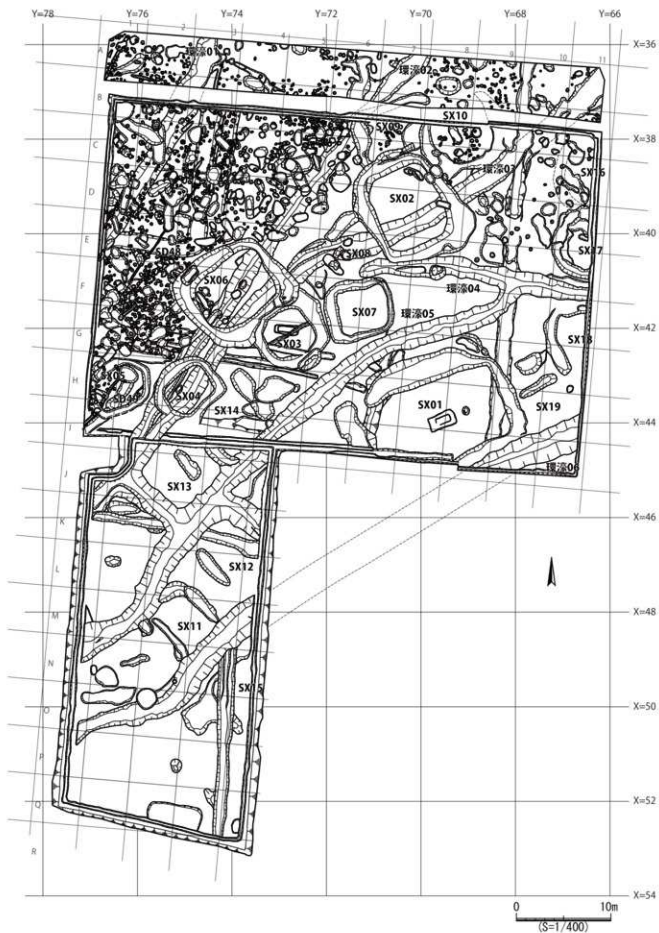
方形周溝墓の形状は隅円方形または長方形を呈し、14mを超える大型のSX01は1隅の陸橋部をもつと考えられる。また、主体部上方にピットが1つみつかり、中から大型木製部材や匙など多数みつまっている。主体部痕跡はSX01(第89図)、SX03(第94図)の2基がある。SX01主体部は木棺痕跡から小口・側板とも掘り込まれない組合せ木棺であり、主体部北東部からは、管玉が35点(報告1第215図1-35)が出土している。SX03主体部は、SD50に切られた形となっているが、どちらかという環濠03に併走しており、SD48、49と類似したものである可能性が高い。

環濠01は、13地区から継続する環濠で皿状もしくは逆台形を呈する。複数の土坑に切られており、当調査区内で最も古く位置づけられる。出土土器は少量であり、集落Ⅰ期及びそれ以前の破片資料がみつまっている。環濠02～04は集落Ⅲ期の墓に切られている。また、環濠02は環濠03と21地区で合流していること、環濠03A、BはAアゼ(第86図参照)までは、2本の切り合いが確認できる。土器は中層から多く出土しており、環濠02、環濠04は八日市地方5-6期、環濠03は6-7期に相当する。環濠05、06は、土器の出土が少なく時期は不明瞭である。SX14は発掘担当者によると環濠上に造墓する断面になっているが、SX14南西溝からは八日市地方7-8期の土器が出土している。またSX01と環濠06との切り合いを示すEアゼでは環濠06が周溝を切っている(第87図)。SX13と環濠05との切り合いを示すFアゼ(第87図)では、環濠05が切っている。換言すると、環濠05、06はSX13、14より新しい可能性が高く、集落Ⅱ期の方形周溝墓の溝を利用した形で掘削する環濠08と同様のものと考えられる。

また、環濠に併走する溝としてSD48、49があり、布掘りの柵列跡と思われる。SD48、49からは八日市地方5期の土器がみつかり、環濠01と併走する可能性が高い。

SE01は、ケヤキ製と思われる樹皮を丸めた井戸枠を利用したものである。止め杭等は検出されていない。近くには木柱根を残す1間×2間の掘立柱建物SB01がみつかり、両者とも明瞭な時期を示す土器の出土はみられないが、周辺の土坑の時期が集落Ⅱ期であることや、集落Ⅲ期の造墓よりは古い時期の可能性が高く、概ね集落Ⅱ期に相当するものと思われる。

なお、平成7年度に実施した調査区A-11Gr内ピット、J-2Gr環濠03gアゼ付近からは碧玉関連遺物が多量に見えられており、土壌洗浄の結果、石鏝、黒色安山岩製、瑪瑙製石針、碧玉工程品がみつかり、



第 83 图 17 地区全体图 (1/400)

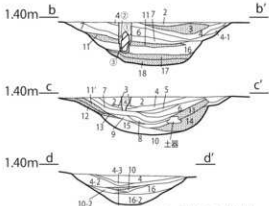


第 84 図 17 地区変遷図 (1/400)



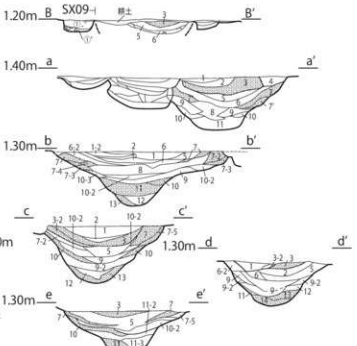
第 85 图 17 地区 環濠平面图 (1/400)

〈環濠 01〉



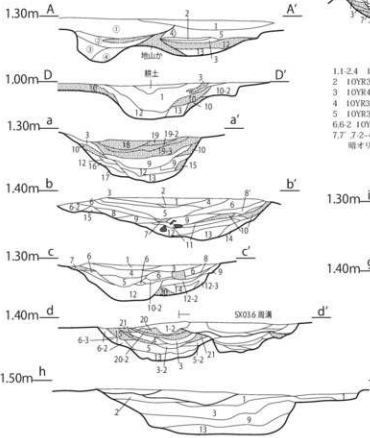
- 2 10YR3/2 黒褐色砂礫土 (ツミナ形成層)
- 3 2層同層 中不明め 灰褐色砂 (ツミナ形成層)
- 3.2 10YR4/2 灰黄色砂 (粗砂)
- 4 10YR2/2 黒褐色砂礫土
- 4.1 10YR1.7/1 黒色粘土 (フシク層)
- 5.8 10YR4/2-3/2 灰黄色砂礫土
- 6 10YR4/3 に近い黄褐色砂礫土
- 7.9 10YR3/1-3/2 黒褐色砂礫土
- 10 10YR2/1 黒色粘土 (フシク層)
- 11 10YR5/4 に近い黄褐色砂
- 12.13 10YR4/2 灰黄色砂 (ツミナ形成層)
- 14 10YR4/1 灰褐色砂
- 15 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂礫土
- 16 10YR3/2 黒褐色砂礫土
- 17 10YR5/3 に近い黄褐色砂
- 18 2.5Y3/4 黄褐色砂 (粗砂)
- ① 10YR2/2 黒褐色砂礫土
- ② 10YR1.7/1 黒色粘土
- ③ 10YR2/2 黒色粘土
- ④ 10YR2/2 黒色砂礫土

〈環濠 02〉

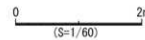


- 7.5 10YR3/2 黒褐色砂礫土
- 8 10YR2/1 黒色粘土 (フシク層)
- 9.9.2 2.5Y3/2-10YR3/1 黒褐色砂礫土
- 10 2.5Y3/3 黄褐色砂
- 10.2.3 10YR4/2 灰黄色砂に黒褐色粘土ブロック含有
- 11 2.5Y3/3-3/2 黄褐色 砂に黒褐色粘土ブロック含有
- 12 2.5Y3/2 黒褐色砂礫土
- 13 2.5Y4/2 暗灰黄色砂
- 14 2.5Y3/2-4/2 黒褐色砂礫土と暗灰黄色砂の混層
- 1.1-2.4 10YR2/2 黒褐色砂礫土
- 2 10YR3/2 黒褐色砂礫土
- 3 10YR4/2 灰黄色砂 - 潜水砂
- 4 10YR3/2 黒褐色砂礫土
- 5 10YR3/1 黒褐色粘土 (フシク層)
- 6.6.2 10YR2/2 黒褐色砂礫土
- 7.7. 7.2-4 2.5Y3/3-10YR5/3 暗オリーブ褐色 - に近い黄褐色砂

〈環濠 03〉

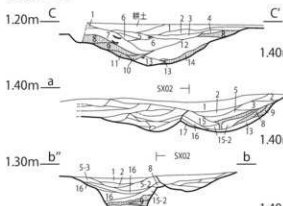


- 1.1-2 10YR2/2 黒褐色砂礫土
- 2 10YR1.7/1 黒色粘土
- 3.3.2 10YR3/2 黒褐色砂礫土
- 4 10YR3/2 黒褐色砂礫土に灰黄色砂混層
- 5.5-2.3 10YR2/2 黒褐色砂礫土
- 6 7.5Y3/1 黒褐色砂礫土
- 6-2.3 10YR2/2 黒褐色砂礫土
- 7 10YR4/3 に近い黄褐色砂
- 8 10YR4/1 灰褐色砂礫土
- 8-2 10YR3/2 黒褐色砂礫土
- 9 10YR3/1 黒褐色砂礫土
- 10 5Y4/1 灰色細砂
- 10.2 10期に粘性土が混入
- 11 2.5Y3/1 黒褐色砂礫土
- 12 5Y4/1 灰色細砂と黒褐色砂礫土の混層
- 13 10YR3/1-3/2 黒褐色砂礫土
- 14 10YR1.7/1 黒色粘土 (フシク層)
- 15 10YR4/2 灰黄色砂礫土
- 16 2.5Y3/2 黒褐色砂礫土
- 17 2.5Y4/2 暗灰黄色砂礫土に黒褐色粘土ブロック混層
- 18 10YR4/3 灰黄色砂を主に黒褐色粘土ブロック混層
- 19.2.3 10YR4/3 灰黄色砂を主に黒褐色粘土ブロック混層
- 20.21 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂
- 20.2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂に黒色粘土含有



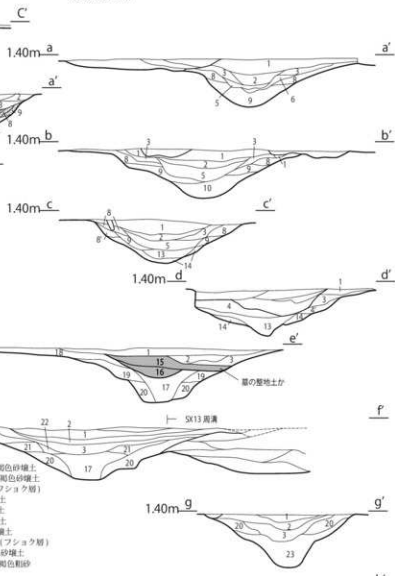
第86図 17地区環濠断面図1(1/60)

〈環濠 04〉



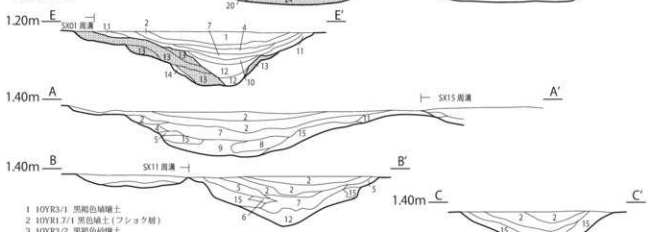
- 1 10YR2/1 黒褐色砂礫土
- 2 10YR3/2 黒褐色砂礫土
- 3 2.5Y5/2 暗灰黄色砂礫土
- 4 2.5Y5/3 黄褐色砂
- 5 10YR3/1 黒褐色礫土(フショク層)
- 6 2.5Y4/2 暗灰黄色砂礫土
- 7 2.5Y6/3 にぶい黄色砂
- 8 5Y7/3 浅黄色砂
- 9 7.5Y6/3 オリーブ黄色砂
- 10 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂礫土
- 11 5Y5/2 灰オリーブ包砂
- 12 2.5Y5/2 暗灰黄色砂
- 13 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂礫土
- 14 5Y7/4 浅黄色砂
- 15 10YR1.7/1 黒色礫土(フショク層)
- 15-2 10YR3/1 黒褐色礫土
- 16 2.5Y4/1 黄灰色砂に黒色礫土Aの砂層
- 17 10YR1.7/1 黒色礫土(フショク層)

〈環濠 05〉



- 1 10YR1.7/1 黒褐色礫土
- 2 2.5Y3/1 黒褐色礫土(フショク層)
- 3 10YR2/2 黒褐色砂礫土
- 4 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂礫土
- 5 10YR3/1 黒褐色礫土
- 6 10YR3/1 黒褐色砂礫土
- 7 2.5Y3/2 黒褐色砂礫土
- 8 10YR2/2 黒褐色砂礫土
- 9 10YR2/2 黒褐色砂礫土
- 10 2.5Y3/2 黒褐色礫土(木片多量)
- 13 2.5Y3/1 黒褐色礫土
- 14 2.5Y3/2 黒褐色礫土
- 15 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂礫土
- 16 10YR2/1 暗オリーブ褐色砂礫土
- 17 10YR2/1 黒褐色土(フショク層)
- 18 2.5Y3/1 黒褐色砂礫土
- 19 2.5Y3/1 黒褐色砂礫土
- 20 2.5Y2/1 黒褐色礫土
- 21 2.5Y4/2 暗灰黄色砂礫土
- 22 2.5Y1.7/1 黒色礫土(フショク層)
- 23 2.5Y3/2-4/3 黒褐色砂礫土
- 24 2.5Y4/3 暗オリーブ褐色粗砂

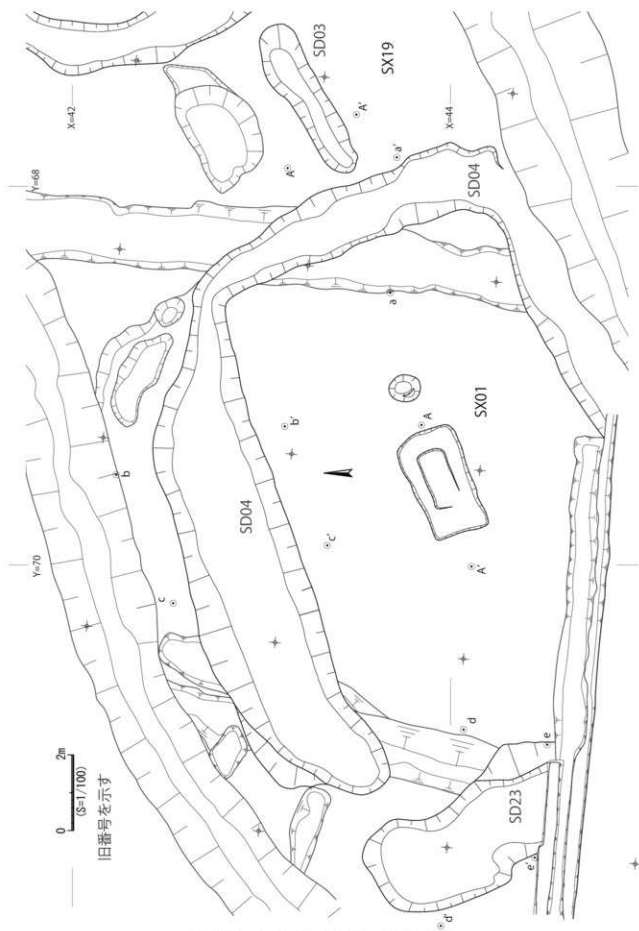
〈環濠 06〉



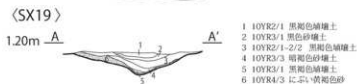
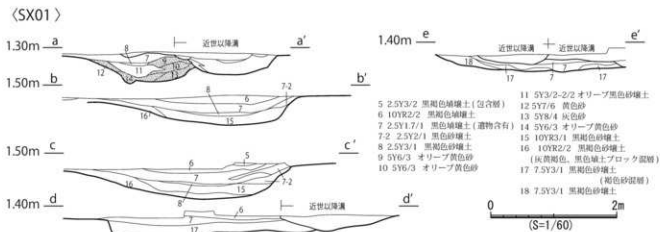
- 1 10YR3/1 黒褐色礫土
- 2 10YR1.7/1 黒色礫土(フショク層)
- 3 10YR3/2 黒褐色砂礫土
- 4 10YR2/3 黒褐色礫土
- 5 10YR3/2 黒褐色砂礫土
- 6 10YR3/1 黒褐色砂礫土
- 7 10YR2/2 黒褐色礫土
- 8 10YR3/2 黒褐色砂礫土
- 9 10YR3/2 黒褐色砂礫土
- 10 10YR2/2 黒褐色礫土
- 11 10YR2/2 黒褐色礫土
- 12 10YR2/3 黒褐色礫土
- 13 10YR4/1 暗灰色砂
- 14 10YR4/1 暗灰色砂礫土
- 15 2.5Y3/2-4/1 黄灰-黒褐色礫土



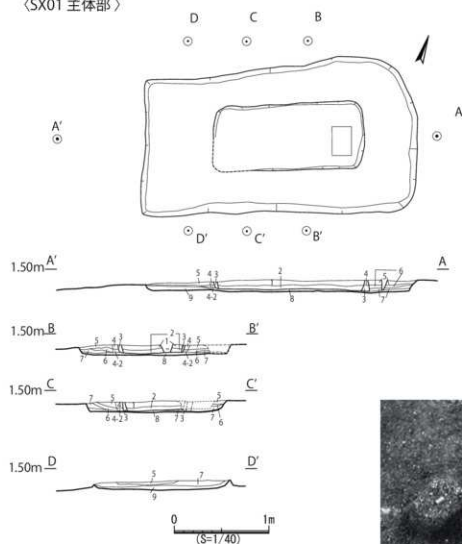
第 87 図 17 地区 環濠断面図 2(1/60)



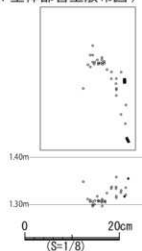
第88図 17地区SX01,SX19平面図(1/100)



〈SX01 主体部〉

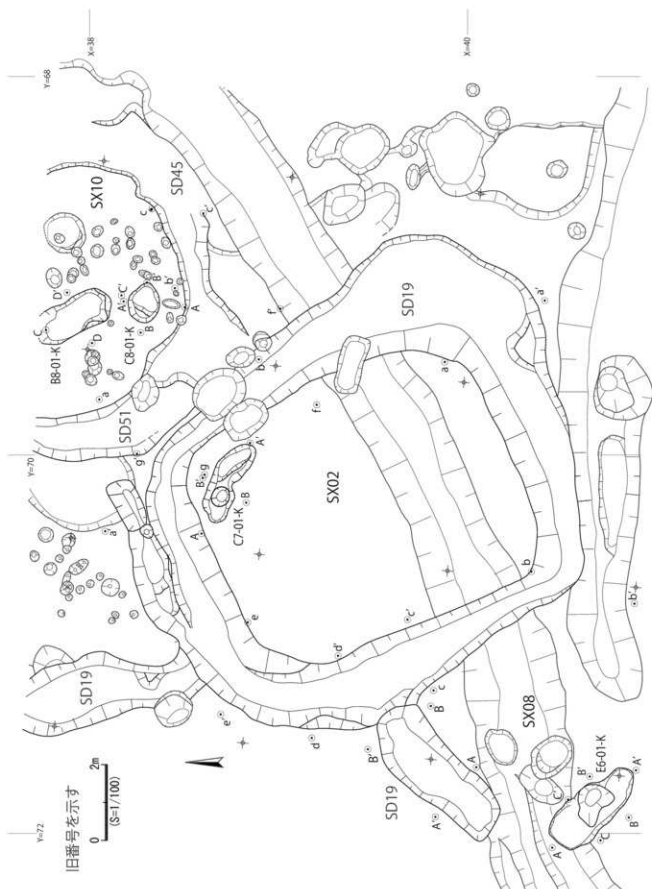


〈SX01 主体部管玉散布図〉



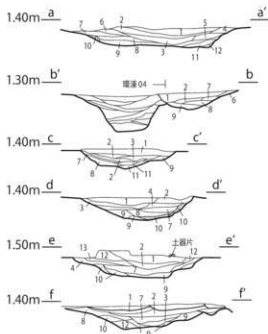
〈SX01 主体部管玉散布状況〉

第 89 図 17 地区 SX01,19 断面図 (1/60),SX01 主体部平面図及び断面図 (1/40)



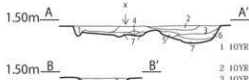
第90图 17地区SX02,08,10平面图(1/100)

<SX02>



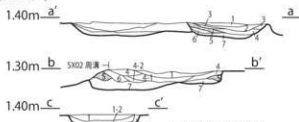
- 1 2.5Y1.7/1 黒色埴土
- 2 2.5Y3/1 黒色砂埴土
- 3 10YR2/1 黒褐色埴土
- 4 10YR2/1 黒褐色埴土
- 5 10YR2/1 黒褐色埴土
- 6 2.5Y3/2 黒褐色砂埴土
- 7 2.5Y1.7/1 黒色埴土
- 8 2.5Y3/1-3/2 黒褐色埴土
- 9 2.5Y3/2 黒褐色砂埴土にオリブ褐色砂、黒色埴土ブロック混層
- 10 2.5Y3/3 暗オリブ褐色砂(地山崩壊土)
- 11 10YR1/1 黒色埴土
- 12 10YR1.7/1 黒色埴土

<C7-01-K>



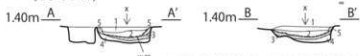
- 1 10YR4/1-3/1 暗赤-黒褐色砂埴土
- 2 10YR3/1 黒褐色砂埴土
- 3 10YR3/1 黒褐色砂埴土
- 4 10YR2/1 黒色埴土
- 5 10YR4/1 黄灰色砂埴土
- 6 10YR2/2 黒褐色埴土
- 7 2.5Y3/4 黄褐色砂埴土に黒褐色埴土ブロック含有

<SX10>



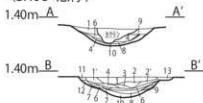
- 1 10YR3/2 黒褐色砂埴土
- 2 10YR3/2 黒褐色砂埴土
- 3 10YR4/2-3/2 黒褐色砂埴土
- 4.4.1 10YR2/2 黒褐色埴土
- 4.2 10YR3/3 暗褐色砂埴土
- 5 10YR4/2 灰黄褐色砂
- 6.7 10YR3/1 黒褐色砂埴土に赤い-黄褐色砂、灰黄褐色埴土ブロック混層
- 8 10YR3/1 黒褐色埴土
- 9 10YR3/2 黒褐色埴土に黄灰色埴土ブロック混層

<C8-01-K>



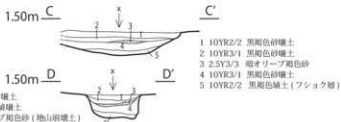
- 1 10YR3/2 黒褐色砂埴土
- 2 10YR3/2 黒褐色砂埴土
- 3 2.5Y4/3 オリブ褐色砂
- 4 10Y3/1 黒褐色砂埴土
- 5 2.5Y4/3 オリブ褐色砂

<SX08 北溝>



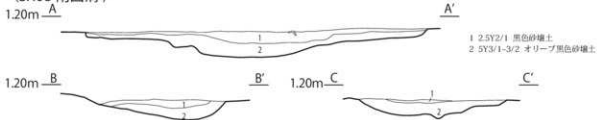
- 1 2.5Y2/1 黒色埴土
- 2.2' 2.5Y2/1 黒色埴土-砂埴土
- 3 10YR2/1 黒褐色砂埴土に灰黄褐色砂混層
- 4 10YR3/1 黒褐色砂埴土に灰黄褐色砂混層
- 6 2.5Y3/1 黒褐色砂埴土に褐色砂混層
- 7 10YR2/1 黒色砂埴土
- 8 2.5Y3/1 黒褐色砂埴土
- 9 2.5Y4/3 オリブ褐色砂(地山崩壊土)
- 10 10YR1.7/1 黒色埴土
- 11 10YR3/2-3/3 黒褐色-暗褐色砂埴土
- 12 10YR2/1 黒褐色埴土

<B8-01-K>



- 1 10YR2/2 黒褐色砂埴土
- 2 10YR3/1 黒褐色砂埴土
- 3 2.5Y3/3 暗オリブ褐色砂
- 4 10YR3/1 黒褐色砂埴土
- 5 10YR2/2 黒褐色埴土(フシヨク層)

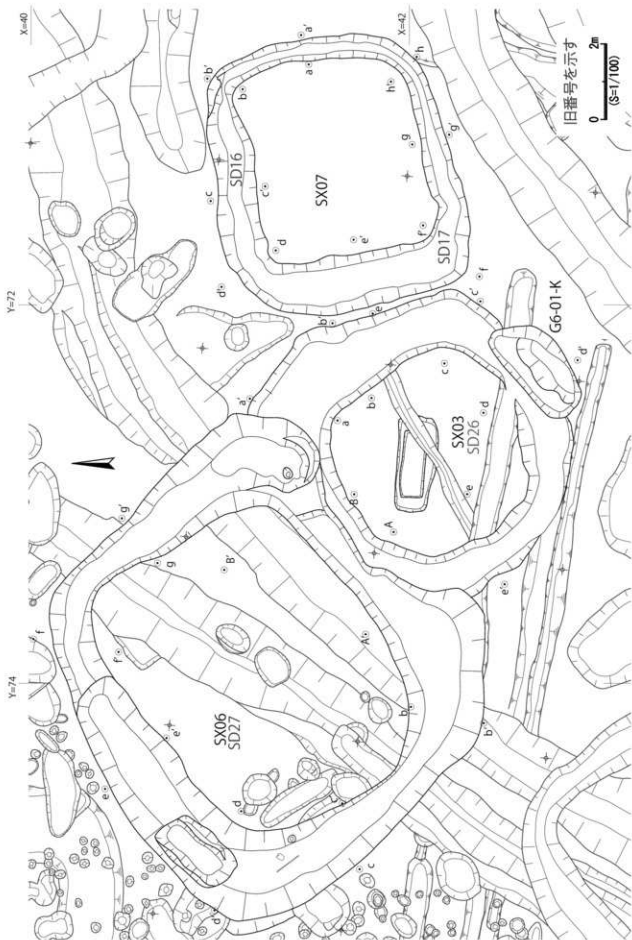
<SX08 南西溝>



- 1 2.5Y2/1 黒色埴土
- 2 5Y3/1-3/2 オリブ褐色砂埴土

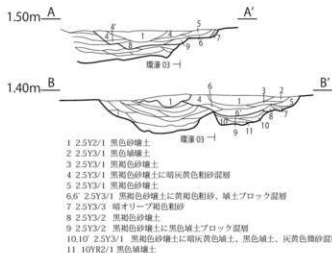
0 2m
(S=1/60)

第 91 図 17 地区 SX02,8,10 他 断面図 (1/60)

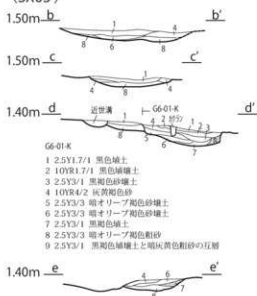


第 92 図 17 地区 SX03,06,07 平面図 (1/100)

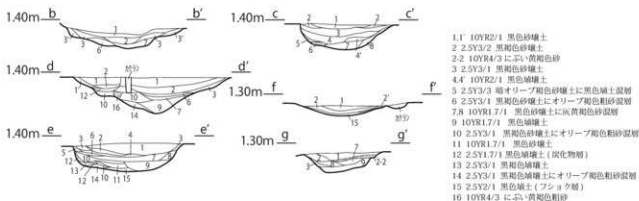
<SX03,06>



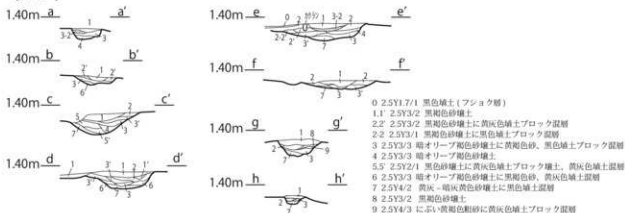
<SX03>



<SX06>



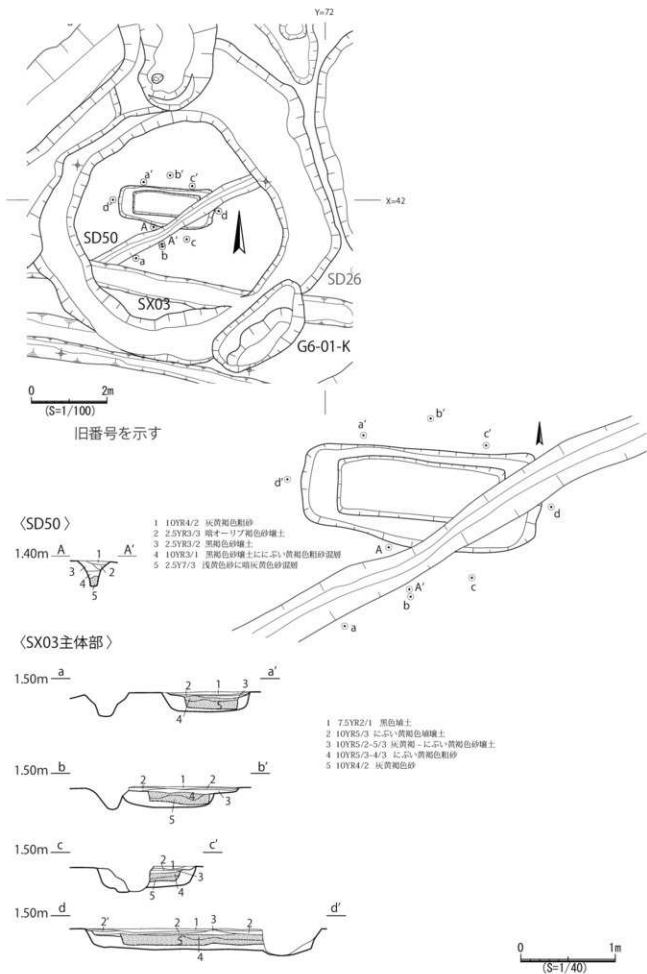
<SX07>



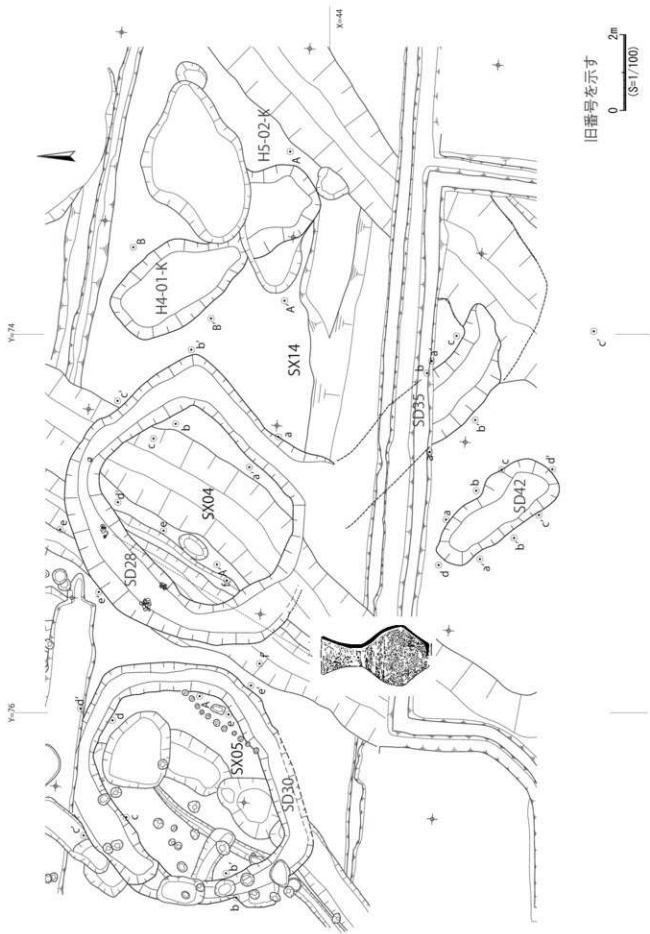
<SX06 南西溝、鋤検出状況>



第 93 図 17 地区 SX03,06,07 断面図 (1/60)

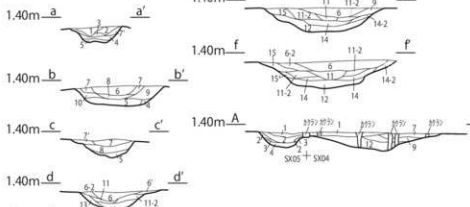


第94図 17地区SX03主体部平面図及び断面図(1/40)



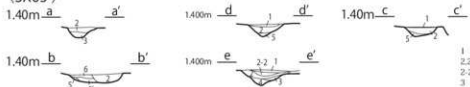
第95図 17地区SX04,05,14他平面图(1/100)

<SX04>



- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂壤土
- 2 10YR3/1 黒褐色埴壤土
- 3.3 10YR3/2 黒褐色砂壤土
- 4 10YR2/2 黒褐色砂壤土に灰黄褐色砂泥層
- 5 10YR3/1 黒褐色砂壤土
- 6 2.5Y1/7/1 黒色砂壤土
- 6.2 10YR1/7/1 黒褐色埴壤土に黒色埴土ブロック泥層
- 7 2.5Y1/7/1 黒色砂壤土
- 8 10YR3/1 黒褐色砂壤土
- 9.10 10YR3/1 黒褐色砂壤土に黒色埴土ブロック泥層
- 11 10YR1/7/1 黒褐色埴壤土 (P>砂層)
- 11.2 2.5Y2/1 黒色砂壤土
- 12 2.5Y2/1 黒色砂壤土
- 13 10YR3/1 黒褐色砂壤土
- 14.14.2 10YR1/7/1 黒色埴土 (P>砂層)
- 15 10YR1/7/1 黒褐色埴壤土に暗灰色ブロック泥層

<SX05>



- 1 2.5Y1/7/1 黒色埴壤土
- 2.2 10YR2/1 黒色砂壤土に褐色砂泥層
- 2.2 10YR2/1 黒色砂壤土
- 3 10YR3/2 黒色砂壤土に褐色砂泥層
- 4 10YR2/1 黒色砂壤土に褐色砂泥層
- 5 10YR3/1 黒褐色砂壤土に灰黄色砂泥層
- 6 10YR2/1 黒色砂壤土に黒色埴土ブロック含有
- 6.2 10YR2/1 黒色砂壤土

<SX14 北東溝>

<H5-02-K>



- 1 2.5Y1/7/1 黒色埴土
- 2 10YR2/1 黒色埴壤土
- 3 10YR3/1 黒褐色砂壤土
- 4 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土
- 5 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土
- 6.6.2 10YR3/1 黒褐色埴壤土
- 8 2.5Y3/1 黒色砂壤土
- 9 2.5Y3/2 黒褐色砂壤土
- 10 10YR3/2-黒褐色-暗オリーブ褐色砂壤土
- 11 10YR3/1 黒褐色埴壤土

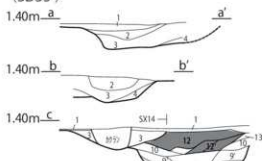
<H4-01-K>



- 1 10YR1/7/1 黒色埴土
- 2 10YR2/1 黒色埴壤土
- 3 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土にオリーブ褐色砂泥層
- 3' 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土に黒色埴土ブロック泥層
- 4.4' 5Y2/1 黒色砂壤土
- 5 10YR3/1 黒褐色砂壤土
- 6 2.5Y1/7/1 黒色埴壤土
- 7 10YR1/7/1 黒色砂壤土

<SX14 南西溝>

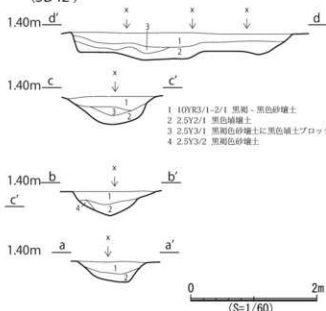
<SD35>



- 1 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土 (包含層)
- 2 2.5Y1/7/1 黒色埴土
- 3 10YR3/1 黒褐色砂壤土に黒色埴土ブロック泥層
- 4 2.5Y4/2-3/2 暗灰黄-黒褐色砂壤土
- 5 2.5Y1/7/1 黒色埴土
- 6 2.5Y2/1 黒褐色砂壤土
- 7 10YR1/7/1 黒褐色埴壤土
- 8 10YR2/1 黒褐色埴壤土
- 9.9' 10YR3/1-2/1 黒色埴土 (Pショック層)
- 10 2.5Y3/1-3/2 黒色砂壤土
- 11 2.5Y2/1 黒色砂壤土
- 12 10YR4/2-4/3 灰黄-暗灰色に、黄褐色砂

層厚 0.5

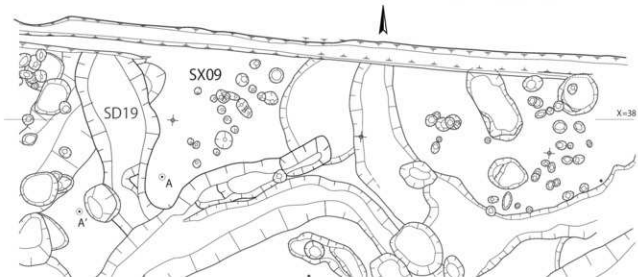
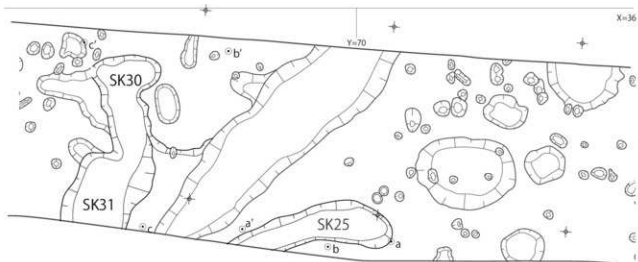
<SD42>



- 1 10YR3/1-2/1 黒褐色-黒色砂壤土
- 2 2.5Y2/1 黒色埴土
- 3 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土に黒色埴土ブロック泥層
- 4 2.5Y3/2 黒褐色砂壤土

0 2m
(S=1/60)

第96図 17地区 SX04,05,14他 断面図 (1/60)



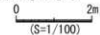
〈SX09〉

1.50m A'-



- 1 10YR3/2 黒褐色砂壤土
- 2 2.5Y5/2 暗灰黄色砂
- 3 2.5Y2/1 黒色砂壤土に暗オリーブ褐色砂混層
- 4 10YR5/3 に近い黄褐色砂に黒褐色粘土ブロック混層
- 5 10YR3/1 黒褐色砂壤土にに近い黄褐色砂下底面に堆積
- 6 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土
- 7 2.5Y3/2 黒褐色砂壤土
- 8 2.5Y2/1 黒色砂壤土に褐色砂少含有
- 9 2.5Y4/2 暗灰黄色砂に黒褐色砂壤土ブロック混層
- 10 2.5Y2/1 黒褐色砂壤土

旧番号を示す



〈SK25〉

1.20m a-



- 1 2.5Y2/1 黒褐色砂壤土
- 1' 2.5Y2/1 黒褐色砂壤土 I に比し粘性強い
- 2 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土



1.20m b-



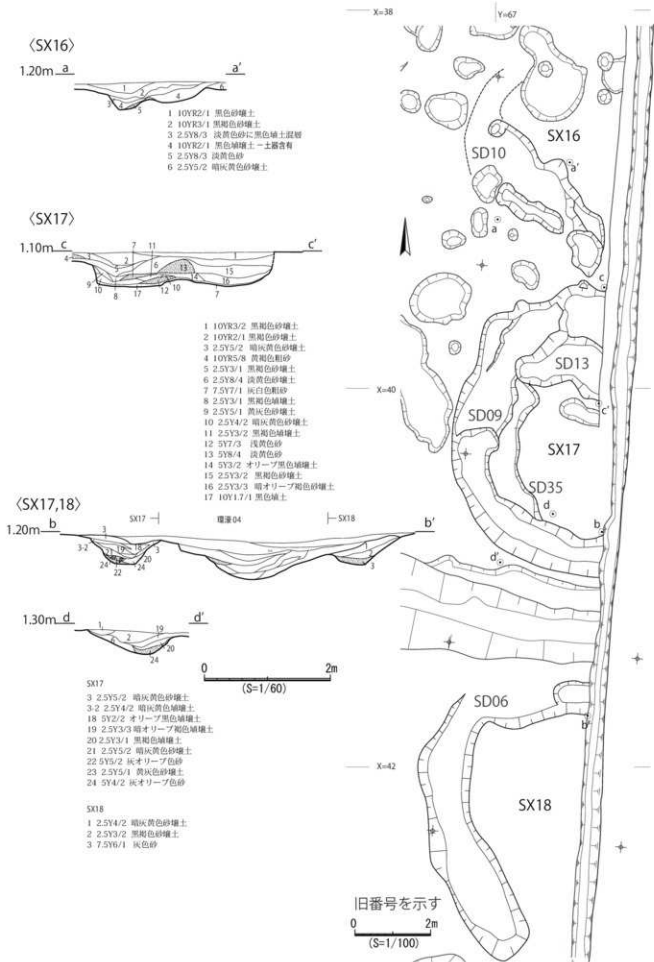
〈SK30,31〉

1.20m c-

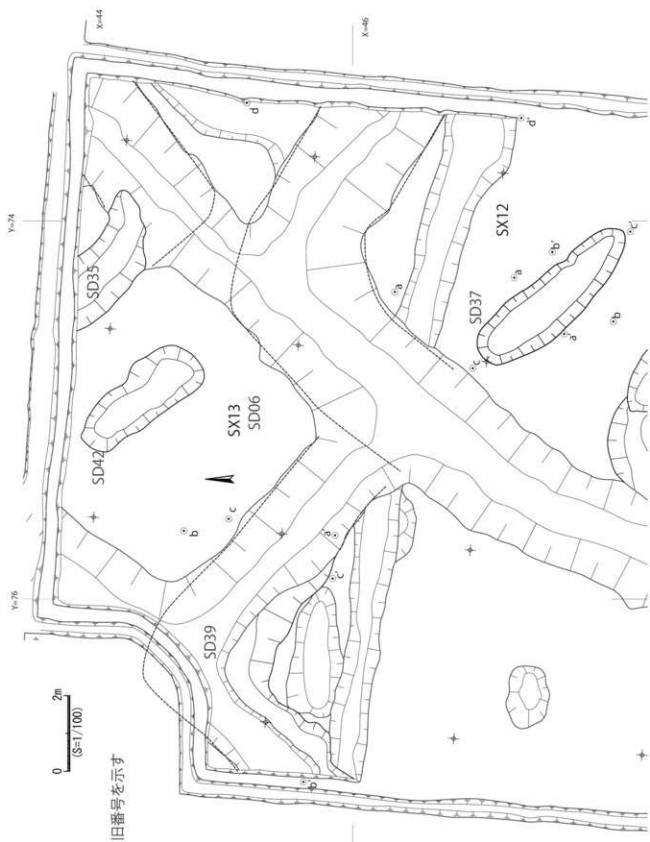


- 1 10YR2/2 黒褐色粘土(フシク層)
- 2 2.5Y5/1 黄褐色砂
- 3 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土
- 4 2.5Y5/1 黄褐色砂に暗灰色粘土ブロック混層
- 5 2.5Y4/1 黄褐色砂壤土
- 6 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土に黄褐色砂混層
- 7 2.5Y4/1 黄褐色砂
- 8 2.5Y4/1 黄褐色砂壤土に灰黄色砂、黒褐色砂壤土混層
- 9 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土(3層類似)
- 10 2.5Y4/1 黄褐色砂壤土
- 11 2.5Y2/1 黒褐色砂壤土

第 97 図 17 地区 SX09 他 平面図 (1/100), 断面図 (1/60)

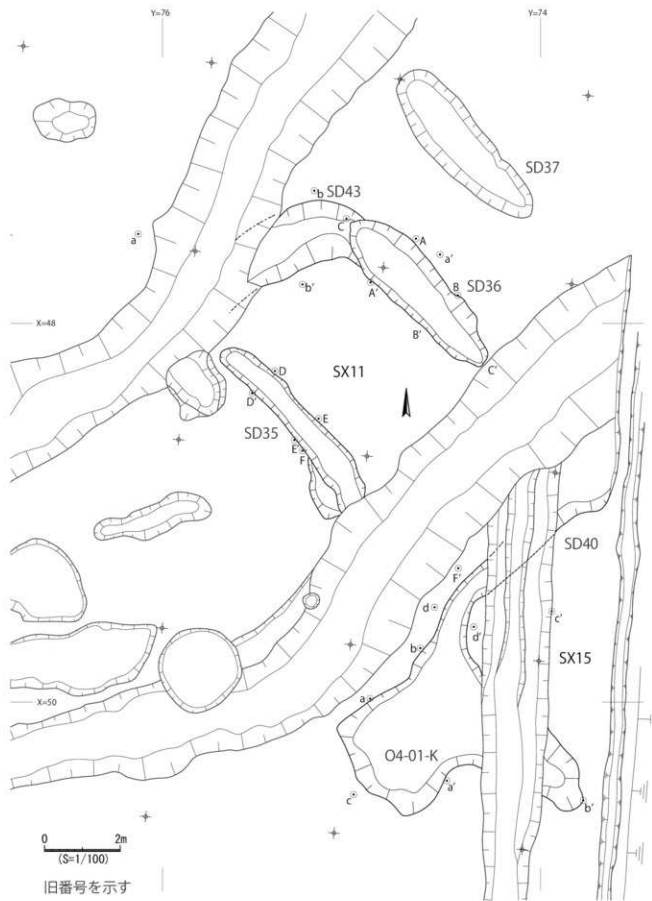


第98図 17地区SX16,17,18平面図(1/100),断面図(1/60)



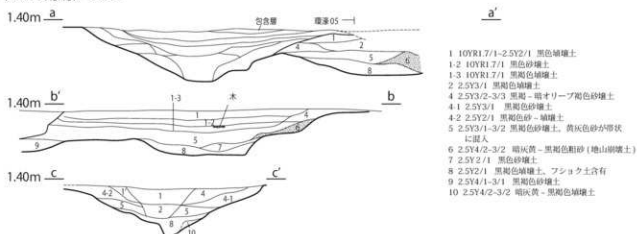
旧番号を示す

第99図 17(21)地区SX12,13平面図(1/100)

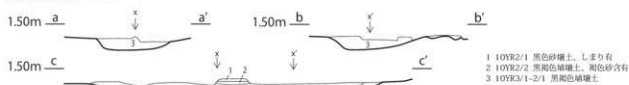


第 100 図 17(21)地区 SX11,15 他平面図(1/100)

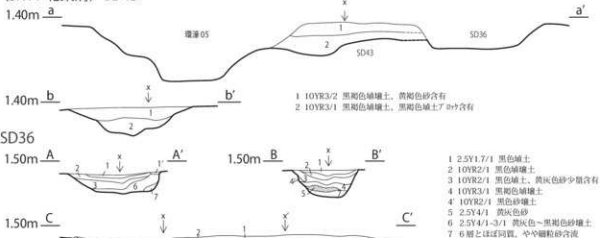
〈SX13 南溝〉SD39



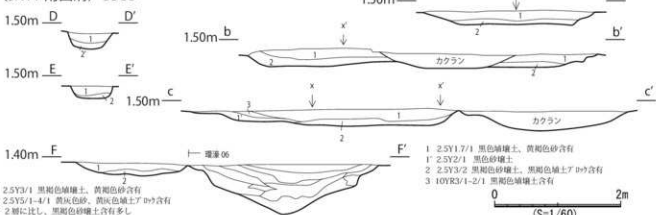
〈SX12 南溝〉SD37



〈SX11 北東溝〉SD43



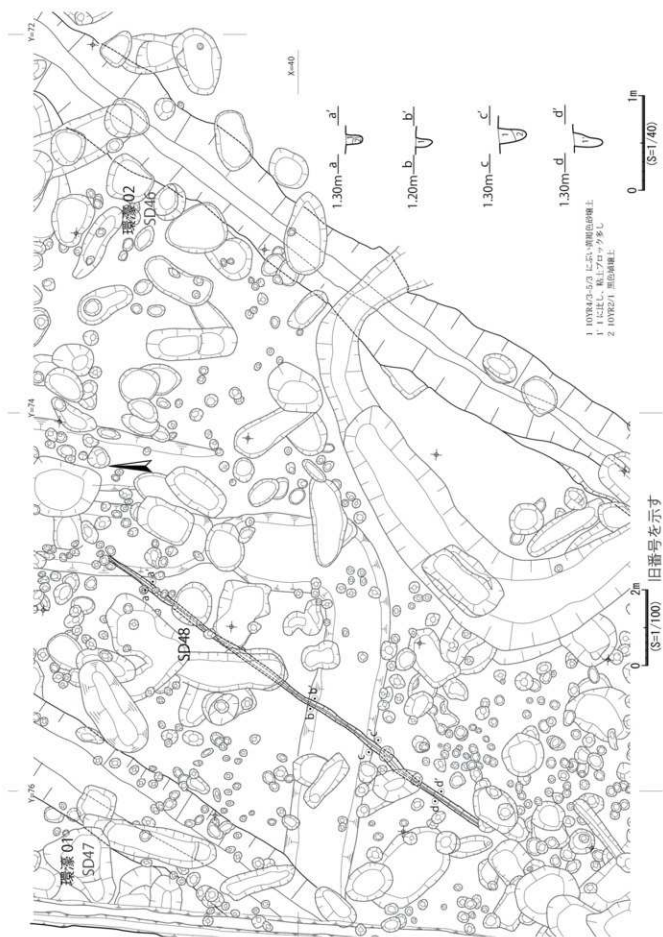
〈SX15 南西溝〉SD35



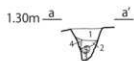
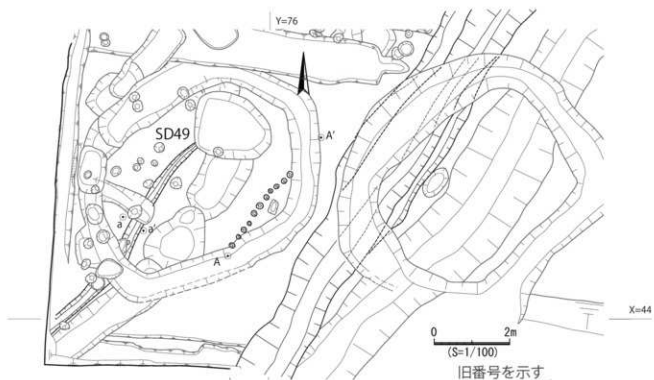
1 2.5Y3/1 黒褐色埴壤土, 黄褐色砂含有
2 2.5Y5/1-4/1 黄灰色砂, 黄灰色埴壤土?の含有
2' 2層に比し, 黒褐色砂含有多し

旧番号を示す

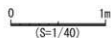
第101図 17(21)地区SX11,12,13,15断面図(1/60)



第102図 17地区SD48平面図(1/100),断面図(1/40)



- 1 IOYR3/1 黒褐色砂壤土
- 2 IOYR3/2 黒褐色粘壤土
- 3 IOYR3/2 黒褐色砂壤土、黒褐色粘土²の含有
- 4 IOYR4/2 灰黄褐色粗砂
- 5 IOYR5/3 灰赤褐色粗砂



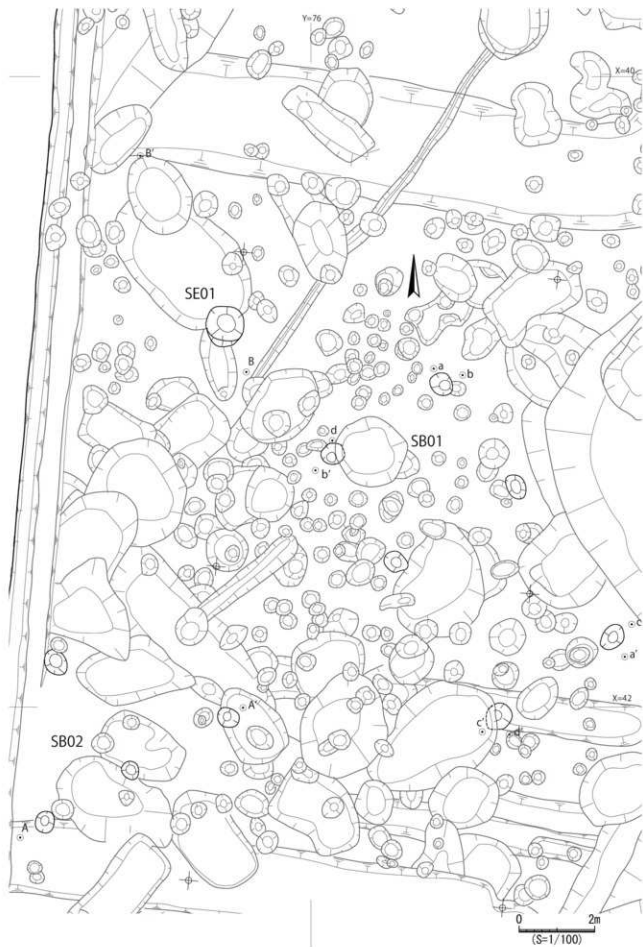
第103図 17地区SD49, 柵列平面図(1/100), 断面図(1/40)



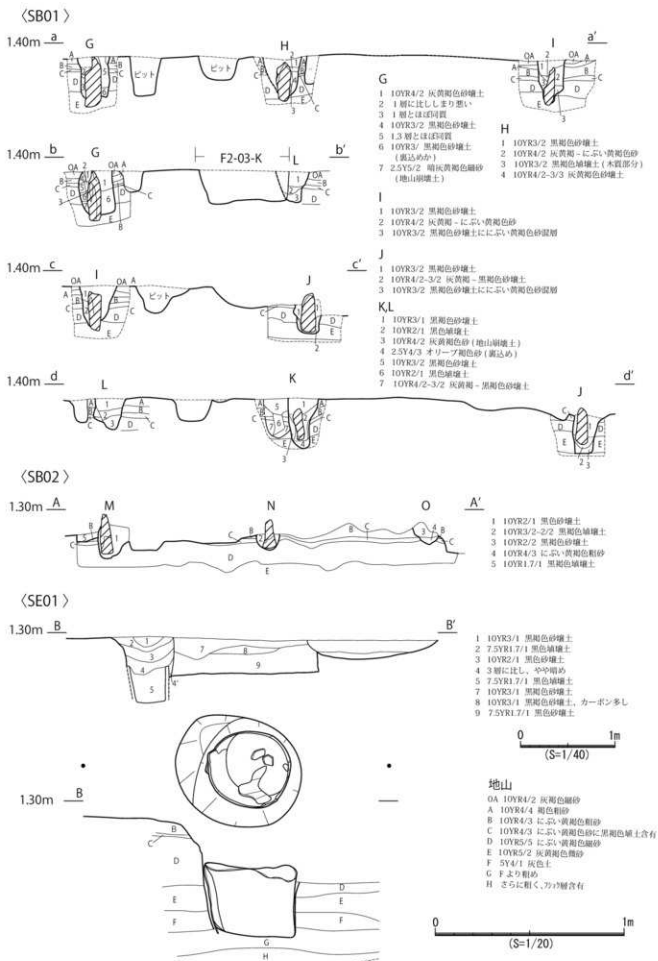
SD49 a アゼ



柵列(北から)



第104图 17地区SB01,SE01他平面图(1/100)



第105図 17地区 SB01,SB02,SE01 断面図(1/40),SE01 井戸枠図(1/20)

第7節 15・16地区

1. 調査区の概要

15、16地区は平成7年度に1,760㎡を調査実施しており、いずれも任意のグリッドを設定し、平成7年度は航空測量図化を行っている。当調査区は、複数の担当者が各4回にわたり発掘調査を実施した箇所でもある。

2. 遺構の概要

調査区は攪乱が多く見えたのか、重機による表土除去が深く掘削されており、遺構検出面は近隣の調査区と比べると低めである。検出した主な遺構は、環濠04、06、07、10、11、方形周溝墓11基、複数の土坑、平地式建物1棟、掘立柱建物2棟等がみられる。

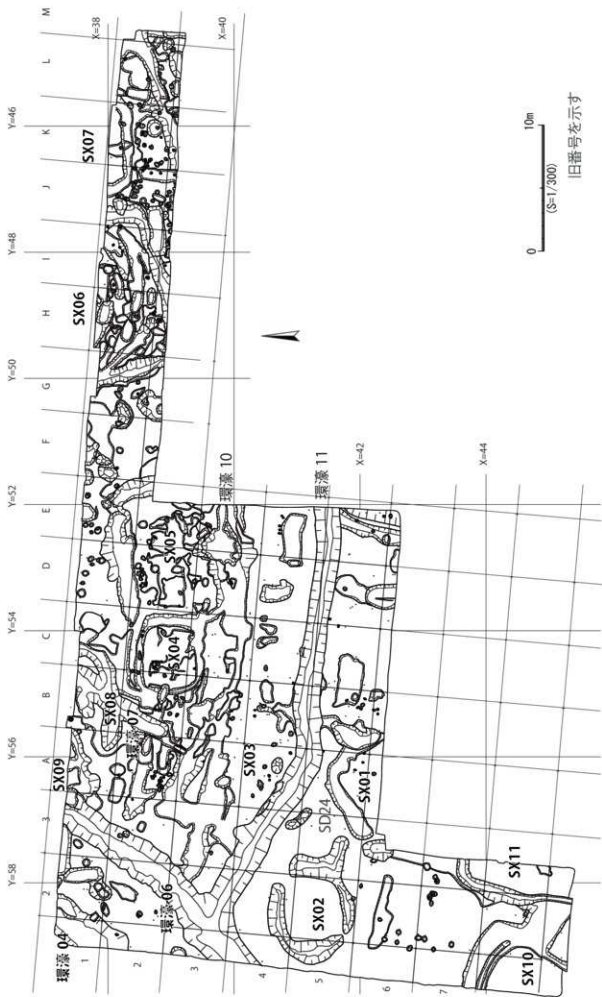
環濠06、11周辺は、検出当初全体に黒色土壌が全域に拡がっていたことから「2イコウ」と名づけ、セクションの設定をもとに遺物の取り上げを行いながら掘削している。掘削するに従い、環濠11に06が合流することが判明している。遺構形状から06と判断される箇所から出土する土器は、八日市地方遺跡6-7期に相当し、環濠11からは八日市地方5-6期の土器が出土している。環濠07は北に位置する11地区から続く環濠で、当調査区で途切れた状態となっている。環濠10は土層断面図及び写真を確認すると黒色埴壤土がみられ、旧名称でSD07Bと名付けられた遺構は、SD07Cを切っていることがわかり(第113図)、環濠10はSX03より新しいことがわかる。また、SD21もSD07Bと類似した断面をもつことから繋がる溝と思われる。出土土器は八日市地方8期が出土している。

方形周溝墓は現地調査から確認されていたものはSX02、04で、それ以外は図面整理の中から方形周溝墓の可能性が高いものとしてとりあげたものである。形状は隅円方形または長方形を呈し、10m越えるものから6m前後のものまでみられる。主体部はみつからない。SX02、04、05～08は供献土器から集落Ⅲ期に位置づけられる。SX11は八日市地方7期、SX01は八日市地方8期の土器が出土している。

SX06、07付近では、ピットや土坑が複数見つかり、特にSD06の内側には多重の溝がみられ、調査時は黒色土壌が拡がることから「1イコウ」として設けたセクションに合わせて遺物を取り上げている。この1イコウと名付けられた箇所は多重にめぐる平地式建物の周溝の可能性が高いと思われる、土坑や溝から出土する土器から集落Ⅱ期に位置づけられる。またSD07南側では、柱間寸法2m前後の建物跡がSB01、02がみられ、明瞭な土器は出土していないが、概ね方形周溝墓が築かれる以前、集落Ⅱ期に相当すると思われる。



1イコウF区周辺プラン確認状況(北から)



第 106 図 15,16 地区全体図 (1/300)



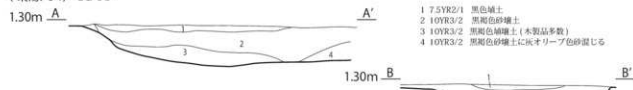
第 107 図 15,16 地区変遷図 (1/300)



*旧番号を示す

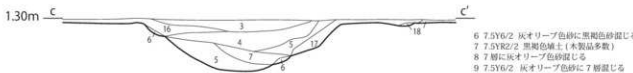
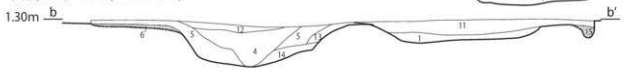
第 108 图 15,16 地区環濠平面図(1/300),断面図 1(1/60)

〈環濠 04〉 SD08



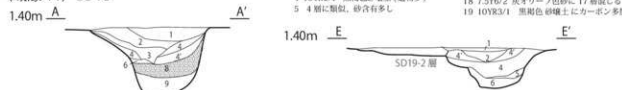
- 1 7.5YR2/1 黒色埴土
- 2 10YR3/2 黒褐色砂埴土
- 3 10YR3/2 黒褐色埴土(木製品多数)
- 4 10YR3/2 黒褐色砂埴土に灰オリーブ色砂混じる

〈環濠 06〉 2イ(A.B.E.F 区)

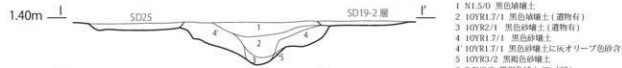


- 6 7.5Y6/2 灰オリーブ色砂に黒褐色砂混じる
- 7 7.5YR2/2 黒褐色埴土(木製品多数)
- 8 7層に灰オリーブ色砂混じる
- 9 7.5Y6/2 灰オリーブ色砂に7層混じる
- 10 7.5Y6/2 灰オリーブ色砂に4層混じる
- 11 10YR3/2 黒褐色埴土
- 12 7.5YR1/1 黒色埴土
- 13 7.5YR2/2 黒色埴土
- 14 13層に灰オリーブ色砂(地山砂)混じる
- 15 7.5YR/3 明褐色粗砂
- 16 10YR4/3 灰褐色砂埴土
- 17 2.5Y3/2 黒褐色埴土に地山砂少量混じる
- 18 7.5Y6/2 灰オリーブ色砂に17層混じる
- 19 10YR3/1 黒褐色砂埴土にカーボン多量混入

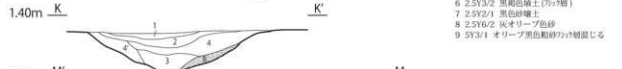
〈環濠 11〉 SD18



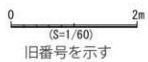
- 1 10YR3/2 黒褐色埴土に灰・黄褐色砂混じる
- 2 7.5Y6/2 灰オリーブ色砂1層混じる
- 3 10YR3/1 黒褐色埴土
- 4 10YR3/1 黒褐色砂埴土(遺物多)
- 5 4層に類似、砂含有多し



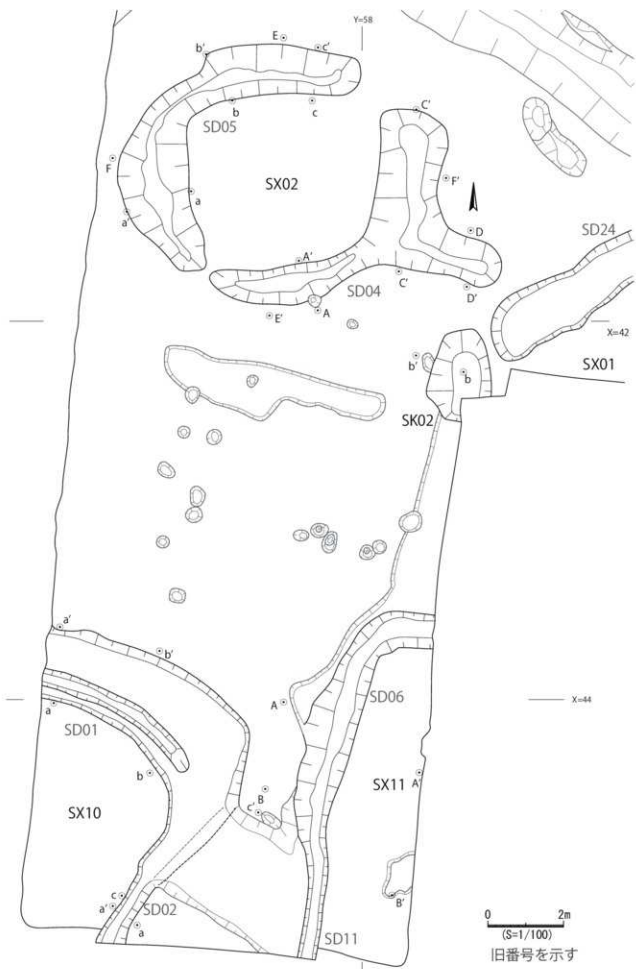
- 1 N1.5/0 黒色埴土
- 2 10YR1/1 黒色埴土(遺物有)
- 3 10YR2/1 黒色砂埴土(遺物有)
- 4 10YR1/1 黒色砂埴土
- 4' 10YR1/1 黒色埴土に灰オリーブ色砂含有
- 5 10YR3/2 黒褐色砂埴土
- 6 2.5Y3/2 黒褐色埴土(砂混)
- 7 2.5Y2/1 黒色埴土
- 8 2.5Y6/2 灰オリーブ色砂
- 9 5Y3/1 オリーブ黒色粗砂(砂)混じる



- 1 10YR3/2 黒褐色埴土(砂混)
- 2 7.5YR2/1 黒褐色埴土(砂混)
- 3 7.5YR3/1 黒褐色埴土(砂混)
- 4 2.5Y3/2 黒褐色埴土(砂混)
- 5 4層に灰オリーブ色砂少量含有
- 6 2.5Y4/2 暗灰褐色埴土(砂混)
- 7 7.5Y6/2 灰オリーブ色砂に黒褐色埴土微量混入
- 8 2.5Y3/2 黒褐色埴土
- ③ 灰黄色埴土(地山)

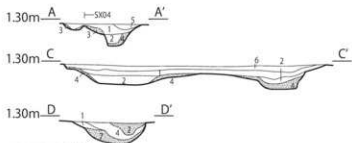


第109図 15,16地区環濠断面図2(1/60)



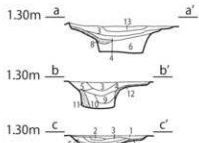
第 110 图 15,16 地区 SX02,10,11 平面图 (1/100)

〈SX02 東南溝〉SD04

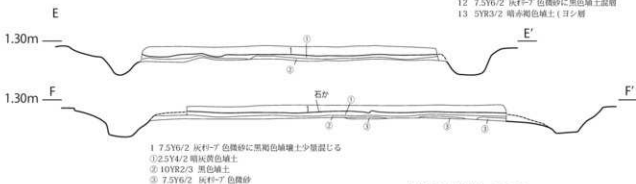


- 1 7.5YR2/1 黒色埴土
- 2 10YR3/1 黒褐色埴土
- 3 7.5Y6/2 灰棕色色機砂に黒褐色埴土ブロック混層
- 4 7.5Y6/2 灰棕色色機砂に黒褐色埴土混層
- 5 7.5YR3/1 黒褐色砂埴土
- 6 10YR2/1 黒色埴土(柱状作土)
- 7 7.5Y6/2 灰棕色色機砂に黒褐色埴土少量混じる

〈SX02 北西溝〉SD05

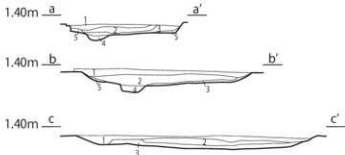


- 1 10YR2/2 黒褐色埴土
- 2 2.5Y4/1 黄灰色砂埴土に黒褐色埴土混層
- 3 7.5Y2/1 黒色埴土
- 4 7.5Y2/1 黒色埴土に黒褐色埴土混層
- 5 10YR3/1 黒褐色砂埴土
- 6 10YR2/2 黒褐色埴土(フシコ層)
- 7 7.5Y6/2 灰棕色色機砂に黒褐色埴土混層
- 8 7.5Y6/2 灰棕色色機砂に黒褐色埴土混層
- 9 10YR3/1 黒褐色砂埴土
- 10 10YR3/1 黒褐色砂埴土に灰棕色色機砂混層
- 11 7.5Y6/2 灰棕色色機砂に黒褐色埴土混層
- 12 7.5Y6/2 灰棕色色機砂に黒褐色埴土混層
- 13 5YR3/2 暗赤褐色埴土(柱状層)



- 1 7.5Y6/2 灰棕色色機砂に黒褐色埴土少量混じる
- ① 2.5Y4/2 暗灰黄色埴土
- ② 10YR2/3 黒色埴土
- ③ 7.5Y6/2 灰棕色色機砂

〈SX10 北溝〉SD01



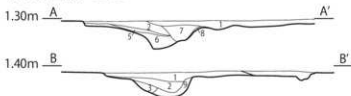
〈SX10 北溝〉SD02



- 1 7.5YR2/2 黒褐色埴土
- 2 7.5YR2/2 黒褐色埴土に灰棕色色機砂混層
- 3 2.5Y4/1 黄灰色埴土(地山か)

- 1 7.5YR2/2 黒褐色砂埴土
- 2 7.5YR2/2 黒褐色埴土
- 3 7.5YR2/2 黒褐色埴土
- 4 10YR2/2 黒褐色埴土
- 5 5YR4/1 暗灰色埴土

〈SX11 西溝〉SD06



- 1 10YR3/2 黒褐色埴土
- 2 2.5Y2/1 黒色埴土
- 3 2.5Y2/1 黒色埴土に灰棕色色機砂混じる
- 4 7.5YR3/1 黒褐色埴土
- 5 10YR3/2 黒褐色埴土
- 6 7.5Y6/2 灰棕色色機砂に黒褐色埴土混層
- 7 10YR3/2 黒褐色埴土に灰棕色色機砂混じる
- 8 7.5Y6/2 灰棕色色機砂に黒褐色埴土混層
- 8 7.5Y6/2 灰棕色色機砂に黒褐色埴土混層

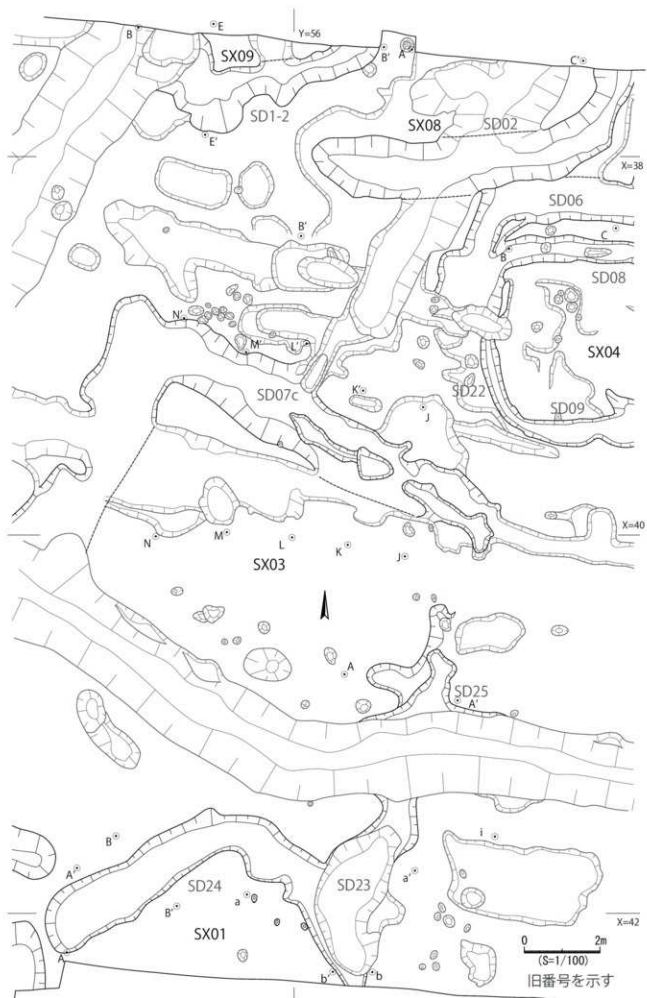
〈SK02〉



- 1 10YR3/2 黒褐色埴土
- 2 2.5Y2/1 黒色埴土
- 3 2.5Y2/1 黒色埴土に灰棕色色機砂混じる



第111図 15,16地区SX02,10,11断面図(1/60)



第112図 15,16地区 SX01,03,04,08,09平面図(1/100)

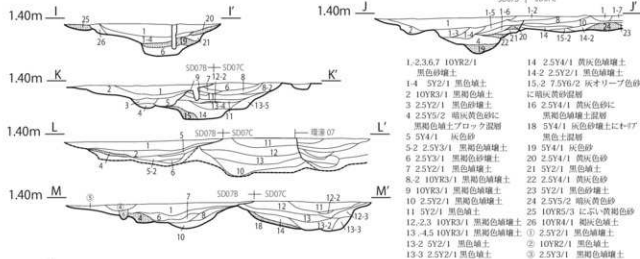
(SX01) SD24



(SX03) SD25



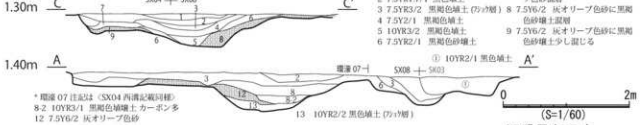
(SX03) SD07C



(SX09) SD1-2



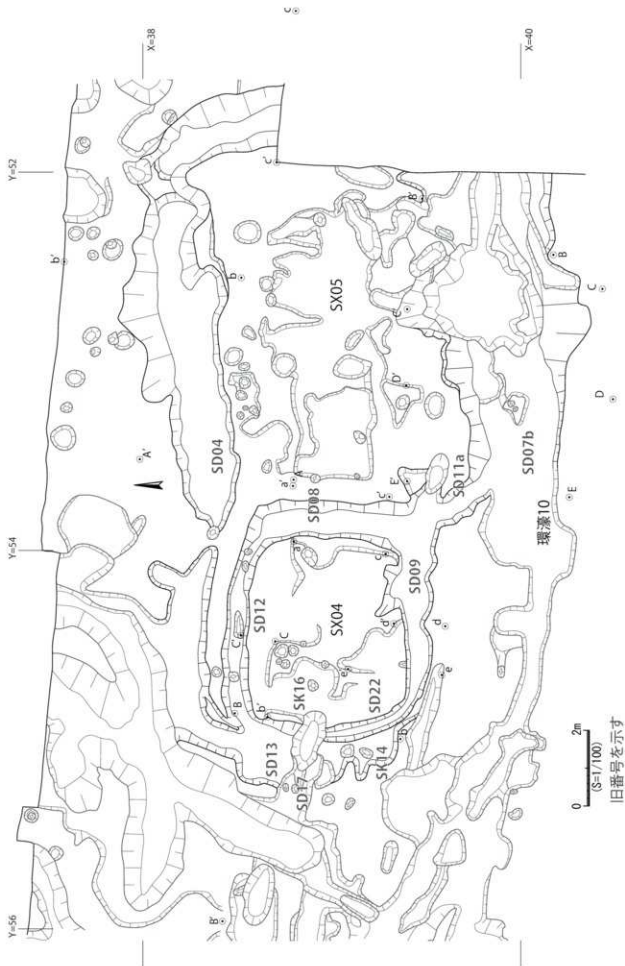
(SX08) SD02



* 断面 07 柱状S4 SX04 内清記載同様
8.2 10YR3/1 黒褐色砂礫土にカーボン多
12 7.5Y6/2 灰オリーブ色砂

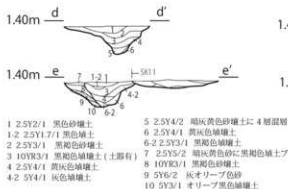
0 2m
(S=1/60)
旧番号を示す

第113図 15,16地区 SX01,03,08,09 断面図(1/60)

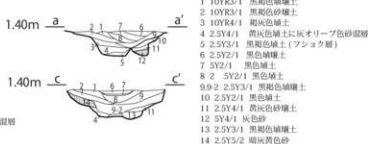


第114図 15,16地区SX04,05平面図(1/100)

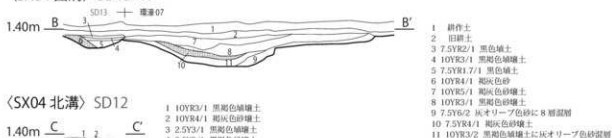
〈SX04 南溝〉 SD09



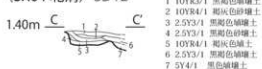
〈SX04 東溝〉 SD08



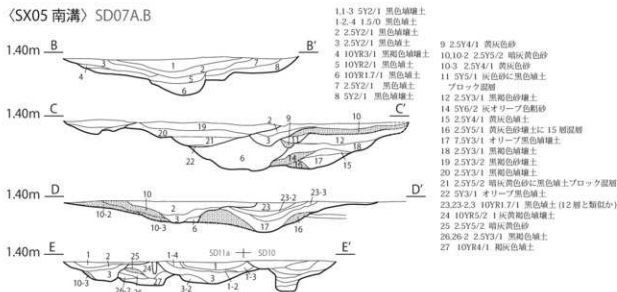
〈SX04 西溝〉 SD13・17



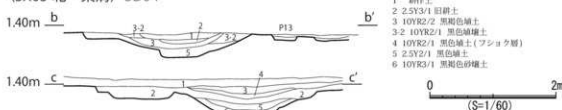
〈SX04 北溝〉 SD12



〈SX05 南溝〉 SD07A,B

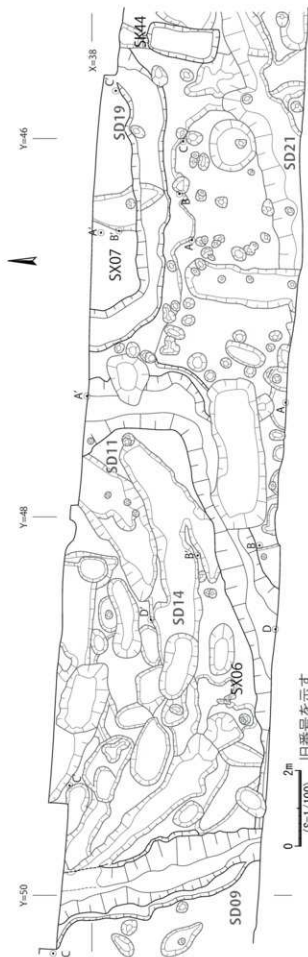


〈SX05 北・東溝〉 SD04



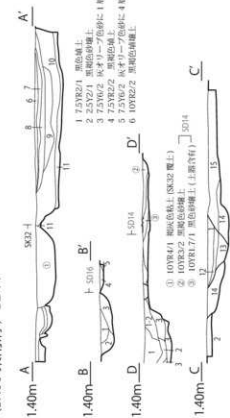
旧番号を示す

第 115 図 15,16 地区 SX04,05 断面図 (1/60)



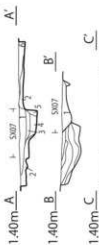
旧番号を示す

〈SX06 東南溝〉 SD11



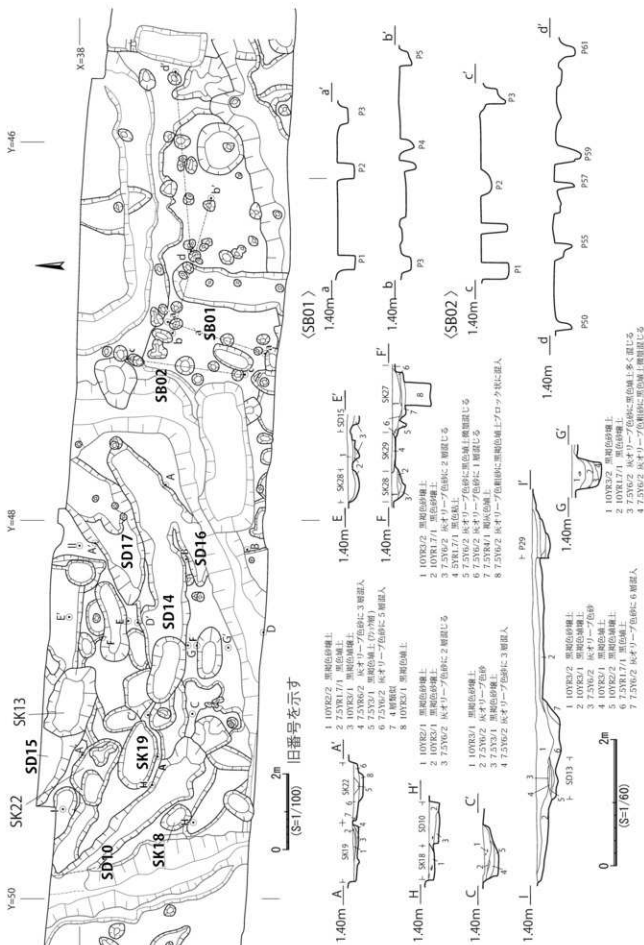
- 7 2.5Y2/1 黒色砂土 (アッシュク層)
- 8 10YR2/2 黒色砂土 (アッシュク層)
- 9 10YR1/1 黒色砂土 (アッシュク層)
- 10 2.5Y2/1 黒色砂土
- 11 7.5YR2 灰オリーブ色砂土 (0.5m 厚)
- 12 7.5YR1/1 黒色砂土 (アッシュク層)
- 13 10YR1/1 黒色砂土
- 14 10YR2/1 灰オリーブ色砂土 (1 層)
- 15 10YR2/1 黒色砂土 (灰オリーブ色砂土)

〈SX07 東南溝〉 SD19



- 1 10YR2/2 黒色砂土
- 2 7.5YR2 灰オリーブ色砂土 (1 層)
- 3 10YR2/1 黒色砂土
- 4 10YR1/1 黒色砂土
- 5 4 層に灰オリーブ色砂土
- 6 10YR5/2 灰黒色砂土 (1 層)

第 116 図 15,16 地区 SX06,07 平面図 (1/100), 断面図 (1/60)



第117図 15,16地区建物跡他平面図(1/100),断面図(1/60)

第8節 12・13地区

1. 調査区の概要

13地区は平成7年度に663㎡、平成8年度1,250㎡、平成9年度800㎡を調査実施しており、12地区は平成10年度に1,130㎡を対象に調査実施している。13地区は任意グリッドを設定し、12地区は国土座標を利用した統一グリッドを設定し、航空測量図化作成を行っている。

なお、本節では埋積浅谷部分は除き、遺構箇所のみを報告とする。

2. 遺構の概要

1) 12地区

検出した主な遺構は、環濠03A、03B、04、06、複数の土坑、掘立柱建物1棟、平地式建物3棟がみられる。また、Y=58-60の埋積浅谷肩部には集落Ⅱ期に位置づけられる貯木土坑である隅円長方形土坑がならぶ。

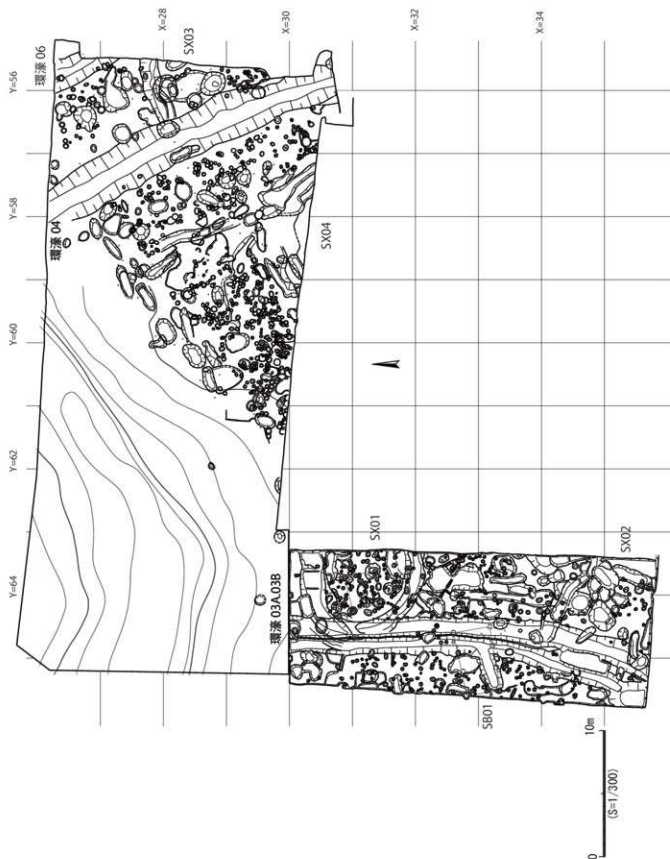
環濠03は、2本見つかっており、03Aは03Bと西側から称している。土層断面図をみると、03Bが03Aを切っていることが見受けられる(第120図)。03Aは基本的に黒色土壌堆積であるが、03Bは多くが砂を主体とした地山ブロック混じりの人為的埋土である。また中位層からは木製品、土器が多く出土している。03Aは出土土器から17地区からみられる環濠03と同時期の土器が出土しており、03Aが続くものとみられる。03Bは8期には埋まっていると思われ、SB01は両溝が埋まって後に造られたことが窺われる。環濠04は中層位から多くの遺物が出土しており、八日市地方6期に相当する。河道に注ぎ込むあたりは埋まりきっておらず、上層からは集落Ⅲ期の土器がみられ、離れるとともに次第に集落Ⅲ期の遺構が切っている。環濠06は11地区に続く溝で、中層位から木製品が多く出土しており、時期は概ね八日市地方6-7期に相当する。

掘立柱建物は、1間×3間として現地調査で確認されており、木柱根は残存しない。柱穴から良好な土器の出土がみられないため、詳細な時期比定はできないが、環濠機能時後であることから集落Ⅲ期に該当するものと思われる。

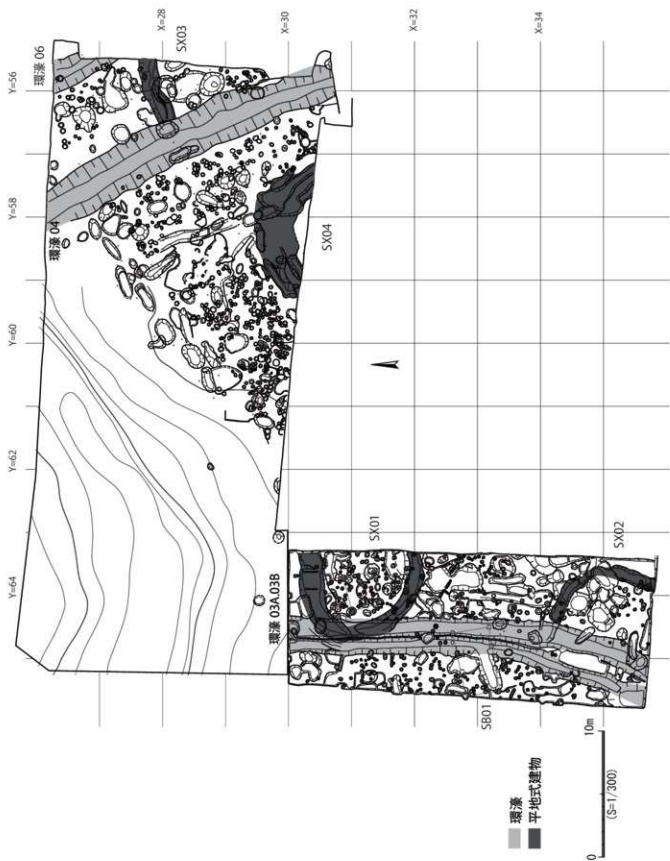
平地式建物は3棟見つかっており、いずれも集落Ⅲ期に位置づけられる。SX01は、中央やや西寄りに木柱根がみつかり、平面プランから建て替えが行われていたことが窺われる。また、柱中央部からは炭集中範囲がみつかり、SX01北側である埋積浅谷肩部では多量の碧玉製チップがみつかり、SX02は当初プラン確認で周溝が巡ることがわかっており、周溝からは近江系甕が出土している。SX04調査区南側は遺構精査を行っており、周溝が全周することがわかっている。周溝からはヘラ記号文をもつ壺型土器(報告1第112図3)が出土している。

2) 13地区

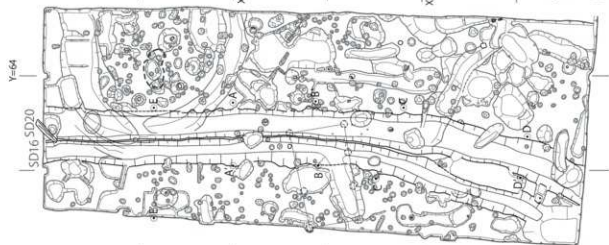
調査区は全体的に近世以降の擾乱を受けており、決して良好な状況ではない。主な遺構は、環濠01、02、平地式建物2棟、井戸2基、複数の土坑等がある。また調査区からは、多くの木柱根もみつかり、現地調査が急務であったため十分な検討ができていないが、2棟以上の平地式建物並びに多くの掘立柱建物が立つものと思われる。環濠01は主だった土器の出土はなく、概ね17地区と同様の様相を示す。環濠02下底面からは、八日市地方6期に相当する良好な一括土器資料が見つかり、SX01は当初、方形周溝墓と捉え調査していたものの、周溝内から木柱根がみえること等から、平成9年度に実施した現地説明会の際に平地式建物と議論になったものである。本節では、その後の遺物や断面等から平地式建物として報告するに至っている。SX01、02周溝及び周溝内の土坑からは、集落Ⅲ期の土器が出土している。



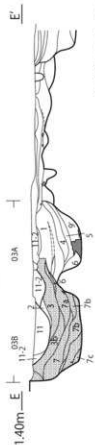
第 118 图 12 地区全体图 (1/300)



第119图 12地区変遷図(1/300)



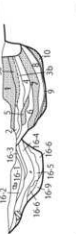
〈環濠 03A・03B〉 SD16・SD20



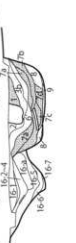
〈環濠 03B〉 SD20

- 1 2.535/1 黒灰色 - 黒灰色砂
- 2 10YR 6/1 黒褐色砂礫土 上層にプロット散在
- 3a 2.536/3 赤灰色砂礫土 黒灰色砂礫土上に散在
- 3b 10YR 5/1 赤褐色砂礫土 黒灰色砂礫土に散在
- 4 10YR 5/1 黒褐色砂礫土 黒灰色土プロット散在
- 5 3a層と同じ
- 6 10YR 5/1 黒褐色砂礫土 3ヶ所形成
- 7 2.536/3 赤褐色砂 黒灰色土上プロット散在 (本遺構物)
- 7a 3a層と同じ
- 7b 7層に北じ開き 黒灰色土プロット多含有
- 7c 7層に北じ開き 黒灰色土プロット多含有
- 7d 7層に北じ開き 黒灰色土プロット多含有
- 8 7層に北じプロット多含有
- 9 2.534/1 赤灰色砂礫土
- 10 2.536/1 赤灰色砂礫土
- 11 2.532/1 赤灰色砂礫土
- 11-2 11に北じ開き

1.20m A' A



1.20m B' B



1.20m C' C



〈環濠 03A〉 SD16

- 0 2.535/1 赤褐色砂礫土 上層に黒灰色砂礫土にYG
- 1 2.535/2 赤褐色砂礫土 カセコシ多量含有
- 2 2.535/2 赤褐色砂礫土 カセコシ多量含有
- 3 10YR 6/1 赤褐色砂礫土 赤褐色砂礫土プロット散在
- 4 10YR 5/1 赤褐色砂礫土 多量の赤褐色砂礫土含有
- 5 2.535/1 赤褐色砂礫土 赤褐色砂礫土プロット散在
- 6 2.536/3 赤褐色砂礫土 3ヶ所形成
- 7 2.535/1 赤褐色砂礫土 赤褐色土上プロット散在
- 8 2.536/2 赤褐色砂礫土 赤褐色土上プロット散在
- 9 2.534/1 赤褐色砂礫土

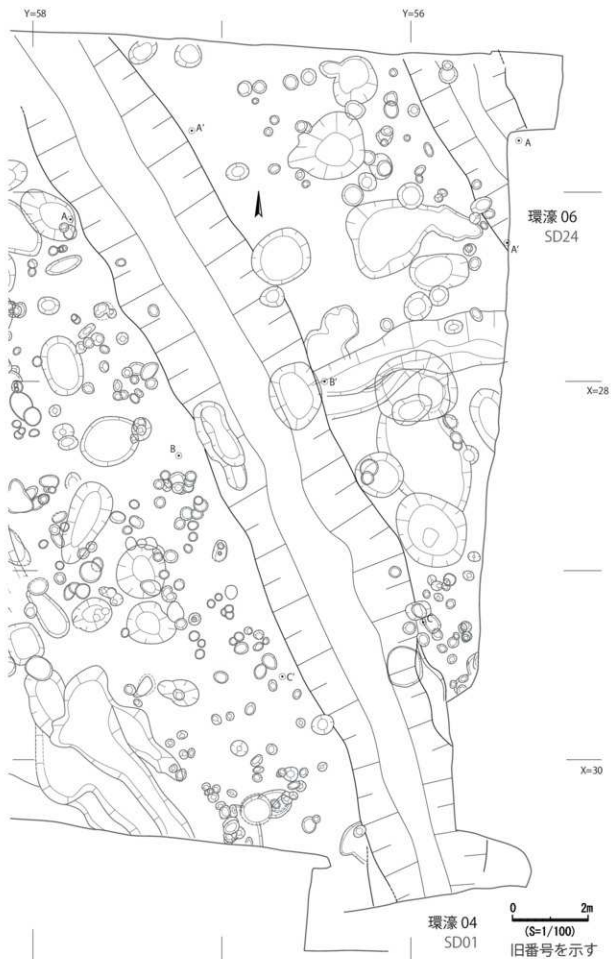
1.30m d' d



0 4m
(S=1/200)

旧番号を示す

第 120 図 12 地区環濠 03A・03B 平面図 (1/200), 断面図 (1/60)



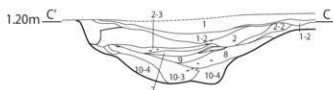
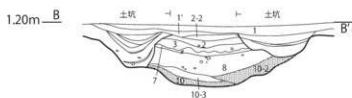
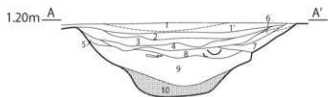
第 121 図 12 地区 環濠 04,06 平面図 (1/100)

〈環濠06〉SD24



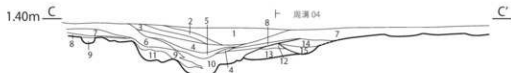
- 1 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土
- 2 10YR2/2 黒褐色砂壤土 1に比し暗め、木製品含有
- 3 2.5Y3/1 黒褐色粘土
- 4 5Y3/1 砂-ア黒色砂壤土

〈環濠04〉SD01



- 1 2.5Y2/1 黒色砂壤土(包含層)
- 1-2 2.5Y2.5/1 1層に比し砂多し
- 2 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土
- 2-2 2.5Y4/1 暗灰黄色砂 砂-ア多く含む
- 2-3 10YR2/2 黒色粘土(ワナ層)
- 3 2.5Y3/1 2層に比し粘土ア多し(遺物含有層)
- 4 10YR2/2 黒褐色粘壤土(ワナ層)
- 5 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土
- 6 2.5Y4/1 黄褐色粘壤土
- 7 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土
- 8 2.5Y3/3 暗砂-ア黒色砂壤土 ワナ層じり(遺物含有層)
- 9 10YR2/2 黒褐色粘土(ワナ層)
- 10 5Y4/1 灰色砂
- 10-2 10層に比しワナ層多し
- 10-3 2.5Y2.5/1 黒褐色粘土(ワナ層)
- 10-4 5Y3/1 砂-ア黒色砂壤土

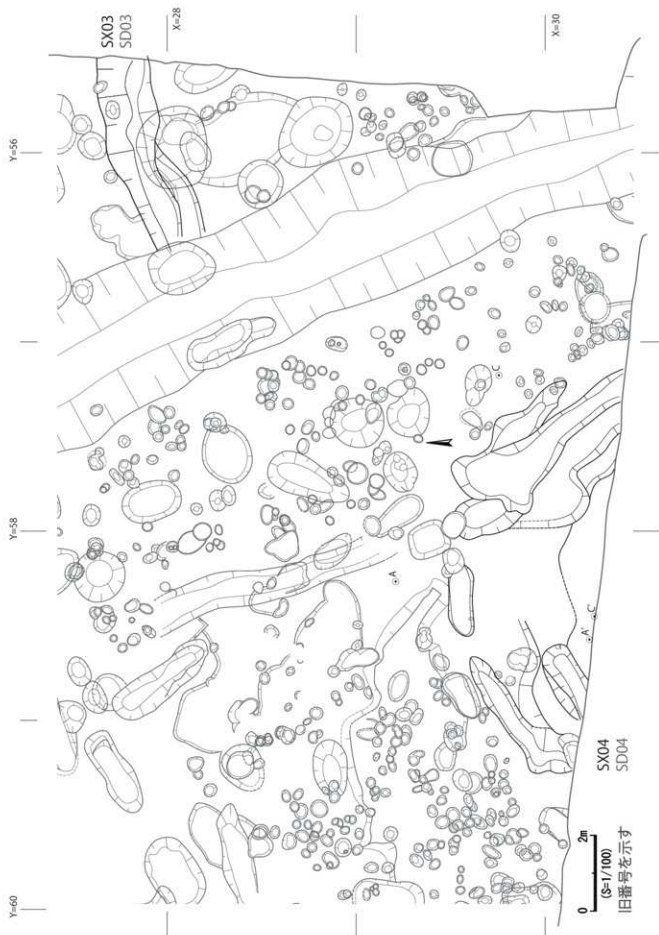
〈SX04〉SD04. 周溝04



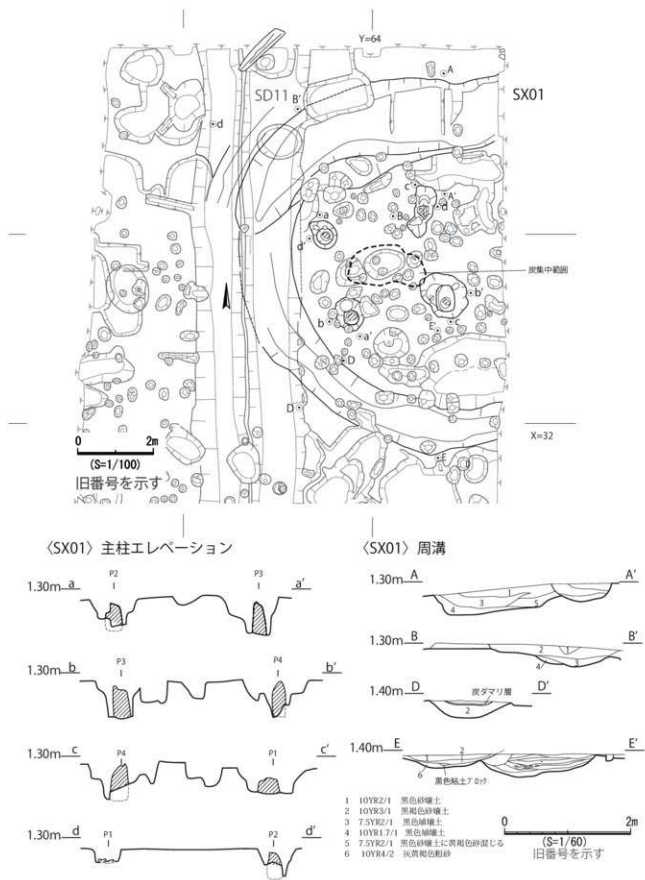
- 1 2.5Y2/1 黒色砂壤土(包含層)
- 2 2.5Y2/1 1層に比し砂多し
- 3 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土 砂-ア多く含む
- 4 2.5Y2/2 黒褐色粘壤土(ワナ層)
- 5 ワナ、皮だまり層
- 6 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土に黄褐色砂混じる(遺物含有層)
- 7 2.5Y3/1 黒褐色粘壤土
- 8 灰だまり層
- 9 2.5Y2/1 黒色砂壤土 黄褐色-灰色砂多く含む
- 10 2.5Y2/1 黒色粘土(ワナ層 遺物含有層)粘土土器出土
- 11 2.5Y2/2 黒褐色粘壤土(ワナ層)
- 12 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土
- 13 2.5Y3/2 黒褐色粘壤土 灰黄褐色粘土ア多し多く含む
- 14 2.5Y3/1 黒褐色砂壤土 灰黄褐色粘土ア多し多く含む
- 14-2 10YR2/1.5 黒褐色砂壤土
- 15 2.5Y2.5/2 黒褐色砂壤土
- 16 2.5Y2/1 黒色粘土
- 17 2.5Y2/1 黒色粘壤土



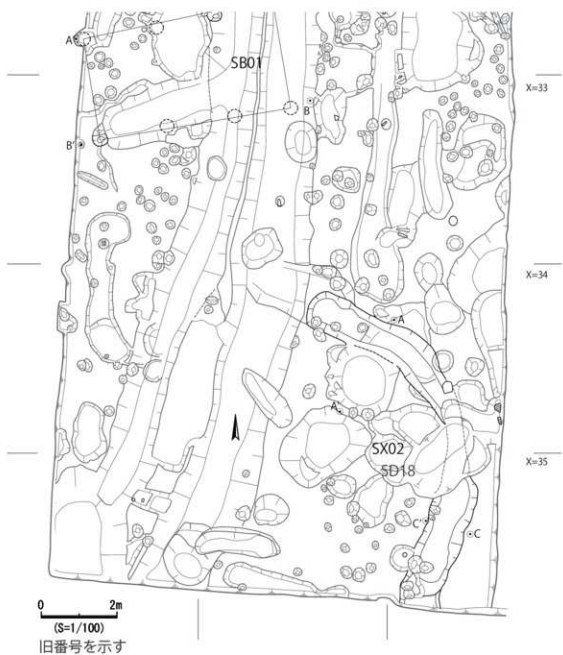
第122図 12地区環濠04,06,SX04断面図(1/60)



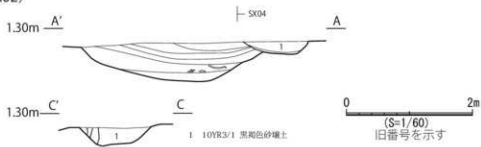
第 123 図 12 地区 SX03,04 平面図 (1/100)



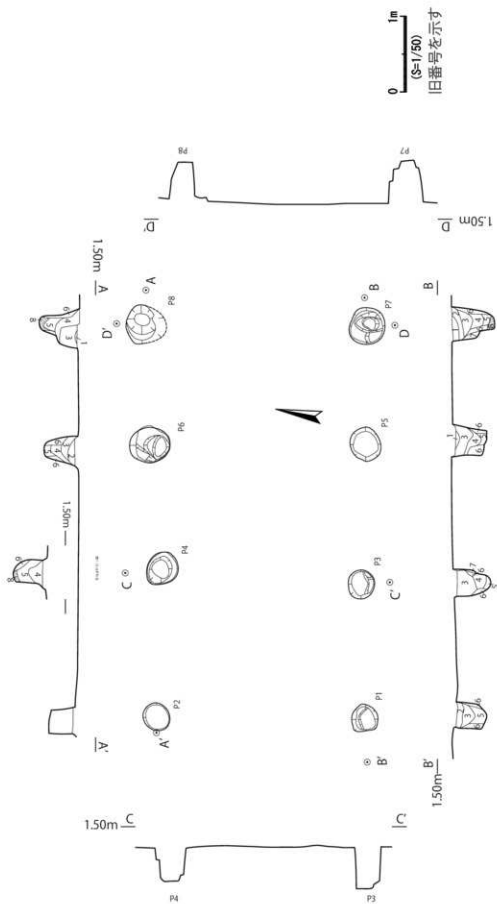
第124図 12地区SX01平面図(1/100),断面図(1/60)



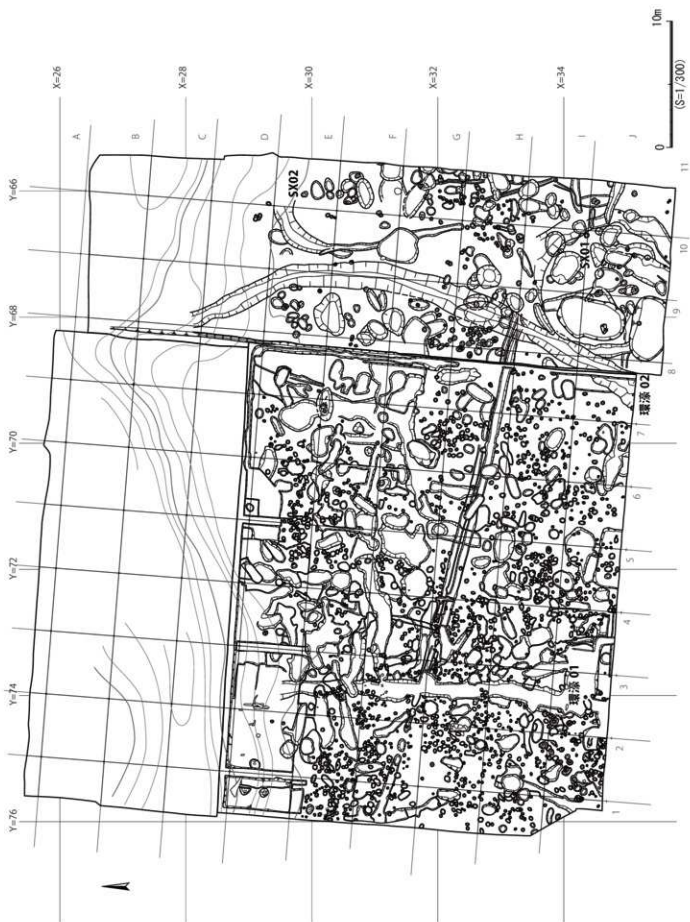
<SX02>



第125図 12地区SX02平面図(1/100), 断面図1(1/60)



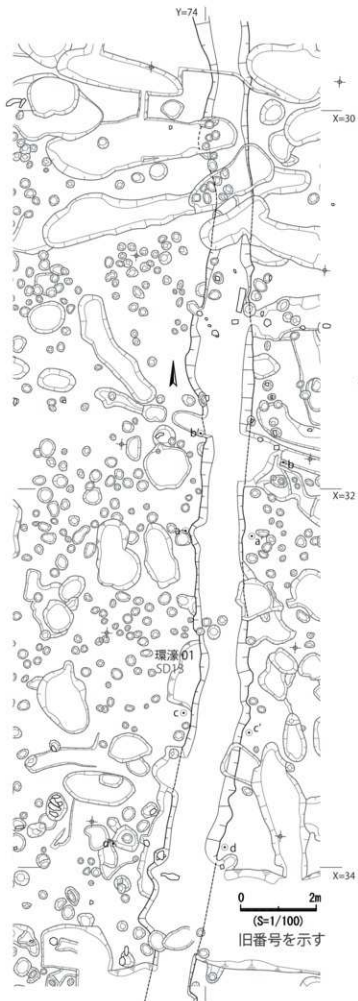
第 126 图 12 地区 SB01 平面図、断面図 (1/50)



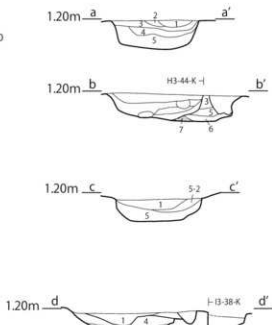
第127图 13地区全体图(1/300)



第128図 13地区変遷図(1/300)



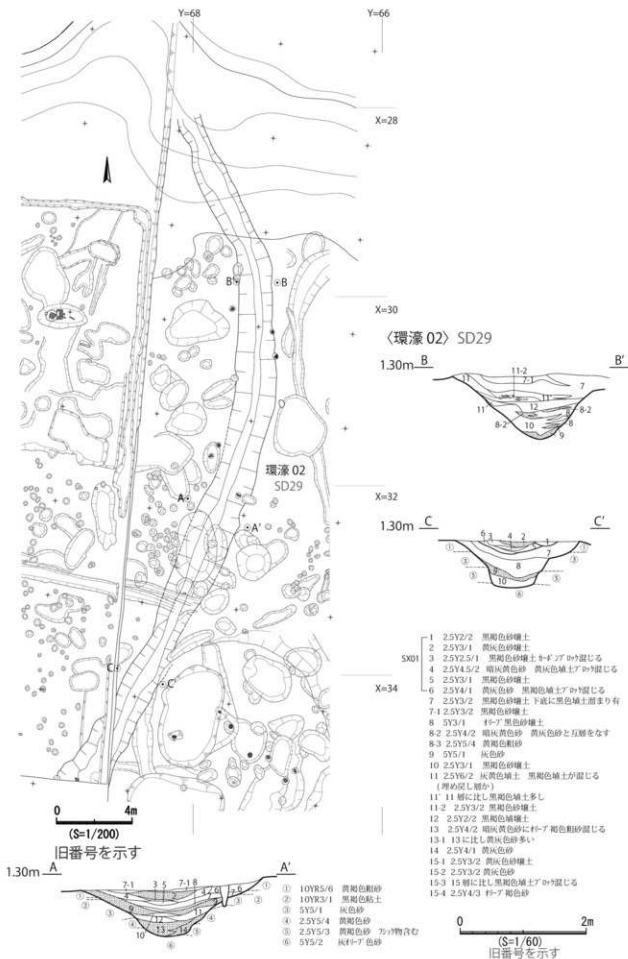
〈環濠01〉SD13



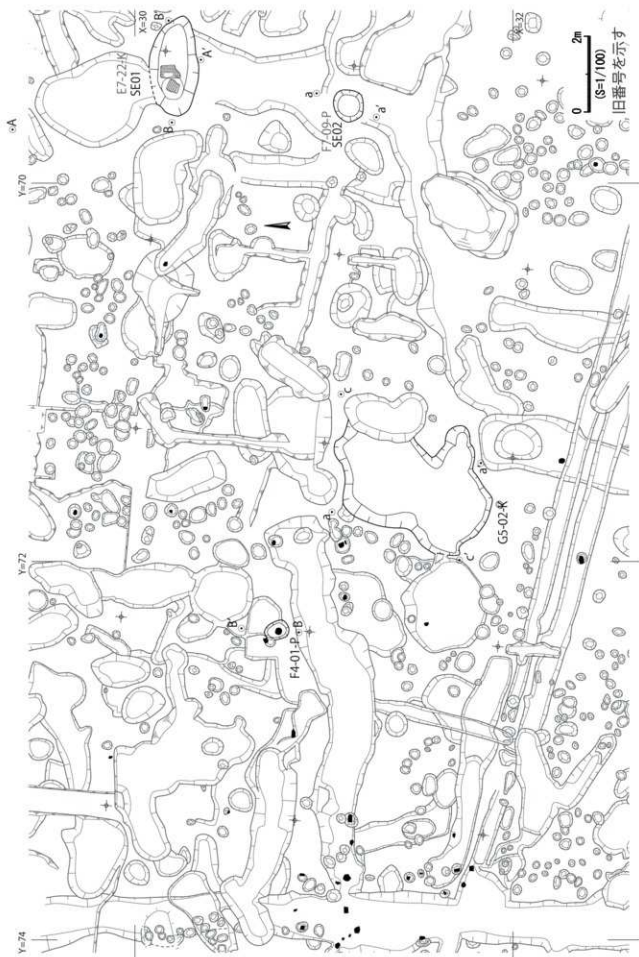
- 1 2.5Y3/1 黒褐色砂礫土
- 2 2.5Y4/1 黄灰色砂礫土
- 3 2.5Y3/1 黒褐色砂礫土に灰黄色砂含む
- 4 3層に比し灰黄色砂多く含む
- 5 黄灰色砂 - 黒褐色砂礫土の互層 70%物含む
- 6 2.5Y2/1 黒色砂礫土 70%物含む
- 7 10YK3/3 暗褐色砂



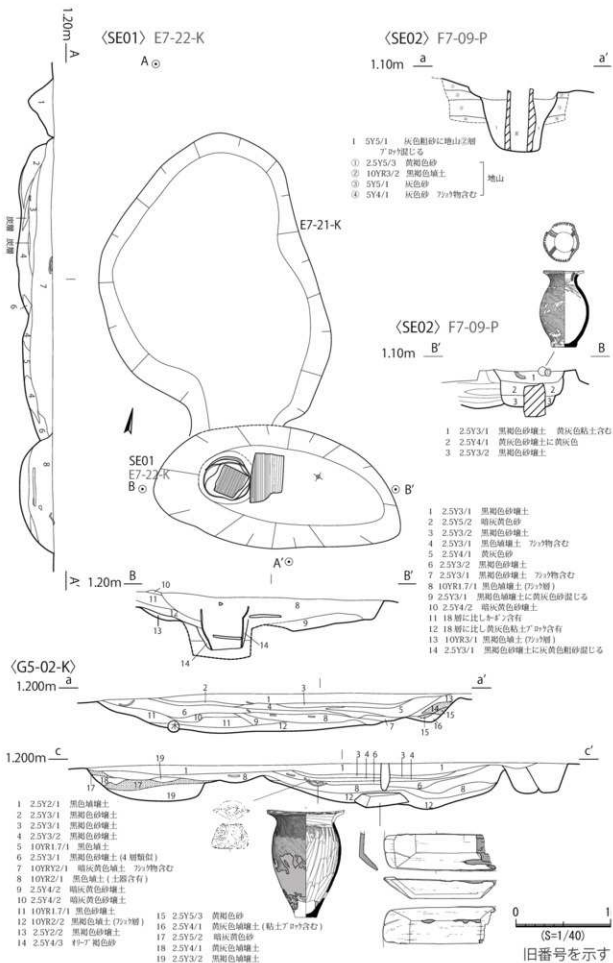
第129図 13地区環濠01平面図(1/100),断面図(1/60)



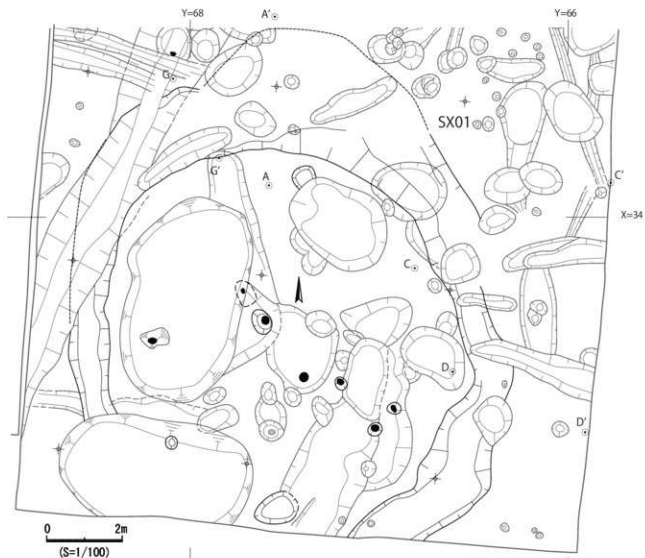
第130図 13地区環濠02平面図(1/200),断面図(1/60)



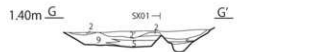
第 131 図 13 地区 SE01,02 他平面図 (1/100)



第132図 13地区 SE01,02 他平面図,断面図(1/40)



〈SX01 周溝〉

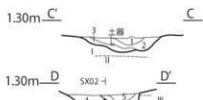
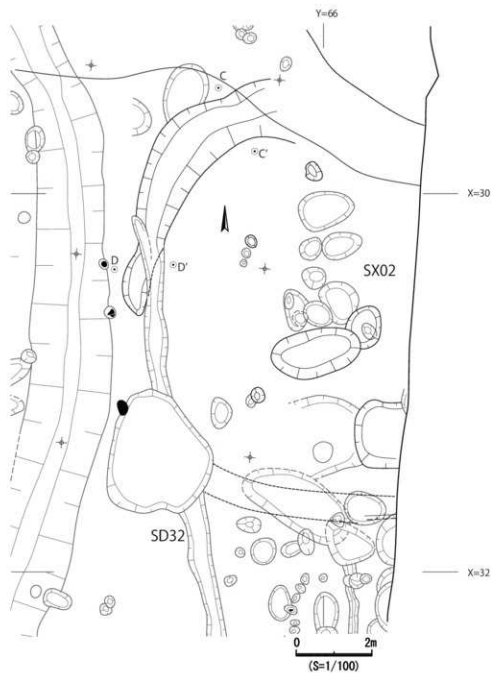


- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂壤土
- 2 2.5Y2/1 黒褐色砂壤土
- 3 2.5Y2/1 黒色粘土 炭多く含む
- 4 2.5Y3/2 黒褐色砂壤土(土層含有)
- 5 2.5Y2/1 黒色粘壤土
- 6 2.5Y1.7/1 黒色粘壤土
- 7 2.5Y2/2 黒褐色砂壤土
- 8 2.5Y3/2 黒褐色砂壤土
- 9 2.5Y4/2 暗灰黄色砂
- 10 2.5Y3/2 黒褐色砂壤土

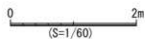
- 地山
- I 2.5Y2/1 黒色粘土
 - II 10YR4/2 灰黄褐色砂
 - III 2.5Y6/3 に近い黄色粘壤土



第 133 図 13 地区 SX01 平面図 (1/100), 断面図 (1/60)



- 1 2.5Y2/1 黒色埴土 炭片多し
- 2 2.5Y3/2 黒褐色砂埴土
- 3 2.5Y3/1 黒褐色砂埴土に黄褐色砂含む
- 4 2.5Y3/2 黒褐色砂埴土
- 5 2.5Y2/1 黒色砂埴土
- 6 2.5Y2/1 黒色砂埴土 5層に比しカッ物多し
- 7 6層に比し炭屑多い



SX02 遺物検出状況(北から)

第134図 13地区SX02平面図(1/100),断面図(1/60)

第9節 11地区

1. 調査区の概要

11地区は平成8年度に2,590㎡、平成10年度に860㎡を調査実施している。いずれも平成8年度に設定した任意のグリッドを設定し、航空測量図化作成を行っている。調査担当者はもっとも多い6名にわたり、調査区も大きく3回に分けて実施している。

2. 遺構の概要

調査区は黒色埴土を覆土にもつ集落Ⅲ期に併行する遺構下は、全体に褐～褐灰黄色砂に覆われ、良好な集落Ⅱ期の生活域が展開している。また、もっとも多く製玉関連遺物の出土や木柱根、膨大な土坑群の発見に合わせて、土器量は26地区埋積浅谷と同等の約パンケース800箱をはかる。

検出した主な遺構は、環濠06、07、方形周溝墓2基、複数の土坑、掘立柱建物4棟以上がみられる。

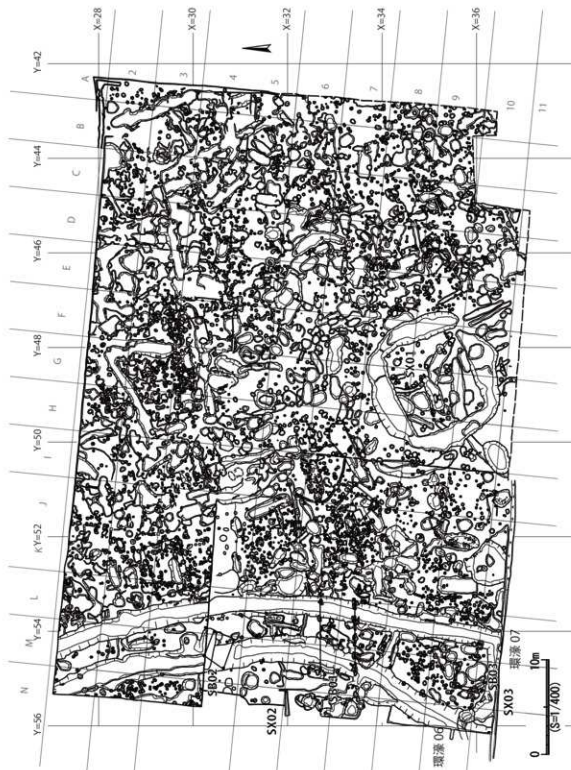
環濠06、07は、平地式建物と思われるSX02や複数の土坑に切られている。環濠06中層からは多くの木製品や八日市地方6-7期併行の土器が出土している。調査担当者によると、下層には木くず層が散見されたとのことで、未成品、半成品との出土と合わせても集落Ⅱ期における木器加工が行われていた可能性が高い。環濠07は06と比較すると、堆積土の多くは黒色土壌であり、環濠06埋没後掘削されたものと考えられ、中層に出土する土器は八日市地方7-8期であり、土器形式との齟齬もない。また、環濠廃絶時に遺物廃棄をする際、環濠肩部を切る土坑が掘削されるようで、環濠内の出土遺物と同様に多量の土器、木製品が出土している。

方形周溝墓の形状は隅円方形を呈し、10mを超え、1隅の陸橋部をもつと考えられる。この周溝上層からは、シカの描かれた絵画土器片やシカが胸に描かれた人形土製品(報告Ⅰ第100図17)がみられ、特異な祭祀遺物が伴う墓でもある。また、調査終了間際に南側道路下から発見された魚形木製品(報告Ⅰ第297図38)は、環濠06、07の高まりを利用した集落Ⅲ期併行の方形周溝墓の可能性が高い周溝からの発見であり、墓に供献する特異的な発見がみられる地区でもある。

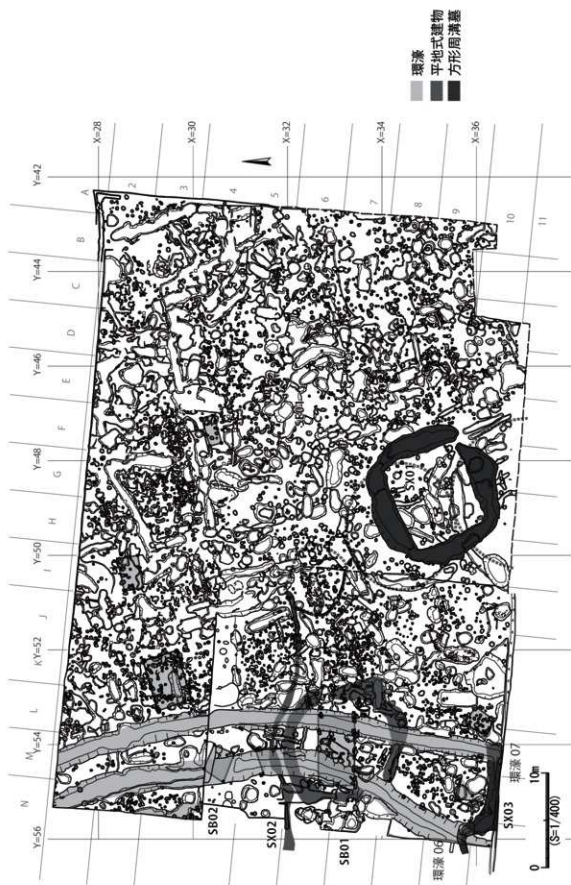
平地式建物としたSX02はSX01同様黒色土壌堆積により円形のプランが確認されたものである。この周溝周辺には、碧玉チップ、玉作関連遺物が出土し、建物との関係が気になるところである。この建物の主柱穴は明確には分かっておらず、ちょうど1間×4間の木柱根を残すSB01と重なりを見せるところは興味深い。木柱は調査終了段階で4間に伸びることがわかり、周溝との関係は現地では捉えにくいものであるが、環濠06、07を切っていることから集落8期以降に位置づけられ、平地式建物周溝同様で集落Ⅲ期に位置づけられる。また、SB03のような柱間寸法2mほどの1間×1間は、4棟以上見つかった。

なお、この2本の環濠付近では多くの木柱根が発見されており、今後、遺物を合わせた資料検討とともに建物がさらに多く復元できるものと思われる。

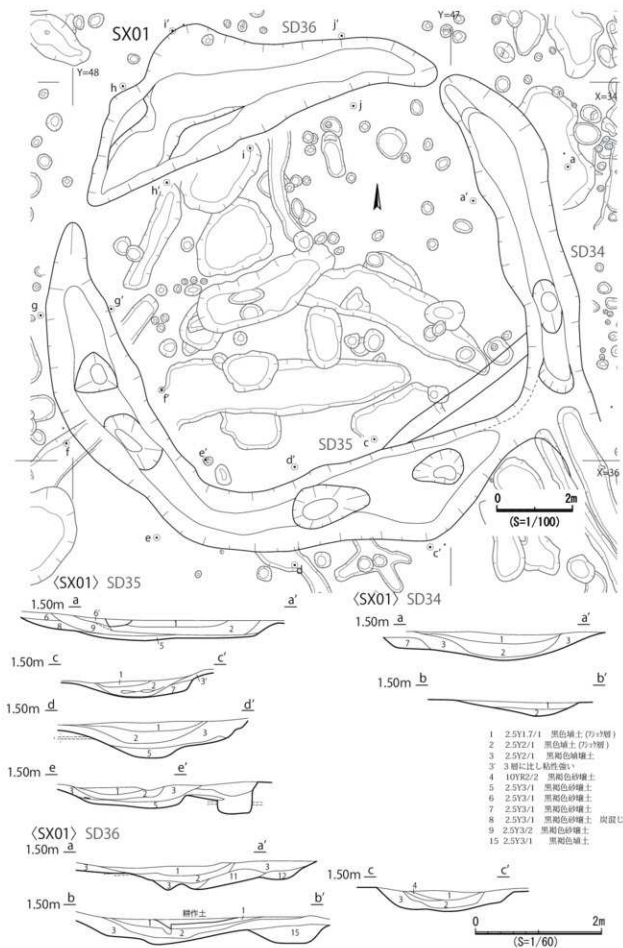
SE01は当遺跡のなかで最も良質な樹皮利用の井戸であり、樹皮を内杭と外杭で固定していたことが窺われる。また下層にも重なって同質の樹皮製枠が出土しており(第142図)、作り直しが行われていることがわかる。時期は小片であるが、集落Ⅱ期の土器片が出土しており、概ね集落Ⅱ期相当と思われる。



第 135 图 11 地区全体图 (1/400)



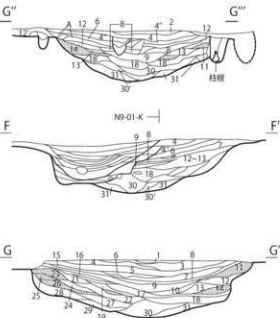
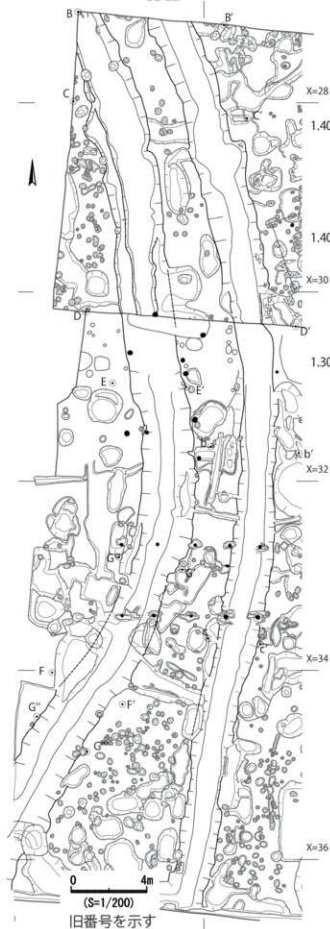
第136图 11地区变遷图(1/400)



第 137 图 11 地区 SX01 平面图 (1/100), 断面图 (1/60)

環濠 06 環濠 07 Y=50
SD24 SD22

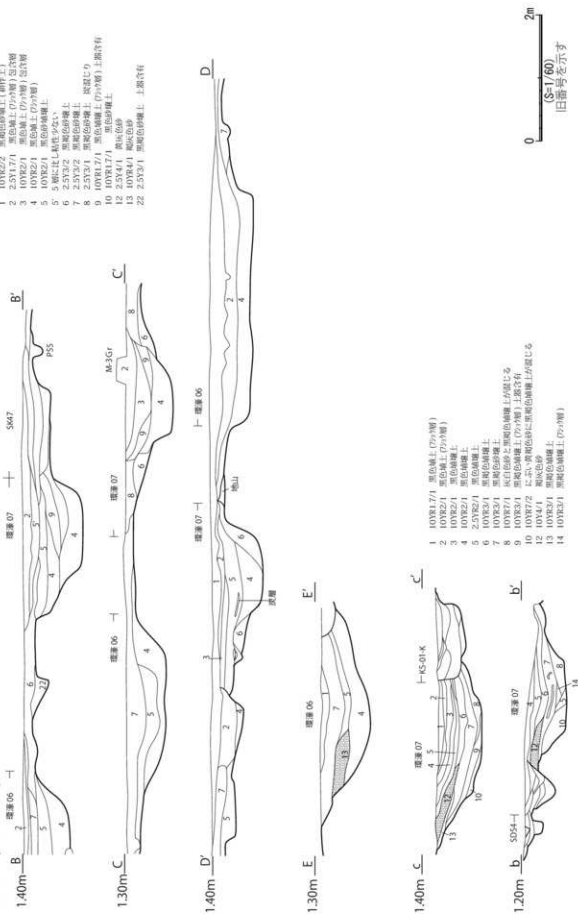
〈環濠 06〉 SD24



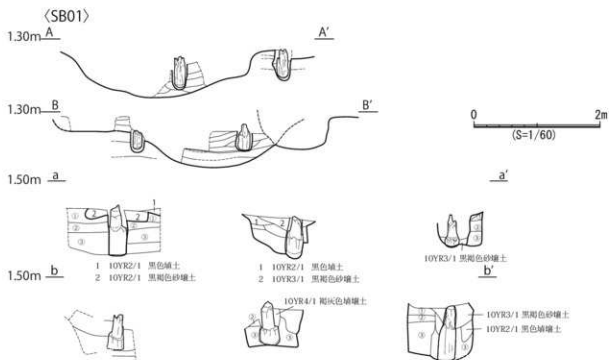
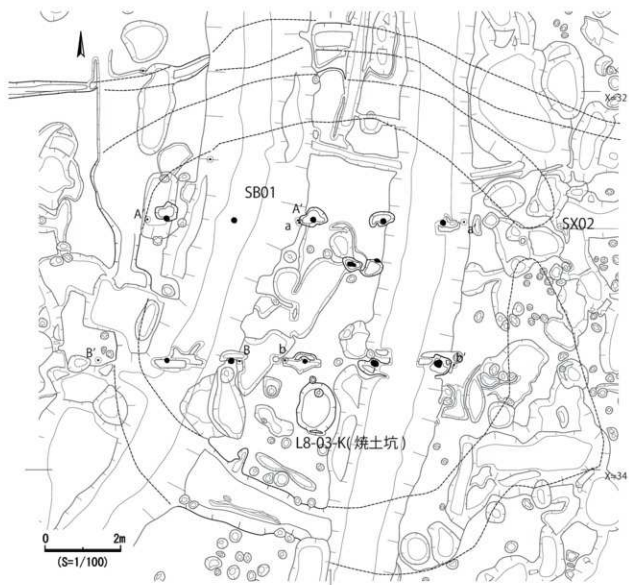
- 1 10YR4/2 灰黄褐色砂礫土
- 2 10YR3/1 黒褐色砂礫土
- 3 10YR2/1 黒色埴土 土器含有
- 4 1層に比し黒色粘土ブロック層になる
- 5 10YR2/2 黒褐色埴土
- 6 10YR1/1 黒色埴土
- 7 6層に比し砂多し
- 8 10YR1/7/1 黒色埴土 (7/1層)
- 9 10YR2/1 黒色埴土 (7/1層)
- 10 10YR3/1 黒褐色埴土
- 11 10YR4/2 灰黄褐色砂にぶい黄褐色砂
- 12 10YR2/1 黒色埴土
- 13 10YR4/1 黒灰色砂に黒褐色砂混じる
- 14 11層類似
- 15 10YR3/1 黒褐色埴土
- 16 15層に比し粘土含有多い
- 17 10YR2/1 黒色埴土
- 18 10YR2/2 黒褐色埴土
- 19 10YR3/1 黒褐色砂礫土
- 20 11,14層類似
- 21 13層類似
- 22 10YR3/3 黒褐色砂礫土
- 23 10YR4/2 灰黄褐色粗砂
- 24 22層類似
- 25 23層類似
- 26 10YR4/2 灰黄褐色砂しまり有
- 27 10YR3/1 黒褐色埴土 (7/1層)
- 28 2.5Y3/2 黒褐色砂礫土
- 29 10YR3/2 黒褐色砂礫土
- 30 29層に比し7/1層物多し
- 31 2.5Y3/2 黒褐色砂礫土

第138図 11地区環濠06,07平面図(1/200),断面図(1/60)

(環濠06,07) SD22,SD24

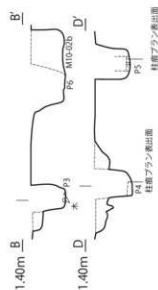
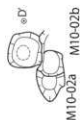
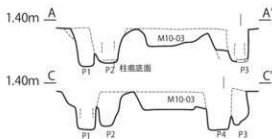
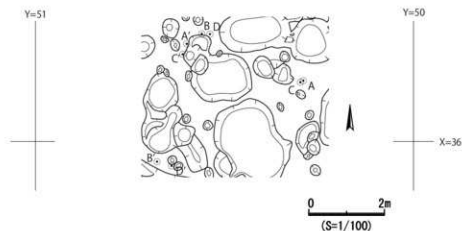


第 139 图 11 地区環濠06,07 断面图 (1/60)

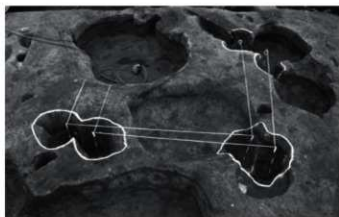


第140图 11地区SX02,SB01平面图(1/100),断面图(1/60)

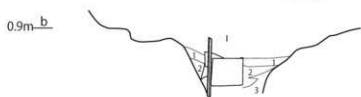
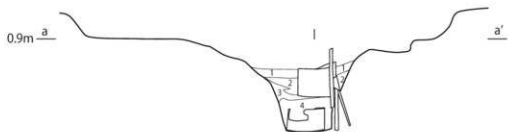
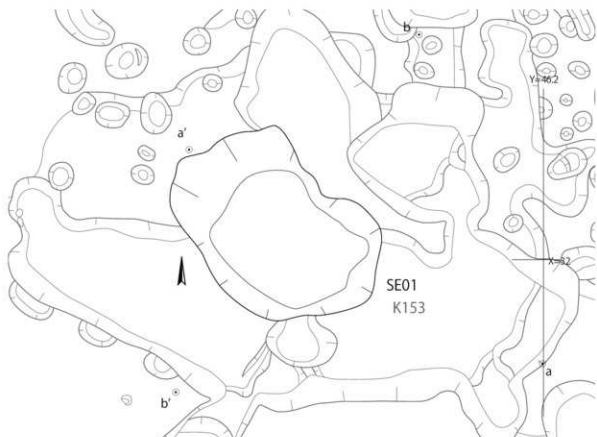
〈SB03〉 M10-SB01



第 141 図 11 地区 SB03 平面図 (1/100), エレベーション図 (1/60)



SB03 検出状況 北から



- b'**
- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色黏砂
 - 2 2.5Y3/2 黒褐色砂壤土に黄灰色砂混じる
 - 3 5Y3/1 オリーブ黒色粘土
 - 4 5Y4/1 灰色細粒砂
- * 井戸内 2.5Y2/1 黒色粘壤土 土器片有



第 142 図 11 地区 SE01 平面図, 断面図 (1/40)

第2部 石器編

第1章 礫石器

第1節 磨石類	158
第2節 凹石・石錘	172
第3節 砥石・石皿	176

第2章 磨製石器

第1節 磨製円盤（有孔円盤・環石類等）	191
第2節 磨製石斧	194
第3節 磨製刃器（石包丁等）	201
第4節 磨製石鏃	204

第3章 打製石器

第1節 打製石斧（石鏃）	207
第2節 打製刃器（石鏃等）	207
第3節 打製石鏃・石錐	208

第4章 その他

第1節 剥片石器	213
第2節 石核	221
第3節 石製品	221

凡例

- [] 番号はデータベース上のシリアル番号である。
- 実測図で使用している記号的な表示及び描画は右のとおりである。
- 石材分類及びその名称は専門家の鑑定を受けたものでなく、記号は任意である。



記号	石材名	産地区分	備 考
Aa	黒色安山岩	陸地性/異地性	主に徳島産、奥越産か
Ag	悪石	在地性	
Am	安山岩類	在地性	
Ba	凝灰角礫岩	在地性	
Ca	チャート	在地性	
Ch	黒石 / 赤黒石 / 黒玉髓	在地性/異地性	黒玉髓は奥能登産か
Da	デイサイト a	在地性	あるいは石巻産岩か
Db	デイサイト b	在地性	いわゆる「濃磯流紋岩」
Dl	四輝緑岩	異地性	信州産
Fa	珪長岩	在地性	陶石または類似する石
Fq	鉄石	在地性	
Gd	地質質デイサイト	異地性?	トヨ石に類似
Gn	片麻岩類	在地性	磯崎変成岩
Gr	花崗岩類	在地性	
Gi	碧玉質岩	在地性	変質岩
Gc	緑色凝灰岩	在地性	変質岩
Ho	変成砂岩	異地性?	
Ho	変成頁岩	異地性?	
Jd	輝玉	異地性	糸魚川産
Lf	火山碎屑岩類	在地性	いわゆる「濃磯流紋岩」
Np	礫玉	異地性	糸魚川産
Ob	黒曜岩	異地性	産地不詳
Pd	凝灰岩類	異地性	乾乾岩に似るが片理なし

記号	石材名	産地区分	備 考
Pa	灰色変質安山岩	在地性	変質岩?
Pb	変質安山岩類	在地性	変質岩
Pc	野石凝灰岩	在地性	軽微な凝灰角礫岩
Pa	野石	在地性	バミス
Qc	燧石 / 赤燧石	在地性	結晶
Qu	珪岩 / 石英	在地性	
Rh	流紋岩 a	在地性	デイサイト質?
Rh	流紋岩 b	在地性	層状に顕著発達
Rh	流紋岩類	在地性	
Sc	結晶片岩	異地性	三渡川変成岩
Se	乾乾岩	異地性	糸魚川産
Sh	頁岩	在地性	シェール
Si	燧石	在地性	柱化した凝灰岩で灰色
Si	柱状岩類	在地性	柱化した凝灰岩か火山岩
Sl	粘板岩	在地性	スレート
So	砂岩	在地性	
So	珪質頁岩	在地性	手取層群?
So	黒色頁岩	在地性	手取層群
Sw	柱状木	在地性	
Ts	凝灰質砂岩類 / 凝灰質頁岩類	在地性	
Tu	凝灰岩類	在地性	
Vt	凝灰質頁岩類	在地性	真流河沖松原岩など

*—在地性：南加賀、陸地性：南加賀から100km 圏、異地性：左記以外の遠隔地

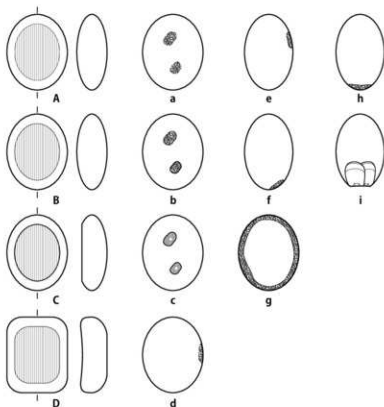
第 I 章 礫石器

第 1 節 磨石類

1 磨石類の分類

円礫～亜円礫をそのまま利用した石器であり、使用痕に基づいて、次のとおり分類した。

- A…礫面に不明瞭な磨面があるもの。
- B…礫面に明瞭な磨面があるもの。
- C…礫面に平坦な磨面があるもの。
- D…礫の凹面に磨面があるもの。
 - a…礫面に疎らな敲打痕があるもの。
 - b…礫面に著しい敲打痕があるもの。
 - c…礫面に明瞭な凹みがあり、摩滅または研磨されているもの。
 - d…礫側縁に疎らな敲打痕があるもの。
 - e…礫側縁に著しい敲打痕があるもの。
 - f…礫側縁端部付近に著しい敲打痕があるもの。
 - g…礫側縁全周に著しい敲打痕があるもの。礫全面に及ぶものもある。擦痕を伴うものはg'。
 - h…礫端部に著しい敲打痕があるもの。擦痕を伴うものはh'。
 - i…礫端部に剝離加工されているもの。



2 磨石類の概要

磨石類に分類したものは、既報告も含めて2,653点(22地区含む)であり、本報告で図化掲載したものは91点である。

分類について、堅果類の加工調理等に係る生産用具と推定されるものは磨石・叩石・台石(石皿)、石器製作等に係る工具と推定されるものは砥石・鑢石・台石とし、参考として下表に示した。ただし、据え置き型の石皿は使用痕Dに限定し、ほかは台石に分類したため、台石については生産用具と工具の区別を想定していない。個別の分類では、手持ち型と据え置き型の目安を重量1kgに置いた。

また、手持ち型の使用痕hとした鑢石については、民俗例でトチの加工調理に使用される叩石に類似するものもあり、一概に工具といえない。天然石をそのまま利用したもののだけに、具体的な用途については、個別の事例を煮詰めて判断していくほかにより方法が思い当たらない。

特殊な例として、使用痕Cは磨面が平らに削ぎ落としたようになり、使用の結果平らになったというよりは、何かしらの加工を伴うと考えられる。

なお、磨面を伴うものには火にあぶった痕跡が散見されるが、これは摩擦を大きくするための工夫と考えられる。

重量(g)	数量	累積数量	百分率	累積百分率
Up To 100	338	338	12.74%	12.74%
100-200	372	710	14.02%	26.76%
200-300	326	1,036	12.29%	39.05%
300-400	252	1,288	9.50%	48.55%
400-500	264	1,552	9.95%	58.50%
500-600	181	1,733	6.82%	65.32%
600-700	164	1,897	6.18%	71.50%
700-800	127	2,024	4.79%	76.29%
800-900	86	2,110	3.24%	79.53%
900-1000	78	2,188	2.94%	82.47%
1000-1100	61	2,249	2.30%	84.77%
1100-1200	40	2,289	1.51%	86.28%
1200-1300	36	2,325	1.36%	87.64%
1300-1400	37	2,362	1.39%	89.03%
1400-1500	34	2,396	1.28%	90.31%
1500-1600	31	2,427	1.17%	91.48%
1600-1700	26	2,453	0.98%	92.46%
1700-1800	20	2,473	0.75%	93.22%
1800-1900	16	2,489	0.60%	93.82%
1900-2000	11	2,500	0.41%	94.23%
2000-2100	14	2,514	0.53%	94.76%
2100-2200	9	2,523	0.34%	95.10%
2200-2300	12	2,535	0.45%	95.55%
2300-2400	7	2,542	0.26%	95.82%
2400-2500	8	2,550	0.30%	96.12%
2500-2600	6	2,556	0.23%	96.34%
2600-2700	5	2,561	0.19%	96.53%
2700-2800	6	2,567	0.23%	96.76%
2800-2900	5	2,572	0.19%	96.95%
2900-3000	6	2,578	0.23%	97.17%
3000-3500	24	2,602	0.90%	98.08%
3500-4000	14	2,616	0.53%	98.61%
4000-4500	14	2,630	0.53%	99.13%
4500-5000	6	2,636	0.23%	99.36%
5000-5500	4	2,640	0.15%	99.51%
5500-6000	8	2,648	0.30%	99.81%
6000-6500	2	2,650	0.08%	99.89%
7500-8000	1	2,651	0.04%	99.92%
8500-9000	1	2,652	0.04%	99.96%
9000-9500	1	2,653	0.04%	100.00%

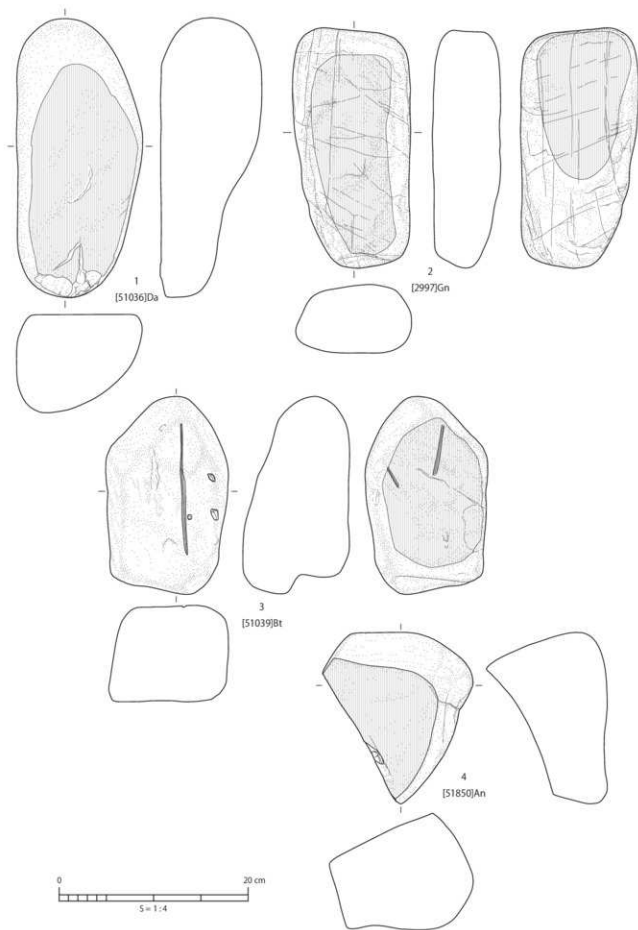
長(cm)	数量	累積数量	百分率	累積百分率
2-3	1	1	0.03%	0.03%
3-4	19	20	0.96%	1.01%
4-5	59	79	2.97%	3.98%
5-6	90	169	4.33%	8.31%
6-7	113	282	5.09%	14.21%
7-8	165	448	8.30%	22.57%
8-9	180	628	9.07%	31.64%
9-10	178	806	8.97%	40.60%
10-11	193	999	9.72%	50.33%
11-12	205	1,204	10.33%	60.65%
12-13	172	1,376	8.66%	69.32%
13-14	156	1,532	7.86%	77.18%
14-15	120	1,652	6.05%	83.22%
15-16	91	1,743	4.58%	87.81%
16-17	57	1,800	2.87%	90.68%
17-18	41	1,841	2.07%	92.75%
18-19	34	1,875	1.71%	94.46%
19-20	31	1,906	1.56%	96.02%
20-21	19	1,925	0.96%	96.98%
21-22	16	1,941	0.81%	97.78%
22-23	21	1,962	1.06%	98.84%
23-24	7	1,969	0.35%	99.19%
24-25	6	1,975	0.30%	99.50%
25-26	3	1,978	0.15%	99.65%
26-27	1	1,979	0.05%	99.70%
27-28	1	1,980	0.05%	99.75%
29-30	2	1,982	0.10%	99.85%
30-31	1	1,983	0.05%	99.90%
31-32	1	1,984	0.05%	99.95%
34-35	1	1,985	0.05%	100.00%

	重量(g)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)
有効数	2,653	1,985	2,159	2,290
最大値	3,152	2,700	1,498	0,660
四分位 25%	186.13	8.30	5.71	3.00
中央値	413.00	11.00	7.40	4.10
四分位 75%	768.60	13.70	9.38	5.39
最大値	9,140.00	34.20	21.30	15.30

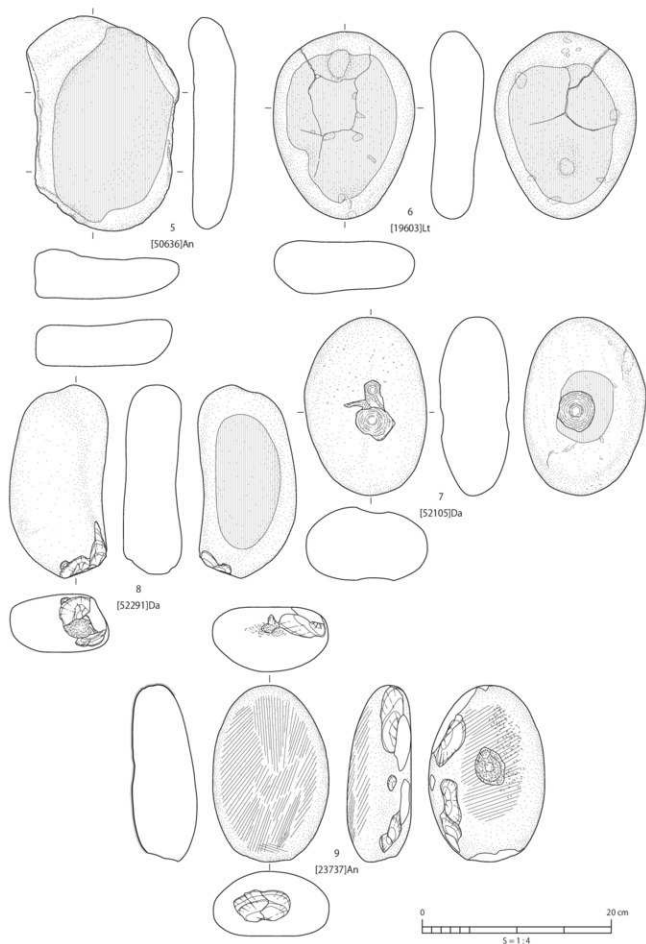
幅(cm)	数量	累積数量	百分率	累積百分率
1-2	5	5	0.23%	0.23%
2-3	32	37	1.48%	1.71%
3-4	127	164	5.88%	7.60%
4-5	195	359	9.03%	16.63%
5-6	263	622	12.88%	29.51%
6-7	314	936	14.54%	43.35%
7-8	332	1,268	15.38%	58.73%
8-9	273	1,541	12.64%	71.38%
9-10	217	1,758	10.05%	81.43%
10-11	136	1,894	6.30%	87.73%
11-12	102	1,996	4.72%	92.45%
12-13	59	2,055	2.57%	95.18%
13-14	36	2,091	1.67%	96.85%
14-15	20	2,111	0.93%	97.78%
15-16	19	2,130	0.88%	98.66%
16-17	9	2,139	0.42%	99.07%
17-18	11	2,150	0.51%	99.58%
18-19	2	2,152	0.09%	99.68%
19-20	3	2,155	0.14%	99.81%
20-21	3	2,158	0.14%	99.95%
21-22	1	2,159	0.05%	100.00%

厚(cm)	数量	累積数量	百分率	累積百分率
Up To 1	21	21	0.92%	0.92%
1-2	181	202	7.90%	8.82%
2-3	387	589	16.90%	25.72%
3-4	521	1,110	22.75%	48.47%
4-5	478	1,588	20.47%	69.34%
5-6	319	1,907	13.93%	83.28%
6-7	174	2,081	7.60%	90.87%
7-8	92	2,173	4.02%	94.89%
8-9	52	2,225	2.27%	97.16%
9-10	29	2,254	1.27%	98.43%
10-11	17	2,271	0.74%	99.17%
11-12	9	2,280	0.39%	99.56%
12-13	5	2,285	0.22%	99.78%
13-14	2	2,287	0.09%	99.87%
14-15	2	2,289	0.09%	99.96%
15-16	1	2,290	0.04%	100.00%

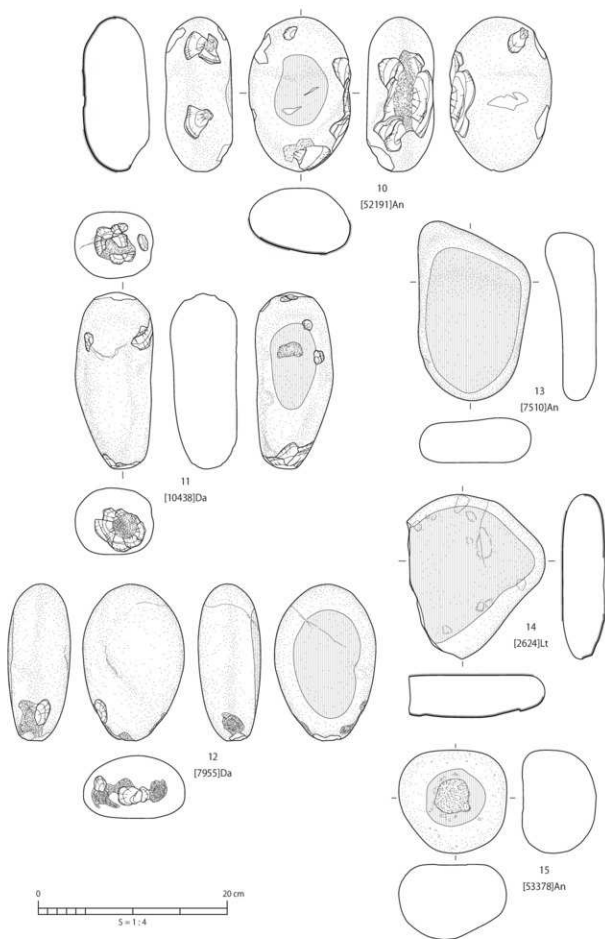
使用痕	A	B	C	D	a	b	c	d	e	f	g(g)	h(h)	i
個体数/2,653	1,494	875	65	30	176	88	8	177	236	142	37	308	100
出現頻度	56.3%	33.0%	2.5%	1.1%	6.6%	3.3%	0.3%	6.7%	8.9%	5.4%	1.4%	11.6%	3.8%
主な用途 (推定)	磨石 台石	磨石 台石	砥石	石皿	叩石 台石	叩石 台石	凹石	叩石	鑢石	鑢石	鑢石	鑢石	鑢石



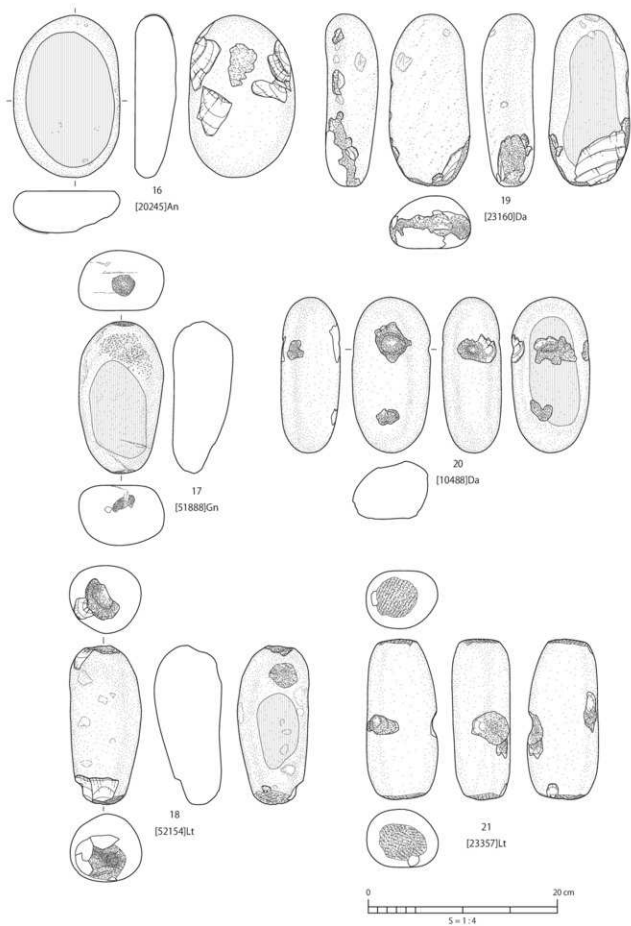
第1図 磨石類実測図1



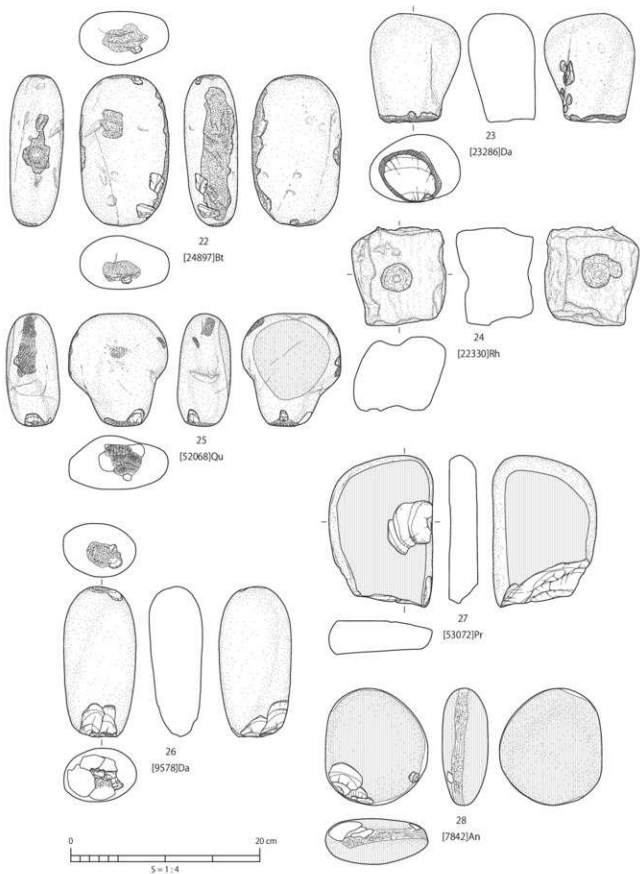
第 2 図 磨石類実測図 2



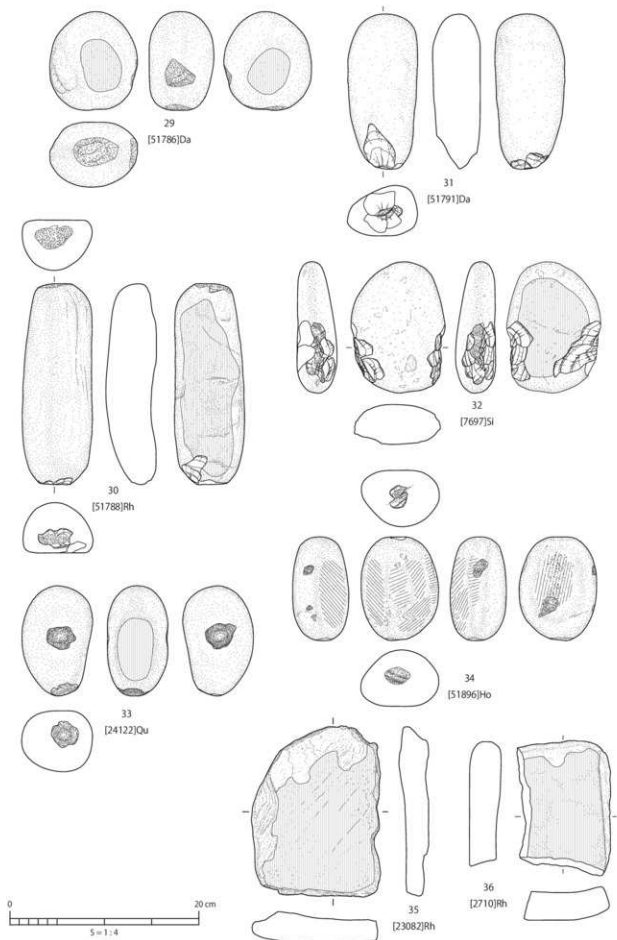
第 3 図 磨石類実測図 3



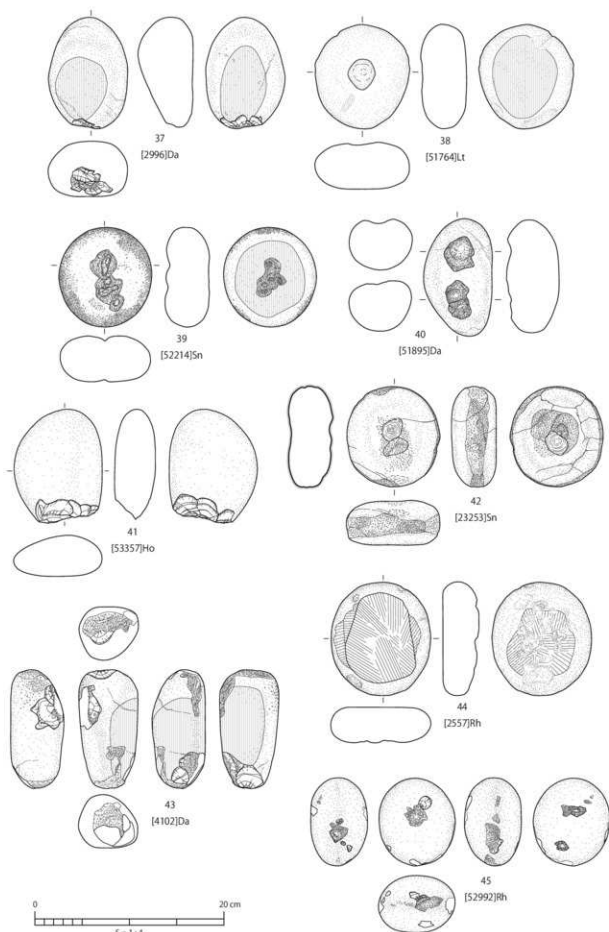
第4図 磨石類実測図4



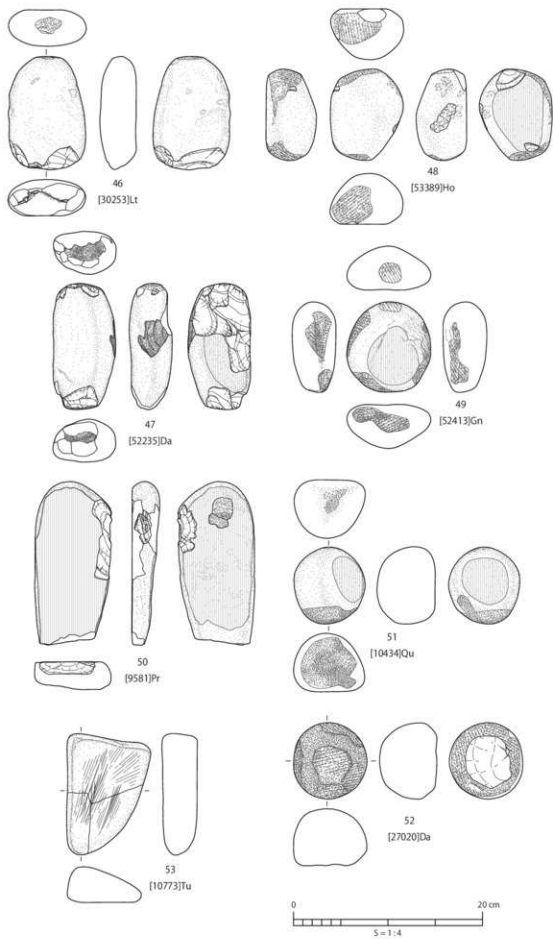
第5図 磨石類実測図5



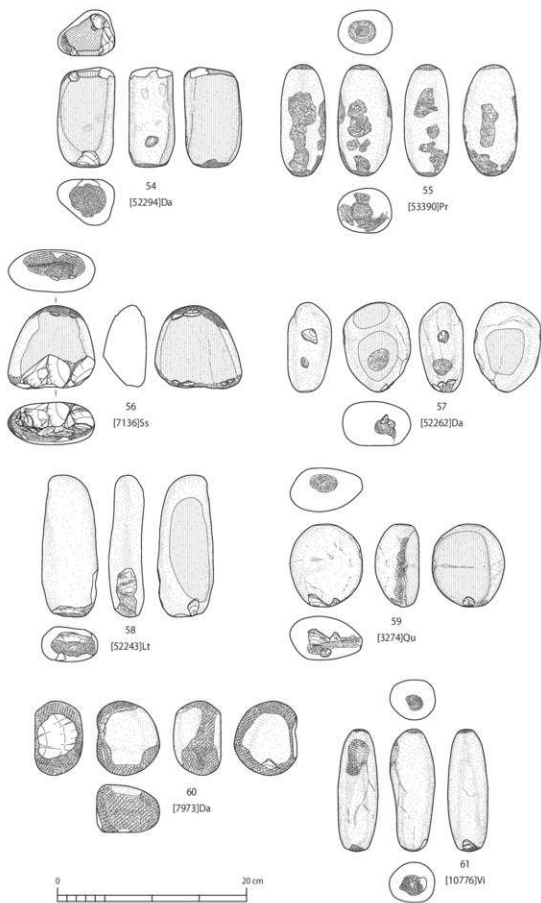
第6図 磨石類実測図6



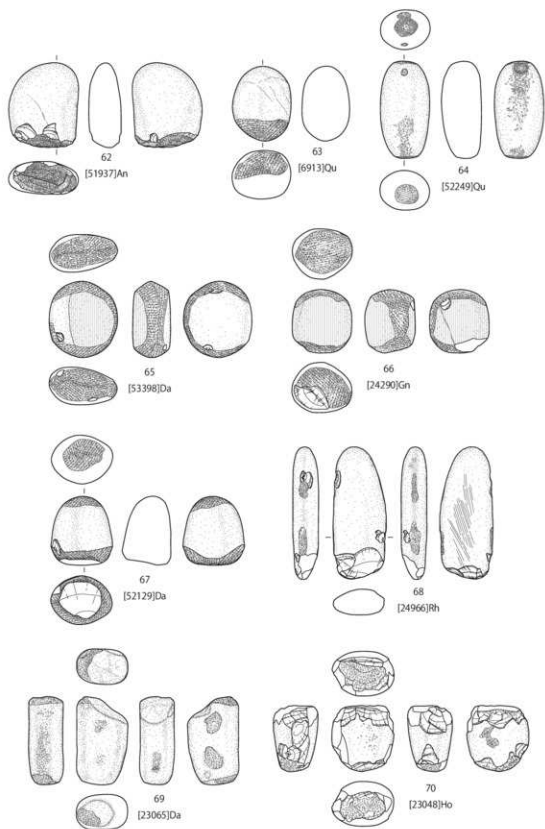
第7図 磨石類実測図7



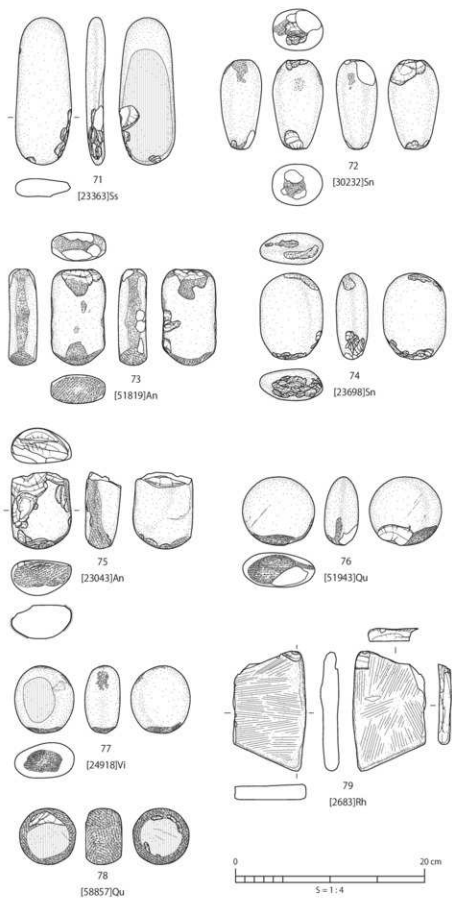
第 8 图 磨石類実測图 8



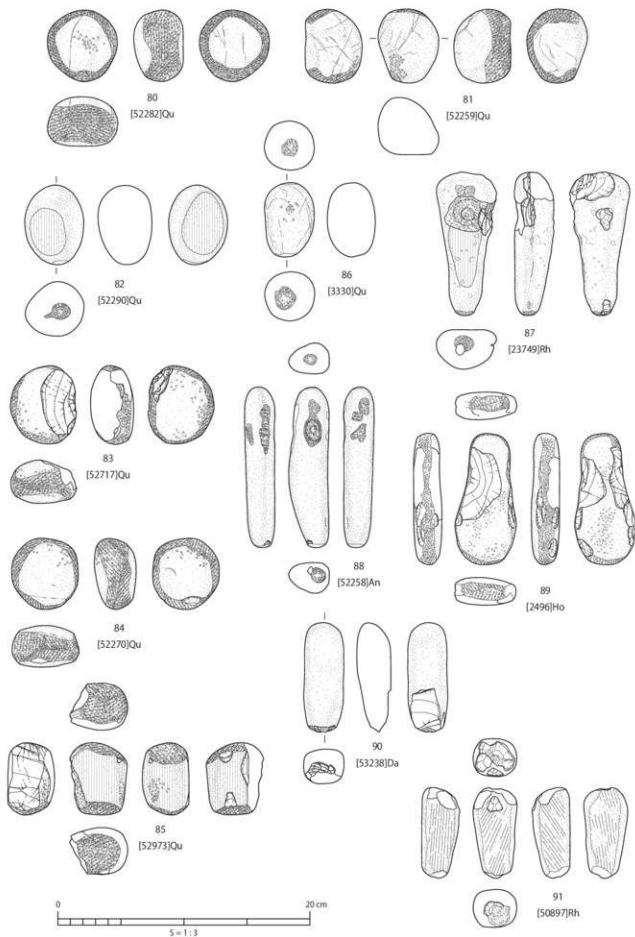
第9図 磨石類実測図9



第 10 图 磨石類実測図 10



第 11 図 磨石類実測図 11



第 12 図 磨石類実測図 12

第2節 凹石・石錘

1 凹石の概要

凹石に分類したものは、既報告分も含めて21点(22地区出土なし)であり、本報告で図化掲載したものは11点である。

磨石類と同様に大型の据え置き型と小型の手持ち型(?)がある。素材とする石はほぼ無加工だが、小型品はある程度敲打や研磨で整形しているようだ。

使用痕は、円形の凹みに回転痕が残るもので、小型品の場合は表裏に凹みがあり、破損品はいずれも凹みの中央で割れている。これらの特徴から、凹みには破損につながるような荷重がかかっていたと考えられる。

具体的な使用状態に言及できないが、承軸器としての役割を担ったと考えたい。この場合、小型品を手持ち型とすると、石が割れるほどの荷重を手で支えきれぬものかという問題もあるが、これも含めて今後検討すべき課題としておきたい。

2 石錘の分類

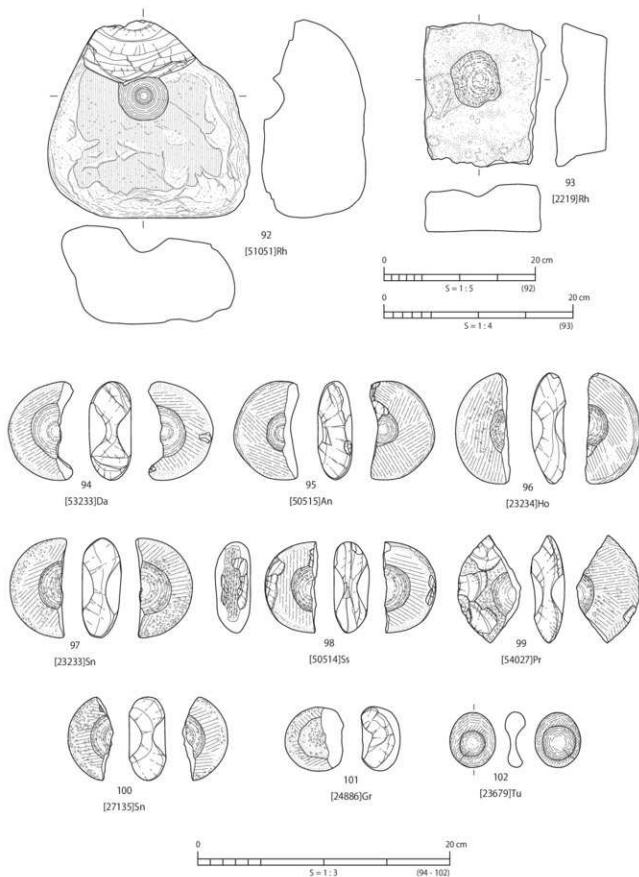
素材とする石(原礫)と加工痕の組み合わせに基づいて、次のとおり分類した。

- A1 …「礫打欠」原礫の両端を打ち欠くもの。
- A2 …「礫有樋」原礫に敲打による樋状の凹みをめぐらすもの。
- A3 …「礫有抉」原礫の両端を敲打によって凹ませるもの。
- A4 …「礫切目」原礫の両端を擦り切りによって凹ませるもの。
- B1 …「礫片打欠」割れた原礫の両端を打ち欠くもの。
- B2 …「礫片有樋」割れた原礫に敲打による樋状の凹みをめぐらすもの。
- B3 …「礫片有抉」割れた原礫の両端を敲打によって凹ませるもの。
- B4 …「礫片切目」割れた原礫の両端を擦り切りによって凹ませるもの。
- C …「有溝」加工した原礫の縦横に溝をめぐらすもの。

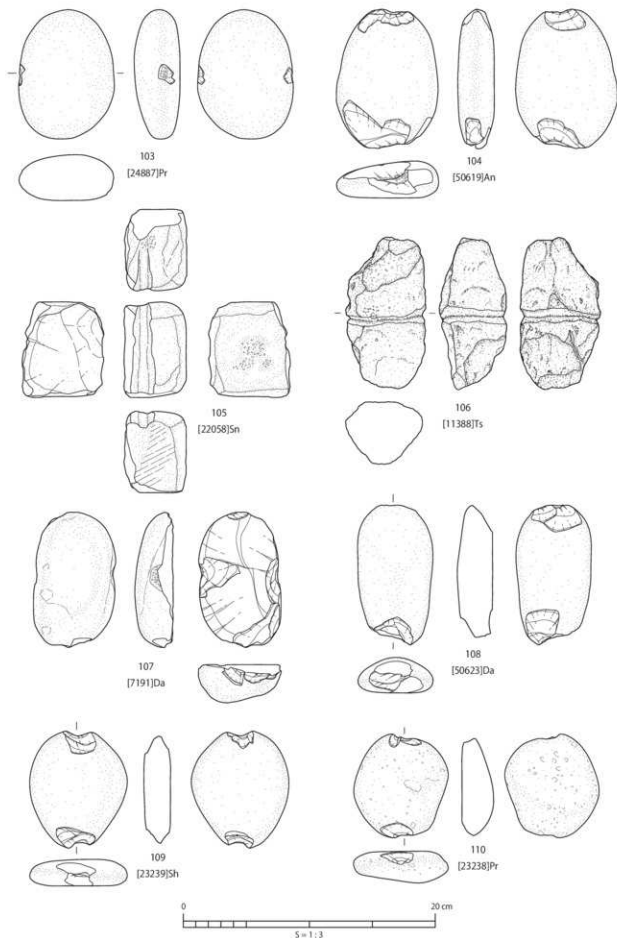
3 石錘の概要

石錘に分類したものは、既報告分も含めて55点(22地区出土なし)であり、本報告で図化掲載したものは17点である。

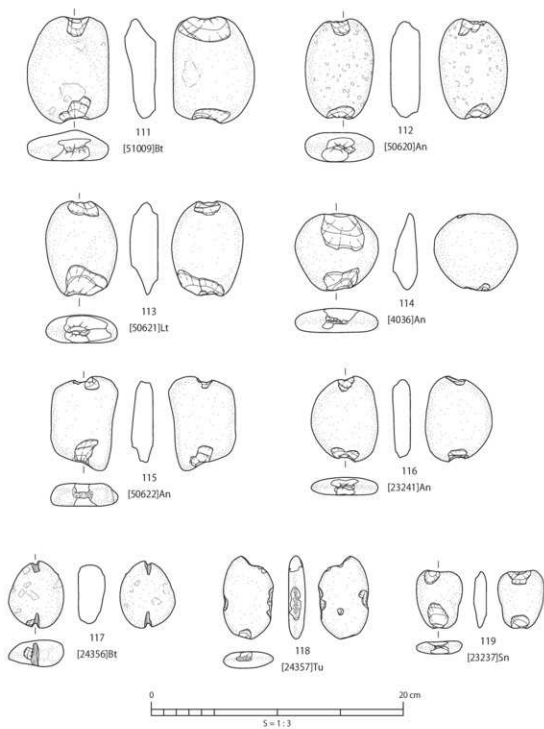
礫に縄を括りつけて錘として使用したと考えられているものである。最も一般的なものは扁平な原礫の長軸側に加工を施すものだが、105のように厚みのあるものや106・107のように短軸側に加工を施すものが散見される。



第 13 图 凹石実測図



第 14 図 石錘実測図 1



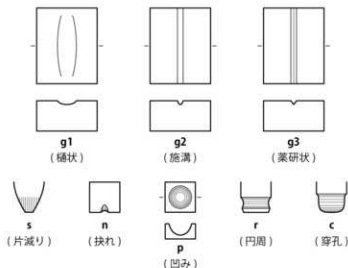
第15图 石锤头测图2

第3節 砥石・石皿

1 砥石の分類

角礫～垂角礫をある程度整形し、平坦な磨面（以下、砥面と呼ぶ）がある石器であり、使用部の変形の特徴に基づいて、次のとおり分類した。

- g1 …砥面に幅広の浅い溝ができたもの。
- g2 …砥面にU字状の溝ができたもの、あるいは施したもの。
- g3 …砥面にV字状の溝ができたもの。
- s …砥面の一部または全体に片減りが見られるもの。
- n …砥石の縁に抉れが見られるもの。
- p …砥面に円形の凹みまたは穴ができたもの。内部は回転痕が見られる。
- r …砥石の端に円周する使用痕が見られるもの。
- c …砥石の端または全体が穿孔に使用されたもの。柱状に加工されたものもある。



2 砥石の概要

砥石に分類したものは、既報告分も含めて2,665点（22地区含む）であり、このうち研磨砥石に分類した個体は120点、穿孔砥石は69点である。本報告で図化掲載したものは80点である。

砥石は破片資料が多く、過半数が70g未満である。使用の過程で必要に応じて割ることが考えられ、このときに生じた剥片もしばしば砥石として利用される。砥石の剥片は501点あり、上記の数量には含まれていない。

砥面は平坦になるように整形されていると考えられるが、どのような方法で行われたかは分からない。また、擦り切り分割によって切り出された痕跡が認められる個体も稀にある。

使用方法について、砥石も火にあぶった痕跡が散見され、磨石類の場合と同様に摩擦を大きくするための工夫と考えられる。

穿孔砥石について、実質的に穿孔具の一種といえるが、砥石の破片を利用したり、砥石と共通する石材であったりするものをここに分類した。切削穿孔を行う穿孔具は金剛砂のような媒材を用いると考えられており、金剛砂が砥石の役割を果たしているといえるが、穿孔砥石の場合は砥石そのものを穿孔に使用したと考えられるものである。

重量 (g)	数量	累積数量	百分率	累積百分率
Up To 10	267	267	10.02%	10.02%
10 - 20	348	615	13.06%	23.08%
20 - 30	248	863	9.31%	32.38%
30 - 40	181	1,044	6.79%	39.17%
40 - 50	134	1,178	5.03%	44.20%
50 - 60	139	1,317	5.22%	49.42%
60 - 70	99	1,416	3.71%	53.13%
70 - 80	96	1,512	3.60%	56.74%
80 - 90	90	1,602	3.38%	60.11%
90 - 100	67	1,669	2.51%	62.63%
100 - 110	58	1,727	2.18%	64.80%
110 - 120	58	1,785	2.18%	66.98%
120 - 130	40	1,825	1.50%	68.48%
130 - 140	41	1,866	1.54%	70.02%
140 - 150	42	1,908	1.58%	71.59%
150 - 160	41	1,949	1.54%	73.13%
160 - 170	42	1,991	1.58%	74.71%
170 - 180	34	2,025	1.28%	75.96%
180 - 190	24	2,049	0.90%	76.89%
190 - 200	27	2,076	1.01%	77.90%
200 - 210	22	2,098	0.83%	78.72%
210 - 220	24	2,122	0.90%	79.62%
220 - 230	32	2,154	1.20%	80.83%
230 - 240	23	2,177	0.84%	81.69%
240 - 250	25	2,202	0.94%	82.63%
250 - 260	25	2,227	0.94%	83.56%
260 - 270	17	2,244	0.64%	84.20%
270 - 280	14	2,258	0.53%	84.73%
280 - 290	18	2,276	0.68%	85.40%
290 - 300	10	2,286	0.38%	85.78%
300 - 310	13	2,299	0.49%	86.27%
310 - 320	22	2,321	0.83%	87.09%
320 - 330	10	2,331	0.38%	87.47%
330 - 340	14	2,345	0.53%	87.99%
340 - 350	15	2,360	0.56%	88.56%
350 - 360	10	2,370	0.38%	88.93%
360 - 370	6	2,376	0.23%	89.16%
370 - 380	14	2,390	0.53%	89.68%
380 - 390	11	2,401	0.41%	90.09%
390 - 400	11	2,412	0.41%	90.51%
400 - 450	36	2,448	1.33%	91.86%
450 - 500	24	2,472	0.90%	92.76%
500 - 550	19	2,491	0.71%	93.47%
550 - 600	27	2,518	1.01%	94.48%
600 - 650	20	2,538	0.75%	95.23%
650 - 700	10	2,548	0.38%	95.61%
700 - 750	9	2,557	0.34%	95.95%
750 - 800	9	2,566	0.34%	96.29%
800 - 850	3	2,569	0.11%	96.40%
850 - 900	10	2,579	0.38%	96.77%
900 - 950	7	2,586	0.26%	97.04%
950 - 1000	2	2,588	0.08%	97.11%
1000 - 1100	6	2,594	0.23%	97.34%
1100 - 1200	10	2,604	0.38%	97.71%
1200 - 1300	3	2,607	0.11%	97.82%
1300 - 1400	5	2,612	0.19%	98.01%
1400 - 1500	8	2,620	0.30%	98.31%
1500 - 1600	4	2,624	0.15%	98.46%
1600 - 1700	2	2,626	0.08%	98.54%
1700 - 1800	3	2,629	0.11%	98.65%
1900 - 2000	1	2,630	0.04%	98.69%
2000 - 2500	7	2,637	0.26%	98.95%
2500 - 3000	4	2,641	0.15%	99.10%
3000 - 3500	5	2,646	0.19%	99.29%
3500 - 4000	4	2,650	0.15%	99.44%
4000 - 5000	4	2,654	0.15%	99.59%
5000 - 6000	2	2,656	0.08%	99.66%
6000 - 7000	2	2,658	0.08%	99.74%
7000 - 8000	1	2,659	0.04%	99.77%
10000 - 15000	2	2,661	0.08%	99.85%
15000 - 20000	4	2,665	0.15%	100.00%

径 (cm)	数量	累積数量	百分率	累積百分率
1 - 2	2	2	0.14%	0.14%
2 - 3	25	27	1.77%	1.91%
3 - 4	91	118	6.44%	8.35%
4 - 5	164	282	11.61%	19.96%
5 - 6	210	492	14.86%	34.82%
6 - 7	216	708	15.29%	50.11%
7 - 8	154	862	10.90%	61.00%
8 - 9	149	1,011	10.54%	71.55%
9 - 10	113	1,124	8.00%	79.55%
10 - 11	91	1,215	6.44%	85.99%
11 - 12	48	1,263	3.40%	89.38%
12 - 13	48	1,311	3.40%	92.78%
13 - 14	22	1,333	1.56%	94.34%
14 - 15	12	1,345	0.85%	95.19%
15 - 16	13	1,358	0.92%	96.11%
16 - 17	8	1,366	0.57%	96.67%
17 - 18	8	1,374	0.57%	97.24%
18 - 19	2	1,376	0.14%	97.38%
19 - 20	3	1,379	0.21%	97.59%
20 - 21	6	1,385	0.42%	98.02%
21 - 22	5	1,390	0.35%	98.37%
22 - 23	3	1,393	0.21%	98.58%
23 - 24	3	1,396	0.21%	98.80%
24 - 25	2	1,398	0.14%	98.94%
25 - 26	2	1,400	0.14%	99.08%
26 - 27	1	1,401	0.07%	99.15%
27 - 28	2	1,403	0.14%	99.29%
28 - 29	2	1,405	0.14%	99.43%
29 - 30	1	1,406	0.07%	99.50%
31 - 32	1	1,407	0.07%	99.58%
33 - 34	1	1,408	0.07%	99.65%
37 - 38	1	1,409	0.07%	99.72%
38 - 39	1	1,410	0.07%	99.79%
39 - 40	1	1,411	0.07%	99.86%
46 - 47	1	1,412	0.07%	99.93%
47 - 48	1	1,413	0.07%	100.00%

径 (cm)	数量	累積数量	百分率	累積百分率
Up To 1	2	2	0.13%	0.13%
1 - 2	62	64	4.13%	4.26%
2 - 3	158	222	10.52%	14.78%
3 - 4	237	459	15.78%	30.56%
4 - 5	282	741	18.77%	49.33%
5 - 6	230	971	15.31%	64.65%
6 - 7	196	1,167	13.05%	77.70%
7 - 8	117	1,284	7.79%	85.49%
8 - 9	78	1,362	5.19%	90.68%
9 - 10	43	1,405	2.86%	93.54%
10 - 11	31	1,436	2.06%	95.61%
11 - 12	17	1,453	1.13%	96.74%
12 - 13	8	1,461	0.53%	97.27%
13 - 14	10	1,471	0.67%	97.94%
14 - 15	11	1,482	0.73%	98.67%
15 - 16	3	1,487	0.33%	99.00%
16 - 17	3	1,490	0.20%	99.20%
17 - 18	3	1,493	0.20%	99.40%
18 - 19	2	1,495	0.13%	99.53%
20 - 21	3	1,498	0.20%	99.73%
21 - 22	1	1,499	0.07%	99.80%
22 - 23	1	1,500	0.07%	99.87%
23 - 24	1	1,501	0.07%	99.93%
26 - 27	1	1,502	0.07%	100.00%

径 (cm)	数量	累積数量	百分率	累積百分率
Up To 1	134	134	7.12%	7.12%
1 - 2	491	625	26.10%	33.23%
2 - 3	418	1,043	22.22%	55.45%
3 - 4	344	1,387	18.29%	73.74%
4 - 5	207	1,594	11.00%	84.74%
5 - 6	138	1,732	7.34%	92.08%
6 - 7	71	1,803	3.77%	95.85%
7 - 8	34	1,837	1.81%	97.66%
8 - 9	13	1,850	0.69%	98.35%
9 - 10	8	1,858	0.43%	98.78%
10 - 11	8	1,866	0.43%	99.20%
11 - 12	3	1,869	0.16%	99.36%
12 - 13	4	1,873	0.21%	99.57%
13 - 14	1	1,874	0.05%	99.63%
14 - 15	2	1,876	0.11%	99.73%
15 - 16	1	1,877	0.05%	99.79%
16 - 17	1	1,878	0.05%	99.84%
17 - 18	1	1,879	0.05%	99.89%
20 - 21	1	1,880	0.05%	99.93%
24 - 25	1	1,881	0.05%	100.00%

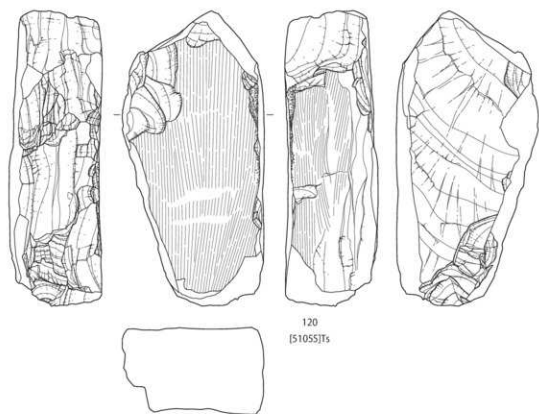
	重量 (g)	径 (cm)	径 (cm)	径 (cm)
有効数	2,665	1,416	1,505	1,884
最小値	0.12	1.60	0.60	0.40
四分位 25%	21.68	5.40	3.70	1.72
中央値	61.96	7.03	5.10	2.80
四分位 75%	171.39	9.44	6.80	4.14
最大値	18,600.00	48.00	27.00	24.60

使用痕	g1	g2	g3	s	n	p	f	c
個体数 / 2,665	138	20	208	30	12	38	44	67
出現頻度	5.2%	0.8%	7.8%	1.1%	0.5%	1.4%	1.7%	2.5%
砥石の種類	研盤砥石						穿孔砥石	

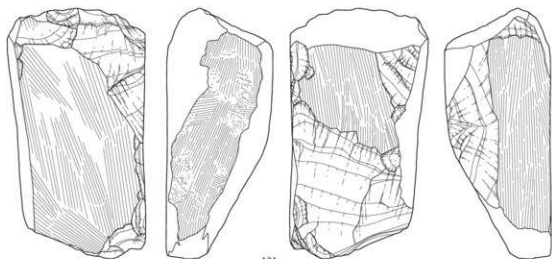
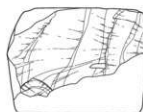
3 石皿の概要

石皿に分類したものは、既報告分も含めて5点(22地区含む)であり、本報告で図化掲載したものは1点である。

第21図130がその1点であり、玻璃質岩(Vi)の石皿破片の割れ口を砥石として利用したものである。砥面を整形していないが、溝状の使用痕が認められる。



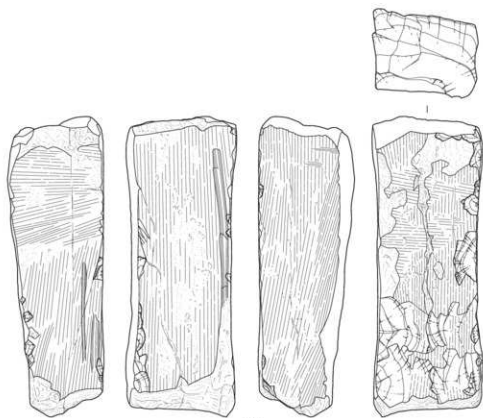
120
[51055]Ts



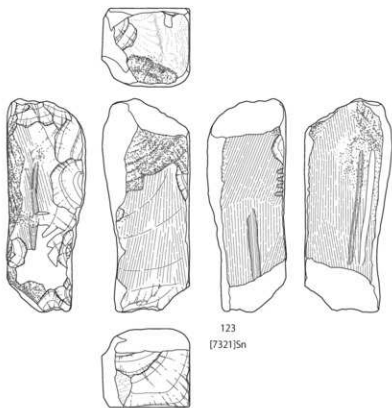
121
[51056]Ts



第 16 图 砾石实测图 1



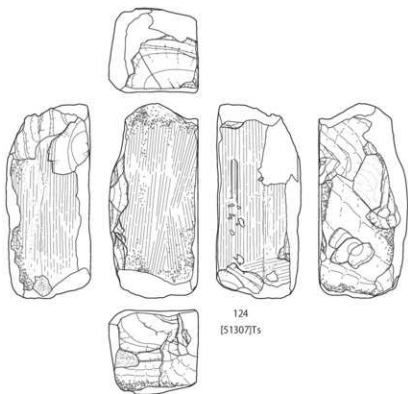
122
[51025]Rh



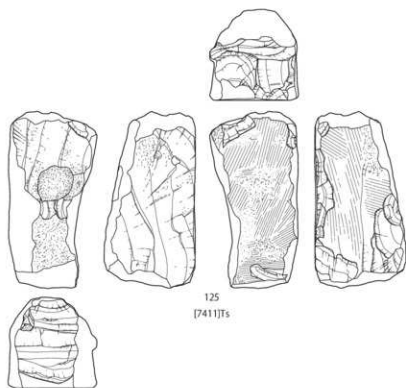
123
[7321]Sn



第 17 图 砾石尖测图 2



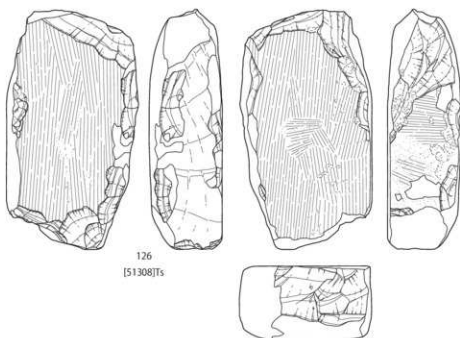
124
[51307]Ts



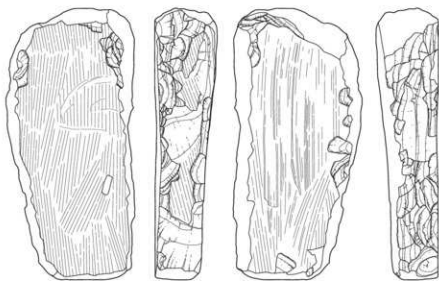
125
[7411]Ts



第 18 图 砥石実測図 3



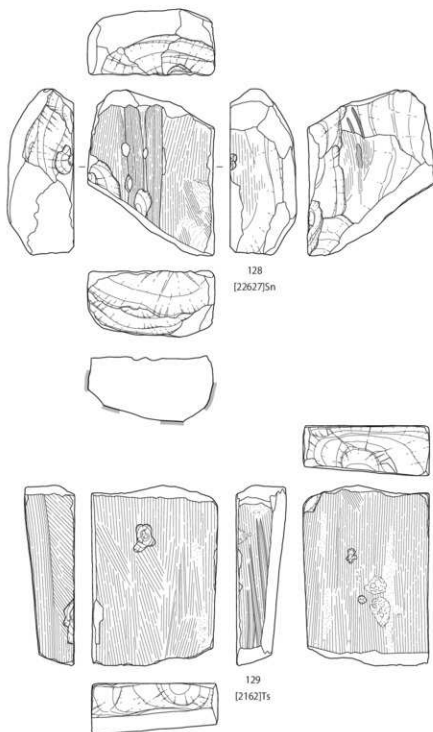
126
[51308]Ts



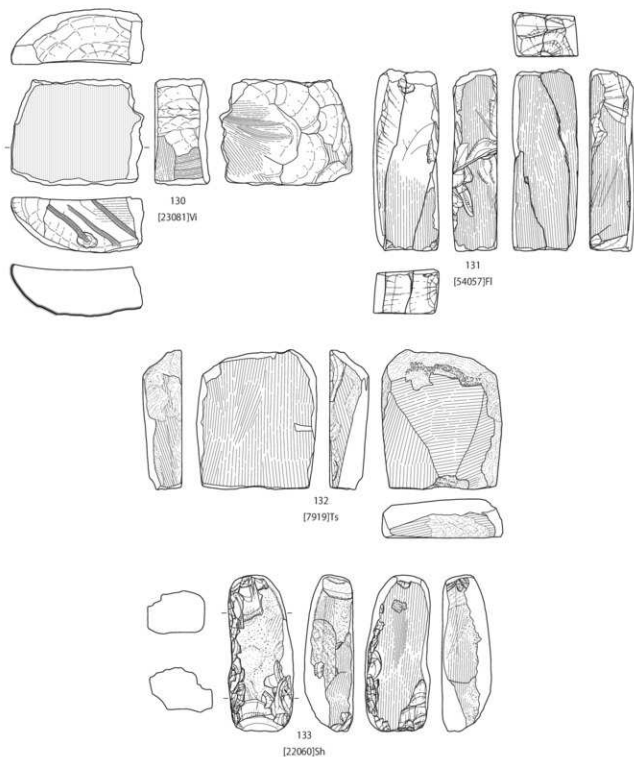
127
[2163]Ts



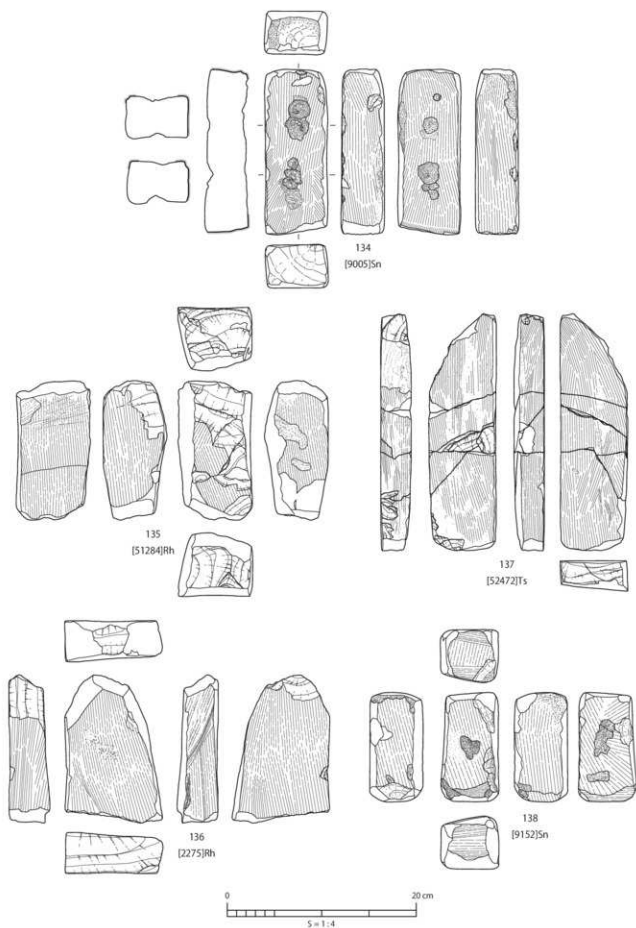
第 19 图 砥石实测图 4



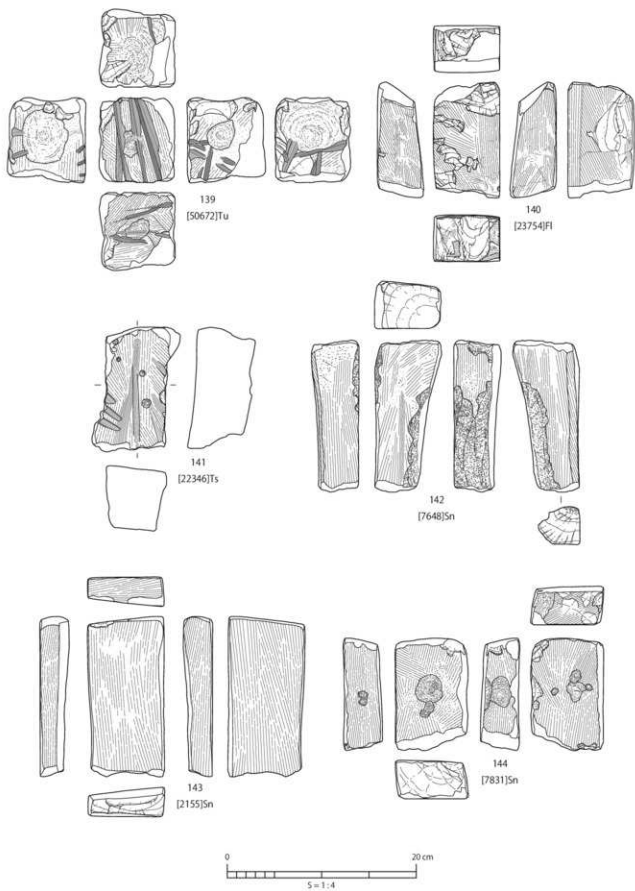
第 20 图 砾石实测图 5



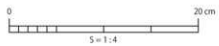
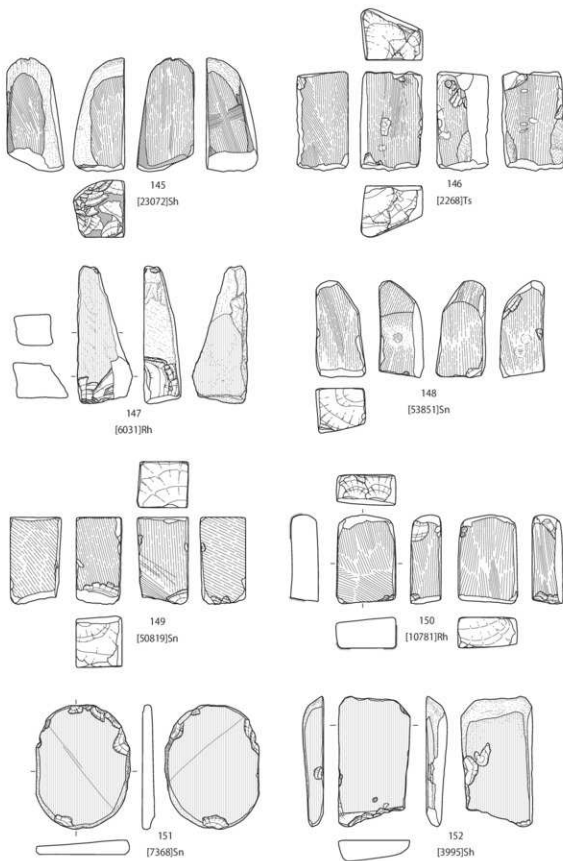
第 21 图 砥石夹测图 6 · 石皿夹测图



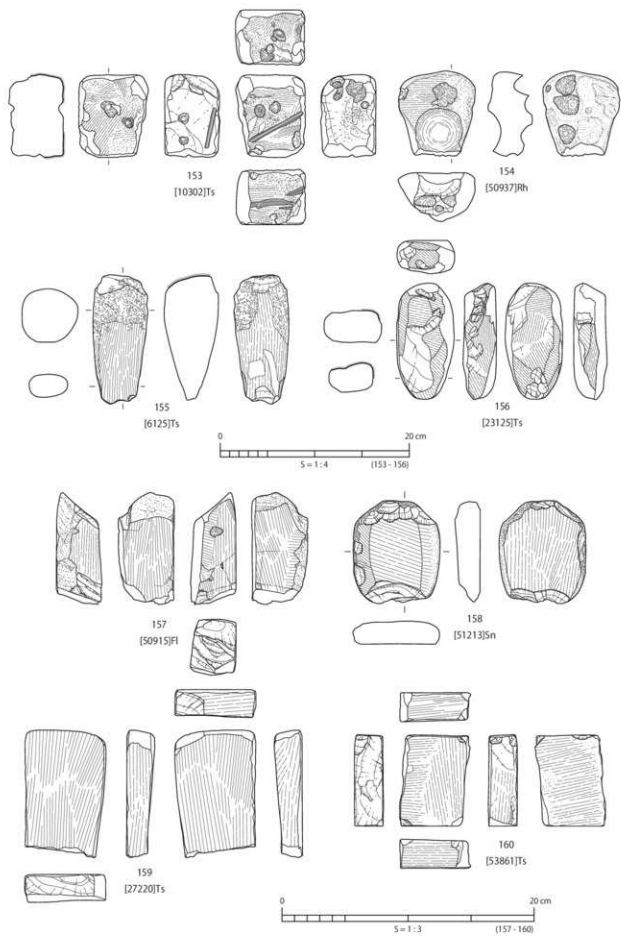
第 22 图 砾石尖测图 7



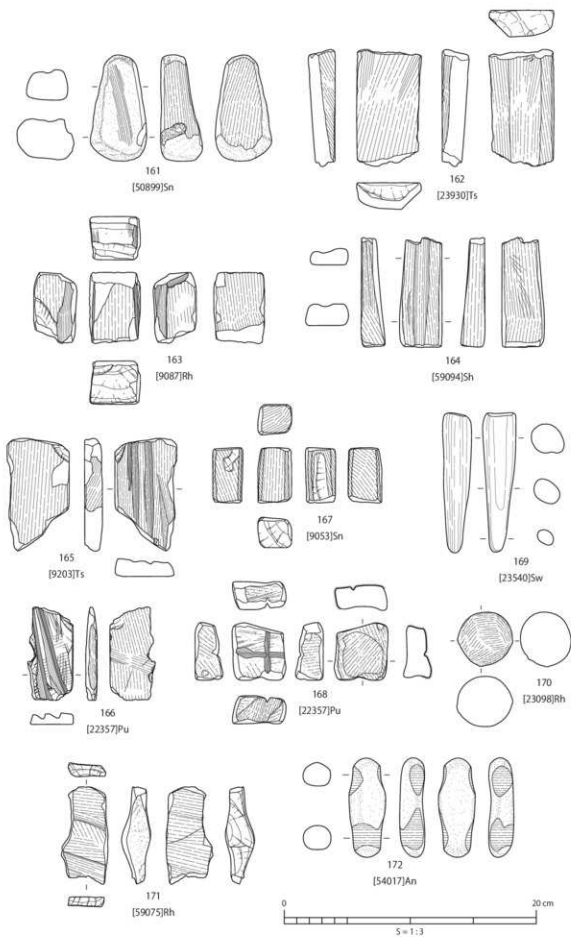
第23图 砾石类测图8



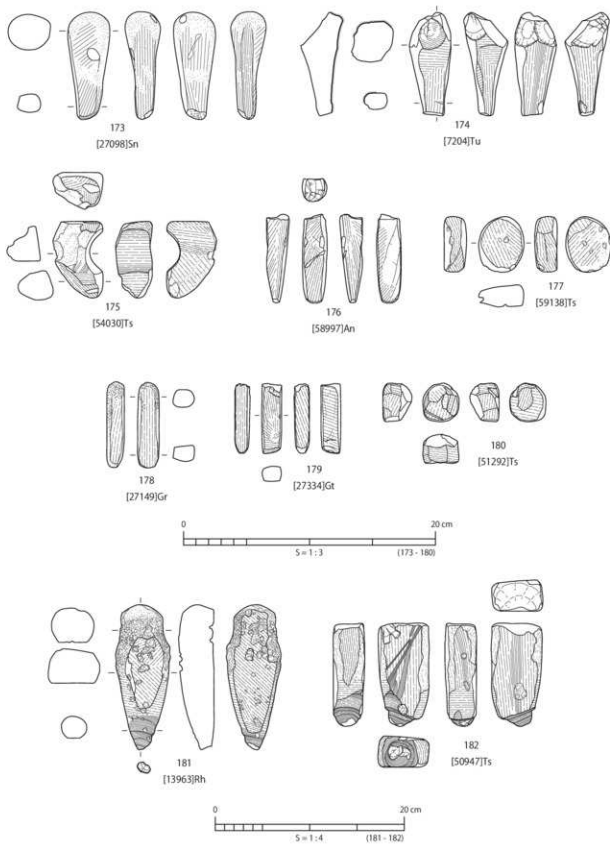
第 24 图 砾石尖测图 9



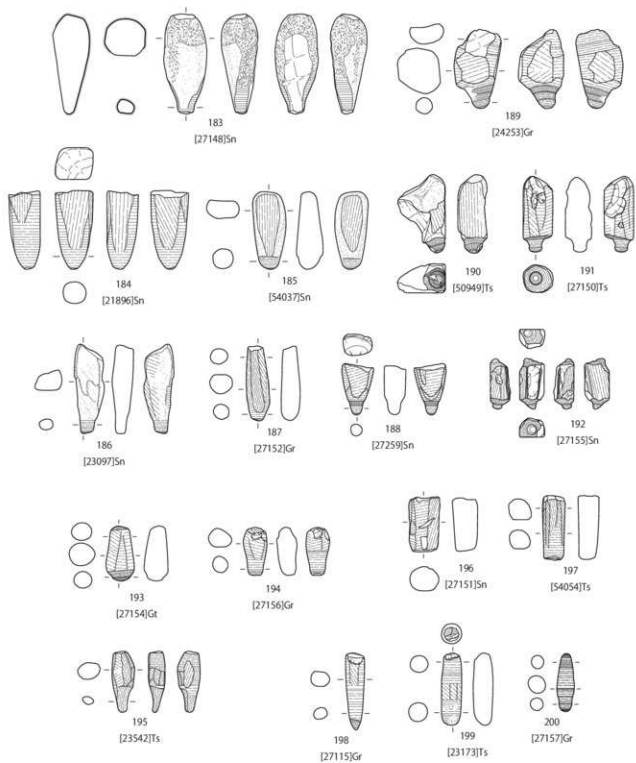
第 25 図 砥石実測図 10



第 26 图 砾石类测图 11



第 27 图 砾石実測図 12



第 28 图 砾石实测图 13

第Ⅱ章 磨製石器

第1節 磨製円盤（有孔円盤・環石類等）

1 磨製円盤の分類

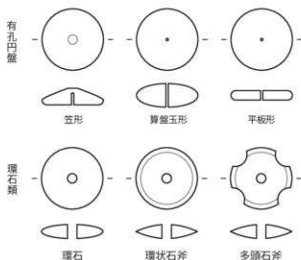
本報告では、平面円形に整形して中央に穿孔する石器を磨製円盤と総称し、中央孔の小さいものを有孔円盤、中央孔の大きいものを環石類として、次のとおり分類した。

【有孔円盤】

- 笠形 ……上面に傾斜をつけて研磨整形したもの。
- 算盤玉形 ……上下両面とも傾斜をつけて研磨整形したもの。
- 平板形 ……上下両面とも平坦に研磨整形したもの。既報告では「石製加工円盤」

【環石類】

- 環石 ……円形に整形して中央孔の大きいもの。
- 環状石斧 ……環石の周縁が刃状に研磨されたもの。
- 多頭石斧 ……環状石斧の周縁刃部に抉りのあるもの。



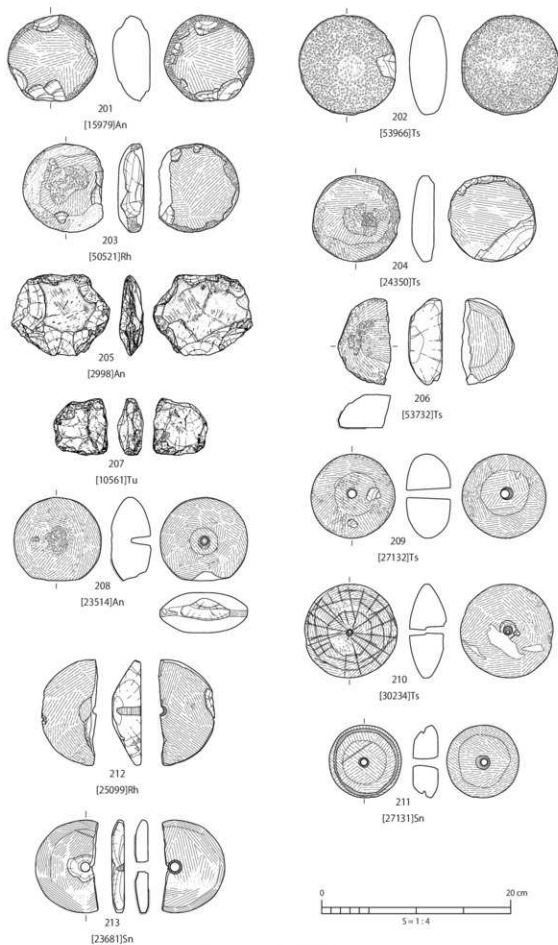
2 磨製円盤の概要

有孔円盤に分類したものは、既報告分も含めて55点（22地区出土なし）であり、本報告で図化掲載したものは20点である。

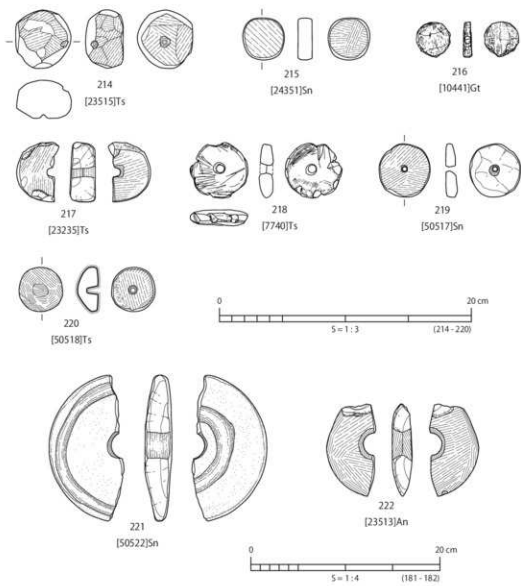
有孔円盤は、上記分類の3種類の中で「平板形」としたものは紡錘車、「算盤形」としたものは弾み車と考えられている。中央孔に着目すると、「算盤形」は中央孔が貫通していないものがあるが、208のように孔の対面中央に敲打によって凹ませる加工があり、本来は貫通させる資料であることが窺われる。これに対し「笠形」の場合、212のように非貫通の中央孔の対面は研磨されており、この状態で完成品と考えられる。

環石類に分類したものは、既報告分も含めて5点（22地区出土なし）であり、本報告で図化掲載したものは2点である。

点数は少ないが、周縁の形態以外の特徴はほぼ共通している。221のように中央孔や周縁に沿うように浅い溝が施されるのは、用途に関係するものか装飾的なものか。



第 29 図 磨製円盤実測図 1



第30図 磨製円盤実測図2

第2節 磨製石斧

1 磨製石斧の分類

本報告では、磨製石斧を両刃石斧と片刃石斧に大別し、次のとおり分類した。

【両刃石斧】

- 大型蛤刃 ……基部面が広く、刃部付近の幅が最大となる。信州系
- 乳棒状 ……基部面と刃部が狭く、身部中央の幅が最大となる。
- 定角式 ……扁平で側面が明瞭。厳密には定角式でないが、定角式に近い形。
- 扁平 ……扁平で側面が不明瞭。

【片刃石斧】

- 扁平 ……幅広で厚みがうすい。小型品あり。
- 柱状 ……幅と厚さがほぼ同じ。小型品あり。



2 磨製石斧の概要

両刃石斧に分類したものは、既報告分も含めて403点(22地区含む)であり、本報告で図化掲載したものは56点である。

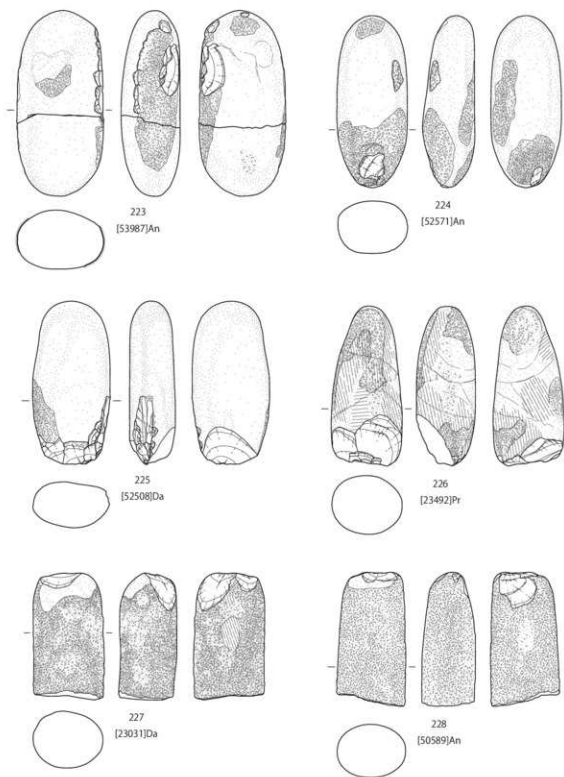
両刃石斧は、閃輝緑岩(DI)の信州系を除いて4種類に形態分類したが、未成品資料を参照する限り、完成品は原礫の形態に依存する傾向があり、必ずしも作り分けられているわけではないようだ。信州系に象徴されるように、交易によって集落外からもたらされた製品もいくらか含まれているようだが、類例検索等は今後の課題としておきたい。

両刃石斧の完成品は大多数の資料に破損歴があり、刃部再生が可能な個体は両刃石斧として再加工され、これが不可能な個体は磨石類(主に鎚石)や石錘等に転用されたと考えられる。

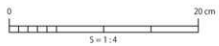
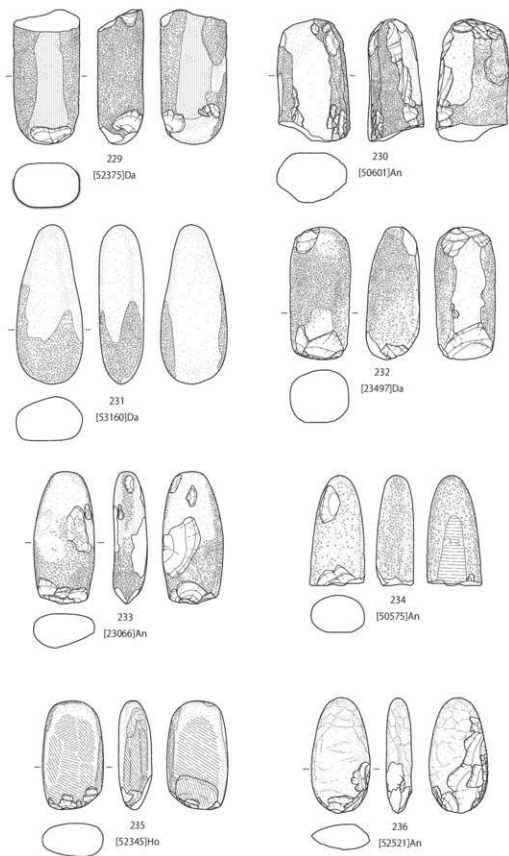
また、276～278のような小型品も稀にあり、278のように刃部以外の加工が曖昧なものも、分類上は両刃石斧の範疇とした。

片刃石斧に分類したものは、既報告分も含めて48点(22地区含む)であり、本報告で図化掲載したものは3点である。

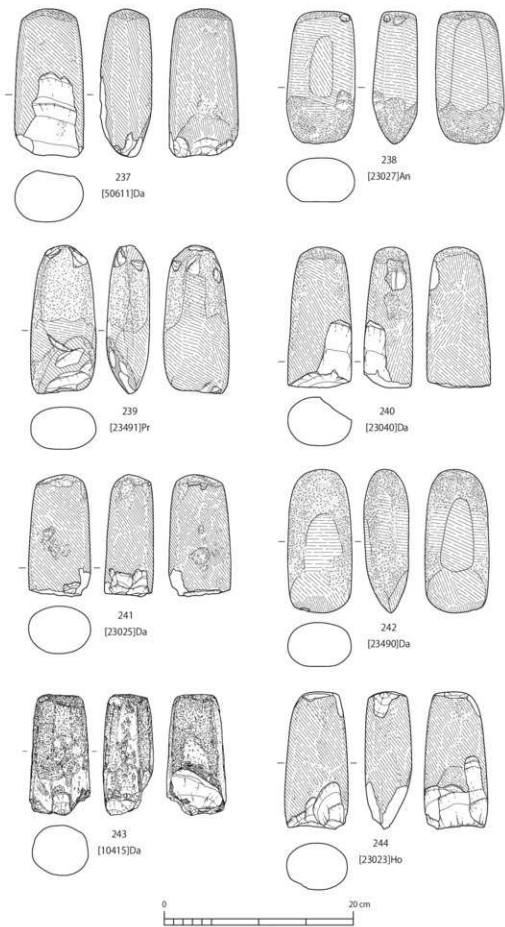
片刃石斧も大多数の資料に破損歴があり、刃の研ぎ直し程度の調整のほか、279のように、縦に割けたような破損の場合など、柄に固定可能ならば使用を続ける例もあるようだ。



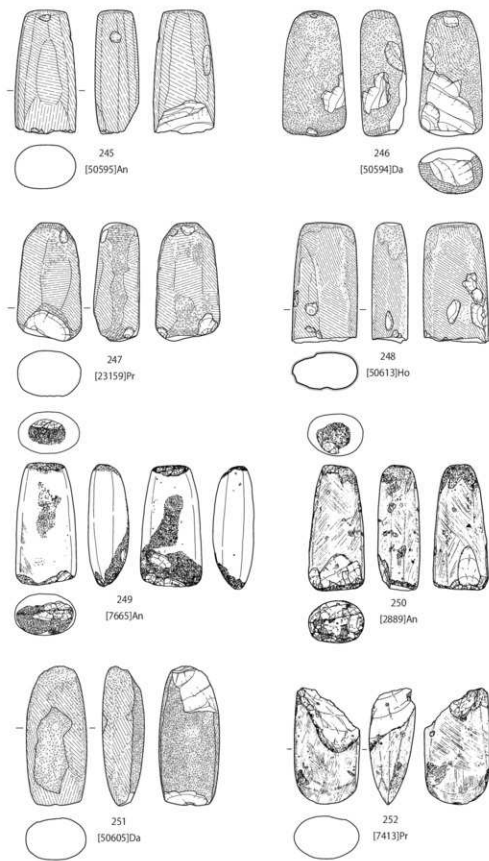
第 31 图 磨製石斧实测图 1



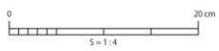
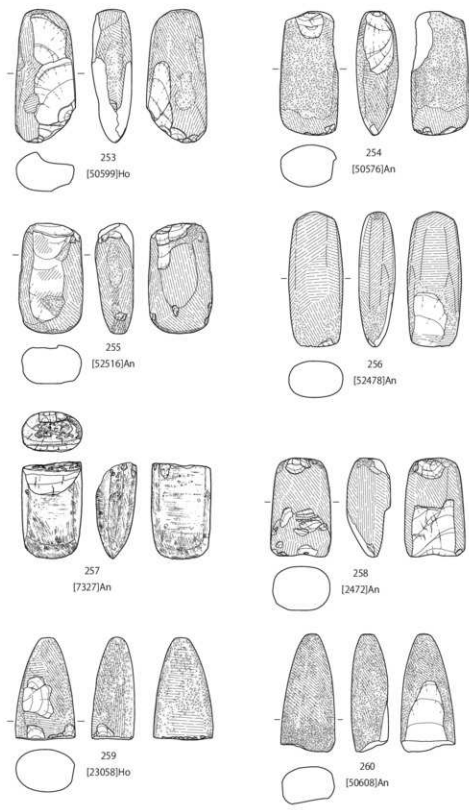
第 32 図 磨製石斧尖測図 2



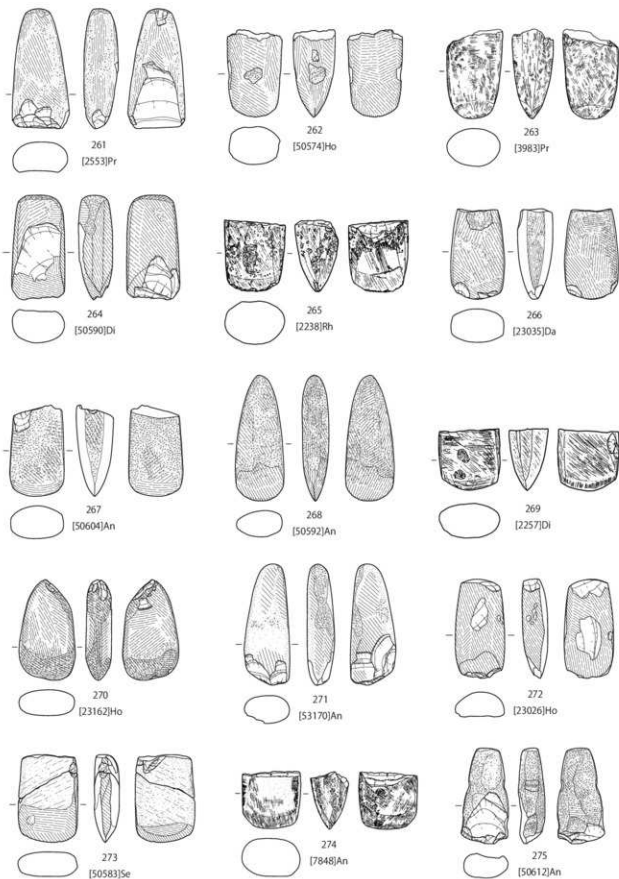
第 33 图 磨製石斧尖測図 3



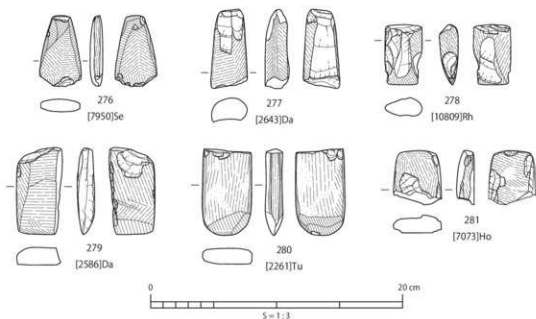
第 34 図 磨製石斧尖測図 4



第 35 图 磨製石斧实测图 5



第 36 图 磨製石斧夹测图 6



第 37 図 磨製石斧実測図 7

第 3 節 磨製刃器

1 磨製刃器の分類

本報告で磨製刃器とは、薄手幅広で刃部を研磨によって作出する石器の総称とする。実質的に石包丁とこれに類する大型品が主であり、これらを広義に「石包丁」として次のとおり分類した。

- A1 …「研磨有孔」全体を研磨整形し、紐掛け孔を穿ったもの。
- A2 …「研磨無孔」全体を研磨整形し、紐掛け孔がないもの。
- B1 …「剥片有孔」研磨は刃部のみで、紐掛け孔を穿ったもの。
- B2 …「剥片無孔」研磨は刃部のみで、紐掛け孔がないもの。

2 磨製刃器の概要

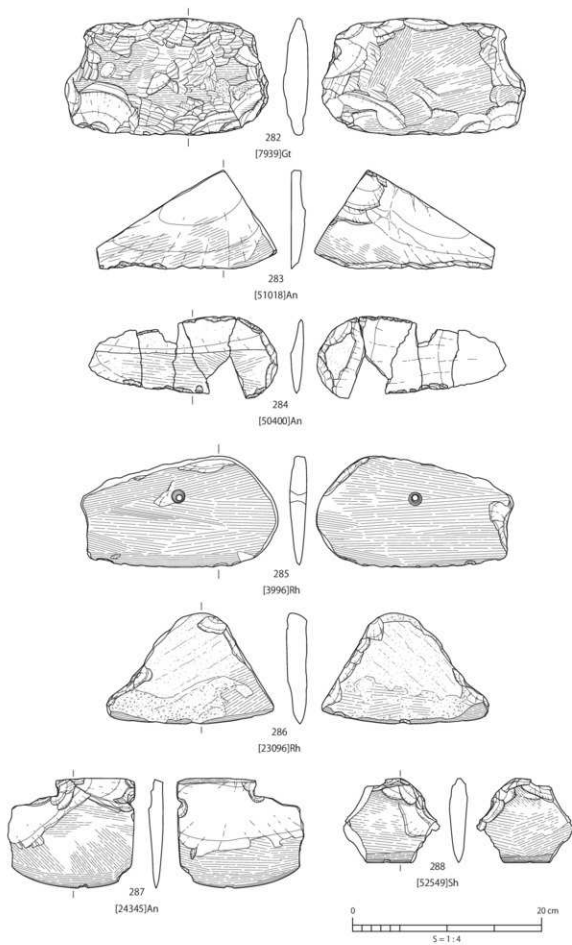
石包丁に分類したものは、既報告分も含めて 190 点 (22 地区含む) であり、本報告で図化掲載したものは 10 点である。

石包丁は破片資料が多く成形の分かるものが少ないが、平面形は概ね半円形～涙滴形に整形する傾向があり、刃部は概ね直縁であり、刃は縁に対して平行に研磨される。紐掛け孔は 1～3 箇所と個体によって違いがあり、穿孔しないものでも 287・289 のように抉りをつけるものがある。

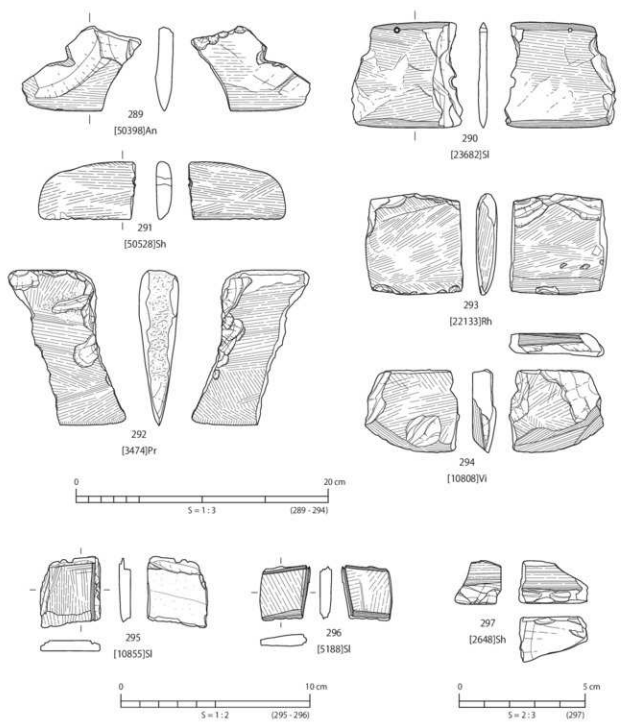
未成品について、282 の加工痕にはノミ状の工具を使用した痕跡が認められる。凝灰岩質で珪化していない軟質の石材であることから直ちに鉄製工具につながるものではないが、少なくともこれを想起させる加工法であり、特筆すべき事例であろう。

上記以外で磨製刃器に分類したものは既報告分も含めて 20 点 (22 地区含む) であり、本報告で図化掲載したものは 2 点である。

このほか、石包丁の破片等を擦り切り分割した資料がある。既報告分も含めて 12 点 (22 地区含む) であり、本報告で図化掲載したものは 4 点である。石包丁の破片をより小型の磨製石器の素材とするための加工の過程で生じるものであろう。



第 38 图 磨製石器尖測図 1



第 39 图 磨製石器実測図 2

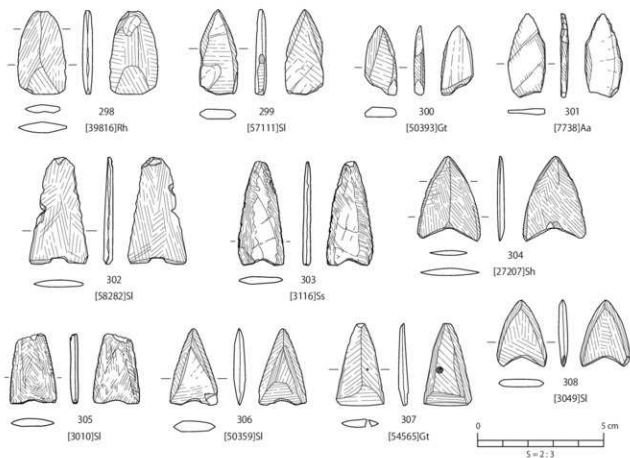
第4節 磨製石鏃

1 磨製石鏃の概要

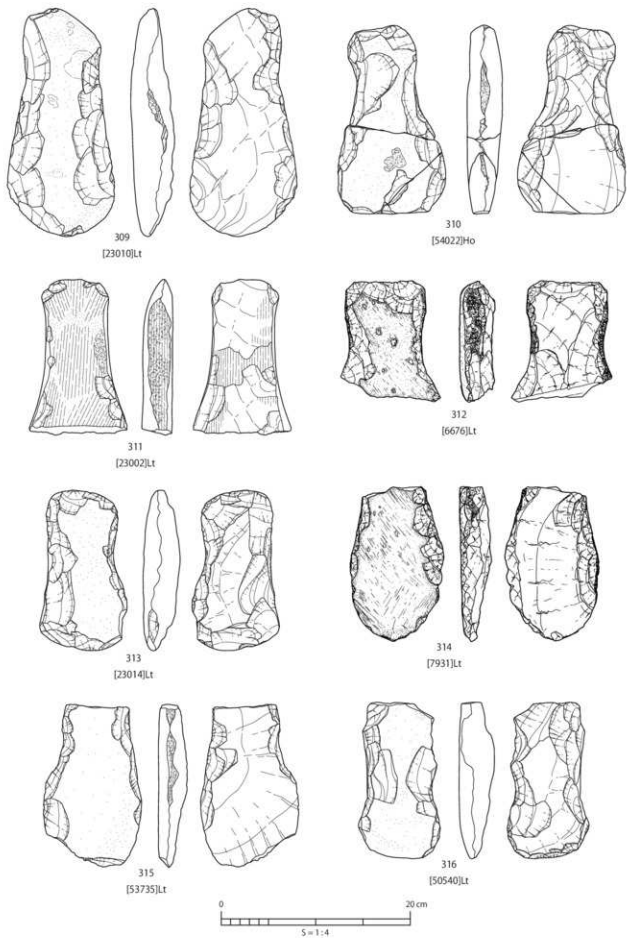
磨製石鏃に分類したものは、既報告分も含めて26点(22地区含む)であり、本報告で図化掲載したものは11点である。

磨製石鏃は、手頃な剥片を利用して製作される印象で、資料から読み取り可能な範囲では研磨のみで加工されている。前節に述べた擦り切り分割片のうち、粘板岩(SI)の第39図296・297などは、磨製石鏃の素材として用意されたものだろう。形態的には302・303・305・306が磨製石鏃として製作された標準的なもので、このほかに304・307・308のように打製石鏃に類似するものがある。また、307に見える穿孔は、貫通しきっていない上に磨製石鏃としてはあまり意味を持たない位置にあるように思われる。

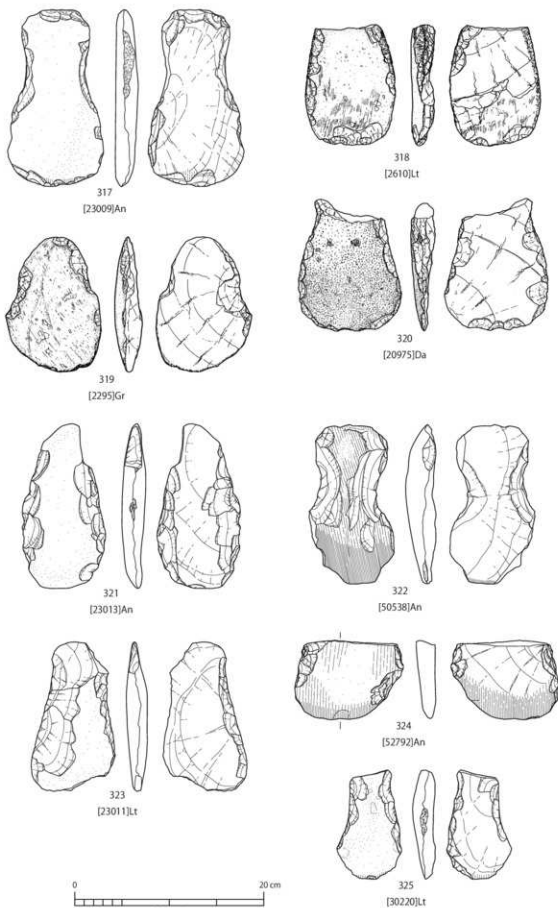
なお、本報告では省略しているが、磨製石剣について、既報告分3点のほかに破片資料が5点ある。



第40図 磨製石鏃実測図



第41图 打製石斧实测图1



第 42 图 打製石斧尖測圖 2

第三章 打製石器

第1節 打製石斧（石鎌）

1 打製石斧の概要

打製石斧に分類したものは、既報告分も含めて116点（22地区含む）であり、本報告で図化掲載したものは17点である。

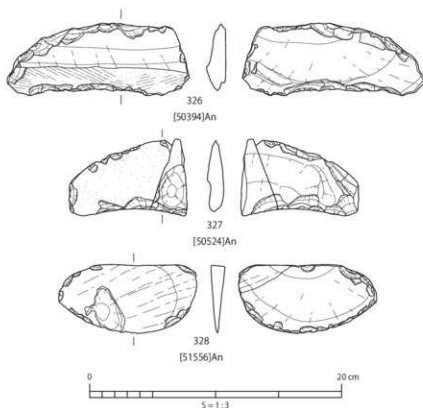
長大な円礫を打ち割った礫端片を素材とし、柄の装着部となるに片を潰す加工のみ施され、刃部はあまり加工しない。形態は素材の円礫に依存するためか、幾分ねじれる傾向がある。

第2節 打製刃器（石鎌等）

1 打製刃器の概要

打製刃器に分類したものは、既報告分も含めて11点（22地区出土なし）であり、本報告で図化掲載したものは3点である。

指標となる特徴は、326・327のような凹刃となるもので、器種名として「石鎌」としているが、厳密な意味で石鎌とはいえない形態であり、剥片を利用した石器とした方がよいかもしれない。また、凸刃となる328には特に器種名は設定していない。



第43図 打製刃器実測図

第3節 打製石鎌・石錐

1 打製石鎌の分類

身部の形態に基づいて、次のとおり分類した。

三角形…両辺が直線的なもの。基部は平基または凹基、前者は稀に有茎となる。

長身型…細身で両辺は先端部が膨らむ。基部は平基または凹基で、有茎となるものはない。

五角形…三角形から長身型に類似するものまであり、身部の下半が凹む。有茎が多い。

柳葉形…または涙滴形で、基部は幅狭となり、凸基または円基が多い。

2 打製石鎌の概要

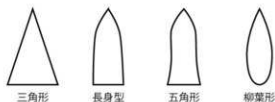
打製石鎌に分類したものは、既報告分も含めて405点(22地区含む)であり、本報告で図化掲載したものは61点である。

形態的な特徴として最も標準的なものは、基部・身部とも直線的に整形される三角形の石鎌である。長さに比例して基部幅が広くなるという特性から、大型にはならない。

大型品は、長身型とした石鎌に特徴的であり、石剣を小型化したような形態である。三角形との比較において長身型は、相対的に幅狭厚手長身であることが特徴である。

五角形としたものは形態的にはばらつきが大きく一概にいえませんが、身部下半がゆるく凹むのが共通する特徴である。

柳葉形としたものは、五角形とは対照的に身部下半がゆるく張り出す形態が特徴であり、相対的に幅狭長身となる傾向は長身鎌と共通するが、薄手の剥片を素材として、周縁のみを調整したのも一定量認められる。



3 石錐の分類

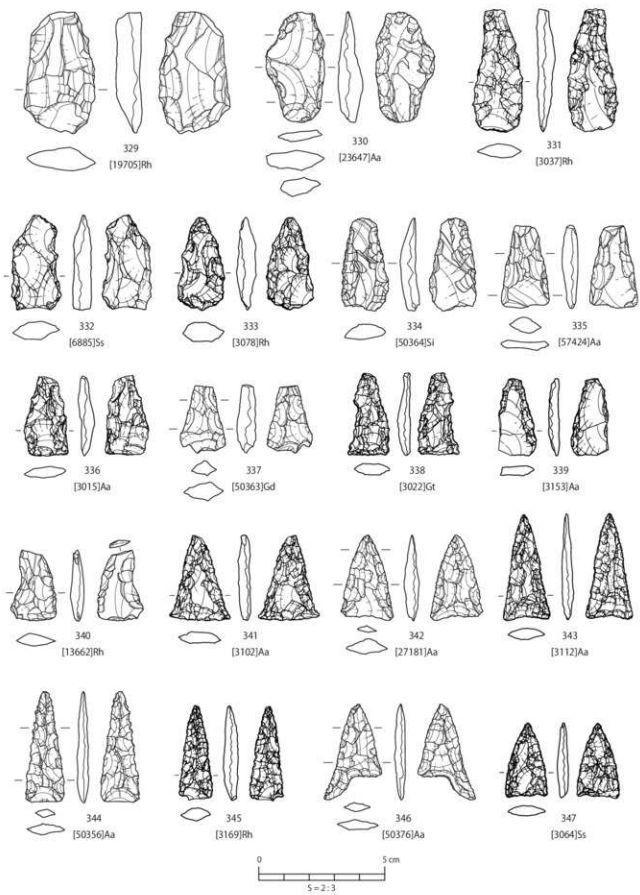
基部と身部の形態に基づいて、次のとおり分類した。

- A …基部は幅広で、トリミングによって身部を作出するもの。
- B …基部は幅広で、明確な身部を作出せず、トリミングによって先端を尖らせるもの。
- C …明確な基部がなく、全体をトリミングするもの。

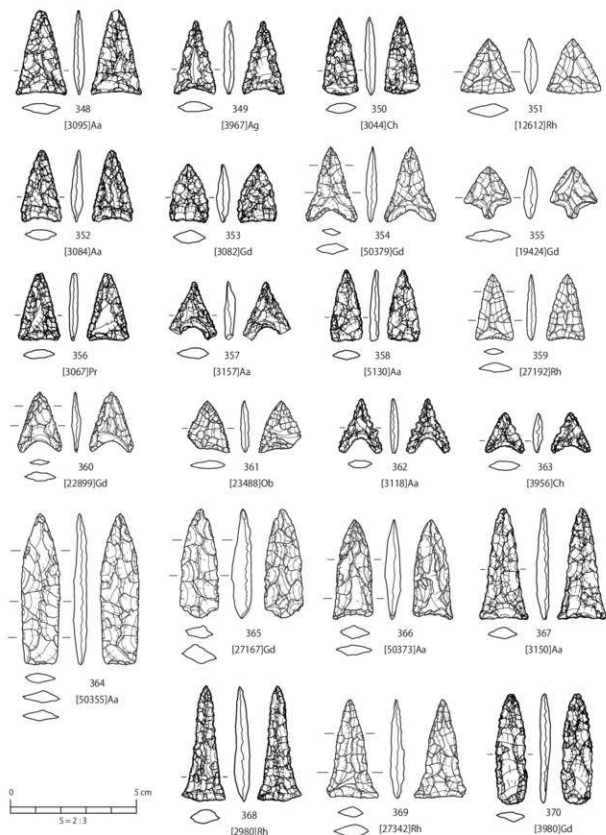
4 石錐の概要

石錐に分類したものは、既報告分も含めて54点(22地区含む)であり、本報告で図化掲載したものは11点である。

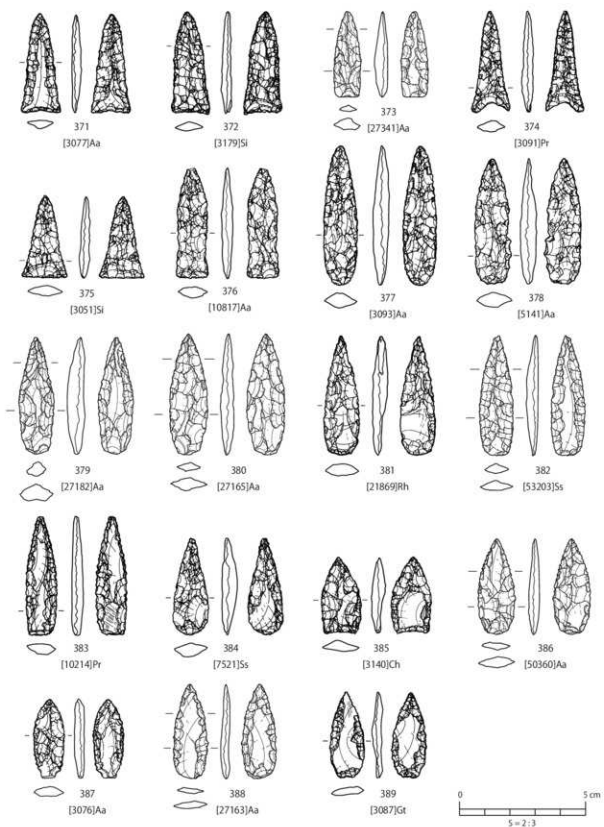
身部以外の部分には明確な加工が認められず、分類の定義上、身部の加工を両面加工に限定したいところではあるが、398・399を除いてはこれも明確ではないために、分類の説明はトリミングという用語に統一した。実質的には剥片石器の穿孔具のうち、二次加工が明確なものと打製石鎌を再加工転用したものである。



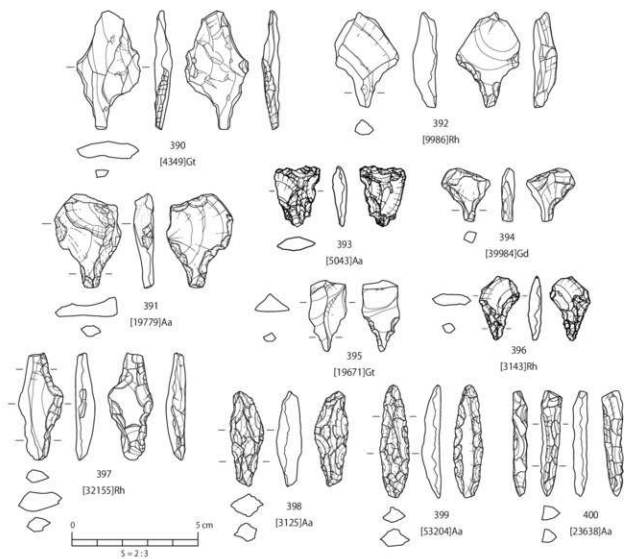
第 44 图 打製石鏃夾測圖 1



第 45 図 打製石鏃実測図 2



第 46 図 打製石鏃実測図 3



第 47 図 石錐実測図

第Ⅳ章 その他

第1節 剥片石器

1 剥片石器の分類

剥片は、礫端片とその他の剥片に大きく分類し、使用痕と二次加工により次のとおり分類した。

- コーングロス（エッジに強い使用痕光沢が認められるもの。）
- ノッチ（二次加工に有意な抉りが認められるもの。）
- 擦切具（エッジに著しい摩滅が認められるもの。）
- 刃器（刃部を作出したと思われる二次加工または、エッジに使用痕が認められるもの。）
- 搔器（刃部を作り出した二次加工のうち、いわゆる急角度剥離と認められるもの。）
- 穿孔具（剥片に回転痕が認められるもの、または剥片の一部がトリミングされているもの。）
- 両面加工（エッジに有意な正反の剥離が認められるもの。）
- 両極剥離（対辺に有為な剥離が認められるもの。本報告では二次加工として分類）
- ベッキング（両面加工や両極剥離といえないが類似した剥離が認められるもの。）

2 剥片石器の概要

剥片石器に分類したものは、既報告分も含めて814点（22地区含む）であり、本報告で図化掲載したものは122点である。

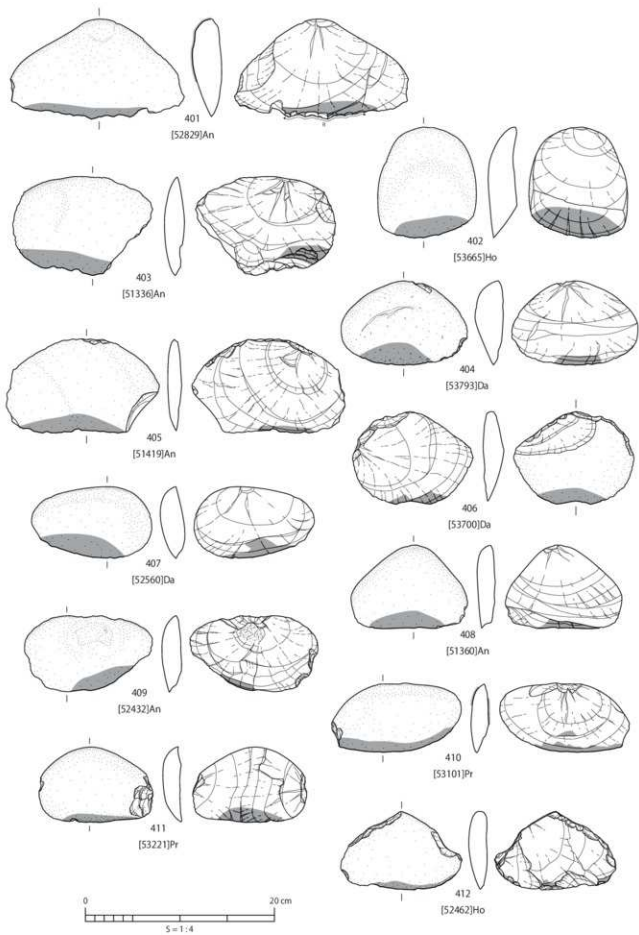
選択される石材について、礫端片石器は礫石器と共通し、剥片石器は打製石礫に共通するという特徴がある。剥片石器の場合は、この他にとりわけ碧玉質岩（Gt）が多く、剥片石器の過半数に及ぶ。

用途について、礫端片石器はそのまま穂摘具としての利用が主だったと考えられ、使用痕にコーングロスが認められるものが約3割ある。剥片石器は穿孔具としての利用がとりわけ多く、全体の4割弱を占める。これら穿孔具は碧玉質岩（Gt）に特徴的であり、使用痕が不明瞭ながら水晶にも使用例がある。また、製玉工程の一部も穿孔具として利用されており、これについては製玉編で報告予定である。

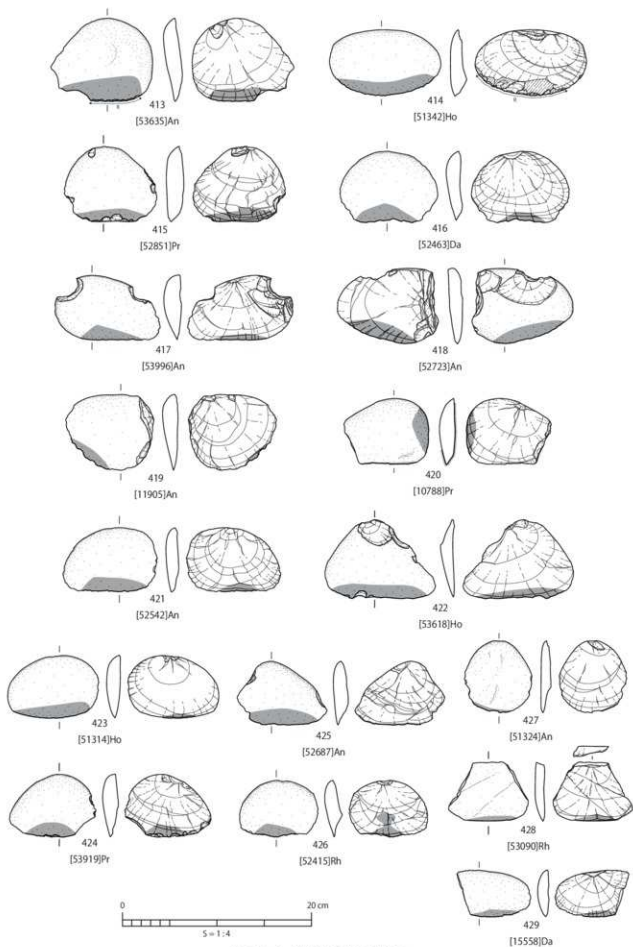
この他では擦切具としての利用も特徴的であり、刃器としたものの一部も擦切具のような用途が推定されるが、本報告では限定しなかった。

石材	礫端片石器	剥片石器
Au		82
Ag		22
An	85	12
Ba		1
Ch		4
Da	48	6
Fq		2
Gd		4
Gr		3
Gt		321
Ho	11	3
Is	1	
Ob		3
Pr	25	8
Qc		9
Qu	2	1
Rh	18	91
Sc		3
Sh		2
Sl	4	13
Ss		1
St	4	14
Sw		1
Tu	2	
Vl	1	1
不明	1	5
計	202	612

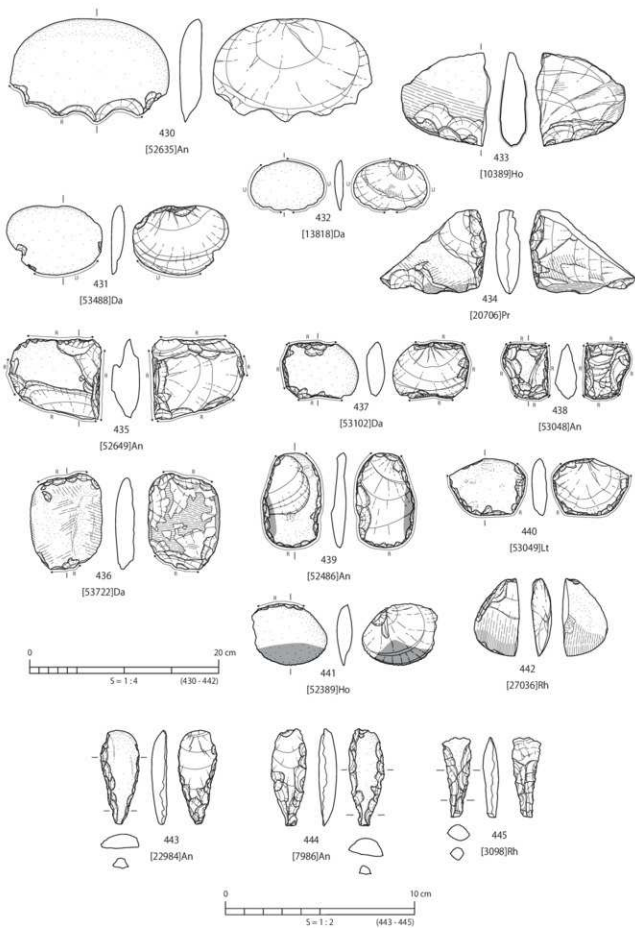
	コーングロス	ノッチ	擦切具	刃器	搔器	穿孔具	両面加工	両極剥離	ベッキング
礫端片石器	61	3	26	19	24	3	2	10	20
202点	30.2%	1.5%	12.9%	9.4%	11.9%	1.5%	1.0%	5.0%	9.9%
剥片石器	3	1	34	7	78	228	78	39	27
612点	0.5%	0.2%	5.6%	1.1%	12.7%	37.3%	12.7%	6.4%	4.4%



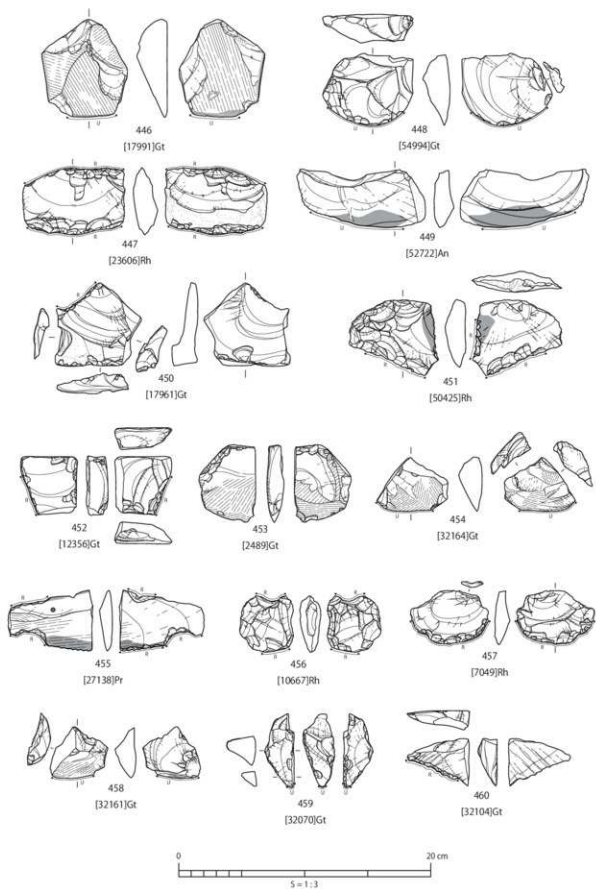
第 48 图 礫端片石器実測図 1



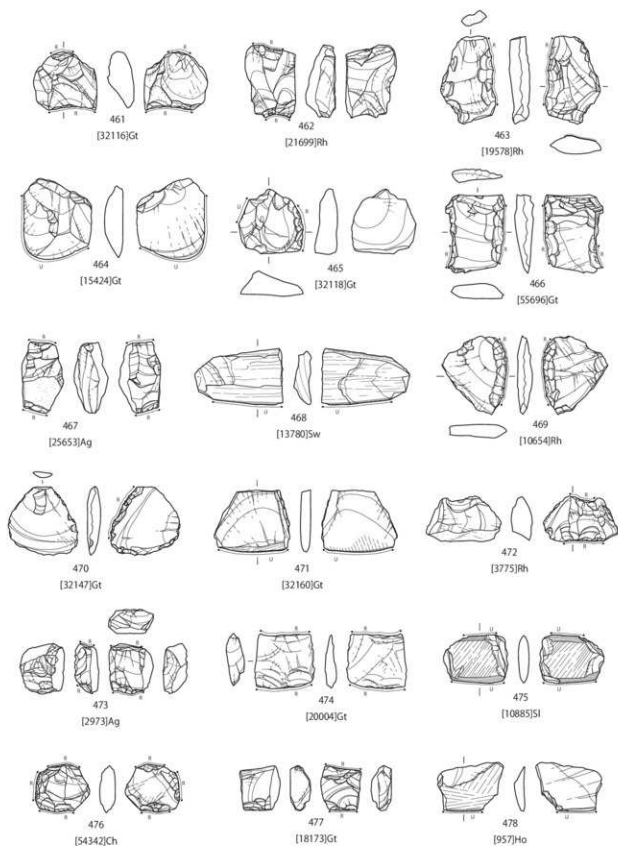
第 49 图 碟端片石器实测图 2



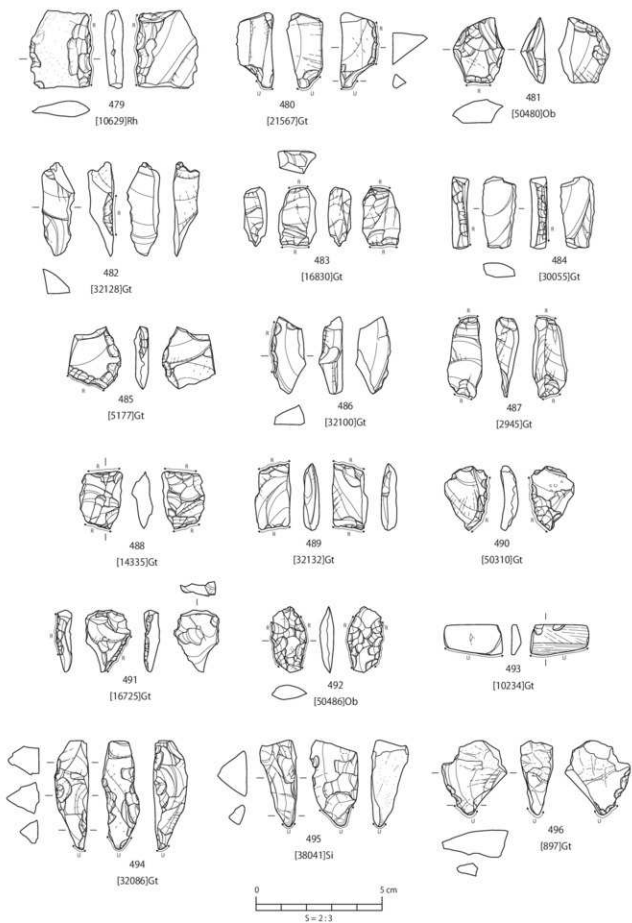
第 50 图 礫端片石器実測図 3



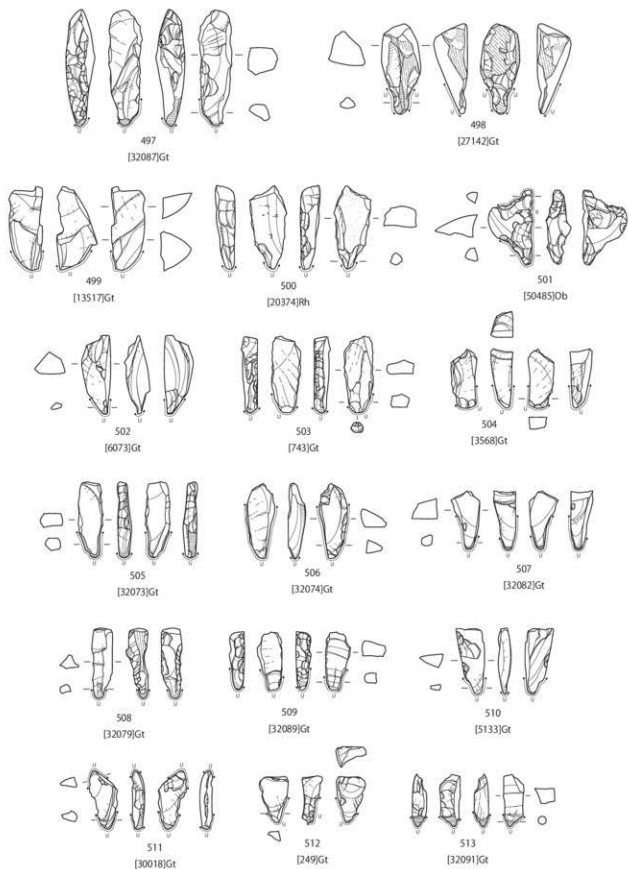
第 51 图 剥片石器实测图 1



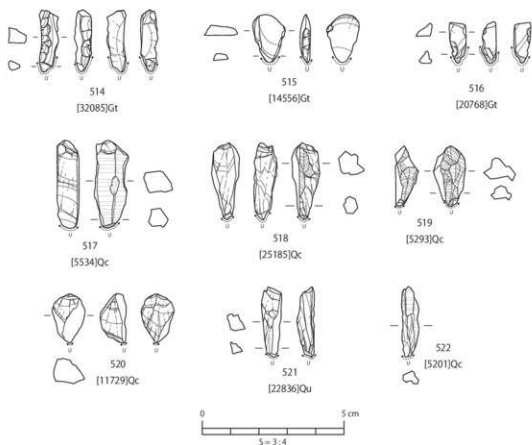
第 52 图 剥片石器实测图 2



第 53 图 剥片石器夹测图 3



第 54 图 剥片石器夹测图 4



第55図 剥片石器実測図5

第2節 石核

1 石核の概要

石核に分類したものは、既報告分も含めて330点(22地区含む)であり、本報告で図化掲載したものは13点である。他に、補足として、磨製石剣に使用例のある珪化木(Sw)の加工礫2点も図化掲載した。なお、黒色安山岩(Aa)と瑪瑙(Ag)の石核は、製玉工具関連資料に一部重複するので、製玉編でまとめて報告するものとし、上記数量に含まず、属性表からも除外した。

礫端石核とした523～526は、礫端片を割り取った残核と考えられる。

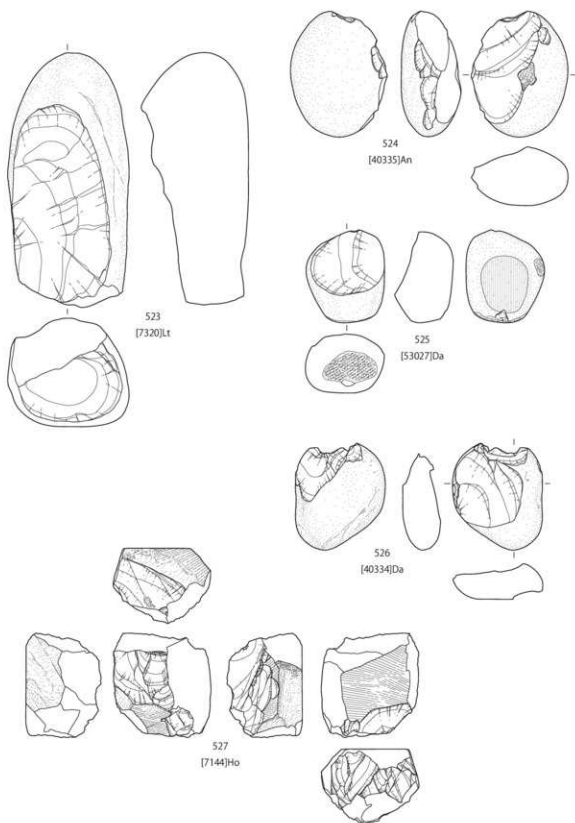
調整石核とした528～534は、円礫の礫面を除去する作業面が見られるものや、磨製石器の未成品の可能性があると考えられるものである。

その他、527・535は繰り返し剥片剥離したと思われる作業面が見られることから残核とした。

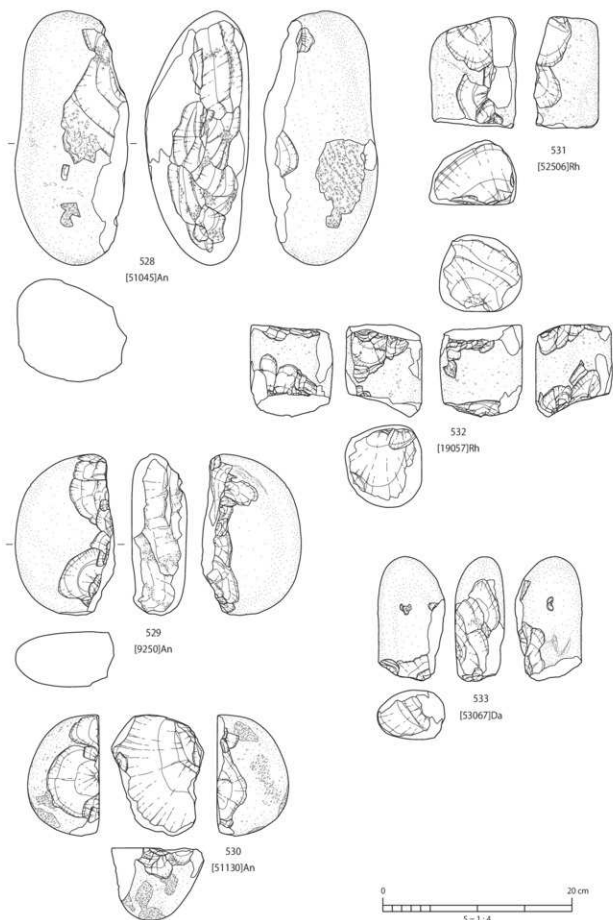
第3節 石製品

1 石製品の概要

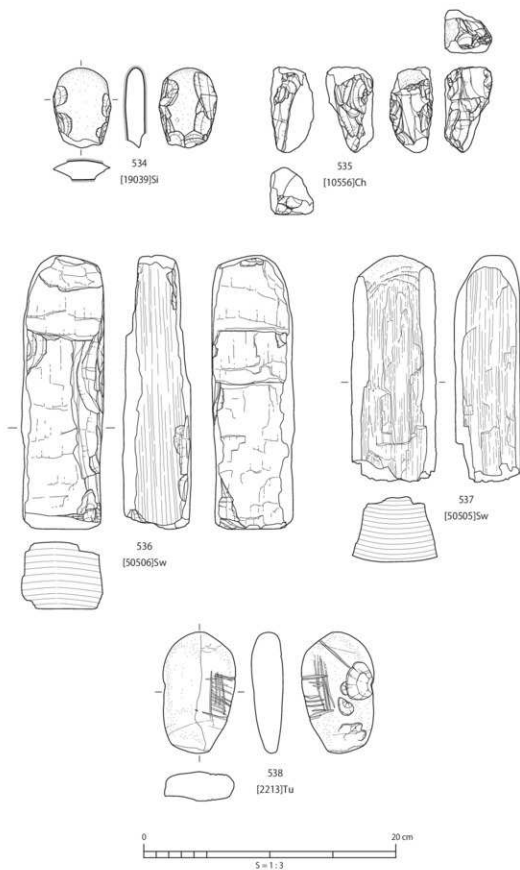
石製品に分類したものは既報告を含めて3点あり、本報告で図化掲載したのは538の線刻石1点のみである。扁平な礫に格子状の線刻が施される。



第56図 石核実測図1



第 57 図 石核実測図 2



第 58 図 石核実測図 3・石製品実測図



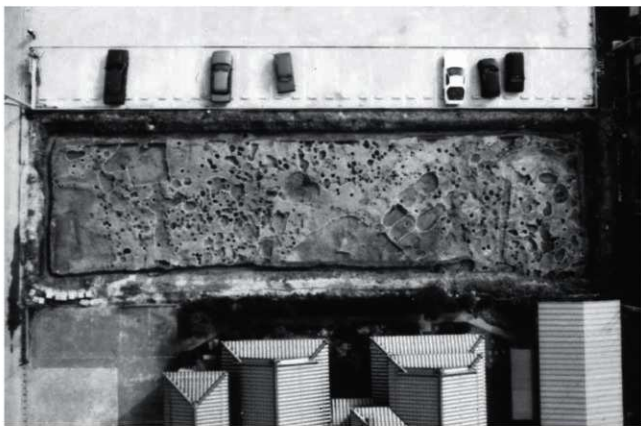
1次建物 柱根Cアゼ 北から



28③B地区 作業風景 西から



28地区 SX02 検出状況 南東から



1次調査区 東西から



28 地区 SX03 遺物出土状況 北から



28 地区 SX02 東溝 c アゼ 北から



28 地区環濠 05・06 土層断面 東から



28 地区 環濠 02・03a アゼ 東から



28 地区 環濠 02・03, 環濠 05・06 完掘状況 東から



28 地区 完掘状況 北から



31 地区 環濠 12 d アゼ 西から



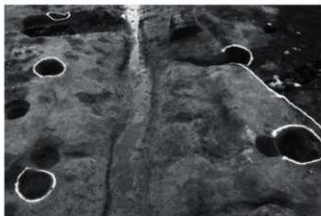
31 地区 SX03 断面 南西から



26 地区 SE01 北から



26 地区 SE01A アゼ 北から



26 地区 SB02 東から



26 地区 SD13C アゼ 西から



26 地区 SI01 遺物状況 東から



4 地区 完掘状況 南から



4 地区 SD01 アゼ東壁 東から



4 地区 SD012 アゼ東壁 東から



6地区 SX04 南溝 南から



6地区 環濠 09 遺物検出状況 南から



6地区東半分 南から



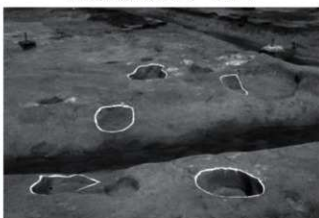
6地区 環濠 09A アゼ 南から



8地区 環濠 09C アゼ 南から



6地区 SI01 北東から



8地区 SB02 南東から



6地区 SX04 南溝遺物検出状況 東から



6地区 SX08 南溝遺物検出状況



6地区 SX02 南東から



6地区 SX04 東から



18 地区 SX02 検出状況 南から



18 地区 SX06 遺物検出状況 北から



18 地区環濠 SX01 北から



28 地区 SX01 主体部 北西から



18 地区 北半分完掘状況 北から



20 地区 完掘状況 西から



20 地区 SX01 北から



20 地区 SX02 北から



20 地区 SX02 主体部 東から



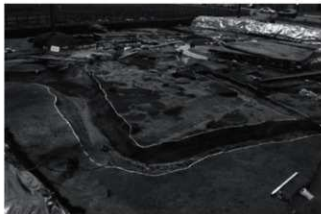
20 地区 SX05・環濠 09 西から



20 地区 SX04・環濠 09a アゼ 北から



20 地区 SX04・環濠 09b アゼ 西から



20 地区 SX05・06 北西から



20 地区 SX14 南東から



20 地区 SX14f アゼ 西から



20 地区 SX16 西溝掘削状況 東から



17地区(その2)全景 東から



17地区(その3)全景 西から



17(21)地区全景 西から



17 地区 SX06 東から



17 地区 SX01 内ビット 東から



18 地区 SX03 主体部 東から



17 地区 SX01 主体部 北から



17 地区環濠 06E アゼ 東から



17 地区 環濠 05b アゼ 西から



17 地区 SB01G 北西から



17 地区 SB01K 南西から



16 地区西部分全景 北から



15 地区南部分 西から



16 地区環濠 06d アゼ 南から



15 地区 環濠 11K アゼ 東から



16 地区 環濠 04A アゼ 東から



15 地区 SX03K アゼ 東から



15 地区 SD21E アゼ 北東から



15 地区環濠 10 検出状況 東から



11・12 地区 つなぎ箇所 南から



12 地区 完掘状況 南から



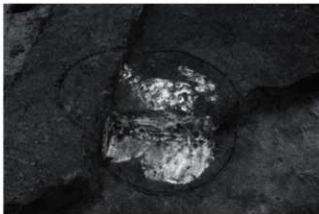
12 地区 SX02 検出状況 南から



13 地区 SX01 検出状況 西から



12 地区 SX01 西から



12 地区 SX01 内 粘土ビット



12 地区環濠 03B 編物検出状況 東から



12 地区 SX01 北埋積浅谷肩部 gr 調査風景



11 地区東部分全景 西から



11 地区 SX01 西から



11 地区 (その1) 南から



11 地区 環濠 06,07 南から



11 地区 環濠 07b アゼ 南から



11 地区環濠 06F アゼ 南から



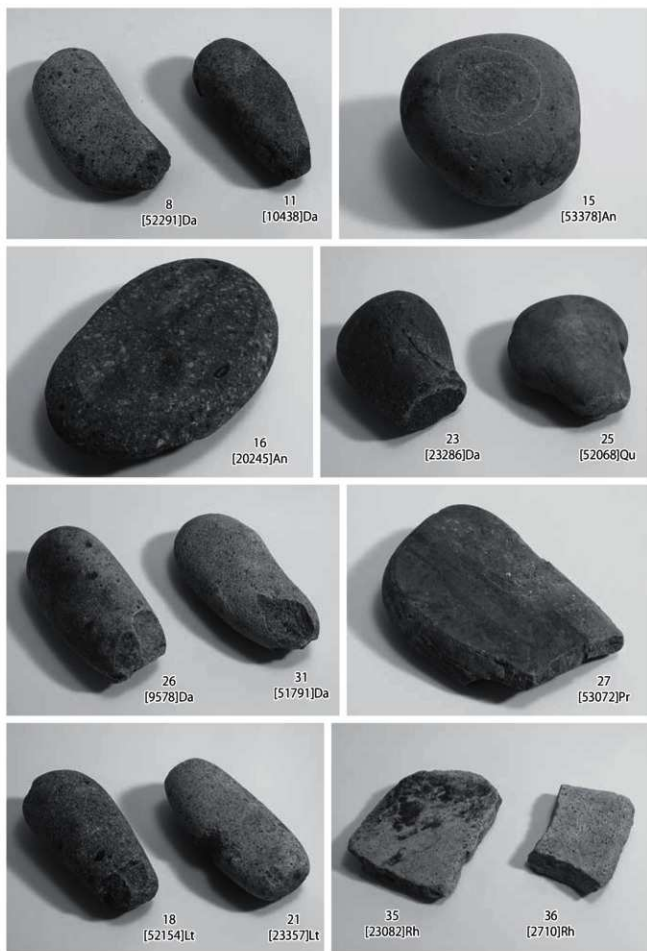
11 地区 SB01 東半分 北から



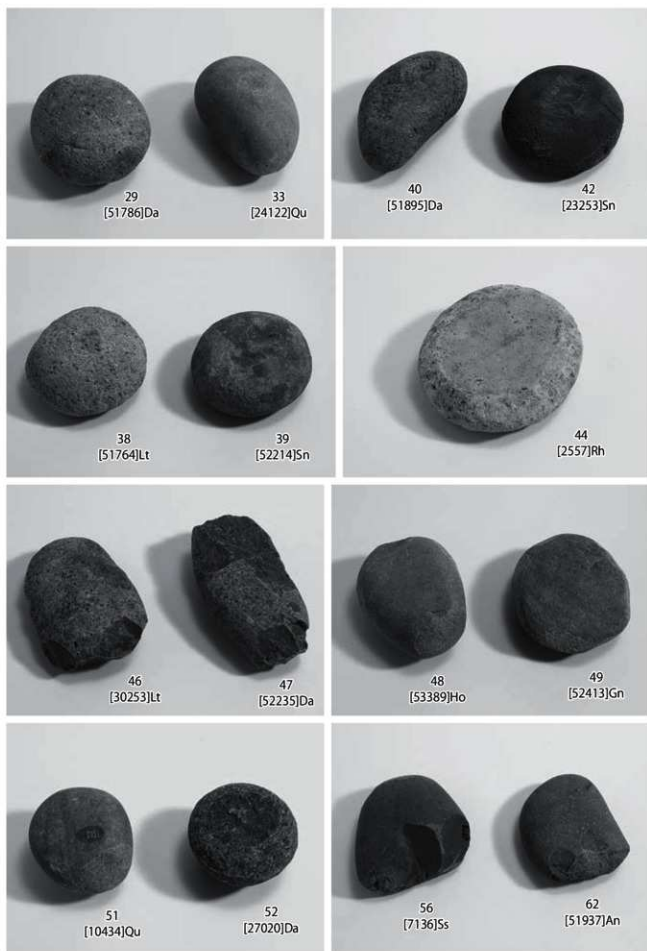
11 地区 SB01 環濠 06 内柱根 北から



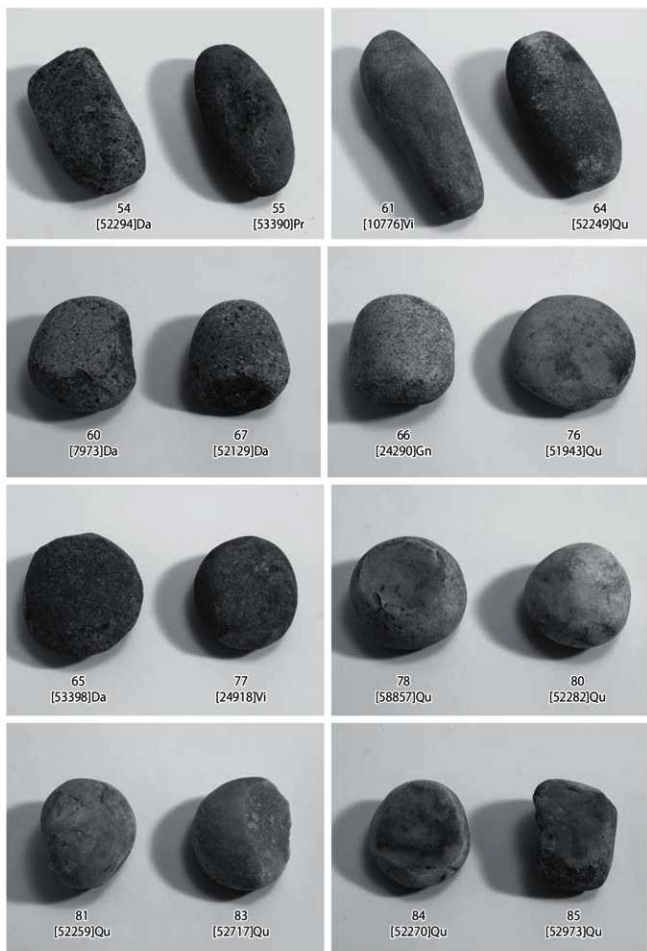
写真図版 11 礫石器 (磨石類)



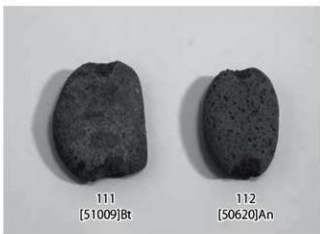
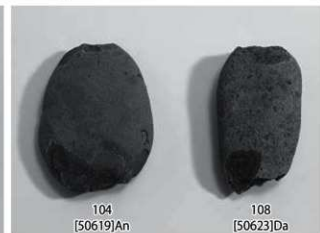
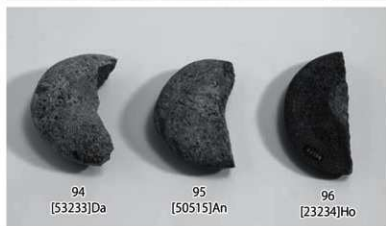
写真図版 12 礫石器 (磨石類)



写真図版 13 礫石器 (磨石類)

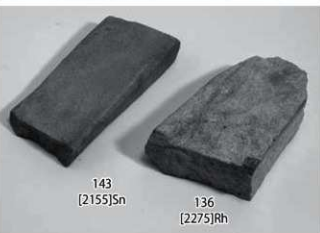
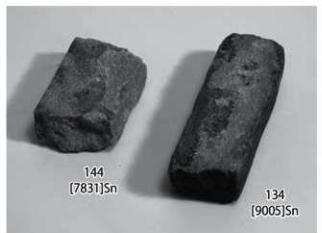
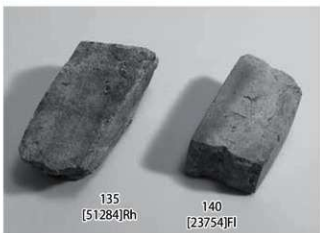
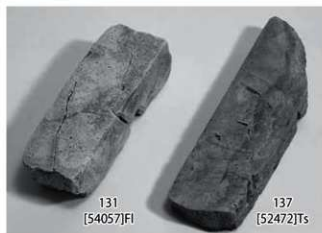


写真図版 14 礫石器（磨石類）



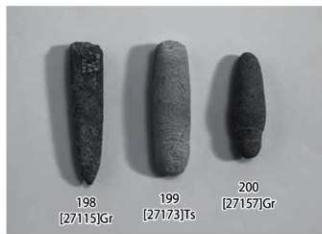
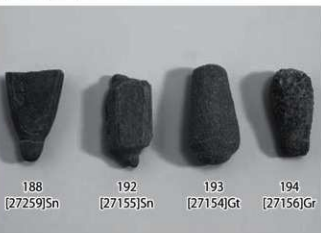
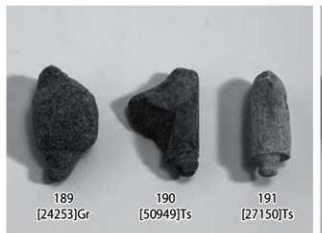
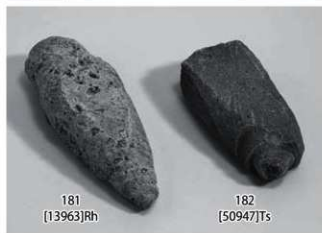


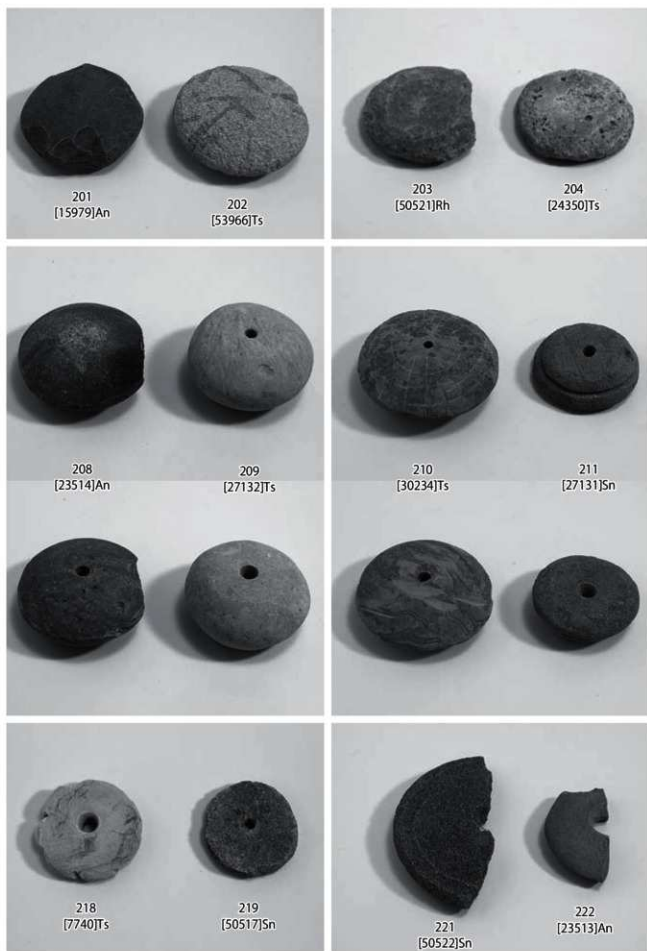
写真図版 16 礫石器 (石錘・砥石)



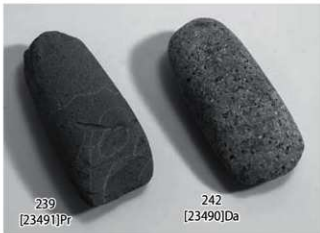


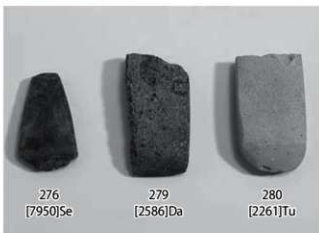
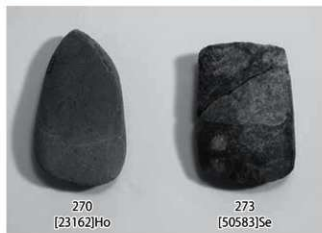
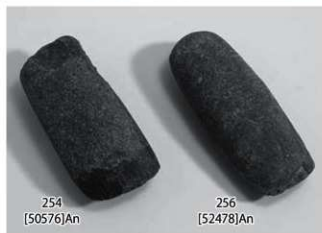
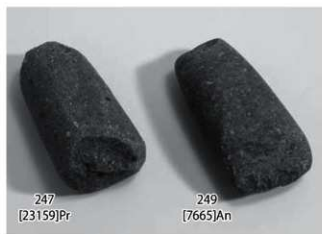
写真図版 18 礫石器 (砾石)



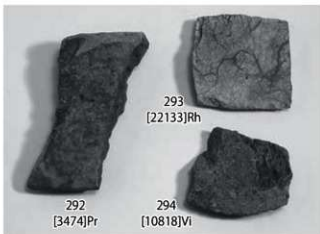
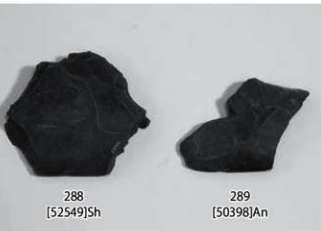


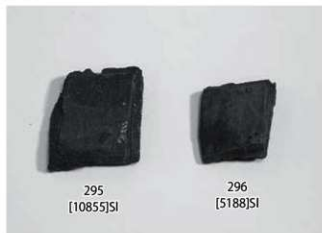
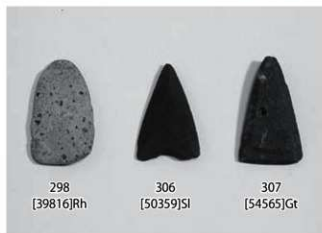
写真図版 20 磨製円盤



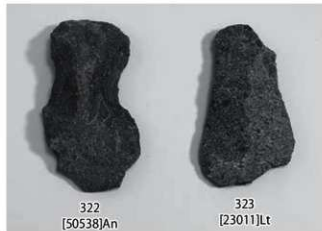
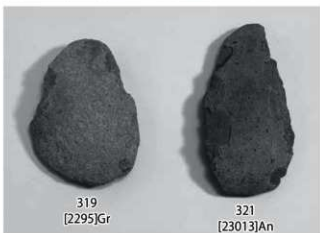
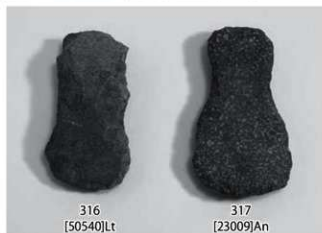
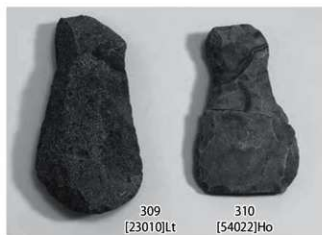


写真図版 22 磨製石斧

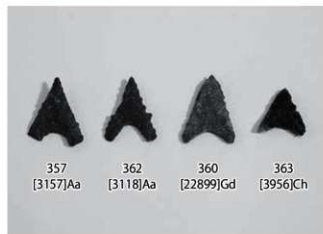
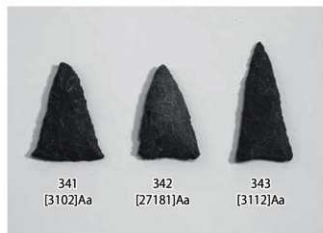




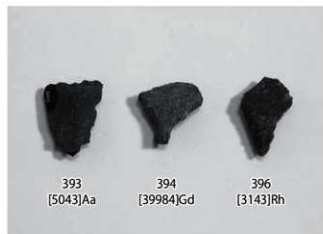
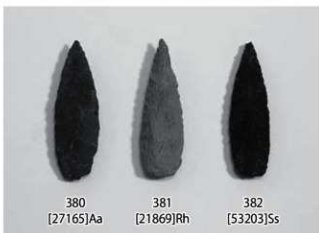
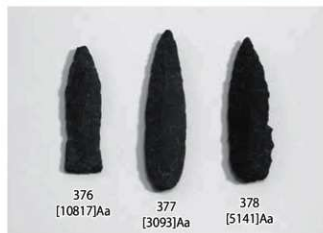
写真図版 24 磨製石礫・その他（分割片）

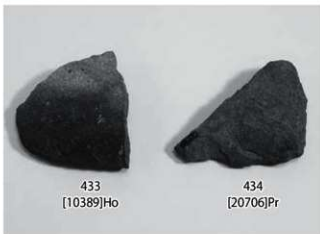
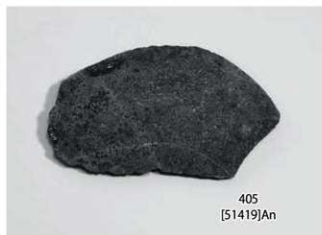


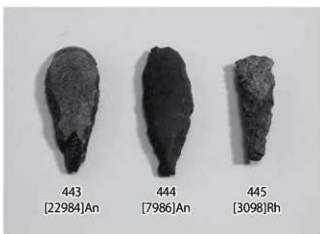
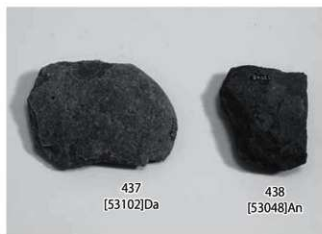
写真図版 25 打製石斧（石鋏）・打製刃器（石鎌）

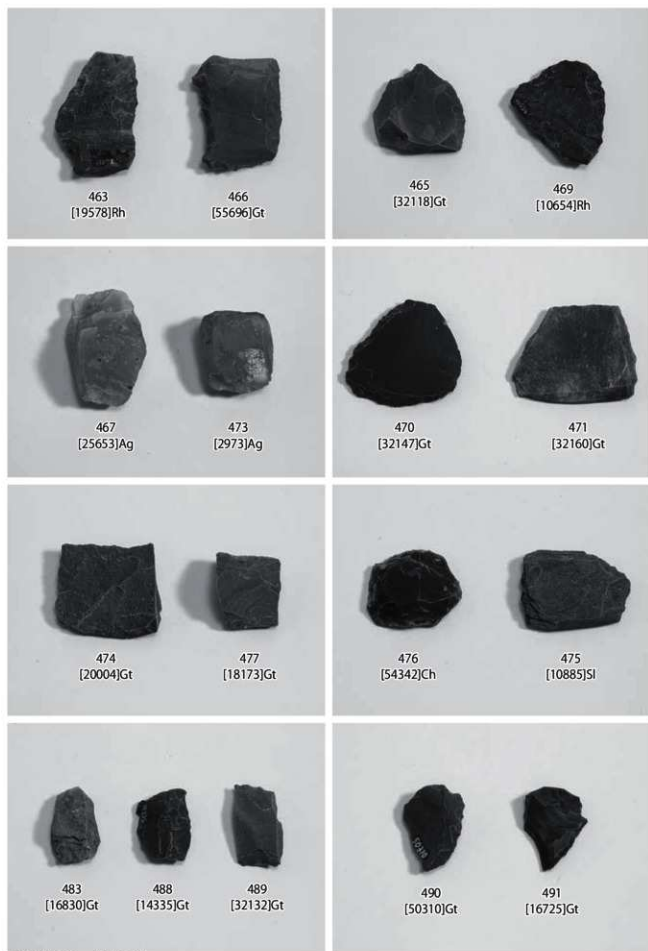


写真図版 26 打製石鏃

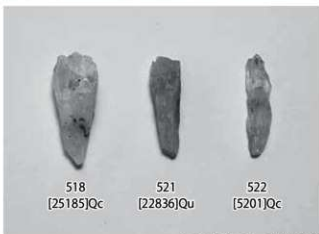
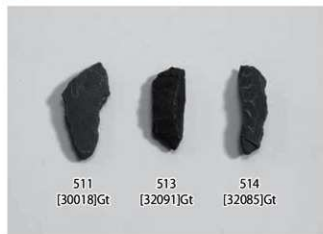
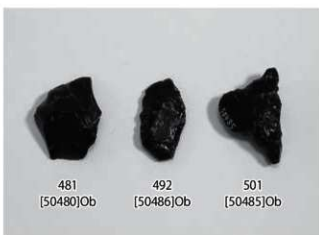








写真図版 30 剥片石器





523
[7320]Lt



528
[51045]An



529
[9250]An



530
[51130]An



532
[19057]Rh



535
[10556]Ch



536
[50506]Sw



538
[2213]Tu

報告書抄録

ふりがな	ようかいちじかたいせき2
書名	八日市地方遺跡Ⅱ
副書名	小松駅東土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	第1部遺構編 第2部石器編
編・著者名	下濱貴子・宮田 明
編集機関	石川県小松市教育委員会
所在地	〒923-8650 石川県小松市小馬出町91番地 TEL.(0761)22-4111
発行年月日	西暦2013年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'〃	東経 °'〃	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
八日市地方 遺跡	石川県小松市 日の出町 一丁目・二丁目	17203	03152	36°23'49" -24'04"	136°27'22" -41"	1993.06.25～ 2000.05.30	32,556	土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
八日市地方	集落跡	弥生	土坑、ピット、 方形周溝墓、 掘立柱建物、 平地式建物、環濠、 井戸、櫓列	磨製石斧、石鎌、磨石類、石皿、砥石 類、環石類、石鎌、石包丁、石鎌、石 鏃、石鏃	遺構及び遺物は 本次報告分のみ
要約	弥生時代中期の大規模環濠集落である。本報告は、第Ⅱ分冊にあたり、主に埋積浅谷を除く主要遺構を報告した。石器編は、第Ⅰ分冊の補足編に該当する。				

八日市地方遺跡Ⅱ

—小松駅東土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—

第1部遺構編 第2部石器編

発行日 平成25年3月31日
編集・発行 石川県小松市教育委員会
石川県小松市小馬出町91 TEL (0761) 22-4111
印刷 株式会社日本テリード出版
石川県小松市上本折町299 TEL (0761) 24-1166
